

2025

TBGU シラバス

Faculty of Contemporary Sociology
Department of Contemporary Sociology

現代社会学部

現代社会学部

目 次

※研究室は変更になる場合があります。

【現代社会学部 現代社会学科（共通）】

授業科目の名称 配当 単位数 担当教員名 （○印は科目代表者） ページ

2025 年度入学用カリキュラム

基礎科目

・輝ける者 [1 通 選 2] (○小野部 純・他)…………… 1

教養・基礎科目

・生命を考える [1 前後 選 2] (○中村 哲也・阿部 玄治・本多ふく代・大庭 みよ・秋本 和宏)… 2

・現代社会を視る [1 前後 選 2] (○山尾 貴則・豊田 正利・野崎 瑞樹・鑑 さやか・山川 樹・小淵 高志・黒沢 麻美・田中 茜)… 3

・生活の中の科学 [1 前後 選 2] (○長田 俊明・沈 紅・鈴木 陽一・鈴木 伸夫・八十川 淳・野崎 淳夫・須藤 諭・
山本 和恵・川村 広則・一條 佑介・二科 妃里・富山 正幸・相澤 康弘・古林 俊晃・
家名田敏昭・浅井 仁・佐藤 秀隆・工藤 剛実・佐々木典子・高橋 るみ・深谷 碧)… 4

・経済・法律・世界を視る [1 前後 選 2] (○馬内 里美・田邊 文彦・ヴォルグレイヴ イーライ)… 5

・社会活動入門 [1 前後 選 2] (○加藤 由美・石垣 亨・石橋 千賀・他) …… 6

・英語コミュニケーションⅠ [1 前 必 1] (○立花顕一郎・オーフラロティ 智美・京極 理恵・岡光 信子)… 7

・英語コミュニケーションⅡ [1 後 必 1] (○立花顕一郎・オーフラロティ 智美・京極 理恵・岡光 信子)… 8

・韓国語コミュニケーションⅠ [1 前 選 1] (黄 孝善)…………… 9

・韓国語コミュニケーションⅡ [1 後 選 1] (黄 孝善)…………… 10

・中国語コミュニケーションⅠ [1 前 選 1] (王 效紅)…………… 11

・中国語コミュニケーションⅡ [1 後 選 1] (王 效紅)…………… 12

・海外研修 [1 通 選 2] (○増井三千代・立花顕一郎・王 元・鄭 舜玉)… 13

・スポーツ実技 [1 後 選 1] (○犬塚 剛・森田 清美・金田 幸夫・未定)…………… 14

・心理学概論 [1 前 選 2] (山川 樹)…………… 15

・生命倫理学 [1 後 選 1] (高木 大輔)…………… 16

・健康科学 [1 前 必 1] (森田 清美)…………… 17

・教育学 [1 後 選 2] (佐々木真由美)…………… 18

・哲学 [1 前 選 2] (菅原 宏道)…………… 19

・現代史 [1 後 選 2] (星野 修)…………… 20

・東北の歴史 [1 前 選 2] (渡邊 洋一)…………… 21

・ジェンダー論 [1 前 選 2] (川口かしみ)…………… 22

・生活の中の物理学 [1 前 選 2] (西澤 哲)…………… 23

・生活の中の化学 [1 後 選 2] (戸田 孝史)…………… 24

・生活の中の生物学 [1 後 選 2] (小田切孝人)…………… 25

・生活と地球科学 [1 前 選 2] (千葉 一)…………… 26

・データサイエンス入門 [1 前 必 2] (山尾 貴則・佐藤 一・森坂 太一)…………… 27

・コミュニケーション論 [1 後 選 2] (邑本 俊亮)…………… 28

・憲法と法律 [1 後 選 2] (淡路 智典)…………… 29

・生活と経済 [1 前 選 2] (奥山 忠裕)…………… 30

・教養としての政治学 [1 前 選 2] (王 元)…………… 31

・夏季野外活動実習 [1 前 選 1] (○森田 清美・犬塚 剛・黒沢 麻美・山川 樹・未定)… 32

・冬季野外活動実習 [1 後 選 1] (○未定・犬塚 剛・森田 清美・黒沢 麻美)…………… 33

・アダプテッド・スポーツ論 [1 後 選 2] (未定)…………… 34

・アダプテッド・スポーツ基礎実習 [1 前 選 1] (○未定・加藤 秀太)…………… 35

・レクリエーション理論 [1 後 選 2] (森田 清美)…………… 36

・キャリア形成Ⅰ [1 前 必 2] (○山尾 貴則・野崎 瑞樹・豊田 正利・森田慎二郎・齊藤 綾美・岡 恵介・
崔 博憲・村田 道彦・小淵 高志・鑑 さやか・森田 清美・犬塚 剛・
徳田 律子・大竹 伸治・山川 樹・黒沢 麻美・高濱 壮斗・未定) …… 37

・キャリア形成Ⅱ [1 後 必 2] (○山尾 貴則・野崎 瑞樹・豊田 正利・森田慎二郎・齊藤 綾美・岡 恵介・
崔 博憲・村田 道彦・小淵 高志・鑑 さやか・森田 清美・犬塚 剛・
徳田 律子・大竹 伸治・山川 樹・黒沢 麻美・高濱 壮斗・未定) …… 38

専門基礎科目

・現代社会と人間 [1 前 必 2] (山尾 貴則)…………… 39

・文化人類学 [1 前 選 2] (岡 恵介)…………… 40

・現代社会と福祉 [1 前 必 2] (徳田 律子)…………… 41

・社会福祉政策 [1 後 選 2] (小淵 高志)…………… 42

・現代社会学入門Ⅰ [1 前 必 2] (○山尾 貴則・野崎 瑞樹・豊田 正利・森田慎二郎・齊藤 綾美・岡 恵介・
崔 博憲・村田 道彦・小淵 高志・鑑 さやか・森田 清美・犬塚 剛・
徳田 律子・大竹 伸治・山川 樹・黒沢 麻美・高濱 壮斗・未定) …… 43

・現代社会学入門Ⅱ	[1 後 必 2]	(○山尾 貴則・野崎 瑞樹・豊田 正利・森田慎二郎・齊藤 綾美・岡 恵介・崔 博憲・村田 道彦・小渕 高志・鑑 さやか・森田 清美・犬塚 剛・徳田 律子・大竹 伸治・山川 樹・黒沢 麻美・高濱 壮斗・未定) ……	44
・基礎ゼミナールⅠ	[1 前 必 2]	(○齊藤 綾美・山尾 貴則・豊田 正利・森田慎二郎・野崎 瑞樹・岡 恵介・崔 博憲・村田 道彦・鑑 さやか・森田 清美・犬塚 剛・徳田 律子・大竹 伸治・山川 樹・黒沢 麻美・高濱 壮斗・未定) ……	45
・基礎ゼミナールⅡ	[1 後 必 2]	(○齊藤 綾美・山尾 貴則・豊田 正利・森田慎二郎・野崎 瑞樹・岡 恵介・崔 博憲・村田 道彦・鑑 さやか・森田 清美・犬塚 剛・徳田 律子・大竹 伸治・山川 樹・黒沢 麻美・高濱 壮斗・未定) ……	46
・心理学と心理的支援	[1 後 選 2]	(山川 樹) ……	47
・医学概論	[1 後 選 2]	(遠藤 ちつる) ……	48
・法学概論	[1 前 選 2]	(秋山 まゆみ) ……	49
・経済学概論	[1 前 選 2]	(坂本 直樹) ……	50
・社会学史	[1 後 選 2]	(山尾 貴則) ……	51
・政治学	[1 後 選 2]	(王 元) ……	52
・社会学と社会システム	[1 前 必 2]	(齊藤 綾美) ……	53
・社会調査の基礎	[1 後 必 2]	(齊藤 綾美) ……	54

2021～2024 年度入学者用カリキュラム

教養・基礎科目

・ボランティア探求	[2 通 選 2]	(渡邊 洋一) ……	55
・現代文章表現	[1 前 必 2]	(大泉 浩一) ……	56
・現代文章作法	[1 後 必 2]	(大泉 浩一) ……	57
・健康科学	[1 前 選 2]	(森田 清美) ……	58
・環境論入門	[1 後 選 2]	(萩川 信弘) ……	59
・情報リテラシー基礎	[1 前 必 1]	(鈴木眞澄美) ……	60
・情報リテラシー応用	[1 後 必 1]	(鈴木眞澄美) ……	61
・英語Ⅲ	[2 前 選 1]	(馬内 里美) ……	62
・英語Ⅳ	[2 後 選 1]	(大野 朝子) ……	63
・キャリア形成Ⅲ	[2 前 必 2]	(○野崎 瑞樹・山尾 貴則・豊田 正利・森田慎二郎・岡 恵介・崔 博憲・村田 道彦・鑑 さやか・森田 清美・犬塚 剛・徳田 律子・大竹 伸治・山川 樹・黒沢 麻美・高濱 壮斗・未定) ……	64
・キャリア形成Ⅳ	[2 後 必 2]	(○野崎 瑞樹・山尾 貴則・豊田 正利・森田慎二郎・岡 恵介・崔 博憲・村田 道彦・鑑 さやか・森田 清美・犬塚 剛・徳田 律子・大竹 伸治・山川 樹・黒沢 麻美・高濱 壮斗・未定) ……	65
・キャリア形成Ⅴ	[3 通 選 2]	(○野崎 瑞樹・山尾 貴則・豊田 正利・森田慎二郎・岡 恵介・崔 博憲・村田 道彦・鑑 さやか・森田 清美・犬塚 剛・徳田 律子・大竹 伸治・山川 樹・黒沢 麻美・高濱 壮斗・未定) ……	66
・キャリア形成Ⅵ	[4 通 選 2]	(○野崎 瑞樹・山尾 貴則・森田慎二郎・鑑 さやか・森田 清美・犬塚 剛・徳田 律子・大竹 伸治・黒沢 麻美・高濱 壮斗・未定) ……	67

専門基礎科目

・現代社会基礎演習Ⅰ	[1 通 必 2]	(○齊藤 綾美・山尾 貴則・野崎 瑞樹・豊田 正利・森田慎二郎・岡 恵介・崔 博憲・村田 道彦・小渕 高志・鑑 さやか・森田 清美・犬塚 剛・徳田 律子・大竹 伸治・山川 樹・未定) ……	68
・現代社会基礎演習Ⅱ	[2 通 必 2]	(○齊藤 綾美・山尾 貴則・野崎 瑞樹・豊田 正利・森田慎二郎・岡 恵介・崔 博憲・村田 道彦・小渕 高志・鑑 さやか・森田 清美・犬塚 剛・徳田 律子・大竹 伸治・山川 樹・未定) ……	69
・社会調査法	[2 前 選 2]	(齋藤 雅哉) ……	70

【現代社会学部 現代社会学科 社会学専攻】

授業科目の名称	配当	単位数	担当教員名 (○印は科目代表者)	ページ
専門科目				
・産業と労働の社会学	[2 前 選 2]		(崔 博憲) ……	71
・地域社会学	[2 前 選 2]		(齊藤 綾美) ……	72
・都市社会学	[2 前 選 2]		(齊藤 綾美) ……	73
・データ分析の基礎	[2 前 選 2]		(田中 茜) ……	74
・社会と統計	[2 前 選 2]		(小渕 高志) ……	75
・メディア社会学	[2 前 選 2]		(崔 博憲) ……	76
・量的調査法	[2 後 選 2]		(田中 茜) ……	77
・質的調査法	[2 後 選 2]		(齋藤 雅哉) ……	78
・家族社会学	[2 後 選 2]		(田中 茜) ……	79

・ジェンダー社会学	[2 後 選 2]	(妙木 忍).....	80
・情報社会学	[2 後 選 2]	(山尾 貴則).....	81
・マスコミュニケーション論	[2 後 選 2]	(寺島 英弥).....	82
・教育社会学	[3 前 選 2]	(星山 幸男).....	83
・医療社会学	[3 後 選 2]	(未定).....	84
・非営利組織論	[3 前 選 2]	(桃生 和成).....	85
・防災の社会学	[3 後 選 2]	(磯崎 匡).....	86
・社会調査演習	[2 通 選 2]	(齋藤 雅哉).....	87
・社会調査実習	[3 通 選 4]	(齋藤 雅哉).....	88
・現代社会Ⅰ	[3 前 選 2]	(山尾 貴則).....	89
・現代社会Ⅱ	[3 前 選 2]	(崔 博憲).....	90
・現代社会Ⅲ	[3 前 選 2]	(鑑 さやか).....	91
・現代社会Ⅳ	[3 前 選 2]	(豊田 正利).....	92
・現代社会Ⅴ	[3 後 選 2]	(村田 道彦).....	93
・現代社会Ⅵ	[3 後 選 2]	(岡 恵介).....	94
・現代社会Ⅶ	[3 後 選 2]	(崔 博憲).....	95
・現代社会Ⅷ	[3 後 選 2]	(小淵 高志).....	96
・地域文化論	[2 前 選 2]	(岡 恵介).....	97
・東北文化論	[3 後 選 2]	(岡 恵介).....	98
・東北の民俗	[3 後 選 2]	(岡 恵介).....	99
・環境と農業	[2 前 選 2]	(奥山 忠裕).....	100
・持続的農業論	[2 後 選 2]	(水木 麻人).....	101
・グリーンツーリズム論	[3 前 選 2]	(中嶋紀世生).....	102
・復興のまちづくり	[3 後 選 2]	(齋藤 雅哉).....	103
・生涯発達心理学	[2 前 選 2]	(山川 樹).....	104
・健康心理学	[2 後 選 2]	(山川 樹).....	105
・社会心理学	[3 前 選 2]	(山川 樹).....	106
・コミュニティ心理学	[3 後 選 2]	(○野崎 瑞樹・山川 樹).....	107
・社会保障Ⅰ	[2 前 選 2]	(森田慎二郎).....	108
・社会保障Ⅱ	[2 後 選 2]	(森田慎二郎).....	109
・障害者支援論	[2 後 選 2]	(黒沢 麻美).....	110
・高齢者支援論	[2 後 選 2]	(黒沢 麻美).....	111
・児童・家庭支援論	[2 後 選 2]	(鑑 さやか).....	112
・レクリエーション実技Ⅰ	[2 前 選 1]	(○森田 清美・犬塚 剛).....	113
・レクリエーション実技Ⅱ	[2 後 選 1]	(○森田 清美・犬塚 剛).....	114
・レクリエーション現場実習	[2 通 選 1]	(○森田 清美・犬塚 剛).....	115
・介護予防論	[3 前 選 2]	(○犬塚 剛・吉田 裕人・戸田 孝史・未定).....	116
・介護予防実習	[3 後 選 1]	(○犬塚 剛・吉田 裕人・森田 清美・戸田 孝史・未定)...	117
・専門演習Ⅰ	[3 前 必 2]	(○齊藤 綾美・山尾 貴則・野崎 瑞樹・豊田 正利・森田慎二郎・岡 恵介・ 崔 博憲・村田 道彦・小淵 高志・鑑 さやか・森田 清美・犬塚 剛・ 徳田 律子・大竹 伸治・山川 樹・黒沢 麻美・高濱 壮斗・未定)	118
・専門演習Ⅱ	[3 後 必 2]	(○齊藤 綾美・山尾 貴則・野崎 瑞樹・豊田 正利・森田慎二郎・岡 恵介・ 崔 博憲・村田 道彦・小淵 高志・鑑 さやか・森田 清美・犬塚 剛・ 徳田 律子・大竹 伸治・山川 樹・黒沢 麻美・高濱 壮斗・未定)	119
・卒業研究	[4 通 必 4]	(○齊藤 綾美・山尾 貴則・野崎 瑞樹・豊田 正利・森田慎二郎・岡 恵介・ 崔 博憲・村田 道彦・小淵 高志・鑑 さやか・森田 清美・犬塚 剛・ 徳田 律子・大竹 伸治・山川 樹・黒沢 麻美・高濱 壮斗・未定)	120

【現代社会学部 現代社会学科 社会福祉学専攻】

授業科目の名称	配当	単位数	担当教員名 (○印は科目代表者)	ページ
専門科目				
・ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	[2 前 必 2]	(鑑 さやか)	121	
・ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	[2 前 必 2]	(徳田 律子)	122	
・ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	[2 後 必 2]	(村田 道彦)	123	
・社会保障Ⅰ	[2 前 必 2]	(森田慎二郎)	124	
・社会保障Ⅱ	[2 後 必 2]	(森田慎二郎)	125	
・障害者福祉	[2 前 必 2]	(伊藤 清市)	126	
・地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	[2 後 必 2]	(豊田 正利)	127	
・地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	[3 前 必 2]	(豊田 正利)	128	
・権利擁護を支える法制度	[2 後 必 2]	(前川 勤)	129	

・刑事司法と福祉	[3 前 必 2]	(前川 勤).....	130
・ソーシャルワーク基礎演習	[2 前 必 1]	(○村田 道彦・大竹 伸治).....	131
・ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	[2 後 必 2]	(野崎 瑞樹).....	132
・児童・家庭福祉	[2 前 必 2]	(鑑 さやか).....	133
・高齢者福祉	[2 前 必 2]	(村田 道彦).....	134
・福祉サービスの組織と経営	[3 前 選 2]	(○千脇 隆志・高梨 友也).....	135
・貧困に対する支援	[3 前 選 2]	(小渕 高志).....	136
・保健医療と福祉	[2 前 選 2]	(加藤 由美).....	137
・ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	[3 前 選 2]	(志水田鶴子).....	138
・ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	[3 後 選 2]	(志水田鶴子).....	139
・ソーシャルワーク演習Ⅰ	[2 後 選 1]	(○鑑 さやか・徳田 律子).....	140
・ソーシャルワーク演習Ⅱ	[3 前 選 1]	(○小渡 加依・天間 淳平).....	141
・ソーシャルワーク演習Ⅲ	[3 後 選 1]	(○末田 耕司・天間 淳平).....	142
・ソーシャルワーク演習Ⅳ	[4 後 選 1]	(○村田 道彦・豊田 正利・野崎 瑞樹).....	143
・ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	[2 後 選 1]	(○村田 道彦・鑑 さやか・徳田 律子・豊田 正利・野崎 瑞樹)...	144
・ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	[3 前 選 1]	(○村田 道彦・鑑 さやか・徳田 律子・豊田 正利・野崎 瑞樹)...	145
・ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	[4 後 選 1]	(村田 道彦).....	146
・ソーシャルワーク実習Ⅰ	[3 後 選 2]	(○村田 道彦・鑑 さやか・徳田 律子).....	147
・ソーシャルワーク実習Ⅱ	[4 通 選 4]	(○村田 道彦・豊田 正利・野崎 瑞樹・黒沢 麻美)...	148
・精神医学Ⅰ	[2 前 選 2]	(○進藤 克博・内海 裕介・大竹 伸治・高濱 壮斗)...	149
・精神医学Ⅱ	[2 後 選 2]	(○進藤 克博・内海 裕介・大竹 伸治・高濱 壮斗)...	150
・精神保健学Ⅰ	[3 前 選 2]	(○釣舟 晴一・高濱 壮斗).....	151
・精神保健学Ⅱ	[3 後 選 2]	(○内海 裕介・高濱 壮斗).....	152
・精神保健福祉の原理Ⅰ	[2 前 選 2]	(熊谷由起子).....	153
・精神保健福祉の原理Ⅱ	[2 後 選 2]	(熊谷由起子).....	154
・ソーシャルワークの理論と方法Ⅴ	[3 前 選 2]	(○大竹 伸治・高濱 壮斗・齊藤 健輔・渡部 裕一)...	155
・ソーシャルワークの理論と方法Ⅵ	[3 後 選 2]	(○高濱 壮斗・大竹 伸治・渡部 裕一・飯室 勉)...	156
・精神障害リハビリテーション論	[3 前 選 2]	(○内海 裕介・高濱 壮斗).....	157
・精神保健福祉制度論	[2 後 選 2]	(長岡 千裕).....	158
・精神保健福祉援助演習Ⅰ	[3 前 選 1]	(○大竹 伸治・高濱 壮斗・相澤 洸太・一岡 仁)...	159
・精神保健福祉援助演習Ⅱ	[3 後 選 1]	(○高濱 壮斗・大竹 伸治・未定).....	160
・精神保健福祉援助演習Ⅲ	[4 通 選 1]	(○大竹 伸治・高濱 壮斗).....	161
・精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	[2 後 選 1]	(○大竹 伸治・高濱 壮斗・岡崎 茂・岡崎 茂・小野 彩香・黒澤 尚樹・市川 芳美・長谷 諭)...	162
・精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	[3 通 選 1]	(○大竹 伸治・高濱 壮斗・佐々木千鶴).....	163
・精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	[4 通 選 1]	(○高濱 壮斗・大竹 伸治).....	164
・精神保健福祉援助実習Ⅰ	[3 後 選 3]	(○高濱 壮斗・大竹 伸治).....	165
・精神保健福祉援助実習Ⅱ	[4 通 選 2]	(○高濱 壮斗・大竹 伸治).....	166
・チーム医療福祉論	[2 後 選 1]	(大黒 一司).....	167
・専門職連携論	[3 前 必 2]	(○大黒 一司・大庭 みよ・渡邊 隆夫・伊藤 清世・樽林 雅司・佐藤 尚子・土井 勝幸)...	168
・専門職連携セミナー	[3 後 選 1]	(大黒 一司).....	169
・生活支援工学	[2 後 選 2]	(徳田 律子).....	170
・医療ソーシャルワーク論	[3 前 選 2]	(○加藤 由美・熊谷 智美・広瀬 和之).....	171
・医療福祉マネジメント論	[3 後 選 2]	(○加藤 由美・二瓶 洋子).....	172
・スクールソーシャルワーク論	[3 前 選 2]	(大竹 伸治).....	173
・スクールソーシャルワーク演習	[3 後 選 1]	(○高濱 壮斗・大竹 伸治・鈴木 正貴・堀内 美咲・平泉 武志)...	174
・スクールソーシャルワーク実習指導	[4 前 選 1]	(○高濱 壮斗・大竹 伸治).....	175
・スクールソーシャルワーク実習	[4 通 選 2]	(○大竹 伸治・高濱 壮斗).....	176
・障害者支援論	[2 後 選 2]	(黒沢 麻美).....	177
・児童・家庭支援論	[2 後 選 2]	(鑑 さやか).....	178
・高齢者支援論	[2 後 選 2]	(黒沢 麻美).....	179
・生涯発達心理学	[2 前 選 2]	(山川 樹).....	180
・健康心理学	[2 後 選 2]	(山川 樹).....	181
・社会心理学	[3 前 選 2]	(山川 樹).....	182
・コミュニティ心理学	[3 後 選 2]	(○野崎 瑞樹・山川 樹).....	183
・レクリエーション実技Ⅰ	[2 前 選 1]	(○森田 清美・犬塚 剛).....	184
・レクリエーション実技Ⅱ	[2 後 選 1]	(○森田 清美・犬塚 剛).....	185
・レクリエーション現場実習	[2 通 選 1]	(○森田 清美・犬塚 剛).....	186
・介護予防論	[3 前 選 2]	(○犬塚 剛・吉田 裕人・戸田 孝史・未定).....	187
・介護予防実習	[3 後 選 1]	(○犬塚 剛・吉田 裕人・森田 清美・戸田 孝史・未定)...	188

・非営利組織論	[3 前 選 2]	(桃生 和成).....	189
・防災の社会学	[3 後 選 2]	(磯崎 匡).....	190
・復興のまちづくり	[3 後 選 2]	(齋藤 雅哉).....	191
・専門演習Ⅰ	[3 前 必 2]	(○齊藤 綾美・山尾 貴則・野崎 瑞樹・豊田 正利・森田慎二郎・岡 恵介・ 崔 博憲・村田 道彦・小淵 高志・鑑 さやか・森田 清美・犬塚 剛・ 徳田 律子・大竹 伸治・山川 樹・黒沢 麻美・高濱 壮斗・未定).....	192
・専門演習Ⅱ	[3 後 必 2]	(○齊藤 綾美・山尾 貴則・野崎 瑞樹・豊田 正利・森田慎二郎・岡 恵介・ 崔 博憲・村田 道彦・小淵 高志・鑑 さやか・森田 清美・犬塚 剛・ 徳田 律子・大竹 伸治・山川 樹・黒沢 麻美・高濱 壮斗・未定).....	193
・卒業研究	[4 通 必 4]	(○齊藤 綾美・山尾 貴則・野崎 瑞樹・豊田 正利・森田慎二郎・岡 恵介・ 崔 博憲・村田 道彦・小淵 高志・鑑 さやか・森田 清美・犬塚 剛・ 徳田 律子・大竹 伸治・山川 樹・黒沢 麻美・高濱 壮斗・未定).....	194

授業科目とディプロマポリシー（学位授与の方針）の対応表

【現代社会学部 現代社会学科 社会学専攻】

ディプロマポリシー（学位授与の方針）		
①	「知識・理解」	・社会学、社会福祉学に関する専門的知識と人を理解するための幅広い教養を有している人。
②	「思考・判断」	・社会学、社会福祉学に関する専門的知識に根差した思考と判断ができる人。
③	「技能・表現」	・現代社会における諸問題の動向に関心を持ち、教養と高い専門性を身につけた職業人として、人々のよりよい暮らし（well-being）のために社会貢献できる力を身につけている人。
④	「関心・意欲・態度」	・さまざまな状況下において、多様なニーズに応じていく柔軟さを持つことができる人。

2025 年度以降入学用カリキュラム

授業科目の名称			配当 年次	単位数			ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針) 対応表 (「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目)			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者	1 通		2		◎		○	
		生命を考える	1 前・1 後		2		◎		○	
		現代社会を視る	1 前・1 後		2		◎		○	
		生活の中の科学	1 前・1 後		2		◎		○	
		経済・法律・世界を視る	1 前・1 後		2		◎		○	
		社会活動入門	1 前・1 後		2		◎		○	
	全学共通科目	英語コミュニケーションⅠ	1 前	1			○		○	
		英語コミュニケーションⅡ	1 後	1			○		○	
		韓国語コミュニケーションⅠ	1 前		1		○		○	
		韓国語コミュニケーションⅡ	1 後		1		○		○	
		中国語コミュニケーションⅠ	1 前		1		○		○	
		中国語コミュニケーションⅡ	1 後		1		○		○	
		海外研修	1 通		2				○	○
		スポーツ実技	1 後		1		○		○	
		心理学概論	1 前		2		○		○	
		生命倫理学	1 後		1		○		○	
		健康科学	1 前	1			○		○	
		教育学	1 後		2		○			○
		哲学	1 前		2		○			○
		現代史	1 後		2		○			○
		東北の歴史	1 前		2		○			○
		ジェンダー論	1 前		2		○			○

授業科目の名称			配当 年次	単位数			ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針) 対応表 (「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目)			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
基礎科目	全学共通科目	生活の中の物理学	1 前		2		○			○
		生活の中の化学	1 後		2		○			○
		生活の中の生物学	1 後		2		○			○
		生活と地球科学	1 前		2		○			○
		データサイエンス入門	1 前	2			○			○
		コミュニケーション論	1 後		2		◎			○
		憲法と法律	1 後		2		○			○
		生活と経済	1 前		2		○			○
		教養としての政治学	1 前		2		○			○
	健康スポーツ	夏季野外活動実習	1 前		1			○	○	
		冬季野外活動実習	1 後		1			○	○	
		アダプテッド・スポーツ論	1 後		2		○	◎		
		アダプテッド・スポーツ基礎実習	1 前		1				◎	○
		レクリエーション理論	1 後		2		◎	○		
	キャリア形成	キャリア形成Ⅰ	1 前	2			○			◎
		キャリア形成Ⅱ	1 後	2			○			◎
		キャリア形成Ⅲ	2 前	2				◎	○	
		キャリア形成Ⅳ	2 後	2					◎	○
		キャリア形成Ⅴ	3 通		2				○	◎
専門基礎科目	基盤科目	現代社会と人間	1 前	2			◎	○		
		文化人類学	1 前		2		○	○		
		現代社会と福祉	1 前	2			◎	○		
		社会福祉政策	1 後		2		○	○		
		現代社会学入門Ⅰ	1 前	2			◎	○		
		現代社会学入門Ⅱ	1 後	2			◎	○		
		基礎ゼミナールⅠ	1 前	2			◎	○		
		基礎ゼミナールⅡ	1 後	2			◎	○		
		基礎ゼミナールⅢ	2 前	2			◎	○		
		基礎ゼミナールⅣ	2 後	2			◎	○		
	基幹科目	心理学と心理的支援	1 前		2		◎		○	
		医学概論	1 後		2		◎		○	
		法学概論	1 前		2		○		○	
		経済学概論	1 前		2		○		○	
		社会学史	1 後		2		◎		○	

授業科目の名称			配当 年次	単位数			ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針) 対応表 (「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目)			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
専門基礎科目	基幹科目	政治学	1 後		2		○		○	
		社会学と社会システム	1 前	2			◎		○	
		社会調査の基礎	1 後	2			◎		○	
		社会調査法	2 前		2		○		○	
専門科目	社会学各論	労働と社会	2 前		2		◎			○
		地域社会学	2 前		2		◎			○
		異文化コミュニケーション論	2 前		2		◎			○
		情報技術と社会	2 前		2		◎			○
		スポーツと社会	2 前		2		◎			○
		食と社会	2 前		2		◎			○
		メディア社会論	2 後		2		◎			○
		家族社会学	2 後		2		◎			○
		ジェンダー社会学	2 後		2		◎			○
		都市社会学	2 後		2		◎			○
		マスコミュニケーション論	2 後		2		◎			○
		社会保障概論	2 前		2		◎			○
		国際社会論	2 後		2		◎			○
		教育社会学	3 前		2		◎			○
		非営利組織論	3 前		2		◎			○
		医療社会学	3 後		2		◎			○
		災害と社会	3 後		2		◎			○
		日本社会とマイノリティ	3 後		2		◎			○
		社会的アイデンティティ論	3 後		2		◎			○
	社会調査の理論と方法	データ分析の基礎	2 前		2			○	◎	
		社会と統計	2 前		2			○	◎	
		量的調査法	2 後		2			○	◎	
		質的調査法	2 後		2			○	◎	
		社会調査Ⅰ	3 前		2			○	◎	
		社会調査Ⅱ	3 後		2			○	◎	
	展開科目	現代社会Ⅰ	3 前		2			◎		◎
		現代社会Ⅱ	3 前		2			◎		◎
		現代社会Ⅲ	3 前		2			◎		◎
		現代社会Ⅳ	3 前		2			◎		◎
		現代社会Ⅴ	3 後		2			◎		◎
		現代社会Ⅵ	3 後		2			◎		◎
		現代社会Ⅶ	3 後		2			◎		◎
		現代社会Ⅷ	3 後		2			◎		◎

授業科目の名称			配当 年次	単位数			ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針) 対応表 (「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目)			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
展開科目	地域と東北を学ぶ	地域文化論	2 前		2		○			◎
		環境と社会	2 前		2		○			◎
		農と社会	2 後		2		○			◎
		東北文化論	3 前		2		○			◎
		観光と社会	3 前		2		○			◎
		地域と民俗	3 後		2		○			◎
		復興のまちづくり	3 後		2		○			◎
		地域社会と国際化	3 後		2		○			◎
	関連科目	生涯発達心理学	2 前		2			○		○
		健康心理学	2 後		2			○		○
		社会心理学	3 前		2			○		○
		コミュニティ心理学	3 後		2			○		○
		社会保障Ⅰ	2 前		2			○		○
		社会保障Ⅱ	2 後		2			○		○
		障がいと社会	2 後		2			○		○
		エイジングと社会	2 後		2			○		○
		児童福祉と社会	2 後		2			○		○
		レクリエーション実技Ⅰ	2 前		1			○		○
		レクリエーション実技Ⅱ	2 後		1			○		○
		レクリエーション現場実習	2 通		1			○		○
		貧困に対する支援	3 前		2			○		○
		地域社会健康論	3 前		2			○		○
		地域社会健康演習	3 後		2			○		○
	専門研究	専門ゼミナールⅠ	3 前	2				◎	◎	
		専門ゼミナールⅡ	3 後	2				◎	◎	
		卒研指導ゼミナールⅠ	4 前	2				◎	◎	
		卒研指導ゼミナールⅡ	4 後	2				◎	◎	
		卒業論文	4 通		4			◎	◎	

2021 ～ 2024 年度入学者用カリキュラム

授業科目の名称			配当 年次	単位数			ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針) 対応表 (「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目)			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
教養・基礎科目	探究・理解 プロジェクト	輝ける者	1 通		3			○		○
		生命を考える	1 前・1 後		2		◎	◎		○
		人間文化探究	1 通		2			○		○

授業科目の名称			配当 年次	単位数			ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針) 対応表 (「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目)			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
教養・基礎科目	探究・理解 プロジェクト	生活の中の科学	1 前・1 後		2		○	○		○
		地域活動・ボランティア	1 通		2		◎	◎		○
		現代社会を視る	1 前・1 後		2			○		○
		ボランティア探求	2 通		2			○	○	○
	教養科目	現代文章表現	1 前	2			○			
		現代文章作法	1 後	2			○			
		哲学	1 前		2		○			
		文学	1 前		2		○			
		芸術論	1 前		2		○			
		現代史	1 前		2		○			
		東北の歴史	1 後		2		○			
		心理学と心理的支援	1 前	2			○			
		コミュニケーション論	1 後		2		◎	○		○
		文化人類学	1 前		2		○			
		教育学	1 後		2		○			
		憲法	1 後		2		◎	○		
		健康科学	1 前		2		○			
		基礎生物学	1 前		2		○			
		生命倫理学	1 後		2		◎	◎		
		環境論入門	1 後		2		○			
		地球科学	1 後		2		○			
		医学概論	1 後	2			○		○	
		情報リテラシー基礎	1 前	1			○			
		情報リテラシー応用	1 後	1			○			
	外国語	英語Ⅰ	1 前	1			○			
		英語Ⅱ	1 後	1			○			
		英語Ⅲ	2 前		1		○			
		英語Ⅳ	2 後		1		○			
		中国語Ⅰ	1 前		1		○			
		中国語Ⅱ	1 後		1		○			
		韓国語Ⅰ	1 前		1		○			
		韓国語Ⅱ	1 後		1		○			
		海外研修	1 通		2				◎	○
	健康運動科目	健康スポーツ実技	1 前	1			○			○
		夏季野外活動実習	1 前		1			◎	○	
		冬季野外活動実習	1 後		1			○	○	
		アダプテッド・スポーツ論	1 後		2		◎	◎		

授業科目の名称			配当 年次	単位数			ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針) 対応表 (「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目)			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
教養・基礎科目	健康運動	アダプテッド・スポーツ基礎実習	1 前		1				◎	◎
		レクリエーション理論	1 後		2		◎	○		
	キャリア形成	キャリア形成Ⅰ	1 前	2			◎			○
		キャリア形成Ⅱ	1 後	2			◎			○
		キャリア形成Ⅲ	2 前	2				◎	○	
		キャリア形成Ⅳ	2 後	2					◎	○
		キャリア形成Ⅴ	3 通		2				◎	○
		キャリア形成Ⅵ	4 通		2			◎		◎
専門基礎科目	基盤科目	現代社会と人間	1 前	2			◎	○		
		現代社会と福祉	1 前	2			◎			
		社会福祉政策	1 後	2			◎	○		
		共生社会論	1 後	2			◎	◎		
		現代社会基礎演習Ⅰ	1 通	2				○		◎
		現代社会基礎演習Ⅱ	2 通	2				◎		○
	基幹科目	社会学と社会システム	1 前	2			◎	○		
		法学概論	1 前		2		◎	○		
		経済学概論	1 前		2		○			
		政治学	1 後		2		○			
		社会学史	1 後	2			◎	○		
		社会調査の基礎	1 後	2			◎			
		社会調査法	2 前		2		◎		○	
専門科目	理論と方法	産業と労働の社会学	2 前		2		◎	◎		
		地域社会学	2 前		2		◎	○		
		都市社会学	2 前		2		◎	○		
		データ分析の基礎	2 前		2		◎	○		
		社会と統計	2 前		2		○	◎		
		メディア社会学	2 前		2		◎	◎		
		量的調査法	2 後		2			○	◎	
		質的調査法	2 後		2			○	◎	
		家族社会学	2 後		2		◎	○		
		ジェンダー社会学	2 後		2		◎	◎		
		情報社会論	2 後		2		◎	◎		
		マスコミュニケーション論	2 後		2		◎	◎		
		教育社会学	3 前		2		◎	◎		
		医療社会学	3 後		2		◎	◎		
		非営利組織論	3 前		2		◎			◎
		防災の社会学	3 後		2				◎	◎

授業科目の名称		配当 年次	単位数			ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針) 対応表 (「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目)			
			必修	選択	自由	①	②	③	④
専門科目	方法 理論と	社会調査演習	2 通	2			◎	◎	
		社会調査実習	3 通	4			◎	◎	
	展開科目 課題研究	現代社会Ⅰ	3 前	2			◎	○	
		現代社会Ⅱ	3 前	2		◎	○		
		現代社会Ⅲ	3 前	2				◎	◎
		現代社会Ⅳ	3 前	2			◎	○	
		現代社会Ⅴ	3 後	2				◎	◎
		現代社会Ⅵ	3 後	2			◎	○	
		現代社会Ⅶ	3 後	2				◎	◎
		現代社会Ⅷ	3 後	2				◎	◎
		東北社会研究							
		地域文化論	2 前	2		◎			◎
		東北文化論	3 前	2		◎			◎
		東北の民俗	3 後	2		◎			◎
		環境と農業	2 前	2		◎			◎
		持続的農業論	2 後	2		◎			◎
		グリーンツーリズム論	3 前	2		◎			◎
		復興のまちづくり	3 後	2		○	◎		
	関連科目	生涯発達心理学	2 前	2		◎			◎
		健康心理学	2 後	2		◎			◎
		社会心理学	3 前	2		◎			◎
		コミュニティ心理学	3 後	2			◎		◎
		社会保障Ⅰ	2 前	2		◎	○		
		社会保障Ⅱ	2 後	2		◎	○		
		障害者支援論	2 後	2		◎	○		
		高齢者支援論	2 後	2		◎	○		
		児童・家庭支援論	2 後	2		◎	○		
		レクリエーション実技Ⅰ	2 前	1				◎	○
		レクリエーション実技Ⅱ	2 後	1				◎	○
		レクリエーション現場実習	2 通	1			◎		○
		介護予防論	3 前	2		◎	◎		
		介護予防実習	3 後	1				◎	◎
	卒業研究	専門演習Ⅰ	3 前	2			◎	○	
		専門演習Ⅱ	3 後	2			○	◎	
		卒業研究	4 通	4			◎		○

授業科目とディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）の対応表

【現代社会学部 現代社会学科 社会福祉学専攻】

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）		
①	「知識・理解」	・社会学、社会福祉学に関する専門的知識と人を理解するための幅広い教養を有している人。
②	「思考・判断」	・社会学、社会福祉学に関する専門的知識に根差した思考と判断ができる人。
③	「技能・表現」	・現代社会における諸問題の動向に関心を持ち、教養と高い専門性を身につけた職業人として、人々のよりよい暮らし（well-being）のために社会貢献できる力を身につけている人。
④	「関心・意欲・態度」	・さまざまな状況下において、多様なニーズに応じていく柔軟さを持つことができる人。

2025 年度以降入学者用カリキュラム

授業科目の名称			配当 年次	単位数			ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針) 対応表 (「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目)			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
基礎科目	探究・理解プロジェクト	輝ける者	1 通		2		◎		○	
		生命を考える	1 前・1 後		2		◎		○	
		現代社会を視る	1 前・1 後		2		◎		○	
		生活の中の科学	1 前・1 後		2		◎		○	
		経済・法律・世界を視る	1 前・1 後		2		◎		○	
		社会活動入門	1 前・1 後		2		◎		○	
	全学共通科目	英語コミュニケーションⅠ	1 前	1			○		○	
		英語コミュニケーションⅡ	1 後	1			○		○	
		韓国語コミュニケーションⅠ	1 前		1		○		○	
		韓国語コミュニケーションⅡ	1 後		1		○		○	
		中国語コミュニケーションⅠ	1 前		1		○		○	
		中国語コミュニケーションⅡ	1 後		1		○		○	
		海外研修	1 通		2				○	○
		スポーツ実技	1 後		1		○		○	
		心理学概論	1 前		2		○		○	
		生命倫理学	1 後		1		○		○	
		健康科学	1 前	1			○		○	
		教育学	1 後		2		○			○
		哲学	1 前		2		○			○
		現代史	1 後		2		○			○
		東北の歴史	1 前		2		○			○
		ジェンダー論	1 前		2		○			○
		生活の中の物理学	1 前		2		○			○
		生活の中の化学	1 後		2		○			○

授業科目の名称		配当 年次	単位数			ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針) 対応表 (「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目)			
			必修	選択	自由	①	②	③	④
基礎科目	全学共通科目	生活の中の生物学	1 後		2		○		○
		生活と地球科学	1 前		2		○		○
		データサイエンス入門	1 前	2			○		○
		コミュニケーション論	1 後		2		◎		○
		憲法と法律	1 後		2		○		○
		生活と経済	1 前		2		○		○
		教養としての政治学	1 前		2		○		○
	健康スポーツ	夏季野外活動実習	1 前		1			○	○
		冬季野外活動実習	1 後		1			○	○
		アダプテッド・スポーツ論	1 後		2		○	◎	
		アダプテッド・スポーツ基礎実習	1 前		1			◎	○
		レクリエーション理論	1 後		2		◎	○	
	キャリア形成	キャリア形成Ⅰ	1 前	2			○		◎
		キャリア形成Ⅱ	1 後	2			○		◎
		キャリア形成Ⅲ	2 前	2				◎	○
		キャリア形成Ⅳ	2 後	2				◎	○
		キャリア形成Ⅴ	3 通		2			○	◎
専門基礎科目	基盤科目	現代社会と人間	1 前	2			◎	○	
		文化人類学	1 前		2		○	○	
		現代社会と福祉	1 前	2			◎	○	
		社会福祉政策	1 後		2		○	○	
		現代社会学入門Ⅰ	1 前	2			◎	○	
		現代社会学入門Ⅱ	1 後	2			◎	○	
		基礎ゼミナールⅠ	1 前	2			◎	○	
		基礎ゼミナールⅡ	1 後	2			◎	○	
		基礎ゼミナールⅢ	2 前	2			◎	○	
		基礎ゼミナールⅣ	2 後	2			◎	○	
	基幹科目	心理学と心理的支援	1 前		2		◎		○
		医学概論	1 後		2		◎		○
		法学概論	1 前		2		○		○
		経済学概論	1 前		2		○		○
		社会学史	1 後		2		◎		○
		政治学	1 後		2		○		○
		社会学と社会システム	1 前	2			◎		○
		社会調査の基礎	1 後	2			◎		○
		社会調査法	2 前		2		○		○

授業科目の名称		配当 年次	単位数			ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針) 対応表 (「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目)			
			必修	選択	自由	①	②	③	④
専門科目	福祉士共通科目	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	2 前	2		◎			
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2 前	2		◎			
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2 後	2			◎	◎	
		社会保障Ⅰ	2 前	2		◎	○		
		社会保障Ⅱ	2 後	2		◎	○		
		障害者福祉	2 前	2		◎	○		
		地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2 後	2				◎	○
		地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	3 前	2				◎	○
		権利擁護を支える法制度	2 後	2		◎	○		
		刑事司法と福祉	3 前	2		◎	○		
		ソーシャルワーク基礎演習	2 前	1			◎	◎	
	ソーシャルワーク系科目	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	2 後	2			◎	◎	
		児童・家庭福祉	2 前	2		◎	○		
		高齢者福祉	2 前	2			◎	◎	
		福祉サービスの組織と経営	3 前		2	◎	○		
		貧困に対する支援	3 前		2	◎	○		
		保健医療と福祉	2 前		2	◎	○		
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	3 前		2	○	◎		
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	3 後		2	○	◎		
		ソーシャルワーク演習Ⅰ	2 後		1		◎	◎	
		ソーシャルワーク演習Ⅱ	3 前		1		◎	◎	
		ソーシャルワーク演習Ⅲ	3 後		1		◎	◎	
		ソーシャルワーク演習Ⅳ	4 後		1		◎	◎	
		ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2 後		1		◎		◎
		ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3 前		1		◎		◎
		ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	4 後		1		◎		◎
		ソーシャルワーク実習Ⅰ	3 後		2		◎	◎	
		ソーシャルワーク実習Ⅱ	4 通		4		◎	◎	
	メンタルヘルス系科目	精神医学Ⅰ	2 前		2	◎	○		
		精神医学Ⅱ	2 後		2	◎	○		
		精神保健学Ⅰ	3 前		2	◎	○		
		精神保健学Ⅱ	3 後		2	◎	○		
		精神保健福祉の原理Ⅰ	2 前		2	◎	○		
		精神保健福祉の原理Ⅱ	2 後		2	◎	○		
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅴ	3 前		2	◎	○		
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅵ	3 後		2	◎	○		
		精神障害リハビリテーション論	3 前		2	◎	○		
		精神保健福祉制度論	2 後		2	◎	○		

		授業科目の名称	配当 年次	単位数			ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針) 対応表 (「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目)			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
専門科目	メンタルヘルス系科目	精神保健福祉援助演習Ⅰ	3 前		1			◎	◎	
		精神保健福祉援助演習Ⅱ	3 後		1			◎	◎	
		精神保健福祉援助演習Ⅲ	4 通		1			◎	◎	
		精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	2 後		1			◎		◎
		精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	3 通		1			◎		◎
		精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	4 通		1			◎		◎
		精神保健福祉援助実習Ⅰ	3 後		3			◎	◎	
		精神保健福祉援助実習Ⅱ	4 通		2			◎	◎	
	専門職連携科目	チーム医療福祉論	2 後		1			◎	◎	◎
		専門職連携論	3 前	2				◎	◎	◎
		専門職連携セミナー	3 後		1		◎	◎	◎	◎
		生活支援工学	2 後		2			◎		
		地域医療マネジメントⅠ	3 前		2		◎			○
		地域医療マネジメントⅡ	3 後		2				◎	○
		スクールソーシャルワーク論	3 前		2		◎	○		
		スクールソーシャルワーク演習	3 後		1			◎	◎	
		スクールソーシャルワーク実習指導	4 前		1			◎		◎
		スクールソーシャルワーク実習	4 通		2			◎	◎	
	関連科目	障害者支援論	2 後		2		◎	○		
		児童・家庭支援論	2 後		2		○	◎		
		高齢者支援論	2 後		2		◎	○		
		生涯発達心理学	2 前		2		◎			◎
		健康心理学	2 後		2		◎			◎
		社会心理学	3 前		2		◎		◎	
		コミュニティ心理学	3 後		2			◎		◎
		レクリエーション実技Ⅰ	2 前		1				◎	○
		レクリエーション実技Ⅱ	2 後		1				◎	○
		レクリエーション現場実習	2 通		1			◎		○
		地域社会健康論	3 前		2			○		○
		地域社会健康演習	3 後		2			○		○
		非営利組織論	3 前		2		◎	◎		
		災害と社会	3 後		2			○		○
		復興のまちづくり	3 後		2		○	◎		
	専門研究	専門ゼミナールⅠ	3 前	2				◎	◎	
		専門ゼミナールⅡ	3 後	2				◎	◎	
		卒研指導ゼミナールⅠ	4 前	2				◎	◎	
		卒研指導ゼミナールⅡ	4 後	2				◎	◎	
		卒業論文	4 通		4			◎	◎	

2021 ～ 2024 年度入学者用カリキュラム

授業科目の名称			配当 年次	単位数			ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針) 対応表 (「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目)			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
教養・基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者	1 通		3			○		○
		生命を考える	1 前・1 後		2		◎	◎		○
		人間文化探求	1 通		2			○		○
		生活の中の科学	1 前・1 後		2		○	○		○
		地域活動・ボランティア	1 通		2		◎	◎		○
		現代社会を視る	1 前・1 後		2			○		○
		ボランティア探求	2 通		2			○	○	○
	教養科目	現代文章表現	1 前	2			○			
		現代文章作法	1 後	2			○			
		哲学	1 前		2		○			
		文学	1 前		2		○			
		芸術論	1 前		2		○			
		現代史	1 前		2		○			
		東北の歴史	1 後		2		○			
		心理学と心理的支援	1 前	2			○			
		コミュニケーション論	1 後		2		◎	○		○
		文化人類学	1 前		2		○			
		教育学	1 後		2		○			
		憲法	1 後		2		◎	○		
		健康科学	1 前		2		○			
		基礎生物学	1 前		2		○			
		生命倫理学	1 後		2		◎	◎		
		環境論入門	1 後		2		○			
		地球科学	1 後		2		○			
		医学概論	1 後	2			◎		○	
		情報リテラシー基礎	1 前	1			○			
		情報リテラシー応用	1 後	1			○			
	外国語	英語Ⅰ	1 前	1			○			
		英語Ⅱ	1 後	1			○			
		英語Ⅲ	2 前		1		○			
		英語Ⅳ	2 後		1		○			
		中国語Ⅰ	1 前		1		○			
		中国語Ⅱ	1 後		1		○			
		韓国語Ⅰ	1 前		1		○			
		韓国語Ⅱ	1 後		1		○			
		海外研修	1 通		2				◎	○

授業科目の名称		配当 年次	単位数			ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針) 対応表 (「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目)			
			必修	選択	自由	①	②	③	④
教養・基礎科目	健康運動科目	健康スポーツ実技	1 前	1		○			○
		夏季野外活動実習	1 前		1		◎	○	
		冬季野外活動実習	1 後		1		○	○	
		アダプテッド・スポーツ論	1 後		2	◎	◎		
		アダプテッド・スポーツ基礎実習	1 前		1			◎	◎
		レクリエーション理論	1 後		2	◎	○		
	キャリア形成	キャリア形成Ⅰ	1 前	2		◎			○
		キャリア形成Ⅱ	1 後	2		◎			○
		キャリア形成Ⅲ	2 前	2			◎	○	
		キャリア形成Ⅳ	2 後	2				◎	○
		キャリア形成Ⅴ	3 通		2			◎	○
		キャリア形成Ⅵ	4 通		2		◎		◎
専門基礎科目	基盤科目	現代社会と人間	1 前	2		◎	○		
		現代社会と福祉	1 前	2		◎			
		社会福祉政策	1 後	2		◎	○		
		共生社会論	1 後	2		◎	◎		
		現代社会基礎演習Ⅰ	1 通	2			○		◎
		現代社会基礎演習Ⅱ	2 通	2			◎		○
	基幹科目	社会学と社会システム	1 前	2		◎	○		
		法学概論	1 前		2	◎	○		
		経済学概論	1 前		2	○			
		政治学	1 後		2	○			
		社会学史	1 後	2		◎	○		
		社会調査の基礎	1 後	2		◎			
		社会調査法	2 前		2	◎		○	
専門科目	福祉士共通科目	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	2 前	2		◎			
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2 前	2		◎			
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2 後	2			◎	◎	
		社会保障Ⅰ	2 前	2		◎	○		
		社会保障Ⅱ	2 後	2		◎	○		
		障害者福祉	2 前	2		◎	○		
		地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2 後	2				◎	○
		地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	3 前	2				◎	○
		権利擁護を支える法制度	2 後	2		◎	○		
		刑事司法と福祉	3 前	2		◎	○		
		ソーシャルワーク基礎演習	2 前	1			◎	◎	

授業科目の名称		配当 年次	単位数			ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針) 対応表 (「○」は強く関係する科目、「○」は関係する科目)			
			必修	選択	自由	①	②	③	④
専門科目	ソーシャルワーク系科目	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	2 後	2			○	○	
		児童・家庭福祉	2 前	2		○	○		
		高齢者福祉	2 前	2			○	○	
		福祉サービスの組織と経営	3 前		2	○	○		
		貧困に対する支援	3 前		2	○	○		
		保健医療と福祉	2 前		2	○	○		
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	3 前		2	○	○		
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	3 後		2	○	○		
		ソーシャルワーク演習Ⅰ	2 後		1		○	○	
		ソーシャルワーク演習Ⅱ	3 前		1		○	○	
		ソーシャルワーク演習Ⅲ	3 後		1		○	○	
		ソーシャルワーク演習Ⅳ	4 後		1		○	○	
		ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2 後		1		○		○
		ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3 前		1		○		○
		ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	4 後		1		○		○
		ソーシャルワーク実習Ⅰ	3 後		2		○	○	
		ソーシャルワーク実習Ⅱ	4 通		4		○	○	
	メンタルヘルス系科目	精神医学Ⅰ	2 前		2	○	○		
		精神医学Ⅱ	2 後		2	○	○		
		精神保健学Ⅰ	3 前		2	○	○		
		精神保健学Ⅱ	3 後		2	○	○		
		精神保健福祉の原理Ⅰ	2 前		2	○	○		
		精神保健福祉の原理Ⅱ	2 後		2	○	○		
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅴ	3 前		2	○	○		
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅵ	3 後		2	○	○		
		精神障害リハビリテーション論	3 前		2	○	○		
		精神保健福祉制度論	2 後		2	○	○		
		精神保健福祉援助演習Ⅰ	3 前		1		○	○	
		精神保健福祉援助演習Ⅱ	3 後		1		○	○	
		精神保健福祉援助演習Ⅲ	4 通		1		○	○	
		精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	2 後		1		○		○
		精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	3 通		1		○		○
		精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	4 通		1		○		○
		精神保健福祉援助実習Ⅰ	3 後		3		○	○	
		精神保健福祉援助実習Ⅱ	4 通		2		○	○	

授業科目の名称		配当 年次	単位数			ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針) 対応表 〔○〕は強く関係する科目、〔○〕は関係する科目			
			必修	選択	自由	①	②	③	④
専門科目	専門職連携科目	チーム医療福祉論	2 後	1			○	○	○
		専門職連携論	3 前	2			○	○	○
		専門職連携セミナー	3 後	1		○	○	○	○
		生活支援工学	2 後	2			○		
		医療ソーシャルワーク論	3 前	2		○			○
		医療福祉マネジメント論	3 後	2				○	○
		スクールソーシャルワーク論	3 前	2		○	○		
		スクールソーシャルワーク演習	3 後	1			○	○	
		スクールソーシャルワーク実習指導	4 前	1			○		○
		スクールソーシャルワーク実習	4 通	2			○	○	
	関連科目	障害者支援論	2 後	2		○	○		
		児童・家庭支援論	2 後	2		○	○		
		高齢者支援論	2 後	2		○	○		
		生涯発達心理学	2 前	2		○			○
		健康心理学	2 後	2		○			○
		社会心理学	3 前	2		○		○	
		コミュニティ心理学	3 後	2			○		○
		レクリエーション実技Ⅰ	2 前	1				○	○
		レクリエーション実技Ⅱ	2 後	1				○	○
		レクリエーション現場実習	2 通	1			○		○
		介護予防論	3 前	2		○	○		
		介護予防実習	3 後	1				○	○
		非営利組織論	3 前	2		○	○		
		防災の社会学	3 後	2				○	○
		復興のまちづくり	3 後	2		○	○		
	卒業研究	専門演習Ⅰ	3 前	2			○	○	
		専門演習Ⅱ	3 後	2			○	○	
		卒業研究	4 通	4			○		○

2025 年度入学者用カリキュラム (現代社会学科)

科 目 名	輝ける者			担 当 者	○小野部 純・他
科目ナンバリング	112011251				常勤
D P	1,3			教員研究室	3108
学科（専攻）	現代社会学科（共通）			配 当 年 次	1 年次・通年
授 業 形 式	演 習	授 業 時 間	60 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 本授業は、地元宮城県を支える取り組みを題材とし、次の2つの観点により授業を展開することで、「主体的に考える力」、「コミュニケーション力」、「問題解決力」を高め、「チームワーク・リーダーシップ」、「市民としての社会的責任」に対する基本的態度を育むことを目的とする ① 地元の産業を支えるとは 最前線で活躍している多様なゲストスピーカーの講義により、職業人の社会・地域の発展に対する思いを知ることから、「働くことの意味」を主体的に考える。 ② 地元を支える活動の実践 グループでの地域創生プロジェクトの企画提案を通して、地元の課題を自分自身と結び付けて考え、チームで提案し、地域を巻き込んで実践する。 【学習の到達目標】 社会の中で「輝く」とは何かについて、各自の考えを持つ 「仕事とはなにか」について考え、各自の考えを持つ 【成績評価方法】 ①レポート内容、②各テーマに関する発表内容の2点から総合的に評価する 【課題等のフィードバック方法】 都度、質疑に応答する 【履修上の注意・予習・復習について】 複数時間で実施することが有効な授業内容の場合、土日もしくは長期休業期間に実施することがある 外部との調整の都合上、授業初回時にあらためてスケジュールを提示する 【受講して得られる効果・メリット、その他】 自ら考え、提案し、他者と協働してプロジェクトを実施する力が身につく 【実務家教員担当科目】 地元を支えているゲストスピーカーなどと、質疑・意見交換が可能となっている					
授 業 計 画					
----- 導入編 1. ガイダンス、グループワーク（アイスブレイク） 2～4. キャリア形成 ----- 地元を支える活動の実践 5～12. 多様な働き方を学び、考える ・地元企業を知る（働くとは何か） ・企業と地域（ゲストスピーカー） ・グループワーク（企業へのインタビュー準備） ・多様な働き方（アシスタ仙台）、企業担当者へのインタビュー ----- 地元の産業活動を知る 13～26. 夏休み企画 秋保ワイナリーとマルシェ ・マルシェの企画 ・マルシェ運営 ----- まとめ 27、28. グループ発表					
教 科 書	特に指定しない				
参 考 書	必要に応じて指示する				
備 考	質問や問い合わせは、常勤教員が受け付ける 複数時間で実施することが有効な授業内容の場合、土日もしくは長期休業期間に実施することがある 外部との調整の都合上、授業初回時にあらためてスケジュールを提示する				

科 目 名		生命を考える		担 当 者	○中村 哲也・阿部 玄治 本多ふく代・大庭 みよ 秋本 和宏	
科目ナンバリング		112011252			常勤	
D	P	1,3		教員研究室	1427	
学科（専攻）		現代社会学科（共通）		配 当 年 次	1 年次・前期 / 後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 21 世紀に入り日本は本格的な長寿社会を迎えた。加えて、人々には人種・性別・年齢・障害の有無に関わらず自分らしく生きられる社会（多様性のある社会）の実現が求められている。本科目では「ヒトの生命」を主たるテーマとし、「生きること」「死ぬこと」「障害と共に生きること」等について講義を受講しつつ、履修者同士で意見交換を行いながら考える。						
【課題等のフィードバック方法】 ミニレポートなど小課題については適宜集計し、翌週以降の講義時間中ないしクラスルームを通じてフィードバックする。						
【履修上の注意・予習・復習について】 原則として毎回出席することが求められる。各テーマで課される最終レポートを全て提出しなければ成績評価の対象とならない。						
【学習の到達目標】 健康とは何か、「生」そして「死」とは何かについて、他者の意見を踏まえながら自分なりの考えを述べられるようになること。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 より良く生きることの意味について、同年代の学友の多様な意見に触れる機会を得られる。意見交換を経て自分の考えをまとめることによって、今後の生活に対して前向きになることが期待できる。						
【成績評価方法】 ①講義前後の調べ学習、②講義時間中に取り組む小課題、③レポートの 3 点から総合的に評価する。 課題の内容や課される回数、評価方法は担当教員ごとに異なる。						
【実務家教員担当科目】 看護師、助産師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等の資格を有する担当教員が、実務経験を踏まえた講義をオムニバス形式で行う。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	中村 哲也	科目ガイダンス	予習：シラバスを読む 復習：指定された資料を確認する		4 時間	
2	加賀谷 豊	日常の医療と臨床研究における生命倫理	予習：クラスルームの症例資料を読んでくる 復習：リアクションペーパー、資料を調べる		4 時間	
3	秋本 和宏	病気を抱えている子どもとその家族を通していのちを考える	予習：資料を調べる 復習：リアクションペーパー、発表準備		4 時間	
4	秋本 和宏	病気を抱えている子どもとその家族を通していのちを考える	予習：指定された資料を読む 復習：レポート・リアクションペーパー		4 時間	
5	秋本 和宏	病気を抱えている子どもとその家族を通していのちを考える	予習：発表準備 復習：レポート課題		4 時間	
6	本多ふく代	子どもを育てることについて考える	予習：指定された資料を読む 復習：レポート・リアクションペーパー		4 時間	
7	本多ふく代	障害児を育てることについて考える	予習：指定された資料を読む 復習：レポート・リアクションペーパー		4 時間	
8	本多ふく代	人が育てられる、育てられることについて考える	予習：指定された資料を読む 復習：レポート課題		4 時間	
9	阿部 玄治	老いることや障害をもつことの疑似体験を通して「生きる」を考える	予習：指定された資料を読む 復習：レポート・リアクションペーパー		4 時間	
10	阿部 玄治	老いることや障害をもつことの疑似体験を通して「生きる」を考える	予習：指定された資料を読む 復習：レポート・リアクションペーパー		4 時間	
11	阿部 玄治	老いることや障害をもつことの疑似体験を通して「生きる」を考える	予習：指定された資料を読む 復習：レポート課題		4 時間	
12	大庭 みよ	妊娠・出産を通していのちを考える 一生まれてくる奇跡、生まれてこれなかったいのちなどー	予習：指定された資料を読む 復習：レポート・リアクションペーパー		4 時間	
13	大庭 みよ	妊娠・出産を通していのちを考える 一生まれてくる奇跡、生まれてこれなかったいのちなどー	予習：指定された資料を読む 復習：レポート・リアクションペーパー		4 時間	
14	大庭 みよ	妊娠・出産を通していのちを考える 一生まれてくる奇跡、生まれてこれなかったいのちなどー	予習：指定された資料を読む 復習：レポート課題		4 時間	
教 科 書		指定なし				
参 考 書		玉井真理子・大谷いづみ（編）（2011）、はじめて出会う生命倫理、有斐閣アルマ 鮫島浩二（著）植野ゆかり（絵）（2003）、わたしがあなたを選びました、主婦の友社 深澤友紀（著）（2018）、産声のない天使たち、朝日新聞出版				
備 考		講義の実施スケジュールは担当教員の予定により変更される可能性がある。				

科 目 名		現代社会を視る		担 当 者	○山尾 貴則・豊田 正利 野崎 瑞樹・鑑 さやか 山川 樹・小渕 高志 黒沢 麻美・田中 茜	
科目ナンバリング		112011253			常勤	
D	P	1,3		教 員 研 究 室	3304	
学 科（専攻）		現代社会学科（共通）		配 当 年 次	1 年次・前期 / 後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 本科目では、現代社会学部の教員が有する専門的な知識や技術を下敷きとして、「現代社会」をさまざまな角度から「視る」。そのことを通して、社会を知る・捉える・理解する力を培う。基本的には講義形式を取るが、多様な媒体に自分で触れたり、現場で活躍する人々と交流するなど、学内外の活動も含む。最終的には、社会で起きている現象を知るだけでなく、体験したり、問題を見つけて解決方法を考えたり、優れた点を発展させる案を考えることなどができるような力を身につけていく。 【学習の到達目標】 受講生が現代社会における諸問題に自ら関心を持ち、人文社会科学的な知識を下敷きとして諸問題に接近し、理解できるようになる。 【成績評価方法】 講義を大きく4つのパートに分け、それぞれのパートにつき、「講義態度、講義への参加の様子」を10点、「3つ課す課題」をそれぞれ5点として5×3＝15点の総点25点とする。4つのパートを合わせて100点満点で評価する。						
【課題等のフィードバック方法】 Google クラスルームを使用して受講生からの質問等を受け付け、適宜コメントする。 【履修上の注意・予習・復習について】 私語をしないこと。普段から社会の諸問題に目を向けること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 受講生が現代社会における諸問題に自ら関心を持ち、人文社会科学的な知識を下敷きとして諸問題に接近し、理解できるようになる。 【実務家教員担当科目】 該当なし。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	山尾	ガイダンスー現代社会を「視る」とは	受講生自らが新聞等で現代社会において生じている社会問題にどのようなものがあるのかを確認する。		4 時間	
2	山川・小渕	現代社会をニュースから視る（1）	受講生自らが新聞等で現代社会において生じている社会問題にどのようなものがあるのかを確認する。		4 時間	
3	山川・小渕	現代社会をニュースから視る（2）	受講生自らが新聞等で現代社会において生じている社会問題にどのようなものがあるのかを確認する。		4 時間	
4	山川・小渕	現代社会をニュースから視る（3）	受講生自らが新聞等で現代社会において生じている社会問題にどのようなものがあるのかを確認する。		4 時間	
5	豊田・鑑	現代の地域を視る（1）	受講生自らが自分の住む地域にどのような歴史と課題があるのかを図書館等で調べる。		4 時間	
6	豊田・鑑	現代の地域を視る（2）	受講生自らが自分の住む地域にどのような歴史と課題があるのかを図書館等で調べる。		4 時間	
7	豊田・鑑	現代の地域を視る（3）	受講生自らが自分の住む地域にどのような歴史と課題があるのかを図書館等で調べる。		4 時間	
8	野崎・黒沢	現代の仕事を視る（1）	受講生自らが働くとは何か、社会に出るとはどのようなことかについて考える。		4 時間	
9	野崎・黒沢	現代の仕事を視る（2）	受講生自らが働くとは何か、社会に出るとはどのようなことかについて考える。		4 時間	
10	野崎・黒沢	現代の仕事を視る（3）	受講生自らが働くとは何か、社会に出るとはどのようなことかについて考える。		4 時間	
11	田中・山尾	現代の生（ライフ）を視る（1）	受講生自らが自分自身の人生（ライフ）をふり返り、自分の姿を見つめ直してみる。		4 時間	
12	田中・山尾	現代の生（ライフ）を視る（2）	受講生自らが自分自身の人生（ライフ）をふり返り、自分の姿を見つめ直してみる。		4 時間	
13	田中・山尾	現代の生（ライフ）を視る（3）	受講生自らが自分自身の人生（ライフ）をふり返り、自分の姿を見つめ直してみる。		4 時間	
14	山尾	ふり返りー現代社会はどう視えたか	講義全体を通して受講生が何を学んだかをまとめる		4 時間	
教 科 書		指定無し。				
参 考 書		講義内で適宜紹介する。				
備 考						

科 目 名	生活の中の科学			担 当 者	○長田 俊明・沈 紅 鈴木 陽一・鈴木 伸夫 八十川 淳・野崎 淳夫 須藤 諭・山本 和恵 川村 広則・一條 佑介 二科 妃里・富山 正幸 相澤 康弘・古林 俊晃 家名田敏昭・浅井 仁 佐藤 秀隆・工藤 剛実 佐々木典子・高橋 るみ 深谷 碧
科目ナンバリング	112011254				常勤
D P	1,3			教 員 研 究 室	1403
学 科（専攻）	現代社会学科（共通）			配 当 年 次	1 年次・前期／後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 生活の「安全・安心・便利・豊かさ」をキーワードに、現在の科学技術が如何に我々の日々の生活に役立っているか、また科学技術の将来あるべき姿について学ぶ。 具体的には、生活の中の電気、命を守る AED（自動体外式除細動器）、住まいや都市の安全・安心技術、災害の減災・復旧に有用な施設整備、生活を便利で豊かにする情報技術、等である。授業の半分程度は基礎知識の修得、半分程度がグループワークや実習・フィールドワーク・アイデアソン・ディスカッション等のアクティブラーニングスタイルで進められる。				【課題等のフィードバック方法】 授業では、都度質問を受け回答する。ミニレポートや Google Classroom への質問コメントについては、個別あるいは全体コメントにてフィードバックする。 【履修上の注意・予習・復習について】 授業に関連する資料は、主として Google Classroom を利用して配信する。 全 14 回の授業に出席することが大原則である。やむを得ず出席できなかった授業については、これらの資料や動画・音声データを利用して学習し、次回授業に臨むこと。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 科学技術・工学分野における様々な専門領域における本学の専任教員から、多面的なテーマについて講義・実習指導を受けることができる。 科学技術が如何に我々の日々の生活に役立っているかを理解し、その認識から個々の専門分野において活用することが期待できる。	
【学習の到達目標】 科学技術が如何に我々の日々の生活に役立っているかを理解する。科学技術がもたらす「安全・安心・便利・豊かさ」について、能動的に活用できるようになる。					
【成績評価方法】 毎回のテーマに対するミニレポートと科目全体に対する総合レポート、双方向授業における主体的取り組みを総合して評価する。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習	学修時間	
1	鈴木（陽）・長田・八十川・相澤	ガイダンス	シラバスの確認、授業の進め方、成績評価の方法		4 時間
2	浅井 仁	生活の中の電気（100V、200V、直流？）	コンセントの交流と電池の直流の違いを調べる。＜ミニレポート＞		4 時間
3	家名田敏昭	生活の中の電気（発電所から送電、家庭までの経路）	発電の方法や電気を送る送電線について調べる。＜ミニレポート＞		4 時間
4	相澤 康弘	医療で用いられる電気（人体へ作用する電気）	生体電気の種類、生体電気刺激、治療に用いる電気を調べる。＜ミニレポート＞		4 時間
5	須藤 諭・川村 広則	安全・安心のための都市環境整備技術	身近な省エネルギー、居住地のハザードマップについて調べる。＜ミニレポート＞		4 時間
6	野崎 淳夫・富山 正幸	安全・安心のための都市と建築	安全・安心のための都市と建築について、自分の身の回りの事例を調べる。＜ミニレポート＞		4 時間
7	八十川 淳・二科 妃里	災害と水	災害応急用井戸、水害とマチ、避難生活と水について調べる。＜ミニレポート＞		4 時間
8	臨床教員・建築教員	AED 正しい使い方演習、災害時避難所設営演習、班別実技演習の準備学習	AED 正しい使い方演習、災害時避難所設営演習 ＜ミニレポート＞		4 時間
9	臨床教員・建築教員	AED 正しい使い方演習、災害時避難所設営演習、班別実技演習	AED 正しい使い方演習、災害時避難所設営演習 ＜ミニレポート＞		4 時間
10	知能情報教員	生活を便利で豊かにする情報アプリ：概要、準備学習	情報システム構築の流れを学び、グループごとに準備を行う。＜ミニレポート＞		4 時間
11	知能情報教員	アイデアソン演習 1：提案アプリの案出と具体化の検討	前週の検討に基づきアプリの機能等の決定とプレゼンの準備を行う。＜ミニレポート＞		4 時間
12	知能情報教員	アイデアソン演習 2：アプリの設計とプレゼンの準備	前週検討したアプリの機能を実現するアプリの設計とプレゼンの準備を行う。＜ミニレポート＞		4 時間
13	知能情報教員	生活を便利で豊かにする情報アプリ：成果発表	提案するアプリに関するプレゼンをグループごとに行う。＜投票、ミニレポート＞		4 時間
14	鈴木（陽）・長田・八十川・相澤	表彰 課題の出題と総括	アイデアソンの高評価グループ表彰 課題をテーマにレポート作成		4 時間
教 科 書	特に指定しない。				
参 考 書	その都度必要に応じて紹介する				
備 考	なし				

科 目 名		経済・法律・世界を視る		担 当 者	○馬内 里美・田邊 文彦 ウォルグレイヴ イーライ	
科目ナンバリング		112011255			常勤・非常勤	
D P		1,3		教員研究室	1129	
学科（専攻）		現代社会学科（共通）		配 当 年 次	1 年次・前期 / 後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 In this class, students will explore a number of concepts based around Economic, Legal, and International aspects of society and their place within it. この科目は、自分と経済、法律、国際社会との関わりを学ぶ科目				【課題等のフィードバック方法】 Questions will be taken after each class. Your work may be shared for everyone' s learning. 毎回の授業終了後に、質問を受けつける。全員の学修の為に内容を共有することあり		
【学習の到達目標】 1.Form and share own opinions 意見を形成・他者と共有できる / 2. Research and present about an issue of personal interest and impact to them 内容を調べ発表できる / 3.Develop English reading skills in a bilingual class. 英語で伝えられる				【履修上の注意・予習・復習について】 Late arrivals will be deducted from the grade / 5 or more absences will result in a grade of "F" / Homework must be submitted next time / Final assignment carried out 遅刻は減点もあり / 5 回以上欠席 F 評価 / 宿題を次回提出 / 最終課題の実施が必要		
【成績評価方法】 Class Activities 活 動 参 加 30%, Homework = 宿 題 50% Personal Presentation プレゼン 10% ,Final Reflection 振り返り・改善 10%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 Proactive attitude, Communication skills and Logical thinking skills. 「主体的な態度」「コミュニケーション力」「論理的思考力」が身につく		
【実務家教員担当科目】 コンサルティングファームで 20 年間の企業 / 公共体に対する調査およびコンサルタント経験有り						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習	学修時間		
1	馬内 里美・ウォルグレイヴ イーライ・田邊 文彦	Class Introduction Writing and Presenting クラス紹介	授業時間の 2.5 倍準備学修(予習・復習等)	4 時間		
2	馬内 里美・ウォルグレイヴ イーライ・田邊 文彦	River Crossing Game 川渡りゲーム	同上	4 時間		
3	馬内 里美・ウォルグレイヴ イーライ・田邊 文彦	Teamwork Writing and Presenting チームワーク 作文と発表	同上	4 時間		
4	馬内 里美・ウォルグレイヴ イーライ・田邊 文彦	Mistakes Group Discussion 間違い探しグループディスカッション	同上	4 時間		
5	馬内 里美・ウォルグレイヴ イーライ・田邊 文彦	Chase the Dragon's Tail Game ドラゴンのしっぽゲーム	同上	4 時間		
6	馬内 里美・ウォルグレイヴ イーライ・田邊 文彦	Cooperation and Competition Writing and Presenting 協力と競争 作文と発表	同上	4 時間		
7	馬内 里美・ウォルグレイヴ イーライ・田邊 文彦	Conflict Group Discussion 対立グループディスカッション	同上	4 時間		
8	馬内 里美・ウォルグレイヴ イーライ・田邊 文彦	Tiger and Rabbit Ball Game 虎とウサギのボールゲーム	同上	4 時間		
9	馬内 里美・ウォルグレイヴ イーライ・田邊 文彦	Change Writing and Presenting 変化 作文と発表	同上	4 時間		
10	馬内 里美・ウォルグレイヴ イーライ・田邊 文彦	Complexity Group Discussion 複雑性グループディスカッション	同上	4 時間		
11	馬内 里美・ウォルグレイヴ イーライ・田邊 文彦	Team Battle Game チームバトル ゲーム	同上	4 時間		
12	馬内 里美・ウォルグレイヴ イーライ・田邊 文彦	Personal Presentation Preparation 個人プレゼンテーションの準備	同上	4 時間		
13	馬内 里美・ウォルグレイヴ イーライ・田邊 文彦	Personal Presentation 個人プレゼンテーション	同上	4 時間		
14	馬内 里美・ウォルグレイヴ イーライ・田邊 文彦	Feedback and Reflection 振り返り	同上	4 時間		
教 科 書		なし。授業中に資料配布				
参 考 書		授業中に紹介				
備 考		全学の選択必修科目の 1 つ。英語で行動・表現・話すことを重視。				

科 目 名		社会活動入門		担 当 者	○加藤 由美・石垣 亨 石橋 千賀・他
科目ナンバリング		112011256			常勤・非常勤
D	P	1,3		教員研究室	1309
学科（専攻）		現代社会学科（共通）		配 当 年 次	1 年次・前期 / 後期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 この科目では社会活動を「社会貢献を目的として社会に参加または参画して行う活動」と位置づけ、ボランティア活動をはじめ企業のCSR（Corporate Social Responsibility）活動など多様で広範な諸活動を扱う。各学科専攻の教員及び外部講師がそれぞれの切り口で捉えた社会活動について講義する。授業ではグループワーク、プレゼンテーション等を通じて履修生の主体的な学びを促す。					
【課題等のフィードバック方法】 授業毎に担当教員が説明する。					
【履修上の注意・予習・復習について】 課題の提出期限を厳守すること（原則として期限後の提出は不受理）					
【受講して得られる効果・メリット、その他】 社会活動の今日的意義を理解し、自分らしい社会参画の形を見出す一助となる。 グループワーク等を通して、他者と協同して物事に取り組む力が育まれる。 自身の考えを適切に表現する力が涵養される。					
【実務教員担当科目】 NPO 法人 COO・経営者・行政・医療福祉系免許所有者など幅広い実務家が、それぞれの立場で社会活動の今日的意義を講義する。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習	学修時間	
1	加藤 由美（地域連携センター長）	科目オリエンテーション	予習：シラバスを熟読し、科目概要を理解する。 復習：オリエンテーション内容に即した学修をスタートさせる	4 時間	
2	石垣 亨（NPO 法人 H×Imagine）	地域を活性化させる住民主体の社会活動 ～ NPO 法人 H×Imagine の取り組み	予習：住民が主体となって地域の活性化に取り組んでいる事例を調べる。 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。	4 時間	
3	三木 千栄（医療福祉学部リハ学科理学療法専攻）	地域の介護予防・健康増進活動をデザインする	予習：地域の介護予防や健康増進の取組み事例を調べる。 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。	4 時間	
4	香山 明美（医療福祉学部リハ学科作業療法専攻）	認知症サポーター養成活動 ～誰もが住み慣れた地域で暮らし続けられることを皆で支える	予習：認知症サポーターについて調べる。 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。	4 時間	
5	高 卓輝、他（医療福祉学部リハ学科言語聴覚専攻）	事例に基づき、自分たちが取り組みたい社会活動を考える	予習：日本の技術が他国の発展に貢献した事例を調べる。 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。	4 時間	
6	石川奈津美（医療福祉学部リハ学科視覚機能学専攻）	社会の伸びしろとは？ ～ゆるスポーツの取組み	予習：ゆるスポーツについて調べる。 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。	4 時間	
7	佐藤 大輔（医療福祉学部看護学科）	臓器提供に関する諸活動を考える	予習：臓器提供の種類を調べる。 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。	4 時間	
8	石橋 千賀（株式会社 KMSI 代表取締役）	誰もがよりよく生きぬける社会への挑戦	予習：自分にとって「よりよく生きぬく」とはどのようなことを具体的に考える。 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。	4 時間	
9	鈴木 陽一（工学部知能情報システム学科）	レジリエントな情報通信技術（ICT） ～災害に強い ICT の社会実装	予習：レジリエンスについて、特に ICT との関連を含めて調べる。 復習：授業内容を振り返り、理解を深め、小レポートに取り組む。	4 時間	
10	岡 恵介（現代社会学部社会学専攻）	災害救助犬と地域の安心安全 ～災害救助犬の活動	予習：災害救助犬について調べる。 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。	4 時間	
11	徳田 律子（現代社会学部社会福祉学専攻）	視覚に障害のある方とアートを楽しむ ～アートミーツケア活動	予習：障害者とアート活動について調べる。 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。	4 時間	
12	大野 朝子（経営法学部経営法学科）	学生によるボランティア活動 ～社会にどうコミットするかを考える	予習：興味関心のあるボランティア活動を挙げ、その理由を考える。 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。	4 時間	
13	梅岡 恒治（工学部建築環境学科）	建築・都市の分野に関わるまちづくり実践 ～街の将来ビジョンに関わる社会参加のありかた	予習：自身が魅力的だと考える公共空間事例を調べ、魅力的だと考える理由を考察する。 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。	4 時間	
14	相澤 康弘（工学部臨床工学科）	臓器移植の現状と課題を考える	予習：我が国の臓器移植の現況を調べる。 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。	4 時間	
教 科 書		なし			
参 考 書		必要に応じて適宜指示する			
備 考		なし			

科 目 名		英語コミュニケーションⅠ		担 当 者	○立花顕一郎・オーフロロティ智美 京極 理恵・岡光 信子	
科目ナンバリング		112021257			常勤・非常勤	
D P		1,3		教員 研 究 室		1223・非常勤講師室
学 科（専攻）		現代社会学科（共通）		配 当 年 次		1 年次・前期
授 業 形 式		演習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 この授業では、英語を用いた円滑なコミュニケーション能力を養うことを目的とする。そのために、英会話での受け答えの練習に加え、トピックを深く理解するための読解力やボキャブラリーの習得、リスニングスキルの向上を図る。また、ディスカッションやプレゼンテーションを通じて、他者と英語で意見を交換する。						
【学習の到達目標】 様々な文化的背景を持つ海外の人と意見を交換し、互いの文化に対する相互理解を深めるための英語力を身につける。 ・日常的な簡単な質問や応答を、口頭でスムーズに行えるようになる。 ・他者の発話を聞いて理解し、自らの考えを適切な表現で積極的に伝えることができる。						
【成績評価方法】 成績評価は以下を総合的に判断する。 ・授業中のディスカッションにおける積極的発話 50% ・各授業で学んだボキャブラリーの修得実績 30% ・授業で行う簡潔なプレゼンテーションのクオリティー 20%						
【課題等のフィードバック方法】 毎回の授業時に学生から質問やコメントを受け、当該授業や次回以降の授業で適宜回答する。						
【履修上の注意・予習・復習について】 ・学生同士の積極的な交流を通じて英語のスキルアップを目指してください。 ・全 14 回の授業のうち 10 回以上出席してください。遅刻に関しては、遅延の度合いによって欠席扱いとなります。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 基本的な英会話力、教材を読んで内容を詳しく理解するための語彙力、外国人と円滑に意思疎通を図るためのコミュニケーション力が身につく。						
【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	立花顕一郎・ オーフロロティ智美 京極 理恵・岡光 信子	イントロダクション：授業の目的、進行方法、評価基準を説明する。自己紹介を兼ねた簡単な英会話アクティビティを行う。	予習：自己紹介表現を確認する。 復習：新しいフレーズや語彙を練習する。		1 時間	
2	立花顕一郎・ オーフロロティ智美 京極 理恵・岡光 信子	日常会話の基礎 (1)：簡単な挨拶や自己紹介の表現を練習し、ペアワークでロールプレイを行う。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間	
3	立花顕一郎・ オーフロロティ智美 京極 理恵・岡光 信子	日常会話の基礎 (2)：質問と応答のパターン練習 (例：趣味、家族など) を行い、ディスカッション形式で意見交換をする。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間	
4	立花顕一郎・ オーフロロティ智美 京極 理恵・岡光 信子	リスニングスキル向上 (1)：日常生活をテーマにした短い英会話音声聞き、内容理解を問うクイズを実施する。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間	
5	立花顕一郎・ オーフロロティ智美 京極 理恵・岡光 信子	リスニングスキル向上 (2)：会話音声聞いて詳細な内容を理解し、ペアで要約して相手に説明する。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間	
6	立花顕一郎・ オーフロロティ智美 京極 理恵・岡光 信子	トピックディスカッション (1)：「私の街の紹介」をテーマに短いスピーチを準備し、ペアまたはグループで共有する。質疑応答の練習も行う。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間	
7	立花顕一郎・ オーフロロティ智美 京極 理恵・岡光 信子	トピックディスカッション (2)：「好きな映画や本」をテーマに短いスピーチを準備し、クラス全体でディスカッションと意見交換を行う。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間	
8	立花顕一郎・ オーフロロティ智美 京極 理恵・岡光 信子	読解スキル向上 (1)：短い英語の記事を読み、重要な単語やフレーズを確認した後、内容を簡単に要約する。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間	
9	立花顕一郎・ オーフロロティ智美 京極 理恵・岡光 信子	読解スキル向上 (2)：意見を問う記事 (例：テクノロジーや環境問題) を読み、要約し、自分の意見を書く練習をする。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間	
10	立花顕一郎・ オーフロロティ智美 京極 理恵・岡光 信子	ボキャブラリー強化 (1)：日常会話で役立つ英単語や表現を学び、内容理解を問うクイズを実施する。関連する会話練習も行う。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間	
11	立花顕一郎・ オーフロロティ智美 京極 理恵・岡光 信子	ボキャブラリー強化 (2)：より高度な単語や表現 (例：感情表現や意見の述べ方) を学び、短い会話の中で活用する。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間	
12	立花顕一郎・ オーフロロティ智美 京極 理恵・岡光 信子	プレゼンテーションの準備：自分で選んだトピックについて、3～5 分のプレゼンテーションを準備する。構成やスライド作成のポイントを学ぶ。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間	
13	立花顕一郎・ オーフロロティ智美 京極 理恵・岡光 信子	プレゼンテーションの発表：各学生がプレゼンテーションを発表し、クラスメイトと質疑応答を行う。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間	
14	立花顕一郎・ オーフロロティ智美 京極 理恵・岡光 信子	今学期のまとめ：学期全体を振り返り、各スキルの向上度を自己評価する。個別のフィードバックを実施する。	予習：最終日に確認する疑問点をまとめる。 復習：学期中に学んだ英語コミュニケーションスキルを総括する。		1 時間	
教 科 書		担当教員の指示に従ってください。				
参 考 書		適宜、授業で指示する。				
備 考		特になし				

科 目 名		英語コミュニケーションⅡ		担 当 者	○立花顕一郎・オーフラロティ智美 京極 理恵・岡光 信子
科目ナンバリング		112021258			常勤・非常勤
D	P	1,3		教 員 研 究 室	1223・非常勤講師室
学 科（専攻）		現代社会学科（共通）		配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし			
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 この授業では、「英語コミュニケーションⅠ」で学んだ基本的なスキルに加え、より円滑なコミュニケーション能力を養うために、英会話、読解力、ボキャブラリー、およびリスニングの応用スキルを学ぶ。					【課題等のフィードバック方法】 毎回の授業時に学生から質問やコメントを受け、当該授業や次回以降の授業で適宜回答する。
【学習の到達目標】 異なる文化的背景を持つ外国人と、円滑かつ継続的にコミュニケーションを図るための英語力を身につける。 ・個人的に興味のあるテーマや社会的トピックについて、キーワードや具体例を用いて意思疎通を図ることができる。 ・聞き返しや言い換え、要約などのコミュニケーションストラテジーを活用し、自分の理解を相手に確認しながら会話を続けることができる。					【履修上の注意・予習・復習について】 ・学生同士の積極的な交流を通じて英語のスキルアップを目指してください。 ・全 14 回の授業のうち 10 回以上出席してください。遅刻に関しては、遅延の度合いによって欠席扱いとなります。
【成績評価方法】 成績評価は以下を総合的に判断する。 ・授業中のディスカッションにおける積極的発話 50% ・各授業で学んだボキャブラリーの修得実績 30% ・授業で行う簡潔なプレゼンテーションのクオリティー 20%					【受講して得られる効果・メリット、その他】 ある程度の詳細な英会話力、難易度の高い教材を読み解く語彙力、外国人と比較的長く意思疎通を図るためのコミュニケーション力が身につく。 【実務家教員担当科目】 該当なし
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予 習 ・ 復 習		学修時間
1	立花顕一郎・ オーフラロティ智美 京極 理恵・岡光 信子	イントロダクション：授業の目的、進行方法、評価基準を説明する。「英語コミュニケーションⅠ」で学んだ内容を振り返り、自己紹介アクティビティを実施する。	予習：自己紹介表現を確認する。 復習：新しいフレーズや語彙を練習する。		1 時間
2	立花顕一郎・ オーフラロティ智美 京極 理恵・岡光 信子	コミュニケーションストラテジー（1）：聞き返し、言い換え、確認の方法を学び、ロールプレイを通じて実践する。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間
3	立花顕一郎・ オーフラロティ智美 京極 理恵・岡光 信子	コミュニケーションストラテジー（2）：意見の対立や誤解が生じた際の対応スキルを学び、ディスカッションを通じて実践する。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間
4	立花顕一郎・ オーフラロティ智美 京極 理恵・岡光 信子	リスニング応用スキル（1）：ニュースやインタビューの音声を使い、主旨と詳細を聞き取る練習を行う。重要なフレーズを抜き出して要約する。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間
5	立花顕一郎・ オーフラロティ智美 京極 理恵・岡光 信子	リスニング応用スキル（2）：長めの英語音声を取り、要点とスピーカーの意見を整理する。ペアで音声の内容について議論する。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間
6	立花顕一郎・ オーフラロティ智美 京極 理恵・岡光 信子	トピックディスカッション（1）：「旅行と異文化体験」をテーマに、各自の経験や考えについてディスカッションを行い、文化的な違いへの気づきを共有する。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間
7	立花顕一郎・ オーフラロティ智美 京極 理恵・岡光 信子	トピックディスカッション（2）：「グローバルな課題（例：気候変動や国際支援）」をテーマに議論し、自分の立場を明確に示しながら意見を述べる。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間
8	立花顕一郎・ オーフラロティ智美 京極 理恵・岡光 信子	読解応用スキル（1）：英語の記事を読み、文脈から単語の意味を推測する練習を行う。内容を要約し、自分の意見を短い文章で表現する。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間
9	立花顕一郎・ オーフラロティ智美 京極 理恵・岡光 信子	読解応用スキル（2）：社会問題に関する記事（例：環境問題や AI の影響）を読み、グループで意見交換を行う。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間
10	立花顕一郎・ オーフラロティ智美 京極 理恵・岡光 信子	ボキャブラリー応用（1）：複雑な感情表現や意見を述べる際に使える語彙を学び、実際の会話で活用する練習を行う。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間
11	立花顕一郎・ オーフラロティ智美 京極 理恵・岡光 信子	ボキャブラリー応用（2）：アカデミックなトピックに関連する英単語や表現を学び、リスニングやスピーキングに応用する。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間
12	立花顕一郎・ オーフラロティ智美 京極 理恵・岡光 信子	プレゼンテーションの準備：自分で選んだトピックについて、3～5分のプレゼンテーションを準備する。構成やスライド作成のポイントを学ぶ。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間
13	立花顕一郎・ オーフラロティ智美 京極 理恵・岡光 信子	プレゼンテーションの発表：各学生がプレゼンテーションを発表し、クラスメイトと質疑応答を行う。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間
14	立花顕一郎・ オーフラロティ智美 京極 理恵・岡光 信子	今学期のまとめ：学期全体を振り返り、各スキルの向上度を自己評価する。個別のフィードバックを実施する。	予習：最終日に確認する疑問点をまとめる。 復習：学期中に学んだ英語コミュニケーションスキルを総括する。		1 時間
教 科 書		担当教員の指示に従ってください。			
参 考 書		適宜、授業で指示する。			
備 考		特になし			

科 目 名		韓国語コミュニケーションⅠ		担 当 者	黄 孝善	
科目ナンバリング		112021259			非常勤	
D P		1,3		教員研究室	非常勤講師室	
学科（専攻）		現代社会学科（共通）		配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 現代社会を生きる私達に、外国語の必要性は益々増加しつつあります。情報化時代に生き残るためにも、外国語を理解し、そこから必要な情報をゲットする必要もあります。この授業では、韓国語の基礎を学びます。最初は文字の書き方を覚え、読み方と基本語彙の習得をし、「書く」、「読む」ことに重点をおきます。また、すぐ使える基本表現の習得を目指しますが、合わせて生の韓国語に触れるために授業中は話題の韓国ドラマや映画も取り入れて行います。						
【課題等のフィードバック方法】 ・課題は添削し、重要ポイントをつけて返す。・質問は出席表で受け付け、その都度答える。						
【履修上の注意・予習・復習について】 授業の進度に沿って予習、復習のための適切な課題を出します。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 日本語に一番近い韓国語を学ぶことによって日本語や日本文化の源流を理解するのは勿論、より広い視野の情報の習得やグローバル的な考え方を身につけることができます。 学習効果を高めるため韓国ドラマや韓国料理なども取り入れて行います。						
【実務家教員担当科目】 韓国語のネイティブでありながら、日本語と韓国語の領域において通訳や翻訳などで多くの経験を有している。						
【成績評価方法】		平常点（小テスト・課題など） 50% 期末試験 50%				
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	黄 孝善	韓国語を学ぶ意義と韓国語について	予習；韓国語について 復習；韓国語を学ぶ意義と見えてくる世界			1 時間
2	黄 孝善	文字と発音	予習；ハングルの母音と子音 復習；ハングル母音と子音の書き方			1 時間
3	黄 孝善	文字と発音：合成母音	予習；合成母音が入っている語彙の発音 復習；ハングル基本母音と合成母音が入っている語彙の発音			1 時間
4	黄 孝善	文字と発音：받침（パッチム）	予習；パッチムのある語彙の発音 復習；開音節と閉音節について			1 時間
5	黄 孝善	日本語のハングル表記	予習；日本語のハングル表記練習 復習；日本語の人名・地名のハングル表記練習			1 時間
6	黄 孝善	第一課韓国人ですか。	予習；第一課の語彙と文法 復習；第一課の本文と練習問題			1 時間
7	黄 孝善	第二課学生ですか。	予習；第二課の語彙と文法 復習；第二課の本文と練習問題			1 時間
8	黄 孝善	第三課何時ですか。	予習；第三課の語彙と文法 復習；第三課の本文と練習問題			1 時間
9	黄 孝善	第四課野球選手ではありません。	予習；第四課の語彙と文法 復習；第四課の本文と練習問題			1 時間
10	黄 孝善	第五課これは何ですか。	予習；第五課の語彙と文法 復習；第五課の本文と練習問題			1 時間
11	黄 孝善	第一課から第五課までのまとめ	予習；第一課から第五課までの語彙と練習問題 復習；第一課から第五課までの文法と練習問題			1 時間
12	黄 孝善	第六課どこにありますか。	予習；第六課の語彙と文法 復習；第六課の本文と練習問題			1 時間
13	黄 孝善	第七課何をしますか。	予習；第七課の語彙と文法 復習；第七課の本文と練習問題			1 時間
14	黄 孝善	第八課何時に起きますか。	予習；第八課の語彙と文法 復習；第八課の本文と練習問題			1 時間
教 科 書		『かんたん！韓国語』 文 慶喆他 朝日出版社				
参 考 書		授業中、その都度紹介する。				
備 考		受講生への要望）授業を休まないこと。声を出して練習すること。				

科 目 名		韓国語コミュニケーションⅡ		担 当 者	黄 孝善	
科目ナンバリング		1120212510			非常勤	
D P		1,3		教 員 研 究 室	非常勤講師室	
学 科（専攻）		現代社会学科（共通）		配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 現代社会を生きる私達に、外国語の必要性は益々増加しつつあります。情報化時代に生き残るためにも、外国語を理解し、そこから必要な情報をゲットする必要もあります。この授業では、韓国語の基礎を学びます。最初は文字の書き方を覚え、読み方と基本語彙の習得をし、「書く」、「読む」ことに重点をおきます。また、すぐ使える基本表現の習得を目指しますが、合わせて生の韓国語に触れるために授業中は話題の韓国ドラマや映画も取り入れて行います。 【学習の到達目標】 この授業は、韓国語を始めて学ぶ基礎からの現代韓国語講座です。まずハングルを学び、その読み書きができるようにするのが第一の目標です。次は日本語と比較しながら基本的な文法事項を理解し、最初は自己紹介文から簡単な会話ができるようにします。名詞文と否定形、指示代名詞と疑問形、その答え方、動詞、形容詞の活用、漢語と固有語の教え方、意志表現、過去形などの文法事項を覚え、その運用能力を養うのがこの授業の到達目標です。 【成績評価方法】 平常点（小テスト・課題など） 50% 期末試験 50%						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	黄 孝善	第九課朝ご飯は食べません。	予習；第九課の語彙と文法 復習；第九課の本文と練習問題		1 時間	
2	黄 孝善	第十課どこに住んでいますか。	予習；第十課の語彙と文法 復習；第十課の本文と練習問題		1 時間	
3	黄 孝善	第六課から第十課までのまとめ	予習；第六課から第十課までの語彙と文法 復習；第六課から第十課までのまとめ練習問題		1 時間	
4	黄 孝善	第十一課今日、忙しいですか。	予習；第十一課の語彙と文法 復習；第十一課の本文と練習問題		1 時間	
5	黄 孝善	第十二課先生でしたか。 第十三課何をしましたか。	予習；第十二課、十三課の語彙と文法 復習；第十二課、十三課の本文と練習問題		1 時間	
6	黄 孝善	第十四課ご飯食べましたか。	予習；第十四課の語彙と文法 復習；第十四課の本文と練習問題		1 時間	
7	黄 孝善	第十五課何をしたいですか。	予習；第十五課の語彙と文法 復習；第十五課の本文と練習問題		1 時間	
8	黄 孝善	第十一課から第十五課までのまとめ	予習；第十一課から第十五課までの語彙と文法 復習；第十一課から第十五課までのまとめ練習問題		1 時間	
9	黄 孝善	第十六課安くて美味しいです。	予習；第十六課の語彙と文法 復習；第十六課の本文と練習問題		1 時間	
10	黄 孝善	第十七課映画見に行きましようか。	予習；第十七課の語彙と文法 復習；第十七課の本文と練習問題		1 時間	
11	黄 孝善	第十八課何をなさいますか。	予習；第十八課の語彙と文法 復習；第十八課の本文と練習問題		1 時間	
12	黄 孝善	第十九課コーヒーを飲みます。	予習；第十九課の語彙と文法 復習；第十九課の本文と練習問題		1 時間	
13	黄 孝善	第二十課何をする予定ですか。	予習；第二十課の語彙と文法 復習；第二十課の本文と練習問題		1 時間	
14	黄 孝善	第十六課から第二十課までのまとめ	予習；第十六課から第二十課までの語彙と文法 復習；第十六課から第二十課までのまとめ練習問題		1 時間	
教 科 書		『かんたん！韓国語』 文 慶喆他 朝日出版社				
参 考 書		授業中、その都度紹介する。				
備 考		受講生への要望）授業を休まないこと。声を出して練習すること。				

科 目 名	中国語コミュニケーションⅠ			担 当 者	王 效紅
科目ナンバリング	1120212511				非常勤
D P	1,3			教員研究室	非常勤講師室
学科（専攻）	現代社会学科（共通）			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式	演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 正しい発音を身につけることに重点をおく。簡単な文法事項を学習する。 【学習の到達目標】 中国語での簡単な日常会話ができるようになる。 【成績評価方法】 期末試験 70％、小テスト、課題提出、発言・質問および授業に臨む態度 30％。 【課題等のフィードバック方法】 講義終了後、不明な点について、質問を受け、解答する。また出席カードに質問を書いてもらい、多く出た質問に関してはその次の授業の冒頭で取り上げる。 【履修上の注意・予習・復習について】 授業中の口頭練習には、大きな声を出して、積極的に参加してください。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 簡単な中国語の会話力が身につけられる。文章表現の基礎が固まる。 【実務家教員担当科目】 なし					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	王 效紅	ガイダンス	中国の国と言葉について再確認する。		1 時間
2	王 效紅	第 1 課発音	附属の音声を聞き、発音に慣れる。		1 時間
3	王 效紅	第 2 課発音	附属の音声を聞き、発音に慣れる。		1 時間
4	王 效紅	第 3 課発音	附属の音声を聞き、発音に慣れる。		1 時間
5	王 效紅	第 4 課発音・あいさつ言葉	附属の音声を聞き、発音に慣れる。		1 時間
6	王 效紅	第 5 課	附属の音声を聞き、声を出して練習する。		1 時間
7	王 效紅	本文を熟読する・練習問題	授業で学習した内容を一通り復習する。		1 時間
8	王 效紅	第 6 課	附属の音声を聞き、発音に慣れる。		1 時間
9	王 效紅	本文を熟読する・練習問題	授業で学習した内容を一通り復習する。		1 時間
10	王 效紅	第 7 課	附属の音声を聞き、発音に慣れる。		1 時間
11	王 效紅	本文を熟読する・練習問題	授業で学習した内容を一通り復習する。		1 時間
12	王 效紅	第 8 課	附属の音声を聞き、発音に慣れる。		1 時間
13	王 效紅	本文を熟読する・練習問題	授業で学習した内容を一通り復習する。		1 時間
14	王 效紅	総復習	授業で学習した内容を一通り復習する。		1 時間
教 科 書	『大学生のための初級中国語 24 回』 杉野元子・黄漢青著（白帝社）				
参 考 書	授業の中で、必要に応じてアドバイスをしていく。				
備 考	なし				

科 目 名	中国語コミュニケーションⅡ			担 当 者	王 效紅
科目ナンバリング	1120212512				非常勤
D P	1,3			教 員 研 究 室	非常勤講師室
学 科（専攻）	現代社会学科（共通）			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式	演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 正しい発音を身につけることに重点をおく。簡単な文法事項を学習する。				【課題等のフィードバック方法】 講義終了後、不明な点について、質問を受け、解答する。また出席カードに質問を書いてもらい、多く出た質問に関してはその次の授業の冒頭で取り上げる。	
【学習の到達目標】 中国語での簡単な日常会話ができるようになる。				【履修上の注意・予習・復習について】 授業中の口頭練習には、大きな声を出して、積極的に参加してください。	
【成績評価方法】 期末試験 70%、小テスト、課題提出、発言・質問および授業に臨む態度 30%。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 簡単な中国語の会話力が身につけられる。文章表現の基礎が固まる。	
				【実務家教員担当科目】 なし	

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	王 效紅	復習（第 1 課～第 8 課）	復習（第 1 課～第 8 課）	1 時間
2	王 效紅	第 9 課	附属の音声聞き、発音に慣れる。	1 時間
3	王 效紅	本文を熟読する・練習問題	授業で学習した内容を一通り復習する。	1 時間
4	王 效紅	第 10 課	附属の音声聞き、発音に慣れる。	1 時間
5	王 效紅	本文を熟読する・練習問題	授業で学習した内容を一通り復習する。	1 時間
6	王 效紅	第 11 課	附属の音声聞き、声を出して練習する。	1 時間
7	王 效紅	本文を熟読する・練習問題	授業で学習した内容を一通り復習する。	1 時間
8	王 效紅	第 12 課	附属の音声聞き、発音に慣れる。	1 時間
9	王 效紅	本文を熟読する・練習問題	授業で学習した内容を一通り復習する。	1 時間
10	王 效紅	第 13 課	附属の音声聞き、発音に慣れる。	1 時間
11	王 效紅	本文を熟読する・練習問題	授業で学習した内容を一通り復習する。	1 時間
12	王 效紅	第 14 課	附属の音声聞き、発音に慣れる。	1 時間
13	王 效紅	本文を熟読する・練習問題	授業で学習した内容を一通り復習する。	1 時間
14	王 效紅	総復習	授業で学習した内容を一通り復習する。	1 時間
教 科 書	『大学生のための初級中国語 24 回』 杉野元子・黄漢青著（白帝社）			
参 考 書	授業の中で、必要に応じてアドバイスをしていく。			
備 考	なし			

科 目 名		海外研修		担 当 者	○増井三千代・立花顕一郎 王 元・鄭 舜玉	
科目ナンバリング		1120212513			常勤	
D P		3,4		教員研究室	1328	
学科（専攻）		現代社会学科（共通）		配 当 年 次	1 年次・通年	
授 業 形 式		演習	授 業 時 間	60 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 以下のいずれかの海外プログラムに参加し、現地の人々との交流を通して、異文化に対する理解を深めると同時にコミュニケーション力の向上を目指す。 (1) 長期休業期間に海外（英語圏、中国、韓国）へ渡航し、現地で実施される短期語学研修に参加するグループ研修プログラム (2) 学生個人による現地実習を含む短期語学・異文化理解プログラム（必須条件：所定の計画書の提出、5 日以上での渡航、研究テーマの設定）				【課題等のフィードバック方法】 各プログラムの実施担当教員が随時質問を受け付け、回答する。		
【学習の到達目標】 異文化に対する柔軟性を身につけ、現地の言葉を駆使しながら積極的にコミュニケーションを図る。また、現地の人々の考え方や価値観を通じて、日本を客観的かつ相対的に見る広い視野を身につける。				【履修上の注意・予習・復習について】 1. 実習に伴う参加費、渡航費用等は自己負担となる。 2. 国際情勢の急激な変化により、研修実施が困難になる場合がある。 3. 詳細な日程や費用等については、事前に開催される説明会に出席して確認する。		
【成績評価方法】 単位取得には、以下の全ての活動に参加することが求められる。 1. 研修前に行われる事前研修会、勉強会等への参加、取り組み状況 25% 2. 研修先での授業やその他プログラムへの参加、取り組み状況 50% 3. 帰国後の研修報告書提出および報告会での成果発表 25%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 グループ研修には引率教員が同行するため、海外未経験、語学に不安でも安心して参加できる。また、異文化交流経験は自分の人生の可能性を大きく広げることにつながる。		
【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
【授業計画】 1～2 事前研修 3～7 実習 1 日目 8～12 実習 2 日目 13～17 実習 3 日目 17～21 実習 4 日目 22～26 実習 5 日目 ※プログラムによっては実習の日数が増える可能性有り 27 報告書作成および報告会準備 28 報告会						
教 科 書		資料を配布する。				
参 考 書		適宜紹介する。				
備 考		各プログラムの申込は履修登録期間外に行うため、Global Education Project（GEP）の Google Classroom に必ず登録し、掲載される申請方法に従って申し込むこと。この申請をもって履修登録を行う。なお、授業内容（2）の個人研修型プログラムについては、申請条件を満たさなければ、履修できない場合があることに留意する。 クラスコード 4yvf7eq				

科 目 名		スポーツ実技		担 当 者	○犬塚 剛・森田 清美 金田 幸夫・未定
科目ナンバリング		1120212514			常勤・非常勤
D	P	1,3		教員研究室	1304
学科（専攻）		現代社会学科（共通）		配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式		実技	授 業 時 間	45 時間	単 位
					選択 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし			
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 それぞれのライフスタイルや体力や年齢、目的に応じたスポーツを楽しめるよう、自分に適したスポーツを選択し、理論、技術、方法等について継続的に学習して実力の向上を図り、自分の生涯スポーツにつながる基礎的能力を身につけることを目標とする。 【学習の到達目標】 各自の生涯スポーツ種目を見極め、基本的なルールや技術を身につける。スポーツを通じた体力づくりや健康管理の方法について習得する。 【成績評価方法】 成績は、授業中のゲーム遂行や準備に対する積極的な態度、技能テストなどにより評価する 70%、実技内評価・課題レポート 30% 【課題等のフィードバック方法】 適宜、種目ごとに講義内容の振り返りを行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 〈服装〉動きやすいスポーツウエア等を着用し、体育館用シューズと屋外用シューズを明確に区別し使用すること。〈授業見学と公欠〉体調のすぐれない者や怪我等により見学を希望する者は授業開始時に申し出ること。但し長期見学の場合は医師の診断書を持参すること。また、親族の不幸やクラブ活動の競技会等により授業を欠席する場合は原則として公欠とするので届け出ること。〈遅刻および早退〉点呼終了後に授業に参加した場合は遅刻と判断する。また事情により授業を早退する場合は必ず理由等を教員に届けること。無断で授業を早退した場合には授業放棄とみなしその後の授業に出席しても単位を出さないこともあるので注意すること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 他学部、他学科の学生が集まりスポーツを通じてコミュニケーションを育むことで社会人基礎力として多様な他者とのコミュニケーション能力やチームワーク、チャレンジする精神力などを養うことができる。 【実務家教員担当科目】 高等学校や大学で競技指導実績を持つ教員らが講義を担当する。					
授 業 計 画					
(実施種目) 屋内種目「球技系（バスケットボール・バレーボール）、ラケット系（バドミントン・卓球&レクリエーション）、フィットネス系（トレーニングなど）」屋外種目「サッカー（フットサル）、ソフトテニス（テニス）」以上の実技種目の中から原則 1 種目を選択する。施設設備のスペースや備品の状況により、種目毎に希望者数の上限を設ける予定である。種目希望者数に大きな偏りが生じる場合は、その状況に鑑み、種目の分散などによる人数調整を行う。なお、履修希望者数の状況等により、開講種目が変更される可能性もある。 1.2：オリエンテーション（種目の選択と講義概要および講義中の諸注意などについて） 3～22：各種目毎の実践・技能テスト・レポート課題の作成等 種目ごとに授業内容は異なるが、各種目とも共通にウォーミングアップの方法、基本的技術動作の習得、ルールの習得、戦術の学習などを通じて、各自が多面的にその種目への理解を深めることやゲーム運営をスムーズにこなせることを目標に授業を進める。					
教 科 書		特になし。			
参 考 書		「ビジュアルスポーツ小百科」 大修館書店 （980 円）			
備 考		※ 諸連絡に関しては、クラスルームへ連絡を入れるので確認を怠らないこと。 ※ 急な変更事項に関しては、クラスルームや体育館入口前に掲示を行うので確認すること。 ※ 種目選択については、施設のスペースや希望者数の偏りを見て、種目選択人数調整が入ります。 問い合わせ教員：犬塚 剛、森田清美			

科 目 名		心理学概論		担 当 者	山川 樹
科目ナンバリング		1120212515			常勤
D P	1,3		教員研究室		1204
学科（専攻）	現代社会学科（共通）			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☒ 自主学習支援 ☐ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 心理学は、人間の活動すべてに関わるものであり、内容は多岐にわたっている。 本講義では、心理学の成り立ち、ひとのこころの基本的な仕組み及びはたらき、その概観を説明していく。心理学の基礎知識を学び、人間行動を科学的に研究する方法や研究領域ごとの特色を理解した上で、こころのとらえ方、メカニズム、こころの問題へのアプローチ方法まで学習する。心理学の実験や現象を参考にしながら、心理学的な問題解決能力を習得することを目標とする。心理学の各領域について講義を通じ、学問としての裾野の広さを理解できるようにする。 基礎心理学の各分野がどのように近接する領域と関連しているかについても、講義を通して紹介する。					
【課題等のフィードバック方法】 講義に関する質問や講義中に課した課題の答えは、Google フォームで受け付ける。そして回収翌週以降の講義時間内や Google クラスルームを通じて適宜フィードバックする。					
【履修上の注意・予習・復習について】 事前に配布されている資料を読んでくることを予習とする。講義中の議論の際には積極的に参加すること。					
【受講して得られる効果・メリット、その他】 学修到達目標が達成されれば、各々の専門とする立場からだけでなく人間をより理解することができるようになると考えられる。					
【実務家教員担当科目】 該当しない					
【学習の到達目標】 (1) 心理学の様々な領域の用語の意味について記述できる。 (2) 心理学の知識をもとに、人間行動を解釈することができる。 (3) 人間を科学的に考える立場から現実社会の問題についての議論に参加できる。					
【成績評価方法】 講義後に毎回課すミニ課題の内容（評価の 40%）、期末試験（評価の 60%）により評価する。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	山川 樹	ガイダンス、科学としての心理学、心理学の対象	シラバスを熟読し、心理学とはどんな学問なのか考えてみる。		4 時間
2	山川 樹	心理学の歴史と方法論	予習：事前にスライド資料とテキストの該当箇所を一読する。 復習：配布された資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。		4 時間
3	山川 樹	パーソナリティの理論と測定	予習：事前にスライド資料とテキストの該当箇所を一読する。 復習：配布された資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。		4 時間
4	山川 樹	感覚・知覚	予習：事前にスライド資料とテキストの該当箇所を一読する。 復習：配布された資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。		4 時間
5	山川 樹	感情の機序と機能	予習：事前にスライド資料とテキストの該当箇所を一読する。 復習：配布された資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。		4 時間
6	山川 樹	学習の理論	予習：事前にスライド資料とテキストの該当箇所を一読する。 復習：配布された資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。		4 時間
7	山川 樹	認知的学習	予習：事前にスライド資料とテキストの該当箇所を一読する。 復習：配布された資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。		4 時間
8	山川 樹	動機づけ	予習：事前にスライド資料とテキストの該当箇所を一読する。 復習：配布された資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。		4 時間
9	山川 樹	自己と集団	予習：事前にスライド資料とテキストの該当箇所を一読する。 復習：配布された資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。		4 時間
10	山川 樹	幼児・児童の発達	予習：事前にスライド資料とテキストの該当箇所を一読する。 復習：配布された資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。		4 時間
11	山川 樹	青年期以降の発達	予習：事前にスライド資料とテキストの該当箇所を一読する。 復習：配布された資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。		4 時間
12	山川 樹	発達障害について	予習：事前にスライド資料とテキストの該当箇所を一読する。 復習：配布された資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。		4 時間
13	山川 樹	ストレスと健康	予習：事前にスライド資料とテキストの該当箇所を一読する。 復習：配布された資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。		4 時間
14	山川 樹	心の病態	予習：事前にスライド資料とテキストの該当箇所を一読する。 復習：配布された資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。		4 時間
教 科 書		なし			
参 考 書		授業中に適宜紹介する			
備 考		特になし			

科 目 名	生命倫理学			担 当 者	高木 大輔
科目ナンバリング	1120212516				常勤
D P	1,3			教 員 研 究 室	3210
学 科（専攻）	現代社会学科（共通）			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 生命におけるさまざまな倫理的課題について触れ、他者とのディスカッションを通じて理解を深めていく				【課題等のフィードバック方法】 グループワークの内容を授業の終わりに個別に提出し、次回にそのフィードバックを行う	
【学習の到達目標】 生活の質（QOL）の向上を視野に、生命（人生）における倫理的課題、特に健康・医療との関りのなかで生じる課題について考える力を身に付ける				【履修上の注意・予習・復習について】 授業毎に予習・復習に努めること	
【成績評価方法】 授業内課題によって成績を評価し、単位を認定する				【受講して得られる効果・メリット、その他】 生命（人生）における倫理的な課題に関する様々な考え方を学ぶことができる	
				【実務家教員担当科目】 リハビリテーション医療に携わってきた教員が授業を担当する	

科 目 名	健康科学			担 当 者	森田 清美
科目ナンバリング	1120212517				常勤
D P	1,3			教員研究室	3303
学科（専攻）	現代社会学科（共通）			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 本授業では、自己の健康づくりのために、病気の予防を含む自身の健康管理に欠かせないさまざまな基礎的な知識を具体的かつ広く学ぶ。そして、一人ひとりが幸福でより良い生活を送るために何をすべきなのか、何をすべきでないのかを考える 【学習の到達目標】 疾病予防と健康管理のために必要な知識を身につけ、健康づくりのための具体的方法が実践できるようになる 【成績評価方法】 授業後確認テスト（各回 10 点×全 7 回⇒70 点）と最終授業終了後のレポート課題（30 点）にて成績判定を行う 【課題等のフィードバック方法】 講義終了後質問を受け付け、次回授業の冒頭等で説明する（classroom での説明など） 【履修上の注意・予習・復習について】 ・規定の出席日数に到達しないものは評価対象外とする ・事前に配信する講義資料を予習に活用すること ・授業後確認テストの正誤を復習に活用すること 【受講して得られる効果・メリット、その他】 疾病予防と健康管理のために必要な知識を身につけることができ、実践する力を養うことができる 【実務家教員担当科目】 該当なし					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	森田 清美	・オリエンテーション ・健康について	・事前に配信する講義資料を予習に活用すること ・授業後確認テストの正誤を復習に活用すること		4 時間
2	森田 清美	・感染症について	・事前に配信する講義資料を予習に活用すること ・授業後確認テストの正誤を復習に活用すること		4 時間
3	森田 清美	・飲酒について ・危険薬物について	・事前に配信する講義資料を予習に活用すること ・授業後確認テストの正誤を復習に活用すること		4 時間
4	森田 清美	・メンタルヘルスについて	・事前に配信する講義資料を予習に活用すること ・授業後確認テストの正誤を復習に活用すること		4 時間
5	森田 清美	・生活習慣病について ・がんについて	・事前に配信する講義資料を予習に活用すること ・授業後確認テストの正誤を復習に活用すること		4 時間
6	森田 清美	・喫煙の影響について ・ヒューマンヘルスについて	・事前に配信する講義資料を予習に活用すること ・授業後確認テストの正誤を復習に活用すること		4 時間
7	森田 清美	・運動、栄養、休養について	・事前に配信する講義資料を予習に活用すること ・授業後確認テストの正誤を復習に活用すること		4 時間
教 科 書	授業資料を Google classroom にて配布する				
参 考 書	必要に応じて、各授業時に紹介する				
備 考	不明な点は授業担当者に問い合わせること				

科 目 名	教育学			担 当 者	佐々木真由美
科目ナンバリング	1120212518				非常勤
D P	1,4			教員研究室	非常勤講師室
学科（専攻）	現代社会学科（共通）			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 ・本授業は、教育の目的・意義・方法等についての基本的原則や理論的基礎を学び、身近な教育問題を取り上げながら、学習者の成長に寄り添う教育の在り方について考察していく。				【課題等のフィードバック方法】 ・学習過程に復習の時間を位置付け、解説を加える。・グループワークによる振り返りを行う。	
【学習の到達目標】 ①教育の目的・意義・方法・内容等についての基本的原則や理論的基礎を理解できる。②教育史、教育行政制度、学校経営等の視点から社会の要請に応える教育の意義を理解できる。③いじめ・不登校対策、教育評価、教員の資質能力等の教育者側の視点から教育を考察することができる。				【履修上の注意・予習・復習について】 ・課題がある。・感染症等の感染状況により、授業方法を変更することがある。・平常時の授業においては、双方向性のある授業となる。・発表がある。・制限のある対面授業では、Classroomに参加し、意見交換をする。	
【成績評価方法】 ・レポート内容及び課題の提出状況・内容を総合的に判断し、評価する。 ・科目の評価項目・基準等を定めたルーブリックに基づいて、評価する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・社会から求められている資質・能力の習得につながる。 ・多様な教材と学習方法による学びを通し、学び方が身に付く。	
【実務家教員担当科目】 非該当					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	佐々木真由美	オリエンテーション（授業のねらい、授業内容、評価方法等）。アイスブレイク。④ルーブリック	予習：自身の「学び」について振り返る。 復習：学習を振り返り。在学中に必要な学びを文字化する。		4 時間
2	佐々木真由美	教育の目的や意義をふまえ、教育格差等について考える。④教育基本法、教育格差	予習：教育の目的について調べる。 復習：教育による格差・不平等を取り上げ、解決策を提案する。		4 時間
3	佐々木真由美	事例をもとに、子どもの成長・人間の成長について考える。④発達の最近接領域	習：心がけている / きた学び方についてまとめる。 復習：学友の学び方を参考に、取り組みたい学び方を文字化する。		4 時間
4	佐々木真由美	学びの効果を高める教育方法について考える。④詰め込み教育、ゆとり教育	予習：「教え方がうまい先生とは？」具体的な事例を集める。 復習：ゆとり教育の本質をふまえ、成長を促す学びについてまとめる。		4 時間
5	佐々木真由美	義務教育の歴史を踏まえ、教育を受ける権利について考える。④教育勅語	予習：違いを述べる。「この子らに世の光を、この子らを世の光に。」 復習：今日の教育問題と解決策を提案する。		4 時間
6	佐々木真由美	教育行政制度を理解し、学びを支える仕組みについて考える。④文部科学省、教育委員会等	予習：給食について経験をまとめる。復習：公教育の学びを支えた仕組みについて振り返る。		4 時間
7	佐々木真由美	居場所となるべき学校の姿を考える。④いじめ防止対策推進法、フリースクール、不登校	予習：いじめ、不登校に関する新聞記事を収集する。復習：子どもたちが社会とつながって学ぶ居場所について提案する。		4 時間
8	佐々木真由美	社会の要請に応える教育課程について考える。④教育課程、ヒドゥンカリキュラム	予習：指導を受け、身に付いた価値観や生き方をまとめる。復習：残しておきたい学習内容（教材）とその理由を整理する。		4 時間
9	佐々木真由美	発達的特性に基づいた教育について考える。④発達障がい、インクルーシブ	予習：発達障がい等に関する新聞記事を収集する。復習：自身ができるインクルーシブな社会をつくる取組をまとめる。		4 時間
10	佐々木真由美	公正な評価、評価方法について考える。④評価基準、評価基準、モデレーション	予習：ルーブリックをもとに自己の学習を評価する。復習：学習を振り返り、今後注力する評価項目を整理する。		4 時間
11	佐々木真由美	教育効果を高める学校経営について考える。④社会に開かれた教育課程	予習：教員以外からの学びを一覧にする。復習：学校外での効果的な学びについてマイプランを作成する。		4 時間
12	佐々木真由美	学び（学習）の本質について考える。④生涯教育	予習：カルチャーセンター等の広告やリーフレットを持ち寄る。復習：「習得・探究」に夢中になる理由をまとめる。		4 時間
13	佐々木真由美	社会から求められる資質・能力について知り、今後の学び方を考える。④主体的・対話的で深い学び	予習：資料について意見を述べる。復習：学友の意見を比較・分析し、学び方を整理する。Society5.0に向けた人材育成。		4 時間
14	佐々木真由美	総括：目指す自分像を実現するための学習方法等を考える。④キャリアデザイン	予習：キャリア形成に関する気付き等をまとめる。復習：社会人1年目の自分に手紙でエールを送る。		4 時間
教 科 書		適宜プリントを配付			
参 考 書		問いからはじめる教育学（有斐閣ストゥディア）、学制百年史（文部科学省）、教育社会学、教育学原論（ミネルヴァ書房）、カリキュラム論（成文堂）、窓ぎわのトットちゃん（講談社）			
備 考		特になし			

科 目 名		哲学		担 当 者	菅原 宏道	
科目ナンバリング		1120212519			非常勤	
D P		1,4		教員研究室	非常勤講師室	
学科（専攻）		現代社会学科（共通）		配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 古代から近代までの西洋哲学を、知の形成と変遷の歴史として概観する。また、論理学の基礎と科学的思考を学び、自律的に考えて判断や行為をなすためのリテラシーを学ぶ。						
【学習の到達目標】 (1) 哲学がどのような学的営みであるかを理解できる。(2) 古代から近代までのさまざまな哲学について整理して理解し、知識として定着させることができる。(3) 論理学の基礎と科学的思考を学び、自律的な判断と行為のリテラシーを身につけることができる。						
【成績評価方法】 (a) 課題 50%, (b) 試験 50% 成績評価の基準は「学習の到達目標」(1)～(3)への到達度とします。						
【課題等のフィードバック方法】 Google Classroom や e メールを使用し、提出物や質問などに対して、必要に応じたフィードバックを個別に行います。						
【履修上の注意・予習・復習について】 [重要] Google Classroom や e メールを使用して、履修者全員あるいは個別に連絡をすることがあります。履修者は、常用する PC やスマートフォンなどのデバイスで教員からの連絡を受信できるようにしておいてください。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 古来より、人間、世界、物事などがどのように考えられてきたかを知ることや、自律的な判断と行為のリテラシーを学ぶことは、実生活をよりよく導くためのきっかけを得ることができると思います。						
【実務家教員担当科目】 該当なし						

授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習	学修時間	
1	菅原 宏道	イントロダクション：哲学と倫理学	[予習] 本科目のシラバスを理解しておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。	4 時間	
2	菅原 宏道	古代哲学 1：ソクラテス	[予習] 知と徳の関係について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。	4 時間	
3	菅原 宏道	古代哲学 2：プラトン、アリストテレス	[予習] 普遍と個別の関係について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。	4 時間	
4	菅原 宏道	中世哲学：アウグスティヌス、トマス・アキナス	[予習] 存在と本質の関係について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。	4 時間	
5	菅原 宏道	近代哲学 1：デカルト、スピノザ	[予習] 観念の由来について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。	4 時間	
6	菅原 宏道	近代哲学 2：ロック、ヒューム	[予習] 経験による知識と信念について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。	4 時間	
7	菅原 宏道	近代哲学 3：カント	[予習] イギリス経験論と大陸合理論についてまとめておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。	4 時間	
8	菅原 宏道	近代哲学 4：啓蒙思想	[予習] 社会契約説について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。	4 時間	
9	菅原 宏道	テーマ別哲学 1：心	[予習] 心と脳について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。	4 時間	
10	菅原 宏道	テーマ別哲学 2：心	[予習] 自由について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。	4 時間	
11	菅原 宏道	テーマ別哲学 3：論理	[予習] 思考について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。	4 時間	
12	菅原 宏道	テーマ別哲学 4：論理	[予習] 演繹について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。	4 時間	
13	菅原 宏道	テーマ別哲学 5：科学	[予習] 帰納について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。	4 時間	
14	菅原 宏道	テーマ別哲学 6：科学	[予習] 科学と社会の関係について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。	4 時間	
教 科 書		レジュメに基づいて講義してゆきます。			
参 考 書		講義の中で紹介してゆきます。			
備 考		オフィス・アワーは、初回の講義と Google Classroom で伝えます。			

科 目 名		現代史		担 当 者	星野 修	
科目ナンバリング		1120212520			非常勤	
D P		1,4		教員研究室	非常勤講師室	
学科（専攻）		現代社会学科（共通）		配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 冷戦後の日本と国際社会の変化と現状について、次の2つの問題を考察するという講義をします。 一つ目は、「なぜ、日本の政治は、こんなにも面白くないのか」という問題です。近年の国政選挙の投票率は、50% 台前半です。日本の有権者の 4,300 万から 5,000 万人以上が棄権しており、20 代の若者のおよそ 3 人に 1 人しか投票に行きません。日本の投票率の低さ、また若者の政治的関心の低さは、国際的にも群を抜いています。いつから、なぜ、日本の有権者は、政治に関心も期待も持たなくなったのでしょうか。 二つ目の問いは、「国際社会において、民主主義は、なぜ、人気をなくし、専制化する国々が増えているのでしょうか」です。世界の人口の 70% は、現在、専制体制の下で、自由も権利も奪われて生きています。「専制化の第 3 の波」といわれるこの状況は、いつ頃から、またなぜ、生じたのでしょうか。 この 2 つの問いに答えるかたちで、現代史の最も重大な問題を考察していきます。						
【課題等のフィードバック方法】 講義の終わりに質問時間を設けて、それに回答すると共に、重要な質問については、受講者全員で討議します。また、講義中の質問も随時受けつけます。						
【履修上の注意・予習・復習について】 授業中の飲食、また遅刻を厳禁します。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 現代史の動向・変化を理解することによって、有権者としての基礎知識と判断力とを身につけることができますようになります。						
【実務家教員担当科目】 該当しない。						
【学習の到達目標】 日本社会と国際社会の、ここ 30 年間ぐらいの動向・変化を理解するための、基礎的知識と社会・政治理論とを習得することです。						
【成績評価方法】 中間試験（30 点）と期末試験（70 点）の合計で評価します。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容		学修課題・必要な学修時間		
				予習・復習		学修時間
1	星野 修	1. 現代日本社会と国際社会の現状——講義の概要について——		講義録/配付資料を復習/予習し、また次回講義レジュメに記載されている課題に取り組んでおく。		4 時間
2	星野 修	2. 日本の有権者の投票行動とその変化——国際比較——		講義録/配付資料を復習/予習し、次回講義レジュメに記載されている課題に取り組んでおく。		4 時間
3	星野 修	3. 選挙制度——中選挙区制から小選挙区・比例代表並立制への転換——		講義録/配付資料を復習/予習し、次回講義レジュメに記載されている課題に取り組んでおく。		4 時間
4	星野 修	4. 政党システムの変遷——選挙制度との関連——		講義録/配付資料を復習/予習し、次回講義レジュメに記載されている課題に取り組んでおく。		4 時間
5	星野 修	5. 統治システム——議院内閣制、大統領制、半大統領制——		講義録/配付資料を復習/予習し、次回講義レジュメに記載されている課題に取り組んでおく。		4 時間
6	星野 修	6. 政治体制の分類——民主制と専制——		講義録/配付資料を復習/予習し、次回講義レジュメに記載されている課題に取り組んでおく。		4 時間
7	星野 修	7. ドイツと韓国との比較考察		講義録/配付資料を復習/予習し、次回講義レジュメに記載されている課題に取り組んでおく。		4 時間
8	星野 修	8. 国際社会の現状と変化——「民主化の第 3 の波」とその終焉——		講義録/配付資料を復習/予習し、次回講義レジュメに記載されている課題に取り組んでおく。		4 時間
9	星野 修	9. 「専制化の第 3 の波」について		講義録/配付資料を復習/予習し、次回講義レジュメに記載されている課題に取り組んでおく。		4 時間
10	星野 修	10. 専制化の事例①——東欧諸国——		講義録/配付資料を復習/予習し、次回講義レジュメに記載されている課題に取り組んでおく。		4 時間
11	星野 修	11. 専制化の事例②——南アジア——		講義録/配付資料を復習/予習し、次回講義レジュメに記載されている課題に取り組んでおく。		4 時間
12	星野 修	12. 専制化の歴考察考察		講義録/配付資料を復習/予習し、次回講義レジュメに記載されている課題に取り組んでおく。		4 時間
13	星野 修	13. 専制化の現状の考察		講義録/配付資料を復習/予習し、次回講義レジュメに記載されている課題に取り組んでおく。		4 時間
14	星野 修	14. 専制化と再民主化の展望		講義録/配付資料を復習し、疑問点をまとめておく。期末試験まえに回答する。		4 時間
教 科 書		用いない。毎回、講義のレジュメと資料を配付します。				
参 考 書		用いない。（ただし、講義中に、参考文献は、随時、紹介します。）				
備 考		自由な参加・討論型の講義にしたいと思っていますので、学生諸君の活発な発言を期待します。また、しばしば教員からも質問します。				

科 目 名	東北の歴史			担 当 者	渡邊 洋一
科目ナンバリング	1120212521				常勤
D P	1,4			教員研究室	1124
学科（専攻）	現代社会学科（共通）			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 歴史学の基礎講座（3 回程度）に始まり、近世の統治機構と都市構造について学びその地方史観から見た中央政権との関係史にいて学ぶ。また、人文科学系の学問の基礎となる史（資）料の読み方・使い方についても解説する				【課題等のフィードバック方法】 講義に関する史資料等の把握及び博物館等へも赴くことで歴史学への意識を高めることを希望する	
【学習の到達目標】 従来の中央史観からではなく東北から観た地域史観のもと、人文学的な検証を行うことで、広い視野と新たな切り口で現代の社会を見直す目を養う				【履修上の注意・予習・復習について】 テキストは授業毎のレジュメと PP 資料により行う。なお、エクスカーションを実施（必須）するが、時間割とは別に土曜日等の授業日以外となるので、予め承知すること	
【成績評価方法】 受講記録やレポートの提出（3 回程度）を求め、その内容で評価する				【受講して得られる効果・メリット、その他】 地域の歴史・文化等を学ぶことで、近年叫ばれている地域創生の一翼を担う感性を養う	
				【実務家教員担当科目】 なし	
授 業 計 画					
1. 概要と基礎講座Ⅰ（歴史区分と 2. 基礎講座Ⅱ（貨幣の歴史と度量衡） 2. 基礎講座Ⅲ（暦の歴史と元号・時間 4. 近世の統治機構（幕藩体制における大名統治） 5. 近世の都市構造Ⅰ（江戸と江戸城） 6. 近世の都市構造Ⅱ（仙台と仙台城） 7. 近世の都市構造Ⅲ（米沢城下の構築） 8. 近世の都市構造Ⅳ（会津と若松城下） 9. 奥州抗争史の群像Ⅰ（蝦夷征伐と多賀城） 10. 奥州抗争史の群像Ⅱ（奥州藤原氏と奥州合戦） 11. 奥州抗争史の群像Ⅲ（戊辰戦争の真実） 12. 自治体史（誌）の編纂について 13. 史学概論（歴史史料の読み方・使い方） 14. エクスカーション（仙台城址と仙台市博物館）					
教 科 書	エクスカーションを除き、毎回レジュメと PP 資料を使用				
参 考 書	東北各県・市町村の自治体史（誌）の他、授業中に参考文献を指示				
備 考	エクスカーションの実施については、授業時間外の土曜等を予定するので、予め承知すること				

科 目 名	ジェンダー論			担 当 者	川口かしみ
科目ナンバリング	1120212522				非常勤
D P	1,4			教 員 研 究 室	非常勤講師室
学科（専攻）	現代社会学科（共通）			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 この授業では、自分たちが生きていく社会において、他者と尊重し合い、生きやすい社会になるための課題をジェンダーの視点から検討していく。まず、ジェンダーの基礎知識を学習し、次に、現在の日本社会に存在するジェンダー問題とそれに関する法律について学んでいく。				【課題等のフィードバック方法】 提出された課題内容を翌週の授業内で、フィードバックとして共有することがある。	
【学習の到達目標】 (1) ジェンダーとは何かを理解する。 (2) 現在の日本社会に存在するジェンダー問題とそれに関する法律を知る。 (3) 自分たちが生きやすい社会になるための課題をジェンダーの視点から検討する。				【履修上の注意・予習・復習について】 授業中に伝える。	
【成績評価方法】 毎授業に課す課題（30%）、学期末テスト（70%）により評価する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 現在の日本社会に存在するジェンダー問題を理解し、それを解決するための方法を考える視点が得られる。自分たちが生きていく社会のために、現在社会が抱え、解決すべきジェンダー問題を分析する力が身に着く。	
				【実務家教員担当科目】 該当なし。	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	川口かしみ	イントロダクション／ジェンダーとは何か？	ハンドアウトを復習し、ジェンダー規範とは何かを確認する。		4 時間
2	川口かしみ	公私二元論とジェンダー	予習では、教科書の第 1 章・2 章を読む。復習では、教科書の同章を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
3	川口かしみ	日本の制度とジェンダー	予習では、教科書の第 3 章・4 章を読む。復習では、教科書の同章を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
4	川口かしみ	平和とジェンダー	予習では、教科書の第 5 章を読む。復習では、教科書の同章を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
5	川口かしみ	国際社会における日本のジェンダー平等	予習では、教科書の第 6 章を読む。復習では、教科書の同章を読み返し、内容の理解を深める。特に女性差別撤廃条約の内容について復習する。		4 時間
6	川口かしみ	労働とジェンダー	予習では、教科書の第 7 章を読む。復習では、教科書の同章を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
7	川口かしみ	リプロダクティブ・ヘルス／ライツ	予習では、教科書の 105 ～ 107 頁を読み、自分の考えをまとめる。復習では、教科書の上記頁を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
8	川口かしみ	LGBTQ +／SOGI	予習では、教科書の 108 ～ 110 頁を読み、自分の考えをまとめる。復習では、教科書の上記頁を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
9	川口かしみ	家族とジェンダー	予習では、教科書の第 9 章を読む。復習では、教科書の同章を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
10	川口かしみ	信教／学問とジェンダー	予習では、教科書の第 10 章を読む。復習では、教科書の同章を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
11	川口かしみ	ポルノグラフィーとメディア	予習では、教科書の第 11 章を読む。復習では、教科書の同章を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
12	川口かしみ	売買春と性的自己決定権	予習では、教科書の第 12 章を読む。復習では、教科書の同章を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
13	川口かしみ	社会保障／刑事手続とジェンダー	予習では、教科書の第 13 章・14 章を読む。復習では、教科書の同章を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
14	川口かしみ	政治参画とジェンダー	予習では、教科書の第 15 章を読む。復習では、教科書の同章を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
教 科 書		『ジェンダーの視点で学ぶ憲法入門』			
参 考 書		授業中に適宜紹介する。			
備 考		教科書はタイトル通り、憲法を扱ったものであるが、お手に取っていただければ分かるように、ジェンダーについても扱っているものである。この授業ではそのジェンダー問題の部分扱う。			

科 目 名		生活の中の物理学			担 当 者	西澤 哲
科目ナンバリング		1120212523				常勤
D	P	1,4			教員研究室	3212
学科（専攻）		現代社会学科（共通）			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 私たちの身の回りには、様々な機械、電子機器、ヒトをはじめ様々な動物、天体を含む自然など、さまざまな「物」が存在している。これらの物の動きや機能は、物質の基本的な性質や自然現象を解明しようとする科学的な営みである物理学と深く関係している。本講義では、物理学の基本的な概念や考え方を生活に関係した実例を交えながら紹介し、生活の中の様々な現象や物の動きを物理学に基づいて考えるすべを学修する。あわせて、物理学が今後の生活や社会で果たす役割、影響などについて考えていく。 【学習の到達目標】 ・物理学が身の回りの現象の理解に役立つだけでなく、生活の各所で応用されていることを具体的な事例を伴って考え、理解する。 ・安全で健康的な生活を営むための判断に必要となる物理学的な知識や常識を理解する。 【成績評価方法】 ミニ課題 40%、ミニットペーパーの記入状況 40%、最終レポート課題 20% の重みで総合評価する。これらの提出が行われていない回は、出席とみなさないので注意すること。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容			学修課題・必要な学修時間	
					予習・復習	学修時間
1	西澤 哲	ガイダンス（授業の進め方の説明）後、物理学とは何かをテーマとして、物理学の対象と研究方法、基本的な物理量とその定義、計測法、単位について学ぶ			当該の講義内容（教科書 1.2.1 項まで）について予習しておく。授業内容と疑問点を整理してまとめる。	4 時間
2	西澤 哲	「物理量の単位はどう表されるか」をテーマに、物の長さ、面積、体積、質量、位置、速度、加速度などを対象に、それらを表す SI 単位系（国際標準）について学ぶ			講義内容（教科書 1.2.2 項と 2.1 節）について予習する。授業内容と疑問点を整理してまとめる。	4 時間
3	西澤 哲	「物はどのように落ちるか」と「ロケットは何故飛べるか」をテーマに、自由落下と等加速度運動、重力加速度、様々な力とその合成、作用反作用の法則等について学ぶ			講義内容（教科書 2, 3 章）について予習しておく。授業内容と疑問点を整理してまとめる。	4 時間
4	西澤 哲	「ニュートンは何を見つけたのか」をテーマに、ニュートンの運動方程式、加速度運動等について学ぶ			講義内容（教科書 4 章）について予習しておく。授業内容と疑問点を整理してまとめる。	4 時間
5	西澤 哲	「テーブルクロス引きの上達法」をテーマに、摩擦係、慣性の法則等について学ぶ			講義内容（教科書 5 章）について予習しておく。授業内容と疑問点を整理してまとめる。	4 時間
6	西澤 哲	「ジェットコースターの設計法」をテーマに、力学エネルギーと仕事、エネルギーの保存等について学ぶ			講義内容（教科書 7 章）について予習しておく。授業内容と疑問点を整理してまとめる。	4 時間
7	西澤 哲	前半のまとめ：物理学の対象と研究方法、基本的な物理量とその定義、計測法、単位と、力学と呼ばれる物理学の分野の考え方を整理する			これまで 6 回の講義内容について復習して、疑問点を整理してまとめる。	4 時間
8	西澤 哲	「空の色が青い理由」と「シャボンの膜が虹色に見える理由」をテーマに、波動としての光の性質、スネルの法則等について学ぶ			講義内容（教科書 10, 11 章）について予習しておく。授業内容と疑問点を整理してまとめる。	4 時間
9	西澤 哲	「楽器の音程はどう決まるのか」と「救急車のサイレンの音が変わる理由」をテーマに、縦波と横波、音速と波長、固有振動、ドップラー効果等について学ぶ			講義内容（教科書 12, 13 章）について予習しておく。授業内容と疑問点を整理してまとめる。	4 時間
10	西澤 哲	「暑いということとは」と「クーラーは何故涼しいのか」をテーマに、温度の性質と絶対温度、温度による物質の変化、熱と仕事、熱機関の基本原理解等について学ぶ			講義内容（教科書 17, 18, 19 章）について予習する。授業内容と疑問点を整理してまとめる。	4 時間
11	西澤 哲	「冬場に静電気が起こる理由」と「コンパスはなぜ南北を指すのか」をテーマに、電荷と電荷に働く力、磁場等について学ぶ			講義内容（教科書 20 章と 21.1 節）について予習しておく。授業内容と疑問点を整理してまとめる。	4 時間
12	西澤 哲	「上手に節電するには」をテーマに、磁場と電流の関係、ローレンツ力、電磁誘導と発電・送電の仕組み等について学ぶ			講義内容（教科書 21.2 節と 22 章）について予習しておく。授業内容と疑問点を整理してまとめる。	4 時間
13	西澤 哲	「電子レンジで何故食品が温まるのか」と「もし原発事故が起こったら」をテーマに、電磁波の性質、電磁波と物質の相互作用、放射性崩壊と放射線等について学ぶ			講義内容（教科書 23, 24 章）について予習しておく。授業内容と疑問点を整理してまとめる。	4 時間
14	西澤 哲	「生活の中の事象を不思議に思うこと」を軸に、担当教員の研究紹介も交えつつ、講義全体のまとめを行う			予習として、事前に配布する資料を通読しておく。授業内容と疑問点を整理してまとめる。	4 時間
教 科 書		齊藤 史郎著、日常の中の物理学、学術図書出版社、2019（1600 円 + 税）				
参 考 書		真貝 寿明 著、日常の「なぜ」に答える物理学、森北出版、2015（2200 円 + 税） その他、必要に応じて適宜紹介する。				
備 考		資料等は Google Classroom あるいは教室で配布する。				

科 目 名	生活の中の化学			担 当 者	戸田 孝史
科目ナンバリング	1120212524				常勤
D P	1,4			教 員 研 究 室	1327・1206
学 科（専攻）	現代社会学科（共通）			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 現在、多くの物質やそれを利用した製品が次々と生みだされており、これらの物質は、私たちの毎日の暮らしを豊かにし、生活に欠かせないものになっている。本講義では、化学の基礎とその役割について学ぶ。 また、高校化学の学修が十分ではない受講者でも理解できるよう平易な解説を行う。				【課題等のフィードバック方法】 ミニレポートや小テストなどの課題は、授業中またはクラスルームで解説する。	
【学習の到達目標】 生活の中の化学では、身の回りの物質とその用途などを通して、化学の基礎的知識を習得する。				【履修上の注意・予習・復習について】 講義のふり返しをおこなうので復習をしておくこと。やむを得ない理由で遅刻や欠席の場合は事前事後に関わらず担当教員まで連絡すること。	
【成績評価方法】 ミニレポート：40%、レポート：60% で総合的に評価する。詳細は、授業時に説明する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 日常生活で使われる商品（食品含む）を通して化学に親しみ、延いては化学の視点から自然科学現象を分析する素地を養うことにつながる。	
				【実務家教員担当科目】 該当せず	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	戸田 孝史	ガイダンス			4 時間
2	戸田 孝史	原子と分子	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）		4 時間
3	戸田 孝史	元素の種類と性質	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）		4 時間
4	戸田 孝史	化学結合	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）		4 時間
5	戸田 孝史	物質量とモル	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）		4 時間
6	戸田 孝史	化学反応式	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）		4 時間
7	戸田 孝史	レポート作成	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）		4 時間
8	戸田 孝史	物質の状態変化：気体の性質／ 溶液の性質	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）		4 時間
9	戸田 孝史	酸化と還元	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）		4 時間
10	戸田 孝史	非金属元素	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）		4 時間
11	戸田 孝史	典型金属元素	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）		4 時間
12	戸田 孝史	遷移金属元素	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）		4 時間
13	戸田 孝史	脂肪族化合物／芳香族化合物	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）		4 時間
14	戸田 孝史	レポート作成	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）		4 時間
教 科 書		「商品から学ぶ化学の基礎」 松田勝彦 著、化学同人			
参 考 書		特になし			
備 考		特になし			

科 目 名		生活の中の生物学		担 当 者	小田切孝人
科目ナンバリング		1120212525			常勤
D	P	1,4		教 員 研 究 室	1319
学 科（専攻）		現代社会学科（共通）		配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式				単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし			
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 地球という環境の中で生きる我々ヒトが生物学的にどのような存在なのか、そして我々がヒトは生涯を生き抜くために、どのように身体構造と機能を有しているのか、更に、生物としてどのような役割を果たしているのかについて学ぶ		【課題等のフィードバック方法】 レポートやミニレポート等の課題は、授業中またはクラスルームで解説する			
【学習の到達目標】 生物の多様性と共通・ヒトの生物学的特徴・ヒトが生きる役割について修得する 生命の倫理観を理解できる		【履修上の注意・予習・復習について】 予習を重視すること・学修内容を確認しておくこと 復習は資料の整理を怠らないこと			
【成績評価方法】 レポート 60% ミニレポート（小テストに変えることもある） 40% 詳しいことは授業に置いて説明します		【受講して得られる効果・メリット、その他】 私たちはどのような存在なのかを生物学的に理解し、私たちが生物としてどのような役割を果たしているのかを知ること、人生を健康に生き抜く意義を感じ取ることができる。また人々が健全に生きるための倫理観を習得できる			
		【実務家教員担当科目】 該当せず			
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	小田切孝人	ガイダンス：生物の進化と多様性 ※生物の進化の過程と人の誕生について触れないか	予習：生物の進化と多様性について調べておく 復習：授業課題の確認		4 時間
2	小田切孝人	細胞 1：細胞の種類と細胞膜の構造	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認		4 時間
3	小田切孝人	細胞 2：核と細胞小器官	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認		4 時間
4	小田切孝人	細胞 3：栄養と代謝とエネルギー	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認		4 時間
5	小田切孝人	遺伝情報 1：遺伝のメカニズム	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認		4 時間
6	小田切孝人	遺伝情報 2：遺伝病	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認		4 時間
7	小田切孝人	細胞分裂 1：分裂の仕方	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認		4 時間
8	小田切孝人	細胞分裂 2：減数分裂	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認		4 時間
9	小田切孝人	人体の階層構造 1：組織と器官	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認		4 時間
10	小田切孝人	人体の階層構造 2：器官系	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認		4 時間
11	小田切孝人	ホメオスタシス 1：生体の維持のしくみ	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認		4 時間
12	小田切孝人	生体防御機構と免疫	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認		4 時間
13	小田切孝人	成長と老化	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認		4 時間
14	小田切孝人	生命倫理	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認		4 時間
教 科 書		講義時に指示する			
参 考 書		講義時に指示する			
備 考		連絡事項があれば講義時に指示する			

科 目 名	生活と地球科学			担 当 者	千葉 一
科目ナンバリング	1120212526				非常勤
D P	1,4			教 員 研 究 室	非常勤講師室
学 科（専攻）	現代社会学科（共通）			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 人類は経済活動（利潤追求）を優先するあまり、環境や気候変動の問題を半ば放置して来た。しかしその人類の生態は、大きなパラダイムシフトを迫られている。本講義では、人間の活動が地球環境にどのような影響を与えているのかについて、特に地球温暖化を中心に解説して行く。また、そうした諸問題解決のための思考を深めて行く。				【課題等のフィードバック方法】 提出物やレポートの総括講評を、次の授業で行う。	
【学習の到達目標】 環境破壊や環境問題を正しく理解することで、人間の過剰性の認知と環境へのグローバルな倫理観を養う。				【履修上の注意・予習・復習について】 私語・飲食・携帯電話・居眠り・無断退出は禁止する。授業進行に支障をきたす場合は退出してもらう。授業計画のトピックスを参考に資料など情報収集しつつ、授業に臨む。復習を怠らない。	
【成績評価方法】 定期試験による評価と提出物（講義中）で総合評価とする。評価比率：定期試験 70%・提出物 30%。詳しくは、初回講義の際に説明する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 人類の生命活動のみが大切なのではなく、この地球の営みの中で共に生きる生命活動があって、この地球が存在している。気象や地殻の諸現象や多種多様な生命の絡み合いを理解し、それぞれの存在価値を正しく認識することは、未来の健全な「地球コミュニティ」の在り方にとって必須と考える。	
				【実務家教員担当科目】 3.11 震災復興に関連した環境破壊やコミュニティ開発を研究しつつ、自然再生活動や社会開発を実践している教員が、地球規模の環境問題について、自然科学と人文科学の枠を超えて講義する。	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	千葉 一	教科に関する説明と授業の進め方を説明する。	次回学習内容を予習。		4 時間
2	千葉 一	人間という種の特異性と環境問題	自己の生活と環境問題の関連を再考する。次回学習内容を予習。		4 時間
3	千葉 一	経済活動と地球温暖化	経済活動の過剰性についてまとめる。次回学習内容を予習。		4 時間
4	千葉 一	地球温暖化のメカニズム	温室効果ガスの削減についてまとめる。次回学習内容を予習。		4 時間
5	千葉 一	地球温暖化に伴う環境の激変	気候変動枠組み条約についてまとめる。次回学習内容を予習。		4 時間
6	千葉 一	カーボン・サイクルと石灰岩	炭酸カルシウム形成過程を理解する。次回学習内容を予習。		4 時間
7	千葉 一	復習と要点・疑問点の整理	前半 6 回の講義内容を理解・整理する。次回学習内容を予習。		4 時間
8	千葉 一	化石燃料：炭素の固定と解放	その固定と解放の時間差を理解する。次回学習内容を予習。		4 時間
9	千葉 一	経済成長と自然海岸の破壊	海浜の重要性を認識する。次回学習内容を予習。		4 時間
10	千葉 一	海洋酸性化と生態系サービス	酸性化メカニズムを理解する。次回学習内容を予習。		4 時間
11	千葉 一	森林破壊と生態系サービス	急速な森林破壊の現状を理解する。次回学習内容を予習。		4 時間
12	千葉 一	森のネットワークと生物多様性	森林の社会性を理解する。次回学習内容を予習。		4 時間
13	千葉 一	砂漠化と多種共生	多自然主義を理解する。次回学習内容を予習。		4 時間
14	千葉 一	復習と要点・疑問点の整理	後半 6 回の講義内容を理解・整理し、小論文的にまとめる。		4 時間
教 科 書		特になし。資料を適宜配布する。			
参 考 書		清水美香（編著）2023『レジリエンスーよみがえる力ー森・風景・地域・人の交差の中で』、日本評論社。 原慶太郎ほか（編著）2021『自然と歴史を活かした震災復興ー持続可能性とレジリエンスを高める景観再生』、東京大学出版会。			
備 考		特になし。			

科 目 名		データサイエンス入門		担 当 者	○山尾 貴則・佐藤 一 森坂 太一	
科目ナンバリング		1120212527			常勤・非常勤	
D	P	1,4		教 員 研 究 室	3304 (山尾)・非常勤講師室 (佐藤・森坂)	
学 科 (専攻)		現代社会学科 (共通)		配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 ☒ 自主学習支援 □該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当する	
【授業内容】 現代の高度な情報社会では、情報技術 (IT) に進化と共に、人工知能 (AI) の急速な発展によりビッグデータを活用した様々なサービスが生まれ、社会が大きく変化してきている。本科目では、AI・データサイエンスが社会に変化をもたらしている現実を認識し、どのようにデータを読み取り理解するのか、どんな AI データ技術が利活用されているのか、データ AI を活用する際に何に留意すべきかを理解する。 授業は大学が定める数理データサイエンス AI 教育カリキュラム (リテラシーレベル) に基づいて、1) データサイエンスの基礎知識、2) AI 技術の活用事例、3) データの収集・理解・分析方法、4) データ AI のリスクと倫理、以上を体系的に学ぶ。				【課題等のフィードバック方法】 Google Classroom や Google Form で課題出題、提出、採点後返却、質疑応答などを実施する。		
【学習の到達目標】 1) AI によって変化している現実を理解する、2) データ AI がどのような技術で活用されているかを理解する、3) データを読み取り理解する方法を理解する、4) データ AI を活用する際に留意すべきことを理解する。				【履修上の注意・予習・復習について】 学部・学科・専攻により、授業計画の前半 7 回分 (1～7) と後半 7 回分 (8～14) の前後が入替わることがある。授業では BYOD (自己所有のノートパソコンやタブレット型端末) を使用するので必ず持参すること。		
【成績評価方法】 全学共通のルーブリック評価に基づく。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 数理・データサイエンス・AI 教育カリキュラム (リテラシーレベル) に基づいて体系的に学ぶことができる。		
				【実務家教員担当科目】 なし		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	佐藤 一	ガイダンス AI・データがもたらす社会変動	予習：情報社会における社会変動を多様な視点で捉えて俯瞰しておくこと。 復習：AI・データの発展による活用分野を理解すること。			4 時間
2	佐藤 一	コンピュータと AI	予習：高校情報 I で既習の内容を大まかに捉えておくこと。 復習：情報技術の発展が AI・データによる社会変化を生む基盤であることの理解を深めること。			4 時間
3	佐藤 一	社会で活用される AI・データ	予習：AI・データの活用領域の広がりと活用法を捉えておくこと。 復習：AI・データ利活用の事例からデータと AI が関わり新たな価値を創出していることを理解すること。			4 時間
4	佐藤 一	AI・データ社会がもたらす諸問題	予習：現在の社会で起きている変化を見据えてビッグデータを活用している分野と活用法を調べておくこと。 復習：社会システムで活用している AI とビッグデータの関係性を事例と共に理解すること。			4 時間
5	佐藤 一	生活の中の生成 AI	予習：生成 AI の利便性や留意すべきことを予め調べておくこと。可能なら実際に使用してみるとよい。 復習：生成 AI の仕組みとプロンプトの重要性を体験的に理解すること。			4 時間
6	佐藤 一	生成 AI の活用の今と将来	予習：高校情報 I で既習の情報社会における諸問題を整理し確認しておくこと。 復習：生成 AI の利活用にあたり具体的な留意事項を事例を含めて理解しておくこと。			4 時間
7	佐藤 一	社会が求めるデータサイエンス	予習：高校情報 I で既習のデータの収集と分析について予め確認しておくこと。 復習：AI とデータサイエンスが適用できる活用領域の広がりを理解すること。			4 時間
8	山尾 貴則 森坂 太一	学修分野におけるデータサイエンスのガイダンスと情報処理ツールの基礎 1	予習：予め主な情報処理ツール (ワープロ、表計算、プレゼンテーション) の操作に慣れておくこと。 復習：情報やデータを加工・編集・提示する情報処理ツールでの情報の扱いと処理機能を理解すること。			4 時間
9	山尾 貴則 森坂 太一	情報処理ツールの基礎 2	予習：予め主な情報処理ツール (ワープロ、表計算、プレゼンテーション) の操作に慣れておくこと。 復習：情報やデータを加工・編集・提示する情報処理ツールでの情報の扱いと処理機能を理解すること。			4 時間
10	山尾 貴則 森坂 太一	データの散らばりを読み取る 1	予習：高校情報 I で既習のデータの収集とデータの分析について予め確認しておくこと。 復習：データを適切に読み解き、かつデータを適切に説明するための手法を理解すること。			4 時間
11	山尾 貴則 森坂 太一	データの散らばりを読み取る 2	予習：高校情報 I で既習のデータの収集とデータの分析について予め確認しておくこと。 復習：データを適切に読み解き、かつデータを適切に説明するための手法を理解すること。			4 時間
12	山尾 貴則 森坂 太一	データから全体を推測する 1	予習：予め表計算ソフトで表形式のデータ等を扱えるようにすること。 復習：表計算ソフトで機械判別可能なデータを利用してデータの表現と分析ができるようにすること。			4 時間
13	山尾 貴則 森坂 太一	データから全体を推測する 2	予習：予め表計算ソフトで表形式のデータ等を扱えるようにすること。 復習：表計算ソフトで機械判別可能なデータを利用してデータの表現と分析ができるようにすること。			4 時間
14	山尾 貴則 森坂 太一	AI・データ利活用の分野別諸問題	予習：各専門分野において、高校情報 I で既習の情報社会における諸問題を予め整理し確認しておくこと。 復習：各専門分野における AI・データサイエンスの利活用の事例 (留意事項を含む) を理解しておくこと。			4 時間
教 科 書		行場、高谷、渡邊共著「人間中心の AI 社会とデータサイエンス - MDASH リテラシーレベル準拠 -」コロナ社				
参 考 書		適宜紹介する。				
備 考		特になし。				

科 目 名		コミュニケーション論		担 当 者	呂本 俊亮	
科目ナンバリング		1120212528			非常勤	
D P		1,4		教 員 研 究 室		非常勤講師室
学 科（専攻）		現代社会学科（共通）		配 当 年 次		1 年次・後期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 この授業では、心理学をベースにコミュニケーションの基礎と応用を学びます。私たちはふだん、あたりまえのように相手が発した情報を理解し、あたりまえのように自分の考えを表現して相手とコミュニケーションを行っています。しかし、そこには私たち人間のきわめて高度な心理メカニズムが働いています。また、コミュニケーションはどんな場面でもうまくゆくとは限りません。その成否はさまざまな要因に左右されます。その要因の1つが、情報の送り手のコミュニケーション能力です。自分の考えを正確に、そして効果的に他者に伝える能力。それはみなさんの今後の人生において、ますます重要なものとなっていくでしょう。この授業を通して、そのような能力を向上させるためのヒントを獲得してもらえれば幸いです。 【学習の到達目標】 1. 人と人とのコミュニケーションに関する心理学的知識を獲得し、日常生活の中で思い出したり活かしたりできるようになる。 2. 実社会で役立つコミュニケーション能力を向上させるためのきっかけをつかむ。 【成績評価方法】 提出物 5%、小テスト 45%、定期試験 50%						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	呂本 俊亮	言葉で伝えることの難しさ	授業内容を復習し、自己関連づけを行う。受講日誌をつける。			4 時間
2	呂本 俊亮	言葉以外のメッセージ (1)	授業内容を復習し、自己関連づけを行う。受講日誌をつける。			4 時間
3	呂本 俊亮	言葉以外のメッセージ (2)	授業内容を復習し、自己関連づけを行う。受講日誌をつける。			4 時間
4	呂本 俊亮	まとめと小テスト 1	ここまでの内容を復習し、小テストに備えて勉強しておく。授業後は、授業内容を復習し、自己関連づけを行う。			4 時間
5	呂本 俊亮	自己とコミュニケーション	授業内容を復習し、自己関連づけを行う。受講日誌をつける。			4 時間
6	呂本 俊亮	会話の成立要件	授業内容を復習し、自己関連づけを行う。受講日誌をつける。			4 時間
7	呂本 俊亮	言語理解の心理メカニズム	授業内容を復習し、自己関連づけを行う。受講日誌をつける。			4 時間
8	呂本 俊亮	作文の認知過程	授業内容を復習し、自己関連づけを行う。受講日誌をつける。			4 時間
9	呂本 俊亮	まとめと小テスト 2	ここまでの内容を復習し、小テストに備えて勉強しておく。授業後は、授業内容を復習し、自己関連づけを行う。			4 時間
10	呂本 俊亮	好きを生み出すコミュニケーション	授業内容を復習し、自己関連づけを行う。受講日誌をつける。			4 時間
11	呂本 俊亮	見せて伝えるコミュニケーション	授業内容を復習し、自己関連づけを行う。受講日誌をつける。			4 時間
12	呂本 俊亮	実社会でのコミュニケーション	授業内容を復習し、自己関連づけを行う。受講日誌をつける。			4 時間
13	呂本 俊亮	コミュニケーションクイズ大会	授業内容を復習し、自己関連づけを行う。受講日誌をつける。			4 時間
14	呂本 俊亮	小テスト 3 と全体のまとめ	ここまでの内容を復習し、小テストに備えて勉強しておく。授業後は、授業内容を復習し、自己関連づけを行う。			4 時間
教 科 書		呂本俊亮（著）『言葉とコミュニケーション 心理学を日常に活かす』朝倉書店				
参 考 書		なし				
備 考		なし				

科 目 名	憲法と法律			担 当 者	淡路 智典
科目ナンバリング	1120212529				常勤
D P	1,4			教員研究室	1224
学科（専攻）	現代社会学科（共通）			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 憲法とは国の根幹を定める法律である。この授業では憲法の基本的な内容を扱う憲法総論、国家によっても侵害されることのない個人の権利を扱う人権論、国家の基本的な仕組みをさだめる統治機構論をそれぞれ見ていく。できるだけ学生に身近な話題を絡めつつ、憲法の基本的な考え方や条文解釈を説明していく。				【課題等のフィードバック方法】 授業の疑問点を Google classroom に書いてもらい、次の回の授業の冒頭で回答する。	
【学習の到達目標】 憲法という国家の根本法について基礎的な概念を理解し、基本的人権や統治機構のあり方に関して、自己の見解を持てるようにする。				【履修上の注意・予習・復習について】 スライドを授業前に確認し、わからない法律用語の予習。他の受講生の迷惑になることはしないこと。	
【成績評価方法】 期末試験の点数に平常点を加味して決定する。 内訳：期末試験 80%、平常点 20%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 憲法に対する理解を深めることによって、憲法改正をはじめとする具体的な憲法問題に関して、主体的に考えられるようになる。個人の侵害されてはならない基本的人権を理解することにより、社会問題に関して一層深く理解することができるようになる。また一票を持つ主権者として必要な知識と自覚を得ることができる。	
				【実務家教員担当科目】 該当しない。	

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	淡路 智典	ガイダンス・憲法とは	シラバスの内容確認・教科書（判例集）の読み方を理解する	4 時間
2	淡路 智典	憲法概説	スライドを授業前に確認し、憲法の全体像を掴む	4 時間
3	淡路 智典	幸福追求権と法の下での平等	判例を参考にして、包括的基本権や平等権について理解する	4 時間
4	淡路 智典	精神的自由権（内心の自由）	判例を参考にして、思想・良心の自由や信教の自由について理解する	4 時間
5	淡路 智典	精神的自由権（表現の自由）	判例を参考にして、表現の自由の重要性や限界について理解する	4 時間
6	淡路 智典	経済的自由権	判例を参考にして、職業選択の自由や財産権について理解する	4 時間
7	淡路 智典	人身の自由	判例を参考にして、刑事事件で保障される権利等について理解する	4 時間
8	淡路 智典	国務請求権と参政権	判例を参考にして、裁判を受ける権利や参政権について理解する	4 時間
9	淡路 智典	社会権	判例を参考にして、生存権や教育を受ける権利、労働基本権について理解する	4 時間
10	淡路 智典	権力分立の原理と国会	政治思想や歴史的経緯を参考にして、三権分立の概念を理解する	4 時間
11	淡路 智典	内閣	法制度を参考にして、公務員制度を理解する	4 時間
12	淡路 智典	裁判所	法制度を参考にして、裁判や裁判制度について理解する	4 時間
13	淡路 智典	天皇制、平和主義	憲法の条文を参考に、象徴天皇制や平和主義について理解する	4 時間
14	淡路 智典	憲法の保障	憲法の理念を参考に、硬性憲法について理解する	4 時間
教 科 書 岡田順太/ 淡路智典/ 今井健太郎 編『判例キーポイント憲法』（成文堂、2020 年、ISBN：978-4-7923-0666-3）				
参 考 書 芦部信喜『憲法（第 8 版）』（岩波書店、2023 年、ISBN：9784000616072）				
備 考 特になし。				

科 目 名		生活と経済		担 当 者	奥山 忠裕	
科目ナンバリング		1120212530			非常勤	
D P		1,4		教 員 研 究 室	非常勤講師室	
学 科（専攻）		現代社会学科（共通）		配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 本講義では、生活を取り巻く様々な問題について経済活動を中心に学んでいきます。内容としては、経済の基礎、環境・資源問題、労働、公共政策、まちづくりの思考について学びます。 【学習の到達目標】 到達目標は以下のとおりです。 ①各テーマでの基礎的な知識を身につける ②各テーマでの社会の課題を理解する ③各テーマの内容を説明できるようになる。 【成績評価方法】 初回講義の課題を 2 点、2 回目以降の課題が 6 点× 13 回 = 78 点、レポート 2 回× 10 点の計 100 点で評価します。公欠等を除き 5 回以上の欠席者は単位の取得を認めないことがあります。 【課題等のフィードバック方法】 適宜質問に応じます。 【履修上の注意・予習・復習について】 Google Classroom で毎回配布する講義資料を必ず印刷してもってくること。ニュースや新聞を読み、生活を取り巻く問題に関心をもってください。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 経済や環境、労働、公共政策といった日々の暮らしに近い社会課題の基礎を身につけることができます。関連する専門分野の理解が容易になると思います。 【実務家教員担当科目】 特になし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	奥山 忠裕	ガイダンス、経済の考え方	予習： 配布資料の事前学習のキーワードを調べる 復習： 講義中に提示した事後学習①を行う		4 時間	
2	奥山 忠裕	市場の考え方と需要	予習： 配布資料の事前学習のキーワードを調べる 復習： 講義中に提示した事後学習②を行う		4 時間	
3	奥山 忠裕	供給と均衡の考え方	予習： 配布資料の事前学習のキーワードを調べる 復習： 講義中に提示した事後学習③を行う		4 時間	
4	奥山 忠裕	外部性と環境問題	予習： 配布資料の事前学習のキーワードを調べる 復習： 講義中に提示した事後学習④を行う		4 時間	
5	奥山 忠裕	環境問題の分類	予習： 配布資料の事前学習のキーワードを調べる 復習： 講義中に提示した事後学習⑤を行う		4 時間	
6	奥山 忠裕	循環型社会とは	予習： 配布資料の事前学習のキーワードを調べる 復習： 講義中に提示した事後学習⑥を行う		4 時間	
7	奥山 忠裕	公共政策の考え方	予習： 配布資料の事前学習のキーワードを調べる 復習： 講義中に提示した事後学習⑦を行う		4 時間	
8	奥山 忠裕	公共政策の手段	予習： 配布資料の事前学習のキーワードを調べる 復習： 講義中に提示した事後学習⑧を行う		4 時間	
9	奥山 忠裕	公共と協働の取り組み	予習： 配布資料の事前学習のキーワードを調べる 復習： 講義中に提示した事後学習⑨を行う		4 時間	
10	奥山 忠裕	労働市場をみる①	予習： 配布資料の事前学習のキーワードを調べる 復習： 講義中に提示した事後学習⑩を行う		4 時間	
11	奥山 忠裕	労働市場をみる②	予習： 配布資料の事前学習のキーワードを調べる 復習： 講義中に提示した事後学習⑪を行う		4 時間	
12	奥山 忠裕	景気と労働	予習： 配布資料の事前学習のキーワードを調べる 復習： 講義中に提示した事後学習⑫を行う		4 時間	
13	奥山 忠裕	まちづくり～地域再生の事例①	予習： 配布資料の事前学習のキーワードを調べる 復習： 講義中に提示した事後学習⑬を行う		4 時間	
14	奥山 忠裕	まちづくり～地域再生の事例②	予習： 配布資料の事前学習のキーワードを調べる 復習： 講義中に提示した事後学習⑭を行う		4 時間	
教 科 書		特になし				
参 考 書		適宜講義中に指示する				
備 考		特になし				

科 目 名	教養としての政治学			担 当 者	王 元
科目ナンバリング	1120212531				常勤
D P	1,4			教 員 研 究 室	1324
学 科（専攻）	現代社会学科（共通）			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 人間は社会的動物である。政治は人間の社会的利害を調整するしくみである。人々が生活する社会における秩序を形成し、維持し、修正し、また時には破壊することを通じて実行される活動と手段である。 政治学は古代ギリシアに誕生して以来、長い歴史を刻んできた。しかし、政治行動の判断基準や結論には必ずしも法則性があるとはいえない。むしろ、政治を担う人の個性やイデオロギー、感情、さらには偶然性に左右される側面もある。総合的に知識や手法も駆使して最善の政策決定を促すところに、政治学の目的や妙味がある。 政治学の基礎知識と発想方法を解説する。政治学の面白さと大切さを伝え、政治現象一般を把握する視点を身に付けてもらうことがこの講義のねらいである。講義形式を基本とする。ただし適宜ビデオ教材を利用する。					
【課題等のフィードバック方法】 授業終了後、質問を受け付け、回答します。					
【履修上の注意・予習・復習について】 私語及び携帯電話の使用禁止。 受け身にならず、自ら探究心を持つことが重要だ。 政治問題への関心を抱き、まず新聞を読む習慣を身に付けてほしい。					
【受講して得られる効果・メリット、その他】 政治現象を分析するための概念と手法を身につけ、各種の資格試験に必要な政治分野の基礎知識を学ぶことができる。					
【実務家教員担当科目】 該当なし					
【学習の到達目標】 近代社会の特徴、主たる政治思想の歴史、自由主義と民主主義の思想などについて基本的な知識を習得することをめざす。併せて政治現象への洞察力を高め、政治判断の能力を培いたい。					
【成績評価方法】 定期試験（70％）、課題提出、授業での発言・質問など（30％）。					

授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	王 元	ガイダンス：政治学概念と体系	政治とは何か 政治学とは何		4 時間
2	王 元	国家と社会、国力	国家と社会の概念、 市民社会・国民国家の成立と政治的統合、	国家の規模と国力	4 時間
3	王 元	主権と権力	主権と権力の性質、支配・権威・リーダーシップ・影響とソフトパワー		4 時間
4	王 元	集権と分権	政治集権と中央・地方の権力関係 地方自治の意義・過疎と過密		4 時間
5	王 元	政治参加と投票行動	代表制の類型と選挙制度、選挙の諸原則、投票行動と政治無関心		4 時間
6	王 元	政党政治	代議制民主主義における政党の機能と組織 議会の機能・審議過程と野党の役割		4 時間
7	王 元	世論と政治	マスメディアと世論の形成 圧力団体発生の原因と活動		4 時間
8	王 元	官僚制	政治と行政 官僚制の概念と官僚制化		4 時間
9	王 元	民主主義と権威主義	政治的意識形態と有効性 民主主義の維持と拡大		4 時間
10	王 元	代表的な政治体制Ⅰ	議院内閣制、大統領制と党国体制 米国、英国、日本などそれぞれの特徴		4 時間
11	王 元	代表的な政治体制Ⅱ	権威主義的な政治体制 中国、ロシアなどそれぞれの特徴		4 時間
12	王 元	国際政治	国際政治と国内政治、グローバリゼーション、国際組織		4 時間
13	王 元	地理政治学	国際競争、地理的な視点から人類政治を巨視的に見る		4 時間
14	王 元	現代政治の課題	福祉国家の成立、維持と発展		4 時間
教 科 書		教科書は用いず、適宜プリントを配布する。			
参 考 書		堀江湛・岡沢憲夫編『現代政治学』（法学書院、2011）。			
備 考		日々の新聞を読み、国内と国際政治情勢の把握に努められたい。			

科 目 名		夏季野外活動実習		担 当 者	○森田 清美・犬塚 剛 黒沢 麻美・山川 樹 未定	
科目ナンバリング		1120212532			常勤	
D	P	2,3		教員研究室	3303	
学科（専攻）		現代社会学科（共通）		配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		実習	授 業 時 間	45 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 実習は南蔵王野営場にて2泊3日（8月下旬から9月上旬）の宿泊型のキャンプを実施する。実習ではテント設営、野外炊事、キャンプクラフト、キャンプファイヤー、登山、沢登りなどの野外活動を行う。 【学習の到達目標】 ・キャンププログラムの企画、運営、指導方法について理解を深める。 ・野外活動に必要な知識や技術を修得する。 ・自然現象や自然のしくみを総合的に学び、自然への理解を深める。 ・集団生活の中で自分の役割をみつけ、活動の見通しを立てて行動ができる。また、他者とのコミュニケーションを図り、交流を深める。 ・自然の楽しみ方を学び、健康・体力を維持増進に役立てる。 【成績評価方法】 事前オリエンテーションでの準備物 10%、実習期間中の課題達成度 70%、実習事後レポート 20% 【課題等のフィードバック方法】 実習中は毎日の打ち合わせと実習簿に1日の出来事や自身の役割、気づき等の振り返りを行う。実習後は実習簿の記入を完成させ、担当教員が添削し返却する。 【履修上の注意・予習・復習について】 1) 時間厳守 2) トレッキングシューズ、雨具を必ず準備する 3) 自分自身の体調管理と自己責任をもって行動する 4) 安全・危険物について予測し、事故や障害のないように慎重に自分自身の体調管理と自己責任をもって行動する 【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・自然の中での様々な活動は知識や技術だけではなく、体験知を高め、生活の知恵を得ることができ、心身の健康への意識が高まる。 【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
(1) 実施時期・期間：8月下旬から9月上旬（2泊3日） (2) 実施場所（予定）：南蔵王野営場（白石市福岡深谷字白萩山 39） (3) 参加費用：9,000 円程度（施設使用料、キャンプ資材、レク資材、食費等の実費） (4) 授業内容 1. 事前オリエンテーション①個人票記入、レクリエーション 2. 事前オリエンテーション① 〃 3. 事前オリエンテーション②班編成での打ち合わせ、スタッフリーダーとの顔合わせ、事前準備 4. 事前オリエンテーション② 〃 5. 1 日目 キャンプ実習（現地オリエンテーション、テント設営・貸与用具の確認、キャンプクラフト、炊飯、ミーティング） 6. 〃 7. 〃 8. 〃 9. 〃 10. 〃 11. 2 日目 キャンプ実習（登山、炊飯、キャンプファイアー） 12. 〃 13. 〃 14. 〃 15. 〃 16. 〃 17. 3 日目 キャンプ実習（炊飯、沢登り、沢遊び、撤収作業、事後実習レポート指導） 18. 〃 19. 〃 20. 〃 21. 〃 22. まとめ						
教 科 書		冊子を配布します。				
参 考 書		「野外教育の理論と実際：組織キャンプ入門」東京 YMCA 野外教育研究所				
備 考		・本実習の単位取得をもって、レクリエーション現場実習の一回分の参加になります。 ・問い合わせ担当：森田清美				

科 目 名	冬季野外活動実習			担 当 者	○未定・犬塚 剛 森田 清美・黒沢 麻美
科目ナンバリング	1120212533				常勤
D P	2,3			教員研究室	1304
学科（専攻）	現代社会学科（共通）			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式	実習	授 業 時 間	45 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 本授業はウィンタースポーツを通じて現代の諸課題を多角的に理解し、実践的な解決策を追求することを目的とします。従来のスキーやスノーボード技術の習得に加え、地域社会とのかかわりや持続可能な発見について学び現代社会学科の学びの基礎であるフィールドワークを通じて理論と実践を修得します。 【学習の到達目標】 ・スキー、スノーボードの基礎的な技術と安全管理の基本を習得する ・地域社会とスポーツの関係性を多角的に分析する能力を養う ・フィールドワークを通じて実践的な調査・分析スキルを身に着ける ・持続可能な地域発展に向けた具体的な提案力を培う ・多様性を尊重し、インクルーシブな社会づくりに貢献する視点を養う 【成績評価方法】 事前オリエンテーションの準備物 10%、実技 30%、フィールドワークとプレゼンテーション 30%、実習事後レポート 20%				【課題等のフィードバック方法】 実習の中で適宜質問を受け付ける。	
				【履修上の注意・予習・復習について】 ・12 月頃に UNIPA、掲示板、クラスルーム等で実習日を公開し、参加確定後履修登録を行う。 ・持病や体調不良がある場合は必ず事前に申告し、体調に十分留意して万全の体制で実習に臨むこと。	
				【受講して得られる効果・メリット、その他】 ウィンタースポーツの楽しさを体験しながら地域社会の課題に実践的に取り組むことができる。短期間の中で技術習得、フィールドワーク、グループワーク、プレゼンテーションなど、多様な学習経験から総合的な能力向上に期待できる。	
				【実務家教員担当科目】 ウィンタースポーツの指導経験を有する教員がその経験を活かして、ウィンタースポーツの実習を指導する。	
授 業 計 画					
(1) 実施時期・期間：2025 年 1 月下旬～2 月下旬（3 泊 4 日）予定 (2) 実施場所：蔵王温泉スキー場（山形県）予定 (3) 授業内容 第 1 回目：事前指導①（1 ヶ月前ガイダンス、参加必須） 第 2 回目：事前指導②（直前ガイダンス・講義、参加必須） 第 3～5 回目（1 日目）：現地へ移動、講義、用具の確認、実技講習（午後） 第 6 回目：スノースポーツを取り巻く環境、滑走フィードバック（講義・グループワーク） 第 7～11 回目（2 日目）：実技講習（午前・午後）温泉街フィールドワーク＆調査 第 12 回目：スノースポーツの事故の実態、滑走フィードバック（講義・グループワーク） 第 13～17 回目（3 日目）：実技講習（午前・午後） 第 18 回目：スノースポーツの安全対策、滑走のフィードバック（講義・グループ発表） 第 19～21 回目（4 日目）：実技講習（午前・午後）、大学へ移動 第 22 回目：まとめ					
教 科 書	適宜資料を配布する。				
参 考 書	適宜資料を配布する。				
備 考	・受講にかかわる必要経費は自己負担となる（予定されている必要経費 50,000 円程度：宿泊費、食事代、リフト代、交通費込み）。レンタル用品・用具は別途必要。 ・募集定員制になります（15 名程度）。				

科 目 名	アダプテッド・スポーツ論			担 当 者	未定
科目ナンバリング	1120212534				
D P	1,2			教員研究室	未定
学科（専攻）	現代社会学科（共通）			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 本講義では、障がい児者や高齢者等が、ルールや用具を改良することにより健常者と同じようにスポーツを実施することができるように工夫されたスポーツ（アダプテッド・スポーツ）を理解し指導および支援するために必要な知識と技術の基礎的な内容を概説およびグループワークする。				【課題等のフィードバック方法】 講義終了後、質問を受け付け回答する。	
【学習の到達目標】 アダプテッド・スポーツの基本的概念を理解し、障がい児者や高齢者等が安全に楽しくスポーツに取り組むための知識、およびルールや用具の工夫の仕方等の基本的な知識を習得し、レポートにまとめることができる。				【履修上の注意・予習・復習について】 遅刻を認めない。	
【成績評価方法】 課題発表（30％）、レポート（70％）により評価する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 他学部および他専攻にも開講するため、学科および専攻を問わず履修することができ、多領域の視点を相互に学ぶことができる。	
				【実務家教員担当科目】 スポーツ競技団体での勤務経験のある教員がその経験を活かして、障がい児者を含む多様な対象者に対するスポーツ支援の方法を講義する。	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	未定	スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質	スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質について調べ、要点をまとめること		4 時間
2	未定	パラスポーツの意義と理念	パラスポーツの意義と理念について調べ、要点をまとめること		4 時間
3	未定	コミュニケーションスキルの基礎	コミュニケーションスキルの基礎について調べ、要点をまとめること		4 時間
4	未定	パラスポーツ推進の取り組み	パラスポーツ推進の取り組みについて調べ、要点をまとめること		4 時間
5	未定	パラスポーツに関する諸施策	パラスポーツに関する諸施策について調べ、要点をまとめること		4 時間
6	未定	安全管理	安全管理について調べ、要点をまとめること		4 時間
7	未定	各障がいの理解① 肢体不自由、視覚障がい	肢体不自由、視覚障がいについて調べ、要点をまとめること		4 時間
8	未定	各障がいの理解② 聴覚・音声言語障がい、内部障がい	聴覚・音声言語障がい、内部障がいについて調べ、要点をまとめること		4 時間
9	未定	各障がいの理解③ 知的障がい、発達障がい	知的障がい、発達障がいについて調べ、要点をまとめること		4 時間
10	未定	各障がいの理解④ 精神障がい	精神障がいについて調べ、要点をまとめること		4 時間
11	未定	全国障害者スポーツ大会の概要	全国障害者スポーツ大会の概要について調べ、要点をまとめること		4 時間
12	未定	障がい者のスポーツ指導における留意点①	障がい者のスポーツ指導における留意点について調べ、要点をまとめること		4 時間
13	未定	障がい者のスポーツ指導における留意点②	障がい者のスポーツ指導における留意点について調べ、要点をまとめること		4 時間
14	未定	障がい者のスポーツ指導における留意点③	障がい者のスポーツ指導における留意点について調べ、要点をまとめること		4 時間
教 科 書	適宜資料を配布する。				
参 考 書	イラスト「アダプテッド・スポーツ概論」東京教学社 「障がいのある人のスポーツ指導教本（初級・中級）2020 年改訂カリキュラム対応」ぎょうせい				
備 考	本科目は、（公財）日本パラスポーツ協会公認障がい者スポーツ指導者「初級パラスポーツ指導員」資格取得のための必修科目である。				

科 目 名	アダプテッド・スポーツ基礎実習			担 当 者	○未定・加藤 秀太
科目ナンバリング	1120212535				
D P	3,4			教員研究室	未定
学科（専攻）	現代社会学科（共通）			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式	実 習	授 業 時 間	45 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 本学習では、障がい児者が日頃取り組んでいるスポーツやレクリエーション、フィットネス、トレーニング等に関する学内および学外の活動体験を通じて、障がい者児のために工夫された技術やルール、および、体力・健康増進、機能回復のためのプログラムのポイントを理解・習得する。 【学習の到達目標】 障がい児者を含めた全実施者に適応したアダプテッド・スポーツの実践およびサポート活動を通じて、ルールや基本的なスポーツ技術、支援方法を習得することができる。 【成績評価方法】 課題達成度（70％）、レポート（30％）により評価する。 【課題等のフィードバック方法】 講義終了後、質問を受け付け回答する。 【履修上の注意・予習・復習について】 体育館で実習するだけでなく、学内外のイベント運営を行いながら障がい当事者と交流する場面もあるため、受講態度には十分注意すること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 他学部および他専攻にも開講するため、学科および専攻を問わず履修することができ、多領域の視点を相互に学ぶことができる。 【実務家教員担当科目】 スポーツ競技団体あるいは障がい者スポーツセンターでの勤務経験のある教員が、その経験を活かして、障がい児者を含む多様な対象者に対するスポーツ支援の実習を指導する。					
授 業 計 画					
第 1 ～ 4 回 目：動作や用具の制限下における障がいに応じたスポーツの工夫・実施 第 5 ～ 7 回 目：障がい者との交流 1（陸上競技大会におけるサポート活動） 第 8 ～ 12 回 目：障がい者との交流 2（陸上競技大会におけるサポート活動） 第 13 ～ 15 回 目：各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫 1（チェアワーク、車いすバスケットボール等） 第 16 ～ 19 回 目：各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫 2（ボッチャ、フライングディスク等）、球技系スポーツの工夫と実施（ゴールボール、シッティングバレーボール等） 第 20 回 目：授業のまとめ					
教 科 書	適宜資料を配布する。				
参 考 書	イラスト「アダプテッド・スポーツ概論」東京教学社 「障がいのある人のスポーツ指導教本（初級・中級）2020 年改訂カリキュラム対応」ぎょうせい				
備 考	本科目は、（公財）日本パラスポーツ協会公認障がい者スポーツ指導者「初級パラスポーツ指導員」資格取得のための必修科目である。				

科 目 名	レクリエーション理論			担 当 者	森田 清美
科目ナンバリング	1120212536				常勤
D P	1,2			教 員 研 究 室	3303
学 科（専攻）	現代社会学科（共通）			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 レクリエーションは単なる余暇活動ではなく、健全なライフスタイルを構築する役割を果たすものである。生活の質を向上させ、活性化するためのレクリエーションの役割やあり方、そのための支援論、事業論などの学習を通じて、支援者としての実践能力を高める。本授業はレクリエーション活動の普及・推進を目指したレクリエーション・インストラクター資格の学習内容に沿って、レクリエーションの基礎理論と基礎実技を学ぶ。				【課題等のフィードバック方法】 毎回授業時に前授業の振り返りを行い、授業終了後に質問を受け付け回答する。	
【学習の到達目標】 ・レクリエーションの意義や価値を理解する。 ・レクリエーション支援のためのコミュニケーション能力を高める。 ・様々なレクリエーション活動について知り、楽しさや面白さを理解する。 ・レクリエーションの計画の立案し、実践できる。				【履修上の注意・予習・復習について】 テキストは毎回持参すること。 専用ノートを準備し、資料や振り返りを書く。 はさみ、のり、定規を常備すること。	
【成績評価方法】 定期試験 70%、課題 30%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 本授業は公益社団法人日本レクリエーション協会の「レクリエーション・インストラクター」資格取得のための必修科目である。	
				【実務家教員担当科目】 該当なし	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	森田 清美	学修の目的と資格制度	レクリエーション協会の HP を閲覧し、興味のある内容をピックアップして、ノートにまとめる		
2	森田 清美	基礎理論 1：楽しさと心の元気づくり	レクリエーションの意義、インストラクターの役割についてまとめる		
3	森田 清美	基礎理論 2：ライフステージと心の元気づくり	ライフステージとその課題、レクリエーション活動での楽しさが心を元気にする仕組みについてまとめる		
4	森田 清美	基礎理論 3：心の元気と地域のつながり	レクリエーションを通じた地域のつながりについて事例を調べる		
5	森田 清美	支援論 1：コミュニケーションと信頼づくり	相手に対して信頼感が生じる働きかけについて姿勢や動作、環境等についてまとめる		
6	森田 清美	支援論 2：良好な集団作り	集団のメンバーがコミュニケーションの促進によってお互いを認めあう心理的な仕組みについてまとめる		
7	森田 清美	支援論 3：自主的、主体的に楽しむ力を育む	自主的、主体的に楽しむためにはどのような働きかけが必要か。自分自身の体験をもとにまとめる。		
8	森田 清美	コミュニケーションワーク 1：信頼関係づくりの方法とホスピタリティ	ホスピタリティについて、自身の体験を含めてまとめる		
9	森田 清美	コミュニケーションワーク 2：良好な集団作りの方法アイスブレイキング	アイスブレイキングの種類と方法についてまとめる		
10	森田 清美	コミュニケーションワーク 3：アイスブレイキングのプログラム	モデルプログラムの書写と考察		
11	森田 清美	事業論 1：レクリエーション事業の考え方	事業の意義を理解し、対象者や目的に合わせた事業についての事例を調べる		
12	森田 清美	事業論 1：レクリエーション事業の展開方法	レクリエーション事業を想定した企画案について発表の準備をする		
13	森田 清美	事業論 1：レクリエーションプログラムの組み立て方	事前課題に出されたアイスブレイキングについて計画案を立てる		
14	森田 清美	事業論 1：レクリエーション活動にかかわる安全管理	レクリエーション活動での事故事例について調べる		
教 科 書		「楽しさを通じた心の元気づくり レクリエーション支援の理論と方法」日本レクリエーション協会（この教科書はレクリエーション理論、レクリエーション実技Ⅰ・Ⅱの 3 科目で使用する）			
参 考 書		レクリエーション支援の基礎			
備 考		レクリエーション事業の学習内容では学外授業があります。 問い合わせ担当：森田清美			

科 目 名	キャリア形成Ⅰ			担 当 者	○山尾 貴則・野崎 瑞樹 豊田 正利・森田慎二郎 齊藤 綾美・岡 恵介 崔 博憲・村田 道彦 小渕 高志・鑑 さやか 森田 清美・犬塚 剛 徳田 律子・大竹 伸治 山川 樹・黒沢 麻美 高濱 壮斗・未定
科目ナンバリング	1120212537				常勤
D P	1,4			教員研究室	3304
学科（専攻）	現代社会学科（共通）			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 職業を通じた社会的に自立した生活ができるよう、キャリア形成のための知識を学ぶ。社会を知ることで大学における学びの意味を考え、自己分析をして将来のイメージを掴む。				【課題等のフィードバック方法】 課題内容を担当する講師・科目担当教員からコメントを付して返却する。	
【学習の到達目標】 社会を知るツール、方法を習得し、学びの意味を考え、自己分析と照らし合わせて自身の将来について考えることができる。				【履修上の注意・予習・復習について】 各課題に参加して取り組むことで、社会人基礎力、探す力、選ぶ力が身に付く。出席だけでなく、取り組む姿勢を評価する。	
【成績評価方法】 各回のレポート 60%、最終課題への取り組み・姿勢 20%、受講生の自己評価 20%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 1 年次から 4 年次まで、大学教育を通じてキャリアデザインを考える科目である。卒業後すぐの就職ばかりでなく、生涯の生活設計に役立つ知識を習得することができる。	
				【実務家教員担当科目】 さまざまな領域の実務家を講師に招き、講話、質疑応答の機会を設ける。	

授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	山尾 貴則 他	オリエンテーション	シラバスを読んで科目の概要を理解する。		4 時間
2	山尾 貴則 他	上級生に話を聞く	上級生の話から自分自身の大学での勉強と生活について考える。		4 時間
3	山尾 貴則 他	社会を知る情報源：新聞の読み方	授業の前後で新聞を読み、違いを考察する。		4 時間
4	山尾 貴則 他	学ぶこと・働くことの意味とつながり	企業の方の講話から大学における多様な学びと未来をつないで考察する。		4 時間
5	山尾 貴則 他	コミュニケーションを学ぶ①	授業の前後で友人などにインタビューを行ってみる。		4 時間
6	山尾 貴則 他	コミュニケーションを学ぶ②	授業の前後で友人などにインタビューを行ってみる。		4 時間
7	山尾 貴則 他	社会に貢献するということを考える	ボランティアについて調べる。		4 時間
8	山尾 貴則 他	労働法を学ぶ	授業の前後でアルバイトに関する法律や制度を調べる。		4 時間
9	山尾 貴則 他	将来に対する準備①一般資格	一般資格について調べる。		4 時間
10	山尾 貴則 他	将来に対する準備②専門資格	専門資格について調べる。		4 時間
11	山尾 貴則 他	将来に対する準備③国家公務員	国家公務員について調べる。		4 時間
12	山尾 貴則 他	将来に対する準備④地方公務員	地方公務員について調べる。		4 時間
13	山尾 貴則 他	将来に対する準備④ NPO 職員	NPO について調べる。		4 時間
14	山尾 貴則 他	現在の大学生の就職状況とまとめ	自分の興味関心について考える。		4 時間
教 科 書		指定しない。			
参 考 書		随時紹介する。			
備 考		この科目は 1 年次から 3 年次まで、大学教育を通じてキャリアデザインを考える科目である。			

科 目 名	キャリア形成Ⅱ			担 当 者	○山尾 貴則・野崎 瑞樹 豊田 正利・森田 慎二郎 齊藤 綾美・岡 恵介 崔 博憲・村田 道彦 小渕 高志・鑑 さやか 森田 清美・犬塚 剛 徳田 律子・大竹 伸治 山川 樹・黒沢 麻美 高濱 壮斗・未定
科目ナンバリング	1120212538				常勤
D P	1,4			教 員 研 究 室	3304
学 科（専攻）	現代社会学科（共通）			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 職業を通じた社会的に自立した生活ができるよう、キャリア形成のための知識を学ぶ。社会を知ることで大学における学びの意味を考え、自己分析をして将来のイメージを掴む。				【課題等のフィードバック方法】 課題内容を担当する講師・科目担当教員からコメントを付して返却する。	
【学習の到達目標】 社会を知るツール、方法を習得し、学びの意味を考え、自己分析と照らし合わせて自身の将来について考えることができる。				【履修上の注意・予習・復習について】 各課題に参加して取り組むことで、社会人基礎力、探す力、選ぶ力が身に付く。出席だけでなく、取り組む姿勢を評価する。	
【成績評価方法】 各回のレポート 60%、課題への取り組み・姿勢 20%、自己評価 20%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 1 年次から 4 年次まで、大学教育を通じてキャリアデザインを考える科目である。卒業後すぐの就職ばかりでなく、生涯の生活設計に役立つ知識を習得することができる。	
				【実務家教員担当科目】 さまざまな領域の実務家を講師に招き、講話、質疑応答の機会を設ける。	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	山尾 貴則 他	オリエンテーション	シラバスを読んで科目の概要を理解する。		4 時間
2	山尾 貴則 他	自分を知る①適性検査の種類、狙い	適性検査について自分で調べる。		4 時間
3	山尾 貴則 他	自分を知る②適性検査の種類、狙い	訂正検査の結果をもとに自分の適性について考察する。		4 時間
4	山尾 貴則 他	自己分析① 自分史	過去と現在の自分について考察する。		4 時間
5	山尾 貴則 他	自己分析②自己紹介文	自己分析をもとに自分自身を紹介するキーワードを見つける。		4 時間
6	山尾 貴則 他	プレインターンシップ①オリエンテーション	グループワークに向けて業界研究について調べる。プレゼンテーションの準備をする。		4 時間
7	山尾 貴則 他	プレインターンシップ②グループワーク	調べる業界について、知りたいこと、調べる方法を決める。		4 時間
8	山尾 貴則 他	プレインターンシップ③グループワーク	調べたことをどうまとめるかを考察する。		4 時間
9	山尾 貴則 他	プレインターンシップ④グループワーク	調べたことをどう発表するかを考える。		4 時間
10	山尾 貴則 他	プレインターンシップ⑤発表	発表内容が聴衆にどの程度伝わったのかを考察する。		4 時間
11	山尾 貴則 他	将来の検討	現在と未来の自分について考察する。		4 時間
12	山尾 貴則 他	自己分析③自己分析データベースの作成	自己紹介文の内容を振り返り、自分を紹介するキーワードをあらためて探す。		4 時間
13	山尾 貴則 他	全体のふりかえり、最終課題	講義全体を振り返り、自分の成長を自己評価する。		4 時間
14	山尾 貴則 他	まとめ	今後の進路について考え決める。		4 時間
教 科 書	指定しない。				
参 考 書	随時紹介する。				
備 考	この科目は 1 年次から 3 年次まで、大学教育を通じてキャリアデザインを考える科目である。				

科 目 名		現代社会と人間			担 当 者	山尾 貴則
科目ナンバリング		1120312542				常勤
D P		1,2			教 員 研 究 室	3304
学 科（専攻）		現代社会学科（共通）			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 本授業では、社会学という学問領域の知見を踏まえながら、私たちが生きる現代社会と私たち人間そのものの姿がいかなるものであるかについて受講生とともに考えていく。とりわけ「社会的存在としての人間」、「人間同士のかかわり＝コミュニケーション」、「現代社会の特質」、「現代社会に生きる私たちが抱える困難」といったトピックについて、具体的な事例もまじえて解説する。						
【学習の到達目標】 受講生各自が、現代社会のあり方、その中に生きる私たち人間のあり方について理解し、それらを踏まえて自らの経験を社会的な観点から考えられるようになる。						
【成績評価方法】 各回のコメントシートへの取り組み 20%、ディスカッションへの参加 10%、定期試験 70%						
【課題等のフィードバック方法】 1. コメントシートに質問や感想を記入してもらい、次回の講義の最初に、前回の講義の振り返りとともに回答する。2. メール等で適宜質問を受け付け、回答する。						
【履修上の注意・予習・復習について】 してほしいこと：「自らの問題」として授業内容を理解するという気持ちを持ってください。してほしくないこと：正当な理由のない遅刻をしないこと、スマートフォンをゲーム等で無意味に使用すること。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 受講生各自が、自分自身が経験する諸現象について社会的な観点から理解することができるようになる。						
【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	山尾 貴則	現代社会と人間をとらえるまなざし	社会学の入門書を自分で探して読んでみる。			4 時間
2	山尾 貴則	社会に生まれ落ちる人間 生理的早産、野生児	野生児について調べてみる。授業内容をふまえて自分の日常生活を振り返ってみる。			4 時間
3	山尾 貴則	社会の中で人間に「なる」自我の社会的形成 鏡に映った自我、言葉の獲得	授業内容をふまえて自分の日常生活を振り返ってみる。			4 時間
4	山尾 貴則	人間に「なる」土台としての社会 カスパー・ハウザーを手がかりに	野生児をテーマにした文学作品を見つける。			4 時間
5	山尾 貴則	社会の中で人間同士が関わるということ コミュニケーション	自分自身が経験したコミュニケーションの失敗を振り返ってみる。			4 時間
6	山尾 貴則	社会の中で人間同士が関わるということ 役割の遂行	日常生活で遂行している自分自身の役割が何かを考えてみる。			4 時間
7	山尾 貴則	現代社会における「隠れた役割」感情労働という視点	授業内容を踏まえて自分自身の感情コントロールに関する経験を振り返ってみる。			4 時間
8	山尾 貴則	社会問題と人間 環境問題をてがかりに	自分の身近に存在する環境問題を見つけてみる。			4 時間
9	山尾 貴則	社会問題と人間 環境問題の解決はいかに可能か	自分の身近な環境問題を発見してみる。			4 時間
10	山尾 貴則	社会問題と人間 グローバル化と環境問題	国家を超えた環境問題について調べてみる。			4 時間
11	山尾 貴則	現代社会の姿 排除型社会	自分が生きていく上でのリスクが何かを考えてみる。			4 時間
12	山尾 貴則	現代社会の姿 リスク社会	自分の将来についてどんな課題と不安があるか考えてみる。			4 時間
13	山尾 貴則	現代社会に生きる人間の姿 再帰的自己、親密性の変容	自分の将来についてどんな課題と不安があるか考えてみる。			4 時間
14	山尾 貴則	現代社会に生きる人間の困難 文化的再生産	自分の趣味についてなぜどうしてそれを好きになったのかを考えてみる。			4 時間
教 科 書		なし。				
参 考 書		講義中に適宜紹介する。				
備 考		なし。				

科 目 名		文化人類学		担 当 者	岡 恵介
科目ナンバリング		1120312543			常勤
D	P	1,2		教員研究室	1321
学科（専攻）		現代社会学科（共通）		配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		単 位		選択 2 単位	
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☒ 該当なし			
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 所与の環境とどのようにつきあい、いかにそれを改変して暮らしていくのかは、人類の進化の過程や、地域の民族・住民が共有する文化・価値観によって異なってくる。 このような多様な環境と文化のあり方について、主としてアフリカの狩猟採集民や焼畑農耕民、北上山地山村の農耕民の具体的事例を参照しながら講義し、人類の進化を一方の軸としつつ、環境問題という視点をも絡めながら、文化人類学の基礎を学ぶ。					
【課題等のフィードバック方法】 各講義の最後に時間を設け、質問を受け付け回答する。					
【履修上の注意・予習・復習について】 遅刻は 15 分まで可。 飲食、携帯電話の使用は禁止。ただし、水分補給のためのペットボトルの持ち込みは可。前時のノートを整理してよく復習し、次回の講義範囲の予習をして、講義に臨むこと。板書をしながら講義を進めていくので、ノートを丹念に取ること。					
【受講して得られる効果・メリット、その他】 文化人類学の基礎と人類進化の方向性、人類文化の多様性を具体的な事例に基づいて学ぶことによって、異文化への理解や相対的なスタンスの持ち方と、伝統社会における環境問題を生起させないシステムの理解が、今後の日本社会の再構築における視点として有効であることが学べる。					
【実務家教員担当科目】 なし。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	岡 恵介	授業のすすめ方と、「文化人類学」とはどのような学問か？	人類の歴史と文化及び文化人類学の内容について予習し、板書をもとに様々な学問のなかでの文化人類学の位置づけについてノートをもとに復習する。		4 時間
2	岡 恵介	人類とはいかなる動物か？ 一直立 2 足歩行、道具使用、言語使用、文化の有無	人類とその他動物とを隔てる決定的な違いは何かについて自分で調べて予習し、ノートをもとに様々な視点からの検討を復習する。		4 時間
3	岡 恵介	狩猟採集民の社会① 一農耕を行わない社会の持続可能性	狩猟採集民とはどんな人たちなのか予習し、農耕を行わない社会がなぜ持続的に存続できていたのかについて、ノートをもとに復習する。		4 時間
4	岡 恵介	狩猟採集民の社会② 一労働時間の短さと何よりも平等を重んじる社会	狩猟採集民社会の特徴について予習し、5 つの特徴と、とくに重要な労働時間と平等性についてノートをもとに復習する。		4 時間
5	岡 恵介	狩猟採集民の社会③ 一現代社会との比較	世界の民族の様々な社会の生存戦略について予習し、タイムミニマイザー型社会とエナジーマキシマイザー型社会の類型化が意味するものを、ノートをもとに復習する。		4 時間
6	岡 恵介	焼畑農耕民の社会 一ザンビア国ベンバのチテムネ焼畑とクタナの論理	アフリカの焼畑農耕民の社会について予習し、ベンバの焼畑耕作の特徴と平等性への希求がもたらすものについて、ノートをもとに復習する		4 時間
7	岡 恵介	ネイティブ・アメリカンや北海道アイヌの社会 一中緯度地帯の狩猟採集民	ネイティブ・アメリカンや北海道アイヌの歴史について予習し、中緯度狩猟採集民の社会の特徴と彼らが辿った歴史的過程について、ノートをもとに復習する。		4 時間
8	岡 恵介	農耕民としての日本人 一憑きもの、呪詛、定住化	人口の大半が農民だった江戸時代の日本人の農山村社会について予習し、定住化のメリット・デメリットについて、ノートをもとに復習する。		4 時間
9	岡 恵介	北上山地の暮らし① 一環境・生業・伝承	北上山地の山村の辿ってきた歴史について教科書で予習し、その環境利用や生業複合、伝承について、ノートと教科書をもとに復習する。		4 時間
10	岡 恵介	北上山地の暮らし② 一継承されてきた狩猟採集などの生業文化	北上山地山村の自然環境を利用した生業についてノートと教科書で予習し、山村の生業複合の意味について、ノートと教科書をもとに復習する。		4 時間
11	岡 恵介	北上山地の暮らし③ 一雑穀を中心とする畑作と食文化	北上山地山村の畑作・焼畑、牧畜や森林利用、施肥についてノートと教科書で予習し、その特徴である米を主食としない文化について、ノートと教科書をもとに復習する。		4 時間
12	岡 恵介	北上山地の暮らし④ 一牧畜と森林、畑をめぐるエコシステム	北上山地山村の牧畜や森林利用、施肥についてノートと教科書で予習し、その特徴である生業複合の形成するエコシステムについて、ノートと教科書をもとに復習する。		4 時間
13	岡 恵介	北上山地の暮らし⑤ 一近世以降の飢饉との戦いと救荒食、山地特有の生業	北上山地山村の飢饉の歴史、救荒食、山地の生業についてノートと教科書で予習し、地域の資源を利用したサバイバル・ストラテジーや、それらを成立させた自然環境条件などについて、ノートと教科書をもとに復習する。		4 時間
14	岡 恵介	北上山地山村の暮らしの日本社会における位置づけと授業のふりかえり	これまでの授業をふりかえり、とくに重要であったと考える点についてノートと教科書で予習し、ふりかえりの授業でこれまで十分理解できていなかった点をノートと教科書をもとに復習する。		4 時間
教 科 書		講義の途中からテキスト「増補改訂版 山棲みの生き方」七月社を使用する。			
参 考 書		講義のなかで紹介していく。			
備 考		なし。			

科 目 名		現代社会と福祉		担 当 者	徳田 律子	
科目ナンバリング		1120312544			常勤	
D P		1,2		教員研究室	3302	
学科（専攻）		現代社会学科（共通）		配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 この授業の目的は、社会福祉の歴史的展開の過程を踏まえつつ、社会福祉の原理をめぐる思想・哲学と理論を理解することです。社会福祉の歴史と理念の発展について概説した上で、現代の社会福祉の理論や論点について教授していきます。			【課題等のフィードバック方法】 授業中の課題提出の解説を次回の授業で行います。講義終了後に、質問を受け付け、次回の授業時に回答します。			
【学習の到達目標】 わが国における社会福祉の特性を理解し、現代の社会問題について理解することです。			【履修上の注意・予習・復習について】 指示に従い、必ず予習と復習をしてください。			
【成績評価方法】 予習・復習課題の達成状況（50%）および定期試験（50%）による総合評価とします。			【受講して得られる効果・メリット、その他】 現代社会における社会福祉の形成と展開の過程を理解することができるようになります。			
【実務家教員担当科目】 なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	徳田 律子	オリエンテーション・社会福祉とは：社会福祉の原理を学ぶ	現代社会における生活問題の特徴を整理する		4 時間	
2	徳田 律子	日本の社会福祉の歴史的展開：慈善救済としての福祉のはじまりについて学ぶ	日本の古代史と社会福祉の理念の変遷について調べる		4 時間	
3	徳田 律子	日本の社会福祉の歴史的展開：近代社会における社会事業の展開について学ぶ	日本の近代化の歴史と社会福祉の理念の変遷について調べる		4 時間	
4	徳田 律子	日本の社会福祉の歴史的展開：戦後福祉と社会福祉の展開について学ぶ	戦前の日本の社会福祉の歴史を調べてみよう。		4 時間	
5	徳田 律子	日本の社会福祉の歴史的展開：現代社会における社会福祉基礎構造改革の流れについて学ぶ	戦後の日本の社会福祉の歴史を調べてみよう。		4 時間	
6	徳田 律子	欧米の社会福祉の歴史的展開：イギリスにおける救済事業から社会保障制度までを学ぶ	イギリスの歴史的背景を調べる		4 時間	
7	徳田 律子	欧米の社会福祉の歴史的展開：アメリカにおける社会保険制度のあり方を学ぶ	アメリカの歴史的背景を調べる		4 時間	
8	徳田 律子	欧米の社会福祉の歴史的展開：スウェーデンにおける福祉国家成立までの流れを学ぶ	スウェーデンの歴史的背景を調べる		4 時間	
9	徳田 律子	社会福祉の思想・哲学、理論：人間の尊厳について学ぶ	人間の尊厳について具体例を挙げて考える		4 時間	
10	徳田 律子	社会福祉の思想・哲学、理論：社会正義について学ぶ	社会正義について調べてみる		4 時間	
11	徳田 律子	社会福祉の思想・哲学、理論：平和主義について学ぶ	平和主義とは何かを調べてみる		4 時間	
12	徳田 律子	社会福祉の思想・哲学、理論：現代の社会福祉の理論の基本的な考え方について学ぶ	社会福祉の理論を整理する		4 時間	
13	徳田 律子	社会福祉の対象とニーズ：社会福祉のニーズの理論とその課題について学ぶ	福祉ニーズを整理する		4 時間	
14	徳田 律子	現代社会における社会問題の理解：現代における社会特性から社会問題に対する理解を深める	現代社会福祉の課題を考える		4 時間	
教 科 書		社会福祉概論 その基礎学習のために				
参 考 書		授業中に適宜紹介します。				
備 考		【注意】 この科目は社会福祉士養成科目です。社会福祉士国家試験受験資格の取得に必須の科目です。				

科 目 名	社会福祉政策			担 当 者	小 淵 高 志
科目ナンバリング	1120322545				常 勤
D P	1,2			教 員 研 究 室	1305
学 科（専攻）	現代社会学科（共通）			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式	講 義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選 択 2 単 位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☒ 自主学習支援 ☐ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 社会福祉の政策の決定プロセス、決定要素、実施計画、提供体制などの様々な要因を多面的な視点から明らかにし、その将来像について論じます。				【課題等のフィードバック方法】 授業中の課題提出の解説を次回の授業で行う。講義終了後に、質問を受け付け回答する。授業中にグーグルクラスルームのチャットやアンケートフォームなどを使い、質疑応答や意見交換やグループ・ディスカッションを行います。	
【学習の到達目標】 相談援助活動と福祉政策との関係について理解します。				【履修上の注意・予習・復習について】 指示に従って、必ず予習と復習をしてください。授業の録画を振り返り（復習）、分からないことや理解を深めたいことを、グーグルミートのメッセージ機能を使って質問してください。	
【成績評価方法】 課題レポート（40%）、筆記試験（60%）による総合評価とします。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 社会福祉の政策を、大局的にとらえる力が身につく効果を期待できます。	
				【実務家教員担当科目】 該当なし	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	小 淵 高 志	社会福祉の原理	現代社会における社会福祉の制度や政策についての理解を深めよう。		4 時間
2	小 淵 高 志	社会福祉の概念	社会福祉の概要を調べよう。		4 時間
3	小 淵 高 志	欧米の社会福祉の歴史	欧米の福祉の制度についてその歴史の理解を深めよう。		4 時間
4	小 淵 高 志	日本の社会福祉政策の歴史	日本の福祉の制度についてその歴史の理解を深めよう。		4 時間
5	小 淵 高 志	現代日本の福祉問題	現代日本の福祉についてその問題を把握しよう。		4 時間
6	小 淵 高 志	所得保障	所得保障の制度を理解しよう。		4 時間
7	小 淵 高 志	保健・医療・介護	保健・医療・介護の3つの分野の制度が互いに連携していることを理解しよう。		4 時間
8	小 淵 高 志	福祉サービス	福祉サービスの現状を確認しよう。		4 時間
9	小 淵 高 志	関連政策	福祉領域における関連施策から、支援とその課題を考えよう。		4 時間
10	小 淵 高 志	社会福祉の計画と評価	社会福祉の計画と評価について理解を深めよう。		4 時間
11	小 淵 高 志	福祉制度の費用と財政	福祉制度の費用と財政の動向を把握しよう。		4 時間
12	小 淵 高 志	福祉ニーズと供給システム	福祉ニーズと供給システムについて理解を深めよう。		4 時間
13	小 淵 高 志	福祉政策と市場経済	福祉政策と市場経済の制度における課題を考えよう。		4 時間
14	小 淵 高 志	社会福祉政策の国際的展望	社会福祉政策を国際的に展望してみよう。		4 時間
教 科 書		坂田周一著『社会福祉政策』有斐閣			
参 考 書		授業中に適宜紹介します			
備 考		【注意】 この科目は社会福祉士養成科目です。社会福祉士国家試験受験資格の取得に必須の科目です。			

科 目 名		現代社会学入門Ⅰ		担 当 者		○山尾 貴則・野崎 瑞樹 豊田 正利・森田慎二郎 齊藤 綾美・岡 恵介 崔 博憲・村田 道彦 小渕 高志・鑑 さやか 森田 清美・犬塚 剛 徳田 律子・大竹 伸治 山川 樹・黒沢 麻美 高濱 壮斗・未定
科目ナンバリング		1120322546				常勤
D P		1,2		教員研究室		3304
学科（専攻）		現代社会学科（共通）		配 当 年 次		1 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学习支援 ☑該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 現代社会学部現代社会学科の学生として、社会学、社会福祉学の領域を総合的に学習するために、本授業はオムニバス形式で運営することとし、授業各回を現代社会学科専任教員が交代制で担当し、各専門領域に関する講義を行うこととする。						
【課題等のフィードバック方法】 毎回の講義終了後、質問を受け付け回答する。						
【学習の到達目標】 社会学、社会福祉学の様々な領域を総合的に学ぶことにより、共生社会の実現に必要性を理解するとともに、現代社会学科に学ぶ学生が、その構築のための貴重な担い手であることを自覚し、積極的に、必要な専門性（価値、知識、技術）を身につけようとする素養を養う。						
【履修上の注意・予習・復習について】 毎回のテーマに対する予習、復習をしっかりと行うこと。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 現代社会学科の学生として、社会学、社会福祉学の様々な領域を総合的に学ぶことにより、共生社会の実現に必要性を理解するとともに、現代社会学科に学ぶ学生が、その構築のための貴重な担い手であることを自覚し、積極的に、必要な専門性（価値、知識、技術）を身につけようとする素養を養うことができる。						
【成績評価方法】 小テスト（60%）、各回のコメント（40%）。						
【実務家教員担当科目】 該当しない						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	山尾 貴則	オリエンテーション	新聞、ニュース報道等を通じて、トピックに関連する知識について事前に理解を図る。 共生社会の構築に向けた方策について考察する。			4 時間
2	山尾 他	現代社会におけるマイノリティに関するトピック	新聞、ニュース報道等を通じて、トピックに関連する基本的な知識を事前に理解を図る。			4 時間
3	山尾 他	現代社会における災害と復興に関するトピック	新聞、ニュース報道等を通じて、トピックに関連する基本的な知識を事前に理解を図る。			4 時間
4	山尾 他	現代社会における家族に関するトピック	新聞、ニュース報道等を通じて、トピックに関連する基本的な知識を事前に理解を図る。			4 時間
5	山尾 他	小テスト（1）	新聞、ニュース報道等を通じて、トピックに関連する基本的な知識について事前に理解を図る。			4 時間
6	山尾 他	現代社会における貧困に関するトピック	新聞、ニュース報道等を通じて、トピックに関連する基本的な知識について事前に理解を図る。			4 時間
7	山尾 他	現代社会における社会保障に関するトピック	新聞、ニュース報道等を通じて、トピックに関連する知識について事前に理解を図る。			4 時間
8	山尾 貴則	現代社会における高齢者福祉に関するトピック	前半において最も関心のあった講義についてレポートをまとめる。			4 時間
9	山尾 他	小テスト（2）	新聞、ニュース報道等を通じて、トピックに関連する基本的な知識について事前に理解を図る。			4 時間
10	山尾 他	現代社会における児童福祉に関するトピック	新聞、ニュース報道等を通じて、トピックに関連する知識について事前に理解を図る。			4 時間
11	山尾 他	現代社会におけるエイジングに関するトピック	新聞、ニュース報道等を通じて、トピックに関連する知識について事前に理解を図る。			4 時間
12	山尾 他	現代社会におけるユニバーサルデザインと社会参加に関するトピック	新聞、ニュース報道等を通じて、トピックに関連する知識について事前に理解を図る。			4 時間
13	山尾 他	小テスト（3）	新聞、ニュース報道等を通じて、トピックに関連する知識について事前に理解を図る。			4 時間
14	山尾 貴則	ふり返り	講義全体をふり返り、自分、自分にとって最も重要なトピックが何だったのかを確定する。			4 時間
教 科 書		特に指定しない。				
参 考 書		適宜紹介する。				
備 考		・本科目は現代社会学科専任教員がそれぞれの専門領域にもとづいて毎回交代制で講義を担当する。 ・講義担当教員及び順番は予定であり、事情により変更する場合がある。 ・問合せ教員氏名：山尾貴則				

科 目 名		現代社会学入門Ⅱ		担 当 者		○山尾 貴則・野崎 瑞樹 豊田 正利・森田慎二郎 齊藤 綾美・岡 恵介 崔 博憲・村田 道彦 小渕 高志・鑑 さやか 森田 清美・犬塚 剛 徳田 律子・大竹 伸治 山川 樹・黒沢 麻美 高濱 壮斗・未定
科目ナンバリング		1120322547				常勤
D P		1,2		教員研究室		3304
学科（専攻）		現代社会学科（共通）		配 当 年 次		1 年次・後期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☑該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 現代社会学部現代社会学科の学生として、社会学、社会福祉学の領域を総合的に学習するために、本授業はオムニバス形式で運営することとし、授業各回を現代社会学科専任教員が交代制で担当し、各専門領域に関する講義を行うこととする。						
【課題等のフィードバック方法】 毎回の講義終了後、質問を受け付け回答する。						
【学習の到達目標】 社会学、社会福祉学の様々な領域を総合的に学ぶことにより、共生社会の実現に必要な性を理解するとともに、現代社会学科に学ぶ学生が、その構築のための貴重な担い手であることを自覚し、積極的に、必要な専門性（価値、知識、技術）を身につけようとする素養を養う。						
【履修上の注意・予習・復習について】 毎回のテーマに対する予習、復習をしっかりと行うこと。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 現代社会学科の学生として、社会学、社会福祉学の様々な領域を総合的に学ぶことにより、共生社会の実現に必要な性を理解するとともに、現代社会学科に学ぶ学生が、その構築のための貴重な担い手であることを自覚し、積極的に、必要な専門性（価値、知識、技術）を身につけようとする素養を養うことができる。						
【成績評価方法】 小テスト（60%）、各回のコメント（40%）。						
【実務家教員担当科目】 該当しない						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	山尾 貴則	オリエンテーション	新聞、ニュース報道等を通じて、トピックに関連する知識について事前に理解を図る。 共生社会の構築に向けた方策について考察する。			4 時間
2	山尾 他	現代社会における地域文化に関するトピック	新聞、ニュース報道等を通じて、トピックに関連する基本的な知識を事前に理解を図る。			4 時間
3	山尾 他	現代社会における地域福祉に関するトピック	新聞、ニュース報道等を通じて、トピックに関連する基本的な知識を事前に理解を図る。			4 時間
4	山尾 他	現代社会における地域のメンタルヘルスに関するトピック	新聞、ニュース報道等を通じて、トピックに関連する基本的な知識を事前に理解を図る。			4 時間
5	山尾 他	小テスト（1）	新聞、ニュース報道等を通じて、トピックに関連する基本的な知識について事前に理解を図る。			4 時間
6	山尾 他	現代社会における健康づくりに関するトピック	新聞、ニュース報道等を通じて、トピックに関連する基本的な知識について事前に理解を図る。			4 時間
7	山尾 他	現代社会におけるレクリエーションに関するトピック	新聞、ニュース報道等を通じて、トピックに関連する知識について事前に理解を図る。			4 時間
8	山尾	小テスト（2）	前半において最も関心のあった講義についてレポートをまとめる。			4 時間
9	山尾 他	現代社会におけるメンタルヘルスに関するトピック	新聞、ニュース報道等を通じて、トピック関連する基本的な知識について事前に理解を図る。			4 時間
10	山尾 他	現代社会における精神保健に関するトピック	新聞、ニュース報道等を通じて、トピックに関連する知識について事前に理解を図る。			4 時間
11	山尾 他	現代社会における障害に関するトピック	新聞、ニュース報道等を通じて、トピックに関連する知識について事前に理解を図る。			4 時間
12	山尾 他	現代社会における「当事者」に関するトピック	新聞、ニュース報道等を通じて、トピックに関連する知識について事前に理解を図る。			4 時間
13	山尾 他	小テスト（3）	新聞、ニュース報道等を通じて、トピックに関連する知識について事前に理解を図る。			4 時間
14	山尾	ふり返り	全体の講義についてふり返り、自分にとって最も重要なトピックが何だったのかを確定する。			4 時間
教 科 書		特に指定しない。				
参 考 書		適宜紹介する。				
備 考		・本科目は現代社会学科専任教員がそれぞれの専門領域にもとづいて毎回交代制で講義を担当する。 ・講義担当教員及び順番は予定であり、事情により変更する場合がある。 ・問合せ教員氏名：山尾貴則				

科 目 名	基礎ゼミナールⅠ			担 当 者	○齊藤 綾美・山尾 貴則 豊田 正利・森田慎二郎 野崎 瑞樹・岡 恵介 崔 博憲・村田 道彦 鑑 さやか・森田 清美 犬塚 剛・徳田 律子 大竹 伸治・山川 樹 黒沢 麻美・高濱 壮斗 未定
科目ナンバリング	1120312548				常勤
D P	1,2			教 員 研 究 室	3307
学 科（専攻）	現代社会学科（共通）			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式	演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 10 人程度の少人数で、学習の導入と科学的思考を涵養する授業です。 【学習の到達目標】 自己学習や研究を進める上での実践的スキルを身につけることを目標としています。 【成績評価方法】 知識・技能・表現力（40%）、思考力・判断（30%）、主体的に取り組む態度（30%）で総合的に評価します。 【課題等のフィードバック方法】 演習の開始前、終了後に質問を受けつけ回答する。 初年次ポートフォリオを使用します。 【履修上の注意・予習・復習について】 シラバスの詳細を後日配布します。担当教員（S A）の指示に従って履修してください。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 自己学習や研究を進めるためのスキルが身につきます。きめ細やかな個別指導が行われます。 【実務家教員担当科目】					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	齊藤 綾美	ガイダンス（自己紹介・履修指導・連絡方法の確認・ポートフォリオの説明・学内ツアー・基礎演習スケジュールの確認）	TBGU ハンドブックを読む		1 時間
2	齊藤 綾美	大学のルールを学ぶ	TBGU ハンドブックを読む		1 時間
3	齊藤 綾美	大学における学び	大学で学ぶ意義と目標を考える		1 時間
4	齊藤 綾美	地域社会の現状と課題 1	アクティビティの目的について情報収集する		1 時間
5	齊藤 綾美	地域社会の現状と課題 2	アクティビティの目的について情報収集する		1 時間
6	齊藤 綾美	地域社会の現状と課題 3	アクティビティの目的について情報収集する		1 時間
7	齊藤 綾美	フィールドワークの内容を伝える	アクティビティの内容を整理し説明できるようにする		1 時間
8	齊藤 綾美	仮テーマを決め、議論する	取り組むテーマを考える		1 時間
9	齊藤 綾美	図書館活用の実例	図書館で本を借りる		1 時間
10	齊藤 綾美	本の読み方	借りた本を読む		1 時間
11	齊藤 綾美	新聞記事の読み方	新聞記事を読む		1 時間
12	齊藤 綾美	オンライン記事の活用	オンライン新聞の記事を読む		1 時間
13	齊藤 綾美	ディスカッションの方法	読んだ内容に基づき議論する準備をする		1 時間
14	齊藤 綾美	前期の振り返り	前期の内容を振り返る		1 時間
教 科 書	なし				
参 考 書	各担当教員が適宜指示				
備 考	基礎ゼミナールⅠは、後期配当の基礎ゼミナールⅡと連動する必修科目です。問い合わせは各 S A まで。				

科 目 名	基礎ゼミナールⅡ			担 当 者	○齊藤 綾美・山尾 貴則 豊田 正利・森田慎二郎 野崎 瑞樹・岡 恵介 崔 博憲・村田 道彦 鑑 さやか・森田 清美 犬塚 剛・徳田 律子 大竹 伸治・山川 樹 黒沢 麻美・高濱 壮斗 未定
科目ナンバリング	1120312549				常勤
D P	1,2			教 員 研 究 室	3307
学 科（専攻）	現代社会学科（共通）			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式	演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 10 人程度の少人数クラスで、探究心や職業の基礎を涵養する授業です。				【課題等のフィードバック方法】 演習の開始前、終了後に質問を受けつけ回答する。 諸年次ポートフォリオを使用する。	
【学習の到達目標】 自己学習や研究のスキルの獲得を到達目標とします。				【履修上の注意・予習・復習について】	
【成績評価方法】 知識・技能・表現力（40%）、思考力・判断（30%）、主体的に取り組む態度（30%）で総合的に評価します				【受講して得られる効果・メリット、その他】 担当教員（SA）によるきめ細やかな個別指導が行われます。	
				【実務家教員担当科目】	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	齊藤 綾美	ゼミごとのガイダンス（履修登録、学び）	TBGU ハンドブックを読む		1 時間
2	齊藤 綾美	政府ウェブサイトの利用	省庁のウェブサイトを調べる		1 時間
3	齊藤 綾美	自治体ウェブサイトの利用	仙台市のウェブサイトを調べる		1 時間
4	齊藤 綾美	統計資料の使い方	統計資料が文献でどう使われているか調べる		1 時間
5	齊藤 綾美	大学図書館ウェブサイトの利用	大学図書館bのサイトを閲覧する		1 時間
6	齊藤 綾美	公立図書館ウェブサイトの利用	宮城県図書館のサイトを閲覧する		1 時間
7	齊藤 綾美	説明の方法	根拠をあげて説明する文章をつくる		1 時間
8	齊藤 綾美	研究の社会的意義 1	テーマの社会的意義を考える		1 時間
9	齊藤 綾美	研究の社会的意義 2	テーマの社会的意義を説明する		1 時間
10	齊藤 綾美	発表の方法	発表の方法について調べる		1 時間
11	齊藤 綾美	専攻と学び	志望する専攻の特徴を調べる		1 時間
12	齊藤 綾美	批判的に読む 1	まとめた内容を客観的に読む		1 時間
13	齊藤 綾美	批判的に読む 2	まとめた内容を客観的に読む		1 時間
14	齊藤 綾美	批判的に読む 3	後期の内容を振り返る		1 時間
教 科 書	なし				
参 考 書	各ゼミナー担当教員が適宜指示				
備 考	1 年次配当の現代社会基礎ゼミナールⅠと連動する必修科目です。問い合わせは各SAまで。				

科 目 名		心理学と心理的支援		担 当 者	山川 樹	
科目ナンバリング		1120312552			常勤	
D P		1,3		教員研究室		1204
学科（専攻）		現代社会学科（共通）		配 当 年 次		1 年次・後期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 ☒ 自主学習支援 □該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 本科目は、社会福祉士養成科目の一環として、ソーシャルワーク実践における心理学的知識と支援方法の理解を深めることを目的としている。具体的には、心理学の基礎的な概念と理論を学び、これを実際のソーシャルワークにどのように応用できるかを考察する。本科目では、心理学の多様な分野（生物学的基盤、発達、認知、行動、個人差など）を理解し、それらが福祉や支援活動にどのように関連しているのかを学ぶことが求められる。 前半では心理学に関する基本的知識を学習し、後半ではソーシャルワーク場面で心理学的な知見をどのように活用するかに焦点を当てる。最終的には、履修生が心理学の面白さを実感し、その知識をどのように実践に応用できるか理解することを目指す。						
【課題等のフィードバック方法】 講義に関する質問や講義中に課した課題の答えは、Google フォームで受け付ける。そして回収翌週以降の講義時間内や Google クラスルームを通じて適宜フィードバックする。						
【履修上の注意・予習・復習について】 既に「心理学概論」を履修し心理学の基本的な考え方を理解していることが望ましいが必須ではない。もし「心理学概論」を履修していない場合は講義外での自習が推奨される。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 心理学的視点から個人や集団の心の状態や行動を理解する力が身につく、人間関係を円滑にするためのヒントを得ることができる。これにより、支援者としてだけでなく日常的な人間関係でも役立つスキルが向上すると考えられる。						
【実務家教員担当科目】 該当しない						
【成績評価方法】 毎講義後に課すミニ課題（評価の 40%）、期末レポート（評価の 60%）により評価する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	山川 樹	ガイダンス・心理学の視座	予習：事前にスライド資料とテキストの該当箇所を一読する。 復習：配布された資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。			4 時間
2	山川 樹	心の生物学的基盤	予習：事前にスライド資料とテキストの該当箇所を一読する。 復習：配布された資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。			4 時間
3	山川 樹	感情・欲求・動機づけ	予習：事前にスライド資料とテキストの該当箇所を一読する。 復習：配布された資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。			4 時間
4	山川 樹	感覚・知覚	予習：事前にスライド資料とテキストの該当箇所を一読する。 復習：配布された資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。			4 時間
5	山川 樹	学習・行動	予習：事前にスライド資料とテキストの該当箇所を一読する。 復習：配布された資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。			4 時間
6	山川 樹	認知（記憶・思考・認知バイアス）	予習：事前にスライド資料とテキストの該当箇所を一読する。 復習：配布された資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。			4 時間
7	山川 樹	個人差（知能・パーソナリティ）	予習：事前にスライド資料とテキストの該当箇所を一読する。 復習：配布された資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。			4 時間
8	山川 樹	人と環境（対人行動・集団・組織）	予習：事前にスライド資料とテキストの該当箇所を一読する。 復習：配布された資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。			4 時間
9	山川 樹	人の心の発達過程	予習：事前にスライド資料とテキストの該当箇所を一読する。 復習：配布された資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。			4 時間
10	山川 樹	心の不適応	予習：事前にスライド資料とテキストの該当箇所を一読する。 復習：配布された資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。			4 時間
11	山川 樹	健康生成論	予習：事前にスライド資料とテキストの該当箇所を一読する。 復習：配布された資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。			4 時間
12	山川 樹	心理アセスメント・心理的支援の基本的技法	予習：事前にスライド資料とテキストの該当箇所を一読する。 復習：配布された資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。			4 時間
13	山川 樹	心理療法におけるアセスメントと介入技法の概要	予習：事前にスライド資料とテキストの該当箇所を一読する。 復習：配布された資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。			4 時間
14	山川 樹	ソーシャルワークと心理学	予習：事前にスライド資料とテキストの該当箇所を一読する。 復習：配布された資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。			4 時間
教 科 書		一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟（編）（2021）. 最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 2 心理学と心理的支援, 中央法規 （2,500 円 + 税）				
参 考 書		講義内で適宜紹介する。				
備 考		基本的には講義形式だが、回によってはテキストを輪読し、教員と履修生が対話しながら理解を深める時間を設ける。そのため、履修生一人一人が積極的に疑問点を発言し、理解を深めようとする姿勢が期待される。				

科 目 名	医学概論			担 当 者	遠藤ちつる
科目ナンバリング	1120312553				非常勤
D P	1,3			教 員 研 究 室	非常勤講師室
学科（専攻）	現代社会学科（共通）			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☒ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 人のライフステージにおける心身の変化と健康課題を理解し、公衆衛生の観点から、解決する為の対応方法を理解する				【課題等のフィードバック方法】 授業終了時の、「感想・質問」用紙で把握し、翌週フィードバックを行う	
【学習の到達目標】 身体の構造と機能が理解出来、疾病の予防や、健康の維持増進に必要な知識や対応方法が理解出来る				【履修上の注意・予習・復習について】 毎回授業始めに復習を行うので、前回資料を持参・管理する事	
【成績評価方法】 定期試験：80% 小テスト等：20%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 自分自身の健康に関しての意識が高まる 国家試験対策に繋がる	
				【実務家教員担当科目】 看護師としての臨床経験と、看護学校等での教育経験の下、健康の維持増進・疾病予防等に関して講義する	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	遠藤ちつる	1 ライフステージにおける心身の変化と健康課題 ・心身の加齢と老化	使用テキストの確認 ライフステージ・発達段階・老化等を確認		4 時間
2	遠藤ちつる	2. 健康 ・疾病の概念と国際生活機能分類（ICF）	発達段階・加齢・老化に関して確認		4 時間
3	遠藤ちつる	3. 身体構造と心身機能 ①人体の構造と名称	ライフステージ・ICF に関して確認		4 時間
4	遠藤ちつる	②器官系と臓器の役割 ・循環器系・呼吸器系	人体の構造・名称を確認		4 時間
5	遠藤ちつる	・消化器系・泌尿器系・内分泌系	循環器・呼吸器系の確認		4 時間
6	遠藤ちつる	・神経系・感覚器系・血液	消化器・泌尿器系の確認		4 時間
7	遠藤ちつる	4. 疾病の発生原因と回復過程	神経・感覚器系の確認		4 時間
8	遠藤ちつる	5. リハビリテーションの定義と目的・障害の概要	疾患の発生原因等の確認		4 時間
9	遠藤ちつる	6. 疾病各論①感染症 ②神経疾患・認知症・高次脳機能障害	リハビリテーションの目的や内容を確認		4 時間
10	遠藤ちつる	③脳血管疾患 ④心疾患⑤内分泌⑥呼吸器疾患	感染症・認知症・高次脳機能障害を確認		4 時間
11	遠藤ちつる	⑦泌尿器疾患 ⑧消化器疾患 ⑨血液・免疫疾患	脳・心臓・肺疾患の確認		4 時間
12	遠藤ちつる	⑩感覚器疾患 ⑪精神・発達⑫小児疾患・肢体不自由	消化器・泌尿器・免疫疾患の確認		4 時間
13	遠藤ちつる	⑬高齢者に多い疾患⑭生活習慣病⑮悪性腫瘍と緩和ケア	感覚器・小児疾患等の確認		4 時間
14	遠藤ちつる	7. 公衆衛生の概要 健康増進と保健医療対策	生活習慣病・緩和ケアに関して確認		4 時間
教 科 書		最新「社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座」（中央法規）配布資料			
参 考 書		指定なし			
備 考		なし			

科 目 名	法学概論			担 当 者	秋山まゆみ
科目ナンバリング	1120322554				常勤
D P	1,3			教 員 研 究 室	1121 研究室
学 科（専攻）	現代社会学科（共通）			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☒ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☐ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 法学は、法を対象とし、それを理論的体系的に理解するための学問ですが、これは特殊な人が学ぶものではありません。社会に生きる人は、意識するとしないとを問わず、日常生活の活動の中に法的な側面をもっているため、人は誰しも社会生活を営む限り、法に対する正しい知識が必要となるわけです。 本講義では、法に対する正しい知識を身につけるため、基礎的な法学の知識を習得すると同時に、法的なものの見方、考え方を身に付け、法律に基づいて紛争を解決するための手段を理解していくことを目標とします。また、今後習うであろう憲法、民法、刑法等の法律科目への橋渡しとなる講義を目指します。					
【課題等のフィードバック方法】 講義中にオンラインでミニッツペーパーを配り、疑問点を書いてもらったりミニテスト等に活用します。 次回以降の講義の中で回答・解説等を行います。					
【履修上の注意・予習・復習について】 教科書の指定されたページを事前に読んで、予習しておいてください。					
【受講して得られる効果・メリット、その他】 法制度全般を概観でき、法律専門科目への橋渡しとなる基礎的知識が身に付きます。 法的紛争に巻き込まれた際に、自ら解決へと導くことができるような知識が身に付きます。					
【学習の到達目標】 ①基礎的な法学の知識の習得 ②紛争を解決するための手立てを理解する					
【実務家教員担当科目】 なし					
【成績評価方法】 定期試験・レポート提出等 70% 練習問題、ミニッツペーパーの提出等で判断 30%					

授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	秋山まゆみ	ガイダンス 法とは何か	①下記内容の予習・復習を行う 法と社会生活、法律の役割、法の目的、権利と義務		4 時間
2	秋山まゆみ	法にはどのような形式のものがあるか	①下記内容の予習・復習を行う 法源、法の分類		4 時間
3	秋山まゆみ	実際に法律を使うためには	①下記内容の予習・復習を行う 法の解釈、法と裁判官、法の解釈の方法		4 時間
4	秋山まゆみ	法律に基づいて紛争を解決するためには	①下記内容の予習・復習を行う 法と裁判、裁判制度、公正な裁判を行うための裁判の諸原則		4 時間
5	秋山まゆみ	民法（1）	①下記内容の予習・復習を行う 契約、意思表示、無効、取消し		4 時間
6	秋山まゆみ	民法（2）	①下記内容の予習・復習を行う 制限行為能力者、意思の欠缺		4 時間
7	秋山まゆみ	消費者法（1）	①下記内容の予習・復習を行う 特定商取引法の制定背景、目的		4 時間
8	秋山まゆみ	消費者法（2）	①下記内容の予習・復習を行う 特定商取引法の規制内容		4 時間
9	秋山まゆみ	民法（3）	①下記内容の予習・復習を行う 不法行為		4 時間
10	秋山まゆみ	刑法（1）	①下記内容の予習・復習を行う 犯罪、罪刑法定主義、故意犯処罰の原則		4 時間
11	秋山まゆみ	刑法（2）	①下記内容の予習・復習を行う 刑事手続きの流れ		4 時間
12	秋山まゆみ	憲法（1）	①下記内容の予習・復習を行う 選挙権、国会、内閣		4 時間
13	秋山まゆみ	憲法（2）	①下記内容の予習・復習を行う 個人情報、プライバシー権、知る権利		4 時間
14	秋山まゆみ	まとめ	①下記内容の予習・復習を行う 総まとめ		4 時間
教 科 書		「プレステップ法学」弘文堂			
参 考 書		六法全書を持ってくるのが望ましい。			
備 考		履修者が教室のキャパシティを超えた場合は、必修ではない学生の履修を制限する場合があります。			

科 目 名	経済学概論			担 当 者	坂本 直樹
科目ナンバリング	1120322555				非常勤
D P	1,3			教員研究室	非常勤講師室
学科（専攻）	現代社会学科（共通）			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☒ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☐ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 この講義では、大学生として身につけてほしい経済学の素養を説明する。経済の見方を身につけるには、「経済学的な考え方」を理解することが必要である。ニュースや新聞等で経済事情を語る人々のことを「エコノミスト」というが、エコノミストになるには、社会科学系の学部を卒業する必要はない。経済学的な考え方で世の中の社会現象を説明できるようになることが、エコノミストになるためには必要である。				【課題等のフィードバック方法】 課題として小テストを実施したのち、解説を付けた採点結果を配付する。さらに、それに基づくディスカッションを行う。なお、小テストの提示、解答入力、採点、解説の提示はすべてオンラインにより双方向で行う。	
【学習の到達目標】 経済の知識を増やすのではなく、経済学的な考え方を身につける。具体的には、機会費用の概念による意思決定、比較優位の原理による分業と特化の利益、需要曲線と供給曲線のシフトによる市場の変化、マクロ経済政策の方法、囚人のジレンマなどの理解である。				【履修上の注意・予習・復習について】 教科書を指定しているので、授業計画を見て授業前に該当する章をよく読んでおくこと。	
【成績評価方法】 授業全体で小テストを 20 問出題し（授業 1 回あたり 1、2 問）、1 問あたり 5 点を配点して 100 点により成績を評価する。合格点（60 点）に満たない場合は、10 点満点のレポート課題の提出を認め、小テストとレポートを合算した得点を成績とするが、この場合、成績の上限を 60 点とする。				【実務家教員担当科目】 該当しない。	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	坂本 直樹	ガイダンス（授業の進め方）	予習：シラバスの確認、目次やはしがき等による教科書の概要の確認 復習：シラバスの再確認		4 時間
2	坂本 直樹	経済学への招待（序章）	予習：教科書の通読 復習：教科書の精読・小テスト		4 時間
3	坂本 直樹	選択と取引①（第 1 章）	予習：教科書の通読 復習：教科書の精読・小テスト		4 時間
4	坂本 直樹	選択と取引②（第 1 章）	予習：教科書の通読 復習：教科書の精読・小テスト		4 時間
5	坂本 直樹	需要・供給分析・基礎①（第 2 章）	予習：教科書の通読 復習：教科書の精読・小テスト		4 時間
6	坂本 直樹	需要・供給分析・基礎②（第 2 章）	予習：教科書の通読 復習：教科書の精読・小テスト		4 時間
7	坂本 直樹	需要・供給分析・ビジネスへの応用（第 3 章）	予習：教科書の通読 復習：教科書の精読・小テスト		4 時間
8	坂本 直樹	需要・供給分析・政策への応用（第 3 章）	予習：教科書の通読 復習：教科書の精読・小テスト		4 時間
9	坂本 直樹	GDP・物価・失業①（第 4 章）	予習：教科書の通読 復習：教科書の精読・小テスト		4 時間
10	坂本 直樹	GDP・物価・失業②（第 4 章）	予習：教科書の通読 復習：教科書の精読・小テスト		4 時間
11	坂本 直樹	経済成長と安定化政策①（第 5 章）	予習：教科書の通読 復習：教科書の精読・小テスト		4 時間
12	坂本 直樹	経済成長と安定化政策②（第 5 章）	予習：教科書の通読 復習：教科書の精読・小テスト		4 時間
13	坂本 直樹	ゲーム理論の基礎①（第 6 章）	予習：教科書の通読 復習：教科書の精読・小テスト		4 時間
14	坂本 直樹	ゲーム理論の基礎②（第 6 章）	予習：教科書の通読 復習：教科書の精読・小テスト		4 時間
教 科 書		矢口和宏・坂本直樹編著『経済学概論』（株式会社みらい）			
参 考 書		・伊藤元重『入門経済学（第 4 版）』（日本評論社） ・グレゴリー・マンキュー『マンキュー 入門経済学（第 2 版）』（東洋経済新報社）			
備 考		・授業計画の学習内容にある（ ）の中は教科書の該当章である。 ・授業計画の 5 回目～12 回目は「ミクロ経済学」と「マクロ経済学」の主要なテーマであり、公務員試験との関連が強い。			

科目名		社会学史			担当者	山尾 貴則
科目ナンバリング		1120322556				常勤
D P		1,3			教員研究室	3304
学科（専攻）		現代社会学科（共通）			配当年次	1年次・後期
授業形式		講義	授業時間	30時間	単位	選択 2単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
ICT活用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 本授業では、社会学という学問領域の誕生とその歴史的展開について解説する。その際、単に「何年に誰々が何々という概念を提示した」といった年次と項目の羅列にとどまらず、各時代、各地域の社会学者たちがどんな問題意識を有していたのか、その背景にはいかなる社会状況や社会問題があったのかをもあわせて解説する。そのことを通して、受講生が、社会学を「先人たちの血の通った知の営み」として理解できるように努める。						
【課題等のフィードバック方法】 1. コメントシートに質問や感想を記入してもらい、次の講義の最初に、前回の講義の振り返りとともに回答する。2. メール等で適宜質問を受け付け、回答する。						
【履修上の注意・予習・復習について】 してほしいこと：「自らの問題」として授業内容を理解するという気持ちをもって受講すること。してほしくないこと：正当な理由のない遅刻をしないこと、スマートフォンをゲーム等で無意味に使用すること。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 主要な社会学者の問題関心や時代背景をふまえて、社会学理論を「血の通ったもの」として理解することができるようになる。その上で現代の私たちの社会を把握するツールとして使ってみることができるようになる。						
【実務家教員担当科目】 該当なし。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	山尾 貴則	社会学史を学ぶ理由、社会学の夜明け コント	奥村隆『社会学の歴史Ⅰ』第7章を読んでみる。			4時間
2	山尾 貴則	社会から個人をみる 1 デュルケム	宮島喬『自殺論』を読んでみる。			4時間
3	山尾 貴則	社会から個人をみる 2 デュルケム	宮島喬『自殺論』を読んでみる。			4時間
4	山尾 貴則	個人から社会をみる 1 ウェーバー	橋本努『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』を読んでみる。			4時間
5	山尾 貴則	個人から社会をみる 2 ウェーバー	橋本努『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』を読んでみる。			4時間
6	山尾 貴則	個人と個人の関係から社会を考える ジンメル	菅野仁『ジンメル つながりの哲学』を読んでみる。			4時間
7	山尾 貴則	人々の日常への接近 シカゴ学派 ミード	那須他『クロニクル社会学』第12章を読んでみる。			4時間
8	山尾 貴則	人々の相互行為への接近 シンボリック相互行為論、エスノメソドロジー	那須他『クロニクル社会学』第13、15章を読んでみる。			4時間
9	山尾 貴則	相互行為における役割の重要性 ゴフマン	那須他『クロニクル社会学』第14章を読んでみる。			4時間
10	山尾 貴則	社会をシステムとしてみる パーソンズ	那須他『クロニクル社会学』第2章を読んでみる。			4時間
11	山尾 貴則	現場で「使える」理論へ マーティンとストラウス	奥村他『社会学の歴史Ⅰ』第7章を読んでみる。			4時間
12	山尾 貴則	ファシズムと社会学 フランクフルト学派の歩み	奥村他『社会学の歴史Ⅰ』第8章を読んでみる。			4時間
13	山尾 貴則	現代をとらえる社会学 1 ギデンズ	那須他『クロニクル社会学』第17章を読んでみる。			4時間
14	山尾 貴則	現代をとらえる社会学 2 ブルデュー	那須他『クロニクル社会学』第16章及び岸政彦『ブルデュー ディスタンクシオン 「私」の根拠を開示する』を読んでみる。			4時間
教科書		なし。				
参考書		奥村隆、『社会学の歴史Ⅰ—社会という謎の系譜』、有斐閣。宮島喬、『デュルケム自殺論』、有斐閣新書。橋本努、『解説 ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』』、講談社選書メチエ。菅野仁、『ジンメル つながりの哲学』、NHK ブックス。那須壽他、『クロニクル社会学—人と理論の魅力を語る』、有斐閣アルマ。岸政彦、『ブルデュー ディスタンクシオン 「私」の根拠を開示する』、NHK 出版。				
備考		なし。				

科 目 名		政治学		担 当 者	王 元						
科目ナンバリング		1120322557			常勤						
D P		1,3		教員研究室	1324						
学科（専攻）		現代社会科学（共通）		配 当 年 次	1 年次・後期						
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位					
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし									
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない						
【授業内容】 人間は社会的動物である。政治は人間の社会的利害を調整するしくみである。人々が生活する社会における秩序を形成し、維持し、修正し、また時には破壊することを通じて実行される活動と手段である。 政治学は古代ギリシアに誕生して以来、長い歴史を刻んできた。しかし、政治行動の判断基準や結論には必ずしも法則性があるとはいえない。むしろ、政治を担う人の個性やイデオロギー、感情、さらには偶然性に左右される側面もある。総合的に知識や手法も駆使して最善の政策決定を促すところに、政治学の目的や妙味がある。 政治学の基礎知識と発想方法を解説する。政治学の面白さと大切さを伝え、政治現象一般を把握する視点を身に付けてもらうことがこの講義のねらいである。講義形式を基本とする。ただし適宜ビデオ教材を利用する。						【課題等のフィードバック方法】 授業終了後、質問を受け付け、回答します。 【履修上の注意・予習・復習について】 私語及び携帯電話の使用禁止。 受け身にならず、自ら探究心を持つことが重要だ。 政治問題への関心を抱き、まず新聞を読む習慣を身に付けてほしい。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 政治現象を分析するための概念と手法を身につけ、各種の資格試験に必要な政治分野の基礎知識を学ぶことができる。 【実務家教員担当科目】 該当なし					
【学習の到達目標】 近代社会の特徴、主たる政治思想の歴史、自由主義と民主主義の思想などについて基本的な知識を習得することをめざす。併せて政治現象への洞察力を高め、政治判断の能力を培いたい。											
【成績評価方法】 定期試験（50%）、課題提出や、授業での発言・質問など（50%）。											
授 業 計 画											
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間								
			予習・復習								学修時間
1	王 元	ガイダンス：政治学概念と体系	政治とは何か 政治学とは何								4 時間
2	王 元	国家統治と主権	主権概念の史的経緯 市民社会・国民国家の成立と政治的統合								4 時間
3	王 元	権力	権力の性質、支配・権威・リーダーシップ・影響とソフトパワー								4 時間
4	王 元	集権と分権	政治集権と中央・地方の権力関係 地方自治の意義・過疎と過密								4 時間
5	王 元	政治参加	代表制の類型と選挙制度 投票行動と政治無関心								4 時間
6	王 元	選挙と投票行動	選挙の諸原則 代表制と選挙制度								4 時間
7	王 元	政党政治	代議制民主主義における政党の機能と組織 議会の機能・審議過程と野党の役割								4 時間
8	王 元	世論と政治	マスメディアと世論の形成 圧力団体発生の原因と活動								4 時間
9	王 元	官僚制	政治と行政 官僚制の概念と官僚制化								4 時間
10	王 元	代表的な政治体制	議院内閣制、大統領制と党国体制 米国、英国、日本と中国などそれぞれの特徴								4 時間
11	王 元	政治文化と政治発展	政治意識 民主主義の維持と拡大								4 時間
12	王 元	国際政治	国際政治と国内政治 グローバリゼーション								4 時間
13	王 元	地政学	地理的な視点から人類政治を巨視的に見る								4 時間
14	王 元	現代政治の課題	福祉国家の成立、維持と発展								4 時間
教 科 書		教科書は用いず、適宜プリントを配布する。									
参 考 書		堀江湛・岡沢憲夫編『現代政治学』（法学書院、2011）。									
備 考		日々の新聞を読み、国内と国際政治情勢の把握に努められたい。									

科 目 名	社会学と社会システム			担 当 者	齊藤 綾美
科目ナンバリング	1120322558				常勤
D P	1,3			教員研究室	3307
学科（専攻）	現代社会学科（共通）			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 本講義では、現代日本社会の様々な社会現象に関するテキストを読みながら、社会学的な考え方を理解し、身につけることを目的とする。自らの経験を踏まえたうえで、「社会」について自覚的にとらえ、自分と社会の関係性について考える。				【課題等のフィードバック方法】 要望があればクラスルームで試験結果についてフィードバックする。	
【学習の到達目標】 1. 社会学の基本的な考え方を理解し、説明することができる。2. 様々な社会現象について説明することができる。3. 社会問題について自分の意見を述べることができる。4. 自分と社会の関係性について社会学的な視点からとらえ、説明することができる				【履修上の注意・予習・復習について】 【受講して得られる効果・メリット、その他】 社会学に関する基本的な考え方を身につけることができる。社会現象や社会問題に関する知識を獲得し、考えることができる。	
【成績評価方法】 定期試験（100%）				【実務家教員担当科目】	

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	齊藤 綾美	ガイダンス：社会学とは	社会学とは何かを書籍、ウェブ等を利用して整理する。	4 時間
2	齊藤 綾美	近代化と社会学の歴史	近代化の時期、内容について調べる。	4 時間
3	齊藤 綾美	アイデンティティ（自己と他者、社会化、相互行為）	自分らしさとは何かについて考え、必須の要素をリスト化する。	4 時間
4	齊藤 綾美	スポーツ	スポーツの社会的意義について考える。	4 時間
5	齊藤 綾美	ツーリズム	観光の功罪について調べる。	4 時間
6	齊藤 綾美	文化（社会構造）	文化からイメージするもの、社会との関係について考える。	4 時間
7	齊藤 綾美	ジェンダー	ジェンダーに関する新聞記事を調べる。	4 時間
8	齊藤 綾美	恋愛と結婚	恋愛・結婚に関する新聞記事を収集する。	4 時間
9	齊藤 綾美	家族	家族に関する新聞記事を収集する。	4 時間
10	齊藤 綾美	地域社会	地域社会に関する新聞記事を収集する。	4 時間
11	齊藤 綾美	障がい（健康、差別、偏見）	障がいや健康に関する新聞記事を収集する。	4 時間
12	齊藤 綾美	環境	環境に関する新聞記事を収集する。	4 時間
13	齊藤 綾美	ボランティア	ボランティアに関する新聞記事を収集する。	4 時間
14	齊藤 綾美	グローバル化（社会変動）	グローバル化に関する新聞記事を収集する。	4 時間
教 科 書		大野哲也、2024 年『社会学が面白いほどわかる本』KADOKAWA。		
参 考 書		長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志、2019 年『社会学（新版）』有斐閣。 社会福祉士を目指す学制は次の参考書も入手することが望ましい。日本ソーシャルワーク教育学校連盟編 2021 年『社会学と社会システム』中央法規。		
備 考				

科 目 名	社会調査の基礎			担 当 者	齊藤 綾美
科目ナンバリング	1120322559				常勤
D P	1,3			教 員 研 究 室	3307
学 科（専攻）	現代社会学科（共通）			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 ニーズの発見、対象者の生活や課題の理解、行政その他機関が発表する調査データの理解など、社会調査に関する知識や能力が、社会調査士やソーシャル・ワーカーには求められる。本講義では、量的調査および質的調査の特徴、歴史、方法、意義と限界について解説する。				【課題等のフィードバック方法】 テストの結果について要望があれば、追再試後にクラスルームに掲示する。	
【学習の到達目標】 1. 社会調査の概要と方法について説明できる。2. 量的調査と質的調査の意義と限界について説明できる。3. 調査リテラシーを獲得する。4. 簡単な調査票や質問紙を作成することができる。				【履修上の注意・予習・復習について】 シラバスの詳細を後日配布します。担当教員（S A）の指示に従って履修してください。	
【成績評価方法】 レポート課題（50%）、定期試験（50%）				【受講して得られる効果・メリット、その他】 1. 量的調査と質的調査の特徴を知ることができる。2. 調査リテラシーを獲得することができる。3. 簡単な社会調査を計画することができる。4. 調査の善し悪しについて評価することができる。	
				【実務家教員担当科目】 該当せず。	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	齊藤 綾美	調査とは何か	社会調査とは何か、福祉調査について整理する。		4 時間
2	齊藤 綾美	調査の実例 1（公的調査、世論調査）	「国勢調査」、「世論調査」とは何か調べ、特徴を整理する。		4 時間
3	齊藤 綾美	調査の実例 2（学術調査、マーケティング・リサーチ、その他）	学術調査、マーケティング・リサーチの特徴を整理する。		4 時間
4	齊藤 綾美	調査方法論	社会調査法の特徴を整理する。		4 時間
5	齊藤 綾美	調査の歴史	過去の社会調査にはどのようなものがあるか、整理する。		4 時間
6	齊藤 綾美	調査の過程と調査倫理	調査倫理とは何か整理する。		4 時間
7	齊藤 綾美	量的調査 1：量的調査の特徴、測度水準と調査規模・スケジュール・費用・対象・方法の決定	量的調査の特徴について調べる。		4 時間
8	齊藤 綾美	量的調査 2：調査票作成	調査票を作成するうえで、どのような点に注意すべきか調べる。		4 時間
9	齊藤 綾美	量的調査 3：標本調査	標本調査の考え方について整理する。		4 時間
10	齊藤 綾美	量的調査 4：調査結果の集計	調査結果の集計・分析方法、統計的検定、相関係数、回帰鑑定などの基本的概念について整理する。		4 時間
11	齊藤 綾美	質的調査 1：質的調査の種類と方法	質的調査にはどのような特徴があるか調べる。		4 時間
12	齊藤 綾美	質的調査 2：調査票の作成	調査票を作成する上での注意点について整理する。		4 時間
13	齊藤 綾美	質的調査 3：データ分析	質的調査で得られたデータの分析の仕方について整理する。		4 時間
14	齊藤 綾美	評価方法としての調査	調査やが評価としてどのように使われるか考える。		4 時間
教 科 書		なし。			
参 考 書		一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、2021 年『社会福祉調査の基礎』中央法規。その他については講義時に随時紹介する。			
備 考		社会調査士の資格取得に関わる科目（A「社会調査の基本的事項に関する科目」）である。社会福祉士国家試験科目「社会福祉調査の基礎」に該当する。			

2021～2024 年度入学者用カリキュラム (現代社会学科)

科 目 名	ボランティア探求			担 当 者	渡邊 洋一
科目ナンバリング	112012217				常勤
D P	2,3,4			教員研究室	1124
学科（専攻）	現代社会学科（共通）			配 当 年 次	2 年次・通年
授 業 形 式	実 習	授 業 時 間	90 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 一年次に地域活動・ボランティアの科目を受講した学生を対象に、系統別ボランティア実践者からのレクチャー及びボランティアの実践実習を行い、それまでの講義・実習を受けて、ワークショップ及び実践実習で得たスキルを報告する					
【学習の到達目標】 各種ボランティア活動の実践を通じて、各種ボランティア指導者及び NPO・NGO 実践者・指導者等を目指すことを目的とする					
【成績評価方法】 実践実習活動報告（レポート）及び最終報告会のプレゼンにより評価し、認定される単位は認（2 単位）とする					
【課題等のフィードバック方法】 実際にボランティア活動を行うことで、社会的課題・検証についても学ぶことができる					
【履修上の注意・予習・復習について】 事前に行われるレクチャーを参考に実践実習で求められる活動内容を把握しておくこと また、損害保険の適用を前提とするため、事前に担当教員（単位認定者）へ届出すること					
【受講して得られる効果・メリット、その他】 社会の仕組みを色々な角度から学ぶことで、社会的な視野が拡大すると共に社会的な信用が得られる 一年次の地域活動ボランティアの科目で培われたコミュニケーション能力の向上及び地域活動への理解が深くなる					
【実務家教員担当科目】 系統別ボランティア実践者からのレクチャー及び各施設等でのボランティアの実践実習を行う					
授 業 計 画					
1. ボランティア活動講座 講義Ⅰ 基礎講座（一年次の講座の確認） 講師：本学専任教員 講義Ⅱ～Ⅵ 系統別実践者からのレクチャー（講義・演習等） 講師：外部講師 環境系・福祉系（高齢・障害者・母子・児童福祉） ・生涯学習系・地域振興系 2. ボランティア活動実践実習 講義Ⅱ～Ⅵから 1・2 箇所選択し、都合 10 時間程度の実習を行い、実習活動報告書（レポート）を提出 3. ボランティア活動総括 ・それまでの講義・実践実習活動に関するワークショップ（連講 2 コマ） ・実践活動の報告会（1 コマ）					
教 科 書	使用しない、必要に応じて資料を配布				
参 考 書	講義時に必要に応じて紹介				
備 考	実践実習を伴うため、事業日以外の日程で実施する場合もあり、特に土日、夏季・冬季の休業期間を充てることも多く、また夜間の活動も含めて考慮すること				

科 目 名	現代文章表現			担 当 者	大泉 浩一
科目ナンバリング	112021218				非常勤
D P	1			教 員 研 究 室	非常勤講師室
学 科（専攻）	現代社会学科（共通）			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 14 回の授業で毎回作文を書くことによって、人に伝わる文章を作成するための基本技術を学ぶ。あわせて「人に伝わる」とはどういうことかについて、言葉とコミュニケーションの問題を中心に考察する。 作文が不得意でも受講、単位取得にはまったく問題はない。ただし主に作文提出をもって評価する。				【課題等のフィードバック方法】 作文を添削し、改善点を指摘する。	
【学習の到達目標】 具体的な例を挙げて、自分の考えを他者に明確に伝える文章が作成できるようになること。				【履修上の注意・予習・復習について】 遅刻・私語等には厳しく対応する。出席不良の場合は評価対象外とする。	
【成績評価方法】 毎回の作文課題 50%、最終課題（長い作文） 50%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 「学習の到達目標」に同じ。 他の講義や実習で書くレポート、また就職活動で書く履歴書・エントリーシート・小論文試験、卒業後に仕事で書く文章の作成に役立つ。	
【実務家教員担当科目】 該当しない					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習	学修時間	
1	大泉 浩一	オリエンテーション	高校までに習った作文・小論文の書き方を確認してくる。講義の内容を確認する。		4 時間
2	大泉 浩一	説明文の書き方（1）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。		4 時間
3	大泉 浩一	説明文の書き方（2）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。		4 時間
4	大泉 浩一	報告文の書き方（1）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。		4 時間
5	大泉 浩一	報告文の書き方（2）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。		4 時間
6	大泉 浩一	何を書くか・どう書くか（1）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。		4 時間
7	大泉 浩一	何を書くか・どう書くか（2）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。		4 時間
8	大泉 浩一	コミュニケーションと言葉（1）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。		4 時間
9	大泉 浩一	コミュニケーションと言葉（2）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。		4 時間
10	大泉 浩一	コミュニケーションと言葉（3）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。		4 時間
11	大泉 浩一	コミュニケーションと言葉（4）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。		4 時間
12	大泉 浩一	コミュニケーションと言葉（5）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。		4 時間
13	大泉 浩一	言葉の世界の広がり	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。		4 時間
14	大泉 浩一	まとめ	返却された作文を読み直し、反省点を次の機会に活かす。		4 時間
教 科 書	なし				
参 考 書	授業内で随時紹介する。				
備 考	なし				

科 目 名	現代文章作法			担 当 者	大泉 浩一
科目ナンバリング	112021219				非常勤
D P	1			教 員 研 究 室	非常勤講師室
学 科（専攻）	現代社会学科（共通）			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 1 年次前期「現代文章表現」の発展的内容で、「経験に基づいて考えを書く」から「事実に基づいて意見を書く」へとステップアップする。本を読み、インターネットなどを用いて調べ、自分の責任で意見を表明するためのトレーニングを行う。 【学習の到達目標】 大学生・社会人に求められる「読んで調べて意見を書く」能力を身につけ、説得力のある文章が作成できるようになること。 【成績評価方法】 毎回の作文課題 50%、最終課題（長い作文） 50%。 【課題等のフィードバック方法】 作文を添削し、改善点を指摘する。 【履修上の注意・予習・復習について】 遅刻・私語等には厳しく対応する。出席不良の場合は評価対象外とする。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 「学習の到達目標」に同じ。 他の講義や実習で書くレポート、また就職活動で書く履歴書・エントリーシート・小論文試験、卒業後に仕事で書く文章の作成に役立つ。 【実務家教員担当科目】 該当しない					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	大泉 浩一	オリエンテーション	1 年次前期「現代文章表現」の内容を復習してくる。講義の内容を確認する。		4 時間
2	大泉 浩一	読んで書く（1）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。		4 時間
3	大泉 浩一	読んで書く（2）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。		4 時間
4	大泉 浩一	調べて書く（1）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。		4 時間
5	大泉 浩一	調べて書く（2）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。		4 時間
6	大泉 浩一	読んで調べて書く（1）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。		4 時間
7	大泉 浩一	読んで調べて書く（2）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。		4 時間
8	大泉 浩一	読んで意見を書く（1）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。		4 時間
9	大泉 浩一	読んで意見を書く（2）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。		4 時間
10	大泉 浩一	調べて意見を書く（1）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。		4 時間
11	大泉 浩一	調べて意見を書く（2）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。		4 時間
12	大泉 浩一	読んで調べて意見を書く（1）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。		4 時間
13	大泉 浩一	読んで調べて意見を書く（2）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。		4 時間
14	大泉 浩一	まとめ	返却された作文を読み直し、反省点を次の機会に活かす		4 時間
教 科 書	なし				
参 考 書	授業内で随時紹介する。				
備 考	なし				

科 目 名	健康科学			担 当 者	森田 清美
科目ナンバリング	1120212120				常勤
D P	1			教員研究室	3303
学科（専攻）	現代社会学科（共通）			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 本講義では、今後必要となる自己の健康管理方法の一つである運動について学び、健康づくりのための基本的な知識の理解と生活習慣の改善、良い生活習慣の実践についてを学ぶ。				【課題等のフィードバック方法】 毎回授業時に前授業の復習を行う。また、授業内容からレポートの提出や小テストを課す。	
【学習の到達目標】 ・生活習慣病、メタボリックシンドロームについて理解し運動による予防について理解する。 ・健康診断や形態測定の結果を確認し、自身の健康づくりの必要性に気づく。 ・個々の目的に合わせた健康づくりプログラムを作成・実践できるようになる。				【履修上の注意・予習・復習について】 教科書、参考資料などでの予習、復習を欠かさないこと。	
【成績評価方法】 テスト 50%、課題 20%・小テスト 30%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・自身の健康増進とその維持のために必要な理論や方法について学ぶことができる。 ・健康づくりに必要な運動を計画し、安全に実践する力を養える。	
【実務家教員担当科目】 該当なし					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習	学修時間	
1	森田 清美	健康とは何か	シラバスの内容を確認し、授業内容を整理する		4 時間
2	森田 清美	我が国の健康問題	健康とは何かについて自らの考えを説明できるようにまとめる。健康日本 21 の概要を一読する		4 時間
3	森田 清美	我が国の健康づくり施策	自分が住んでいる町の健康状態を調べ、まとめる		4 時間
4	森田 清美	健康と身体測定（形態測定、体力測定）	体力測定結果、健康診断結果を準備し、自分の健康状態をまとめる		4 時間
5	森田 清美	身体仕組みと構造（骨と筋肉）	授業や資料の中で理解できなかった言葉を挙げ、それについて調べておく		4 時間
6	森田 清美	健康と食事・栄養について	食事バランスガイドや摂取カロリー表を活用して自分の栄養状態を振り返る		4 時間
7	森田 清美	健康づくりと運動・スポーツ	エクササイズガイドを一読する。授業や資料の中で理解できなかった言葉を挙げ、それについて調べておく		4 時間
8	森田 清美	運動処方プロセス	自分の健康づくりへの課題を考え、これから運動を実践するための目的を設定する		4 時間
9	森田 清美	運動プログラムの実際	体力測定の結果を確認しておく。また過去に経験または現在実施している運動・スポーツについてまとめておく。		4 時間
10	森田 清美	健康生活の実現に向けたプログラムの作成	健康や体力維持・増進のために自らの実施できるプログラムを作成しまとめる		4 時間
11	森田 清美	健康診断の活用について	健康診断の利用について学ぶため自身の健康診断の結果を確認しておく		4 時間
12	森田 清美	ヘルスプロモーション、プライマリーヘルスケア	授業や資料の中で理解できなかった言葉を挙げ、それについて調べておく		4 時間
13	森田 清美	健康とヘルスリテラシー	健康情報の入手と意思決定について自らの考えと学習内容をについてまとめる		4 時間
14	森田 清美	全体のまとめ	自己の健康管理、各会の授業内容の復習、まとめ		4 時間
教 科 書		適宜プリント、資料を配布する。			
参 考 書		適宜紹介する			
備 考		新聞や雑誌、テレビなどの健康やスポーツ・身体運動に関するトピックスの動向に注意しておくこと。			

科 目 名	環境論入門			担 当 者	栉川 信弘
科目ナンバリング	1120212123				非常勤
D P	1			教員研究室	非常勤講師室
学科（専攻）	現代社会学科（共通）			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 気候変動や海洋汚染など地球規模の環境問題に焦点をあて、「食」（消費者）と「農」（生産者）および「流通・加工」（運輸・卸/小売・加工業者）などの視点から環境問題に関する経済学および経営学的な解決策について考える。					
【学習の到達目標】 農業や農業関連産業等の経済活動が地球規模の環境問題に関与している点を理解し、環境問題の解決に必要な経済システムの修正を創造する実行可能な手法を提案する。					
【成績評価方法】 担当教員の指示に従う group work と当該活動の成果発表（資料作成を含む）50%、当該発表に関する口頭試問（follow-up）50%の得点配分で成績を評価する。したがって、講義に参加し、指示された活動に全力を尽くすことが単位取得の前提となる。なお、プレゼン資料の作成には Google Slide を使用する。					
【課題等のフィードバック方法】 講義中に質疑応答を実施し、認識不十分と考えられる場合には適切な補足説明を行うこととするが、講義の欠席等によって認識が不足する受講生には自らの責任において修正することを求める。					
【履修上の注意・予習・復習について】 教科書の精読と記載内容の理解は本講義を受講し、単位を取得するための前提条件である。また、presentation は final goal ではなく、口頭試問型の討議を通した follow-up によって brush-up を訓練するための通過点にすぎない。					
【受講して得られる効果・メリット、その他】 地球/地域環境および政治経済構造の健全化を志向する経済学/経営学的思考法が獲得できる。					
【実務家教員担当科目】 該当しない					

授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習	学修時間	
1	栉川 信弘	ガイダンス	講義の全体像と、成績評価の方法を説明する。	4 時間	
2	栉川 信弘	食生活と地球環境問題 ① 何を如何に食べるべきか？	食生活と地球環境の関係や地球環境を守るための食べ方について考える。	4 時間	
3	栉川 信弘	食生活と農業 ② 環境に影響を与えるフードシステム	地球環境を保全する賢い食べ方 ③ 土、水、大気および心身の健康を重視する G A P !	4 時間	
4	栉川 信弘	2025 年という転換期の農業・農法（農業技術体系）	農業の二面性 ④ 農業・農法は地球環境の悪化/改善の双方に影響を与える。2025 年時点における現実？	4 時間	
5	栉川 信弘	農産物市場を考える ⑤ 環境を保全する農業を支援しうる市場？	地球環境を守る農業には担い手の生活保証が不可欠！その役割を担う市場とは？	4 時間	
6	栉川 信弘	フードシステムとして食品流通問題を捉える	EU の新たなスローガン "from Farm to Fork!" その含意と日本国内への導入？交通の恩恵と地球環境問題の解決につながる食品輸送？	4 時間	
7	栉川 信弘	SDGs と農業・農法体系	地球規模の飢餓・飽食 & globalization of food-system ⑥ 食農起点の解決法に関する実行可能性？	4 時間	
8	栉川 信弘	新基本法の政策含意 ⑦ 企業による先端技術の導入！	食料・農業・農村基本法が 2024 年に改訂 ⑧ 家族経営(旧)から法人経営(新)への転換を推進！	4 時間	
9	栉川 信弘	新指標の挿入 ⑨ ex. 地球温暖化係数の最小化 etc.	地球環境問題を解決する新たな農法や新たな農業経営体の創造 ⑩ 激動する国際情勢（chaos）への適応	4 時間	
10	栉川 信弘	排出権市場の普及・拡大	幻想的指標からの脱出と排出権市場導入への挑戦	4 時間	
11	栉川 信弘	総括	食と農の視点からの地球環境問題へのアプローチ	4 時間	
12	栉川 信弘	group-work	group-work on the new type food & farming systems to solve the global environmental problems.	4 時間	
13	栉川 信弘	presentation	presentation of each group/member result	4 時間	
14	栉川 信弘	follow-up	follow-up of group-work & presentation	4 時間	
教 科 書	下川 哲『食べる経済学』（大和書房）				
参 考 書	講義中に関連情報を提供しているインターネット・サイトなどを紹介する。				
備 考	特になし				

科 目 名		情報リテラシー基礎		担 当 者	鈴木眞澄美
科目ナンバリング		1120212126			非常勤
D	P	1		教 員 研 究 室	非常勤講師室
学 科（専攻）		現代社会学科（共通）		配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位
					必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし			
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 情報社会の中で、電子情報を取り扱う際に必要な原則および情報リテラシーを学修する。 レポートの作成などアカデミックスキルに必要な文書作成ソフト（Word）の活用方法を学修する。 【学習の到達目標】 効率よく編集しやすく作成することを目的とした基本操作方法を習得する 【成績評価方法】 練習問題の作成、定期試験などを総合的に評価する。 練習問題・課題の提出（15%）、実技試験（85%） 【課題等のフィードバック方法】 授業終了後（授業前）質問を受け付け確認する。 【履修上の注意・予習・復習について】 出席を原則とする。教室内は飲食禁止。配布された資料や練習問題のプリントのファイリングを行う。 定期試験（実技）のためにも練習問題は各自でしっかりと取り組む。 データ保存用のU S Bメモリー、A 4 ファイルを準備する。 Office のアプリケーションが利用できる環境を整える 【受講して得られる効果・メリット、その他】 Word は、今日の大学生にとって必要不可欠なツールとなっている。 今日の大学生にとって必要不可欠なツールとなっている。 効率的な編集方法を習得することで、今後のさまざまな場面で活用できる。 【実務家教員担当科目】 宮城県から職業訓練講師の委嘱を受け指導している教員が、その経験を活かし、基本的な実習の指導をする。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	鈴木眞澄美	オリエンテーション 大学の情報環境と基礎知識の確認	復習：フォルダーの作成と編集		1 時間
2	鈴木眞澄美	Word-1 基本操作	復習：画面構成、追加設定、日本語辞書、入力から保存		1 時間
3	鈴木眞澄美	Word-2 文書の編集 1	復習：ファイル操作、ページ設定、移動、コピー、置換		1 時間
4	鈴木眞澄美	Word-3 文書の編集 2	復習：ページ設定、文字書式、段落書式（配置） ヘッダーとフッター、ページ番号の挿入		1 時間
5	鈴木眞澄美	Word-4 段落書式 1	復習：段落への配置、拡張書式、インデント、ぶら下げ、 箇条書きと段落番号、文字列の折り返し		1 時間
6	鈴木眞澄美	Word-5 段落書式 2	復習：段落書式 1 の確認 タブ設定		1 時間
7	鈴木眞澄美	Word-6 書式の詳細設定	復習：文字書式、段落書式、ページ書式		1 時間
8	鈴木眞澄美	Word-7 表の挿入と編集 1	復習：表の挿入と書式設定		1 時間
9	鈴木眞澄美	Word-8 表の挿入と編集 2	復習：表内の文字列の配置、表のスタイル		1 時間
10	鈴木眞澄美	Word-9 画像の挿入	復習：画像の編集、表内への画像の挿入		1 時間
11	鈴木眞澄美	Word-10 図形の挿入	復習：図形の挿入手順と編集、文書内への図形の挿入と編集		1 時間
12	鈴木眞澄美	Word-11 ワードアートの挿入	復習：ワードアートの編集手順、文書内への配置		1 時間
13	鈴木眞澄美	Word-12 スマートアートの挿入	スマートアートの挿入手順と編集		1 時間
14	鈴木眞澄美	Word-13 総合練習問題	ページ設定からスマートアート挿入までの確認		1 時間
教 科 書		指定なし。教科書の代わりに使用する資料を配布します。			
参 考 書		情報リテラシー Windows10 Office2019 対応（FOM 出版）			
備 考		なし			

科目名		情報リテラシー応用		担当者	鈴木眞澄美	
科目ナンバリング		1120212127			非常勤	
D P		1		教員研究室	非常勤講師室	
学科（専攻）		現代社会学科（共通）		配当年次	1年次・後期	
授業形式		演習	授業時間	30時間	単位	必修 1単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
ICT活用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 現代の情報社会の中で、豊かな生活を送っていくために必要な情報モラルや情報科学に関する知識を修得する。大学における専門教育に対しより効果的に取り組むために必要な情報スキルと態度について演習を交えて身に付ける。「情報社会のしくみ」「情報の処理と分析」「情報倫理とセキュリティ」の3つのセクションで構成。						
【学習の到達目標】 情報社会のしくみ：学修と生活を進めていく上で身につけておく基本的な情報技術の知識を習得する。情報技術が社会がどのような変化をもたらし、問題を生じるかについて、技術、法律、倫理、活用の4つの面から、自分で調べ考える態度を身に付ける。情報の処理と分析：Word、Excel、PowerPoint等のアプリケーションスキルを修得すると共に、基本的なデータ分析力や論文作成の基礎力、プレゼンテーション力を身に付ける。情報倫理とセキュリティ：情報技術の進歩による社会変化と個人への影響を理解し、デジタル情報社会の脅威に対するセキュリティ意識を高め情報社会へ参画する態度を養い、社会を構成する法及び倫理の重要性を学ぶ。						
【成績評価方法】 練習問題の作成、定期試験などを総合的に評価する。練習問題・課題の提出（15%）、実技試験（85%）						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	鈴木眞澄美	ガイダンス 現代における情報化の実際	復習：情報セキュリティチェック		1時間	
2	鈴木眞澄美	情報とコミュニケーション	復習：メールや SNS の注意点		1時間	
3	鈴木眞澄美	コンピューターの構成とアクセシビリティ	復習：障害とアクセシビリティ機能		1時間	
4	鈴木眞澄美	情報ネットワーク技術の理解	復習：情報通信ネットワークの構成		1時間	
5	鈴木眞澄美	コンピューターリテラシー：Excel データ入力的基础	復習：ワークシートの編集、データ入力的基础、セルの書式設定		1時間	
6	鈴木眞澄美	コンピューターリテラシー：Excel 表の作成	復習：ページ設定、Excel での表の作成、画像の挿入、Word との違い		1時間	
7	鈴木眞澄美	コンピューターリテラシー：Excel グラフの挿入	復習：セルの書式設定、グラフの挿入と編集		1時間	
8	鈴木眞澄美	コンピューターリテラシー：Excel 計算式と関数	復習：セルの書式設定 計算式と関数の挿入手順		1時間	
9	鈴木眞澄美	コンピューターリテラシー：Excel 計算式と関数	復習：セルの書式設定 絶対参照（割合、構成比を求める）		1時間	
10	鈴木眞澄美	コンピューターリテラシー：条件付き書式、抽出	復習：計算式と関数、セルの書式設定 条件付き書式の設定とデータの抽出と並べ替え		1時間	
11	鈴木眞澄美	コンピューターリテラシー：Word と Excel の活用	復習：Word の文書の編集、Excel の表やグラフの作成、貼り付け		1時間	
12	鈴木眞澄美	情報倫理と守秘義務	復習：著作権、不正アクセス法、Excel 練習問題		1時間	
13	鈴木眞澄美	情報セキュリティと個人情報保護法	復習：フィッシング、マルウェア、Wi-Fi と暗号化、Excel 練習問題		1時間	
14	鈴木眞澄美	情報社会への展望と課題	復習：情報化が社会にもたらす影響と課題、Excel 総合練習		1時間	
教科書		指定なし。教科書の代わりに資料を配布します。				
参考書		情報リテラシー Windows10 Office2019 対応（FOM 出版） 事例でわかる情報モラル&セキュリティ 30 テーマ 実教出版				
備考		なし				

科 目 名	英語Ⅲ			担 当 者	馬内 里美
科目ナンバリング	1120222130				常勤
D P	1			教 員 研 究 室	1229
学 科（専攻）	現代社会学科（共通）			配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式	演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 必要な情報のやり取りやコミュニケーションを円滑に進めるなど、ビジネスに限らず日常生活でも応用できる会話表現を、ペアワークなどを通して練習を重ねていく。また関連した内容の文書や手紙の読解やライティングの練習を通じて、総合的な英語力の向上を目指す。				【課題等のフィードバック方法】 課題は次の授業の前に提出してもらい、授業内で解説を行う。	
【学習の到達目標】 ビジネスに関連した基本的語彙を身につける。 日常生活でよく使われる基本的表現を用いた会話ができる。 英文での手紙の形式に慣れる。				【履修上の注意・予習・復習について】 履修条件：「英語基礎Ⅰ」と「英語基礎Ⅱ」の単位を修得していること。 辞書を持参すること。スマートフォン、その他の電子機器の使用は不可とする。	
【成績評価方法】 小テスト 40%、課題 20%、 中間テスト 20%、期末テスト 20%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 語彙力増強 円滑なコミュニケーションに役立つ表現の習得 総合的な英語能力の向上	
				【実務家教員担当科目】 該当者なし	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	馬内 里美	Introduction	予習：会話文の内容および語彙確認 復習：会話口頭練習およびライティング課題		1 時間
2	馬内 里美	Clarifying meanings (1)	予習：会話文の内容および語彙確認 復習：会話口頭練習および語彙習得		1 時間
3	馬内 里美	Clarifying meanings (2)	予習：広告文の内容および手紙の形式 復習：手紙文ライティング課題		1 時間
4	馬内 里美	Phone conversation (1)	予習：会話文の内容および語彙確認 復習：会話口頭練習および数字ディクテーション		1 時間
5	馬内 里美	Phone conversation (2)	予習：会話文の内容および語彙確認 復習：会話口頭練習およびディクテーション		1 時間
6	馬内 里美	Phone conversation (3) 中間テスト	予習：会話の口頭練習および語彙 復習：内容確認		1 時間
7	馬内 里美	Appointments (1)	予習：会話文の内容および語彙確認 復習：会話口頭練習およびライティング課題		1 時間
8	馬内 里美	Appointments (2)	予習：応用会話文作成 復習：ディクテーション		1 時間
9	馬内 里美	Invitation	予習：会話文の内容および語彙確認 復習：会話口頭練習およびライティング課題		1 時間
10	馬内 里美	Location (1)	予習：会話文内容および語彙確認 復習：会話口頭練習および部署名		1 時間
11	馬内 里美	Location (2)	予習：応用会話文作成 復習：メールライティング課題		1 時間
12	馬内 里美	Direction (1)	予習：会話文内容および語彙確認 復習：会話口頭練習およびライティング課題		1 時間
13	馬内 里美	Direction (2)	予習：応用会話文作成 復習：ディクテーション		1 時間
14	馬内 里美	Shopping 期末総復習	予習：会話文内容および語彙確認 復習：確認		1 時間
教 科 書	工藤多恵著 First Steps to Office English（センゲージラーニング）				
参 考 書	特に指定しない				
備 考	9 万語以上の単語を収録した「ジーニアス英和辞典」（大修館）か、それと同等レベルの辞書・電子辞書を用意すること。				

科 目 名		英語Ⅳ		担 当 者		大野 朝子	
科目ナンバリング		1120222131				常勤	
D P		1		教 員 研 究 室		1329	
学 科（専 攻）		現代社会学科（共通）		配 当 年 次		2 年次・後期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	選 択 1 単 位	
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし					
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない	
【授業内容】 世界の法律に関する情報をレベルの高い単語、熟語を使って学ぶ。				【課題等のフィードバック方法】 授業後に質疑応答の時間を設ける。			
【学習の到達目標】 400 語程度の長文を読み、重要な専門用語を身につけ、社会で応用できるようにすること。				【履修上の注意・予習・復習について】 なるべくテキストを購入し、毎回持参すること。毎週の予習と復習課題を提出すること。			
【成績評価方法】 毎週の予習、復習の課題、レポート、プレゼンテーションから総合的に判断する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 英文読解力を高め、豊富なボキャブラリーを身につけ、世界の法律の知識を学ぶ。			
				【実務家教員担当科目】 該当なし			
授 業 計 画							
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間				
			予習・復習				学修時間
1	大野 朝子	オリエンテーション	予習：テキストの目次を読み、教科書全体の内容を把握しておく 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える				1 時間
2	大野 朝子	ドイツの法律（1）	予習：次の Unit の単語を調べる 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える				1 時間
3	大野 朝子	ドイツの法律（2）	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える				1 時間
4	大野 朝子	アメリカの法律（1）	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える				1 時間
5	大野 朝子	アメリカの法律（2）	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える				1 時間
6	大野 朝子	イタリアの法律（1）	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える				1 時間
7	大野 朝子	イタリアの法律（2）	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える				1 時間
8	大野 朝子	ハンガリーの法律（1）	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える				1 時間
9	大野 朝子	ハンガリーの法律（2）	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える				1 時間
10	大野 朝子	中東の法律（1）	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える				1 時間
11	大野 朝子	中東の法律（2）	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える				1 時間
12	大野 朝子	スイスの法律（1）	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える				1 時間
13	大野 朝子	スイスの法律（2）	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える				1 時間
14	大野 朝子	まとめ	予習：教員への質問を考えておく 復習：理解できなかった箇所を重点的に勉強し直す				1 時間
教 科 書		Funny Laws in the World『世界おもしろ比較文化：法律から学ぶ文化事情』（南雲堂）					
参 考 書		開講時に指示する。					
備 考		なし					

科 目 名	キャリア形成Ⅲ			担 当 者	○野崎 瑞樹・山尾 貴則 豊田 正利・森田慎二郎 岡 恵介・崔 博憲 村田 道彦・鑑 さやか 森田 清美・犬塚 剛 徳田 律子・大竹 伸治 山川 樹・黒沢 麻美 高濱 壮斗・未定
科目ナンバリング	1120222145				常勤
D P	2,3			教 員 研 究 室	3309
学 科（専攻）	現代社会学科（共通）			配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 1 年次のキャリア形成Ⅰ・Ⅱを踏まえて、社会を構成するさまざまな業種・職種に触れて視野を広げ、調べ、選ぶ力を修得する。				【課題等のフィードバック方法】 課題内容を担当する講師・科目担当教員からコメントを付して返却する。	
【学習の到達目標】 職業社会について、多面的に理解する。 職場体験型インターンシップとして、事前・実践・事後の学習を通じて、働くことを理解する。				【履修上の注意・予習・復習について】 各課題に参加して取り組むことで、社会人基礎力、調べる力、探す力、選ぶ力が身に付く。出席だけでなく、取り組む姿勢を評価する。	
【成績評価方法】 課題への取り組み 60%、課題の出来栄え 20%、取り組む姿勢 20%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 1 年次から 4 年次まで、大学教育を通じてキャリアデザインを考える科目である。就職活動や卒業後すぐの就職ばかりでなく、生涯の生活設計に役立つ知識を修得することができる。	
				【実務家教員担当科目】 さまざまな領域の実務家を講師に招き、講話、質疑応答の機会を設ける。	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習	学修時間	
1	野崎 瑞樹ほか	オリエンテーション	シラバスを読んで科目の概要を理解する。	4 時間	
2	野崎 瑞樹ほか	職業社会を知る①雇用形態	講話内容について調べ、理解を深める。	4 時間	
3	野崎 瑞樹ほか	職業社会を知る②業種とは	講話内容について調べ、理解を深める。	4 時間	
4	野崎 瑞樹ほか	職業社会を知る③職種とは	講話内容について調べ、理解を深める。	4 時間	
5	野崎 瑞樹ほか	インターンシップ準備①概要	講義内容について具体的に調べ、準備をする。	4 時間	
6	野崎 瑞樹ほか	インターンシップ準備②調べる	受け入れ先企業等について多面的に調べる。	4 時間	
7	野崎 瑞樹ほか	インターンシップ準備③調べる	関連企業・業界等について調べ、情報交換する。	4 時間	
8	野崎 瑞樹ほか	インターンシップ準備④書類作成	必要書類等を準備する。	4 時間	
9	野崎 瑞樹ほか	インターンシップ準備⑤身だしなみ	身だしなみ、振る舞い等のマナーについて調べる。	4 時間	
10	野崎 瑞樹ほか	インターンシップ準備⑥コミュニケーション	対面、文書、電話、メール等のマナーについて調べる。	4 時間	
11	野崎 瑞樹ほか	実践・インターンシップ	事前：準備・確認する。 事後：振り返りを文章化する。	4 時間	
12	野崎 瑞樹ほか	実践・インターンシップ	事前：準備・確認する。 事後：振り返りを文章化する。	4 時間	
13	野崎 瑞樹ほか	実践・インターンシップ	事前：準備・確認する。 事後：振り返りを文章化する。	4 時間	
14	野崎 瑞樹ほか	実践・インターンシップ	事前：準備・確認する。 事後：振り返りを文章化する。	4 時間	
教 科 書		指定しない。			
参 考 書		随時紹介する。			
備 考		この科目は 1 年次から 4 年次まで、大学教育を通じてキャリアデザインを考える科目である。			

科 目 名	キャリア形成Ⅳ			担 当 者	○野崎 瑞樹・山尾 貴則 豊田 正利・森田慎二郎 岡 恵介・崔 博憲 村田 道彦・鑑 さやか 森田 清美・犬塚 剛 徳田 律子・大竹 伸治 山川 樹・黒沢 麻美 高濱 壮斗・未定
科目ナンバリング	1120222146				常勤
D P	3,4			教 員 研 究 室	3303
学 科（専攻）	現代社会学科（共通）			配 当 年 次	2 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 キャリア形成Ⅲを踏まえて、実社会を理解するために必要な知識・能力を修得する。就職試験・実習に必要な知識や能力を養う。				【課題等のフィードバック方法】 課題内容を担当する講師・科目担当教員からコメントを付して返却する。	
【学習の到達目標】 就職・実習で必要とされる知識を身に付ける。 就職・実習で必要とされるコミュニケーション能力を身に付ける。				【履修上の注意・予習・復習について】 各課題に参加して取り組むことで、社会人基礎力、調べる力、探す力、選ぶ力が身に付く。出席だけでなく、取り組む姿勢を評価する。	
【成績評価方法】 課題の達成 60% 課題の出来映え 40%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 1 年次から 4 年次まで、大学教育を通じてキャリアデザインを考える科目である。卒業後すぐの就職ばかりでなく、生涯の生活設計に役立つ知識を修得することができる。	
				【実務家教員担当科目】 さまざまな領域の実務家を講師に招き、講話、質疑応答の機会を設ける。	

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	森田 清美ほか	オリエンテーション	シラバスを読んで科目の概要を理解する。	4 時間
2	森田 清美ほか	インターンシップの報告書作成	報告書を作成する。	4 時間
3	森田 清美ほか	インターンシップ報告会	報告会の準備・振り返りをする。	4 時間
4	森田 清美ほか	自己分析：社会人基礎力	必要な情報を収集する。	4 時間
5	森田 清美ほか	自己分析：エントリーシートを書く	必要な情報を収集する。	4 時間
6	森田 清美ほか	一般常識テスト	自身の力（得意・苦手など）を考察する。	4 時間
7	森田 清美ほか	業界・企業研究①	興味関心のある企業・業界等について調べる。	4 時間
8	森田 清美ほか	業界・企業研究②	興味関心のある企業・業界等について調べる。	4 時間
9	森田 清美ほか	業界・企業研究③	興味関心のある企業・業界等について調べる。	4 時間
10	森田 清美ほか	業界・企業研究④	興味関心のある企業・業界等についてまとめる。	4 時間
11	森田 清美ほか	OBOG メッセージ	講話内容を振り返りを文章化する。	4 時間
12	森田 清美ほか	企業が求める人材①	講話と自己分析とを比較して考察する。	4 時間
13	森田 清美ほか	企業が求める人材②	講話と自己分析とを比較して考察する。	4 時間
14	森田 清美ほか	まとめ：ナビ登録等	振り返り、まとめる。	4 時間
教 科 書		指定しない。		
参 考 書		随時紹介する。		
備 考		この科目は 1 年次から 4 年次まで、大学教育を通じてキャリアデザインを考える科目である。		

科 目 名	キャリア形成Ⅴ			担 当 者	○野崎 瑞樹・山尾 貴則 豊田 正利・森田慎二郎 岡 恵介・崔 博憲 村田 道彦・鑑 さやか 森田 清美・犬塚 剛 徳田 律子・大竹 伸治 山川 樹・黒沢 麻美 高濱 壮斗・未定
科目ナンバリング	1120232147				常勤
D P	3,4			教員研究室	1304
学科（専攻）	現代社会学科（共通）			配 当 年 次	3 年次・通年
授 業 形 式	演習	授 業 時 間	60 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 1 年～2 年のキャリア形成導入科目（必修）を経て、本格的に就職を見据えて個々の力を獲得していく科目。社会学専攻と社会福祉学専攻の合同で行う内容、別々に行う内容がある。社会学専攻は就職活動・就職試験の対策、社会福祉学専攻は社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験対策を主に行う。				【課題等のフィードバック方法】 課題により担当者（学内・学外）からコメントを付けて返却する。	
【学習の到達目標】 社会学専攻は自身の将来を選択する活動に取り組み、具体的な就職活動・就職試験に臨む力を養う。社会福祉学専攻は実習と関連させて専門職としての適性を確認し、国家試験に備える。				【履修上の注意・予習・復習について】 就職活動に向けたガイダンス、説明会、テスト等を授業時間内で行います。	
【成績評価方法】 各課題への取り組み（小レポート）80%、各種テストへの回答 20%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 キャリアサポートセンターや学外の企業等と連携し、就職活動・就職試験に必要とされる情報を提供する。	
				【実務家教員担当科目】 キャリアサポートセンターのキャリアコンサルタント（国家資格）と連携	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容		学修課題・必要な学修時間 予習・復習	
					学修時間
1	犬塚 剛・ 学科教員	オリエンテーション 就職準備を考える		予習：シラバスを読む 復習：内容を踏まえて自分の将来を考える	1 時間
2	犬塚 剛・ 学科教員	就職適性テスト		予習：資料を読む・調べる 復習：授業内容と自分の進路を照合する	1 時間
3	犬塚 剛・ 学科教員	就職ナビ登録 利用方法		予習：資料を読む・調べる 復習：授業内容と自分の進路を照合する	1 時間
4	犬塚 剛・ 学科教員	就職スタートガイダンス		予習：資料を読む・調べる 復習：授業内容と自分の進路を照合する	1 時間
5	犬塚 剛・ 学科教員	夏のインターンシップと参加の意義		予習：資料を読む・調べる 復習：授業内容と自分の進路を照合する	1 時間
6	犬塚 剛・ 学科教員	地元企業へのアプローチ		予習：資料を読む・調べる 復習：授業内容と自分の進路を照合する	1 時間
7	犬塚 剛・ 学科教員	自分の進捗状況を知る		予習：資料を読む・調べる 復習：授業内容と自分の進路を照合する	1 時間
8	犬塚 剛・ 学科教員	就活マナー、インターンシップに向けて		予習：資料を読む・調べる 復習：授業内容と自分の進路を照合する	1 時間
9	犬塚 剛・ 学科教員	先輩からのアドバイス		予習：資料を読む・調べる 復習：授業内容と自分の進路を照合する	1 時間
10	犬塚 剛・ 学科教員	夏のインターンシップ（実践）		予習：資料を読む・調べる 復習：授業内容と自分の進路を照合する	1 時間
11	犬塚 剛・ 学科教員	夏のインターンシップ（振り返り）		予習：資料を読む・調べる 復習：授業内容と自分の進路を照合する	1 時間
12	犬塚 剛・ 学科教員	自分の進捗状況を知る		予習：資料を読む・調べる 復習：授業内容と自分の進路を照合する	1 時間
13	犬塚 剛・ 学科教員	インターンシップの活かし方		予習：資料を読む・調べる 復習：授業内容と自分の進路を照合する	1 時間
14	犬塚 剛・ 学科教員	改めて自己分析		予習：資料を読む・調べる 復習：授業内容と自分の進路を照合する	1 時間
15	犬塚 剛・ 学科教員	SPI 模擬試験		予習：資料を読む・調べる 復習：授業内容と自分の進路を照合する	1 時間
16	犬塚 剛・ 学科教員	就活出陣式		予習：資料を読む・調べる 復習：授業内容と自分の進路を照合する	1 時間
17	犬塚 剛・ 学科教員	企業人事の話		予習：資料を読む・調べる 復習：授業内容と自分の進路を照合する	1 時間
18	犬塚 剛・ 学科教員	自分の進捗状況を知る		予習：資料を読む・調べる 復習：授業内容と自分の進路を照合する	1 時間
19	犬塚 剛・ 学科教員	業界研究セミナー（オンライン）		予習：資料を読む・調べる 復習：授業内容と自分の進路を照合する	1 時間
20	犬塚 剛・ 学科教員	業界研究セミナー（振り返り）		予習：資料を読む・調べる 復習：授業内容と自分の進路を照合する	1 時間
21	犬塚 剛・ 学科教員	社会人講話		予習：資料を読む・調べる 復習：授業内容と自分の進路を照合する	1 時間
22	犬塚 剛・ 学科教員	冬・春のインターンシップと参加の意義		予習：資料を読む・調べる 復習：授業内容と自分の進路を照合する	1 時間
23	犬塚 剛・ 学科教員	合同説明会の歩き方		予習：資料を読む・調べる 復習：授業内容と自分の進路を照合する	1 時間
24	犬塚 剛・ 学科教員	合同説明会への参加		予習：資料を読む・調べる 復習：授業内容と自分の進路を照合する	1 時間
25	犬塚 剛・ 学科教員	合同説明会への参加		予習：資料を読む・調べる 復習：授業内容と自分の進路を照合する	1 時間
26	犬塚 剛・ 学科教員	直前講座（基礎編）		予習：資料を読む・調べる 復習：授業内容と自分の進路を照合する	1 時間
27	犬塚 剛・ 学科教員	直前講座（実践編）		予習：資料を読む・調べる 復習：授業内容と自分の進路を照合する	1 時間
28	犬塚 剛・ 学科教員	総括・出陣		予習：資料を読む・調べる 復習：授業内容と自分の進路を照合する	1 時間
教 科 書	なし。				
参 考 書	随時紹介する。				
備 考	特になし。				

科 目 名	キャリア形成Ⅵ			担 当 者	○野崎 瑞樹・山尾 貴則 森田慎二郎・鑑 さやか 森田 清美・犬塚 剛 徳田 律子・大竹 伸治 黒沢 麻美・高濱 壮斗 未定
科目ナンバリング	1120232148				常勤
D P	2,4			教 員 研 究 室	3305
学 科（専攻）	現代社会学科（共通）			配 当 年 次	4 年次・通年
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 1 年～3 年のキャリア形成で積み上げた力を、本格的に就職に向けて発揮するための力を習得する。また、社会人として求められる知識、スキル、マナーを身につけて、卒後のキャリア形成の基盤を築く。				【課題等のフィードバック方法】 課題により担当者（学内・学外）からコメントを付けて返却する。	
【学習の到達目標】 一般企業等を目指す学生は、具体的な就職活動、就職試験に臨む力を養う。福祉施設等を目指す学生は、資格試験に合格するための力を養う。				【履修上の注意・予習・復習について】 卒業後を踏まえた内容である。	
【成績評価方法】 課題への取り組み 80%、各種テストへの回答 20%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 卒業後もキャリア形成は続く。その基礎となる力を習得し、自らライフプランを立て実践していく力を養う。	
【実務家教員担当科目】 キャリアサポートセンターのキャリアコンサルタント資格（国家資格）をもつ職員と連携する。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	森田慎二郎・学科教員	オリエンテーション	資料を読む。わからないことを調べる。		4 時間
2	森田慎二郎・学科教員	就職活動に向けた書類作成	資料を読む。わからないことを調べる。		4 時間
3	森田慎二郎・学科教員	就職活動に向けた面接対策	資料を読む。わからないことを調べる。		4 時間
4	森田慎二郎・学科教員	社会貢献とは	資料を読む。わからないことを調べる。		4 時間
5	森田慎二郎・学科教員	改めて自己分析	資料を読む。わからないことを調べる。		4 時間
6	森田慎二郎・学科教員	スキルアップできる資格	資料を読む。わからないことを調べる。		4 時間
7	森田慎二郎・学科教員	長期インターンシップ	資料を読む。わからないことを調べる。		4 時間
8	森田慎二郎・学科教員	社会人マナー	資料を読む。わからないことを調べる。		4 時間
9	森田慎二郎・学科教員	社会人スキル	資料を読む。わからないことを調べる。		4 時間
10	森田慎二郎・学科教員	社会人スキル	資料を読む。わからないことを調べる。		4 時間
11	森田慎二郎・学科教員	社会人講話（新入社員）	資料を読む。わからないことを調べる。		4 時間
12	森田慎二郎・学科教員	改めてワークルール	資料を読む。わからないことを調べる。		4 時間
13	森田慎二郎・学科教員	ライフプランの話	資料を読む。わからないことを調べる。		4 時間
14	森田慎二郎・学科教員	まとめ	資料を読む。わからないことを調べる。		4 時間
教 科 書	なし				
参 考 書	随時紹介する。				
備 考	なし。				

科 目 名	現代社会基礎演習Ⅰ			担 当 者	○齊藤 綾美・山尾 貴則 野崎 瑞樹・豊田 正利 森田慎二郎・岡 恵介 崔 博憲・村田 道彦 小渕 高志・鑑 さやか 森田 清美・犬塚 剛 徳田 律子・大竹 伸治 山川 樹・未定
科目ナンバリング	1120312153				常勤
D P	2,4			教 員 研 究 室	3307
学 科 (専攻)	現代社会学科 (共通)			配 当 年 次	1 年次・通年
授 業 形 式	演 習	授 業 時 間	60 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 10 人程度の少人数で、学習の導入と科学的思考を涵養する授業です。 【学習の到達目標】 自己学習や研究を進める上での実践的スキルを身につけることを目標としています。 【成績評価方法】 知識・技能・表現力 (40%)、思考力・判断 (30%)、主体的に取り組む態度 (30%) で総合的に評価します。 【課題等のフィードバック方法】 演習の開始前、終了後に質問を受けつけ回答する。 初年次ポートフォリオを使用します。 【履修上の注意・予習・復習について】 シラバスの詳細を後日配布します。担当教員 (S A) の指示に従って履修してください。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 自己学習や研究を進めるためのスキルが身につきます。きめ細やかな個別指導が行われます。 【実務家教員担当科目】					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	齊藤 綾美	ゼミ毎のガイダンス (自己紹介・履修指導・連絡方法の確認・ポートフォリオの説明・学内ツアー・基礎演習スケジュールの確認)	TBGU ハンドブックを読む		1 時間
2	齊藤 綾美	大学のルールを学ぶ	TBGU ハンドブックを読む		1 時間
3	齊藤 綾美	大学における学び	大学で学ぶ意義と目標を考える		1 時間
4	齊藤 綾美	地域社会の現状と課題 1	地の目的について情報収集する		1 時間
5	齊藤 綾美	地域社会の現状と課題 2	アクティビティの目的について情報収集する		1 時間
6	齊藤 綾美	地域社会の現状と課題 3	アクティビティの目的について情報収集する		1 時間
7	齊藤 綾美	フィールドワークの内容を伝える	アクティビティの内容を整理し説明できるようにする		1 時間
8	齊藤 綾美	仮テーマを決め、議論する	基礎演習で取り組むテーマを考える		1 時間
9	齊藤 綾美	図書館活用の実際	図書館で本を借りる		1 時間
10	齊藤 綾美	本の読み方	借りた本を読む		1 時間
11	齊藤 綾美	新聞記事の読み方	新聞記事を読む		1 時間
12	齊藤 綾美	オンライン記事の活用	オンライン新聞の記事を読む		1 時間
13	齊藤 綾美	ディスカッションの方法	読んだ内容に基づき議論する準備をする		1 時間
14	齊藤 綾美	前期の振り返り	前期の内容を振り返る		1 時間
15	齊藤 綾美	ガイダンス	後期の学びについて考える		1 時間
16	齊藤 綾美	政府ウェブサイトの利用	省庁のウェブサイトを調べる		1 時間
17	齊藤 綾美	自治体ウェブサイトの利用	仙台市のウェブサイトを調べる		1 時間
18	齊藤 綾美	統計資料の使い方	統計資料が文献でどう扱われているか調べる		1 時間
19	齊藤 綾美	大学図書館ウェブサイトの利用	大学の図書館のサイトを閲覧する		1 時間
20	齊藤 綾美	公立図書館ウェブサイトの利用	宮城県図書館のサイトを閲覧する		1 時間
21	齊藤 綾美	説明の方法	根拠をあげて説明する文を作る		1 時間
22	齊藤 綾美	研究の社会的意義 1	テーマの社会的意義を考える		1 時間
23	齊藤 綾美	研究の社会的意義 2	テーマの社会的意義を説明する		1 時間
24	齊藤 綾美	発表の方法	発表の方法について調べる		1 時間
25	齊藤 綾美	専攻と学び	志望する専攻の特徴を調べる		1 時間
26	齊藤 綾美	批判的に読む 1	まとめた内容を客観的に読む		1 時間
27	齊藤 綾美	批判的に読む 2	まとめた内容を客観的に読む		1 時間
28	齊藤 綾美	後期の振り返り	後期の内容を振り返る		1 時間
教 科 書	なし				
参 考 書	各セミナー担当教員が適宜指示				
備 考	基礎演習Ⅰは、原則として 2 年次配当の基礎演習Ⅱと連動する必修科目です。問い合わせは各 S A まで。				

科 目 名		現代社会基礎演習Ⅱ		担 当 者	○齊藤 綾美・山尾 貴則 野崎 瑞樹・豊田 正利 森田慎二郎・岡 恵介 崔 博憲・村田 道彦 小淵 高志・鑑 さやか 森田 清美・犬塚 剛 徳田 律子・大竹 伸治 山川 樹・未定	
科目ナンバリング		1120322154			常勤	
D P		2,4		教 員 研 究 室	3307	
学 科（専攻）		現代社会学科（共通）		配 当 年 次	2 年次・通年	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	60 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 10 人程度の少人数クラスで、探究心や職業の基礎を涵養する授業です。 【学習の到達目標】 自己学習や研究のスキルの獲得を到達目標とします。 【成績評価方法】 知識・技能・表現力（40%）、思考力・判断（30%）、主体的に取り組む態度（30%）で総合的に評価します 【課題等のフィードバック方法】 演習の開始前、終了後に質問を受けつけ回答する。 【履修上の注意・予習・復習について】 シラバスの詳細を後日配布します。担当教員（S A）の指示に従ってください。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 担当教員（S A）によるきめ細やかな個別指導が行われます。 【実務家教員担当科目】						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	齊藤 綾美	ガイダンス（履修登録、学び）	TBGU ハンドブックを読む		1 時間	
2	齊藤 綾美	基礎演習Ⅱのねらいと内容	TBGU ハンドブックを読む		1 時間	
3	齊藤 綾美	大学のルールと学び	大学で学ぶ意義と目標を考える		1 時間	
4	齊藤 綾美	地域社会の現状と課題 1	アクティビティの目的について情報収集する		1 時間	
5	齊藤 綾美	地域社会の現状と課題 2	アクティビティの目的について情報収集する		1 時間	
6	齊藤 綾美	地域社会の現状と課題 3	アクティビティの目的について情報収集する		1 時間	
7	齊藤 綾美	フィールドワークの内容を伝える	アクティビティの内容を整理し話せるようにする		1 時間	
8	齊藤 綾美	文章の読み方	どのような文章をどのように読んでいるのか考える		1 時間	
9	齊藤 綾美	仮テーマを決め、議論する	基礎演習で取り組むテーマを考える		1 時間	
10	齊藤 綾美	文章の要約	主張のある文章を要約する		1 時間	
11	齊藤 綾美	批判的な読み方	主張のある文章を批判的に読む		1 時間	
12	齊藤 綾美	データの見方	データの見方について学ぶ		1 時間	
13	齊藤 綾美	図表の扱い	論文や発表で図・表がどう扱われているか調べる		1 時間	
14	齊藤 綾美	前期の振り返り	前期の内容を振り返る		1 時間	
15	齊藤 綾美	ガイダンス	後期の学びについて考える		1 時間	
16	齊藤 綾美	テーマから問いを深める 1	テーマを掘り下げる		1 時間	
17	齊藤 綾美	テーマから問いを深める 2	テーマについて調べる		1 時間	
18	齊藤 綾美	他者との協力をつうじた学び 1	学園祭にどのように関わるか考える		1 時間	
19	齊藤 綾美	他者との協力をつうじた学び 2	学園祭にどのように関わるか考える		1 時間	
20	齊藤 綾美	他者との協力をつうじた学び 3	学園祭にどのように関わったか考える		1 時間	
21	齊藤 綾美	調査を批判的に見る	既存の調査結果を批判的に見る		1 時間	
22	齊藤 綾美	グループワーク	グループワークの準備・実施		1 時間	
23	齊藤 綾美	引用と注	引用、注のつけかたを調べる		1 時間	
24	齊藤 綾美	研究倫理	研究倫理について調べる		1 時間	
25	齊藤 綾美	論文・発表資料の構成	論文・発表資料の構成について調べる		1 時間	
26	齊藤 綾美	プレゼンと質疑応答	プレゼンと質疑応答の仕方について調べる		1 時間	
27	齊藤 綾美	学びを深める 1	関心のある教員の専門について調べる		1 時間	
28	齊藤 綾美	学びを深める 2	関心のある教員の専門について調べる		1 時間	
教 科 書		なし				
参 考 書		各セミナー担当教員が適宜指示				
備 考		1 年次配当の現代社会基礎演習Ⅰと連動する必修科目です。問い合わせは各 S A まで。				

科 目 名		社会調査法		担 当 者	齋藤 雅哉	
科目ナンバリング		1120322161			常勤	
D	P	1,3		教員研究室	3306研究室	
学科（専攻）		現代社会学科（共通）		配 当 年 次	2 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 私たちが生きる社会の姿、そこに生じている現象・課題は目には見えません。社会調査は、それらをとらえ、可視化する重要な手段です。この授業では、社会調査の一連のプロセスを学びます。具体的には、調査の企画と設計から、仮説の構成、調査方法と対象者の選択、調査票の作成、実査の方法、データの整理・分析にいたるまでを段階的に解説します。なお、量的調査については調査票調査を、質的調査についてはインタビュー調査を取り上げます。						
【学習の到達目標】 1. 社会調査の意義、方法を理解する 2. 目的に適合した調査方法を選択し、実際に調査を企画することができる 3. 社会調査を批判的に検討することができる						
【成績評価方法】 リアクションペーパー、課題への取り組み 50%、レポート（社会調査の企画書）50%						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	齋藤 雅哉	調査を企画する（1）	授業のテーマは「何を調査するのか？」です。配布資料をもとに、調査目的・テーマを明確化・具体化する方法について予習・復習してください。		4 時間	
2	齋藤 雅哉	調査を企画する（2）	授業のテーマは「どうやって調査するのか？」です。配布資料をもとに、社会調査の一連の流れ、いろいろな調査方法について予習・復習してください。		4 時間	
3	齋藤 雅哉	調査を設計する（1）	配布資料をもとに、仮説を立て、具体的な調査目的や調査方法の決定を行う過程について予習・復習してください。		4 時間	
4	齋藤 雅哉	調査を設計する（2）	配布資料をもとに、データの種類（量的・質的）やその収集方法について予習・復習してください。		4 時間	
5	齋藤 雅哉	誰を調査対象にするのか？	授業のテーマは「調査対象の選び方（サンプリング）」です。配布資料をもとに、全数調査と標本調査の考え方、無作為抽出法の意義などについて予習・復習してください。		4 時間	
6	齋藤 雅哉	調査票をつくる（1）	授業のテーマは「質問文・調査票の作成」です。配布資料をもとに、基本的な調査票の構成・枠組みに加え、質問の形式や質問文、選択肢の設定方法などについて予習・復習してください。		4 時間	
7	齋藤 雅哉	調査票をつくる（2）	授業のテーマは「質問文・調査票の作成」です。配布資料をもとに、調査票の作成に際し配慮すべきポイントについて予習・復習してください。		4 時間	
8	齋藤 雅哉	調査票調査をする	配布資料をもとに、調査票の配布・回収方法、回答を返却してくない対象者への対応など、具体的な調査の実施方法について予習・復習してください。		4 時間	
9	齋藤 雅哉	量的データを整理する（1）	配布資料をもとに、自由記述データのコーディングなど、調査票によって収集した調査データの整理手法について予習・復習してください。		4 時間	
10	齋藤 雅哉	量的データを整理する（2）	配布資料をもとに、データ入力的手法に加え、無効票などの基準など、データクリーニングの手法について予習・復習してください。		4 時間	
11	齋藤 雅哉	インタビュー調査をする（1）	配布資料をもとに、質的調査の種類と方法、特にインタビュー調査の意義について予習・復習してください。		4 時間	
12	齋藤 雅哉	インタビュー調査をする（2）	配布資料をもとに、インタビュー調査の具体的な実施方法、調査者が配慮すべきポイントについて予習・復習してください。		4 時間	
13	齋藤 雅哉	質的データを整理する	配布資料をもとに、フィールドノートやインタビュー記録の作成手順や管理方法、基礎的な分析方法について予習・復習してください。		4 時間	
14	齋藤 雅哉	まとめ	授業ではさまざまな調査方法の特徴を生かした調査事例を紹介します。予習・復習では配布資料をもとに、社会調査の意義と課題について整理してください。		4 時間	
教 科 書		特になし。適宜資料を配布します。				
参 考 書		①大谷信介他編（2013）『新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房 ②轟亮他編（2021）『入門・社会調査法（第4版）』法律文化社 他、講義のなかで適宜紹介します。参考書の購入は必須ではありませんが、手元に置き繰り返し読むことで、授業内容のより深い理解につながります。				
備 考		社会調査士の資格カリキュラム B 科目（「調査設計と実施方法に関する科目」）に対応しています。				

科 目 名	産業と労働の社会学			担 当 者	崔 博憲
科目ナンバリング	1120422162				常勤
D P	1,2			教員研究室	3308
学科（専攻）	現代社会学科（社会学専攻）			配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 本授業では、戦後の日本社会を主に労働という視点から学ぶ。事例をとりあげて、誰がどこでどのように働いてきたのか／いるのかについて学び、さまざまな労働現場ではどのような課題や問題があった／あるのかについて解説する。 【学習の到達目標】 戦後日本の労働や産業のあり方を理解し、労働者という視点から課題や問題を発見することができるようになる。 【成績評価方法】 小レポート・コメントシート：50％ 定期試験：50％ 【課題等のフィードバック方法】 質問やコメントについては基本的には授業内で対応するが、内容によっては次回以降の講義やオフィスアワーで対応する。 【履修上の注意・予習・復習について】 事前に配布したテキストや資料等は必ず読んでから授業に参加してください。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 多様な働き手によって支えられている日本社会について理解できる。また、労働者の権利意識を高めることができる。 【実務家教員担当科目】 該当しない。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	崔 博憲	ガイダンス、多様な職業と統計	職業分類や基礎的な統計について学ぶ。		4 時間
2	崔 博憲	大量生産時代と労働	20 世紀以降の産業と労働に関する基礎的な概念を学ぶ。		4 時間
3	崔 博憲	戦後日本の経済復興と日本型雇用慣行	戦後日本の高度経済成長の要因と背景について学ぶ。		4 時間
4	崔 博憲	多様化する働き方と非正規雇用の増加	1980 年代以降増加する多様な非正規の雇用について学ぶ。		4 時間
5	崔 博憲	身体と労働	労働が人びとの心身の健康や生存に与える影響について学ぶ。		4 時間
6	崔 博憲	雇用の不安定化と若者	ロスジェネ世代が経験したことについて学ぶ。		4 時間
7	崔 博憲	労働者の権利とそれを支える運動	労働運動の担い手から労働者の権利とそれを支える運動についてお話を聞く。		4 時間
8	崔 博憲	女性と労働①	日本の労働市場は女性をどのように位置づけているのかを学ぶ。		4 時間
9	崔 博憲	女性と労働②	諸外国との比較を通じて日本で働く女性の状況について学ぶ。		4 時間
10	崔 博憲	労働市場の周縁①	戦後、在日韓国朝鮮人が労働市場でどのように位置づけられていたのかを学ぶ。		4 時間
11	崔 博憲	労働市場の周縁②	バブル期の日本の底辺労働を支えた外国人労働者について学ぶ。		4 時間
12	崔 博憲	労働市場の周縁③日系人・外国人技能実習生	日系人や技能実習生の実態を学ぶ。		4 時間
13	崔 博憲	労働市場の周縁④	労働力としての編入が進む障がい者の実態について学ぶ。		4 時間
14	崔 博憲	まとめ	雇用の柔軟化にどのように向き合うのかについて考える。		4 時間
教 科 書	なし。使用するテキストや資料は配布する。				
参 考 書	適宜紹介する。				
備 考	なし。				

科 目 名	地域社会学			担 当 者	齊藤 綾美
科目ナンバリング	1120422163				常勤
D P	1,2			教 員 研 究 室	3307
学 科（専攻）	現代社会学科（社会学専攻）			配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 地域社会はその規模、範囲、特徴、抱える問題等が異なり多様である。身近にありながら意外に身近でない、それが地域社会である。本講ではそうした地域社会について知識を獲得するとともに、自らその地域について情報を得る方法について学ぶ。グループワーク等を部分的に行いながら地域社会について学ぶ。				【課題等のフィードバック方法】 課題について、採点後に口頭で解説する。	
【学習の到達目標】 1. 地域社会や地域問題について自分の言葉で説明できる。2. 自ら地域にアプローチする方法を知る。3. 地域社会に関する知識を獲得する。				【履修上の注意・予習・復習について】 グループワークをする。	
【成績評価方法】 課題（グループワーク 30%、リアクションペーパー 20%）、定期試験（50%）				【受講して得られる効果・メリット、その他】 地域社会について、身近なこととして考えることができる。地域社会の成り立ちについて理解することができる。	
				【実務家教員担当科目】 該当せず。	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	齊藤 綾美	地域社会学とは何か	地域社会に関する情報をウェブ、書籍などから収集する。		4 時間
2	齊藤 綾美	地域社会の特徴 1: グループワーク 1	地域社会に関する新聞記事を収集する。		4 時間
3	齊藤 綾美	地域社会の特徴 1: グループワーク 2	前回集めた情報を整理しペーパーにまとめる。		4 時間
4	齊藤 綾美	地域社会学の歴史 1: イエとイエ連合	農村についての新聞記事を収集する。		4 時間
5	齊藤 綾美	地域社会学の歴史 2: むら社会	イエやその名残が自分の身の回りにあるか、ないか調べる。		4 時間
6	齊藤 綾美	地域社会学の歴史 3: 村落	村落について調べる。		4 時間
7	齊藤 綾美	地域社会学の歴史 4: 都市	都市に関する新聞記事を収集する。		4 時間
8	齊藤 綾美	地域にかかわる制度と組織 1	自治体に関する新聞記事を収集し、自治体の役割を整理する。		4 時間
9	齊藤 綾美	地域にかかわる制度と組織 2	地域内にある諸組織について調べる。		4 時間
10	齊藤 綾美	想像の共同体	コミュニティというキーワードから新聞記事を収集する。		4 時間
11	齊藤 綾美	地域と祭り	地域にある祭りについて調べる。		4 時間
12	齊藤 綾美	地域社会の課題 1	地域社会の課題①について調べる		4 時間
13	齊藤 綾美	地域社会の課題 2	地域社会の課題②について調べる		4 時間
14	齊藤 綾美	地域社会の課題 3: まとめ	授業を振り返り、地域社会の課題についてまとめる		4 時間
教 科 書		なし			
参 考 書		授業中に随時提示する。			
備 考					

科 目 名		都市社会学		担 当 者	齊藤 綾美	
科目ナンバリング		1120422164			常勤	
D	P	1,2		教 員 研 究 室	3307	
学 科（専攻）		現代社会学科（社会学専攻）		配 当 年 次	2 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 日本は農村社会から都市社会に変化し、今日ではほとんどの地域が都市化されている。本講義では都市とは何かについて、都市でみられる諸現象や、都市化の歴史について解説しながら明らかにする。また東京を例に、都市の成立についても解説する。 【学習の到達目標】 1. 都市とは何か説明できる。2. 都市研究に関わる歴史について説明できる。3. 都市について都市社会学の概念を用いて分析・説明できる。 【成績評価方法】 課題（グループワーク 30%、リアクションペーパー 20%）、定期試験（50%） 【課題等のフィードバック方法】 試験の結果について、要望があれば個別にフィードバックする。 【履修上の注意・予習・復習について】 グループワークをする。グループワーク時は欠席しないこと。地域社会学の履修を前提としている。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 都市の現状や都市問題に関する知識を習得することができる。社会学的な観点から都市の現状について分析することができる。 【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	齊藤 綾美	都市社会学とは何か：都市について考える	都市とは何か考える。		4 時間	
2	齊藤 綾美	都市的なものを探る：グループワーク	都市的なもの / 地域 / コトとは何か調べる。		4 時間	
3	齊藤 綾美	非都市的なものを探る：グループワーク	非都市的なもの / 地域 / コトとは何か調べる。		4 時間	
4	齊藤 綾美	都市社会学の始まりと歴史 1	都市社会学の歴史に関する文献を読む。		4 時間	
5	齊藤 綾美	都市社会学の始まりと歴史 2	都市社会学の歴史に関する文献を読む。		4 時間	
6	齊藤 綾美	都市圏の発展段階	都市がどのように成長するか、身近な都市を事例として考える。		4 時間	
7	齊藤 綾美	アーバンイズム	都市の生活と非都市の生活の違い / 共通性について考える。		4 時間	
8	齊藤 綾美	都市生態学と居住分化	一地域を例として、都市にどのような異なる地域（工業地帯、住宅地帯、商業地域など）があるか考える。		4 時間	
9	齊藤 綾美	地域コミュニティ	地域コミュニティの具体例を列挙し、それがなぜコミュニティといえるのか考える。		4 時間	
10	齊藤 綾美	事例 1：ジェントリフィケーション	ジェントリフィケーションとは何か調べ、事例をみつける。		4 時間	
11	齊藤 綾美	事例 2：地域社会のつながり	都市的な地域社会のつながりとは何か調べる。		4 時間	
12	齊藤 綾美	事例 3：東京	東京の都市的特徴について調べる。		4 時間	
13	齊藤 綾美	事例 4：沖縄	沖縄について調べる。		4 時間	
14	齊藤 綾美	事例 5：地方と都市	都市と地方の関係について調べる。		4 時間	
教 科 書		なし。				
参 考 書		松本康編、2022 年『都市社会学・入門（改訂版）』有斐閣。 岸政彦・川野英二編、2024 年『都市・地域』岩波書店。 中筋直哉・五十嵐泰正編著、2013 年『よくわかる都市社会学』ミネルヴァ書房。				
備 考						

科 目 名	データ分析の基礎			担 当 者	田中 茜
科目ナンバリング	1120422165				常勤
D P	1,2			教 員 研 究 室	3312
学 科（専攻）	現代社会学科（社会学専攻）			配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☒ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当する
【授業内容】 本授業では官庁統計や調査報告書や論文を読むための基本的な知識を身につける。単純集計・度数分布・代表値・散布度といった記述統計データの読み方や、それらの算出方法について学ぶ。さらに図表を作成したり統計量を計算したりする作業を通じて知識の定着を目指す。				【課題等のフィードバック方法】 授業後課題の解説については、次回の講義の冒頭に前回の講義の振り返りと合わせて実施する。 授業に関する質問や感想については、適宜フィードバックする。	
【学習の到達目標】 1. 官庁統計や社会調査データを用いた報告書・論文が読めるようになる。 2. 統計学の基本的な知識を理解する。 3. データを図表にまとめることができる。				【履修上の注意・予習・復習について】 A 科目「社会調査の基礎」の単位を取得済みであることを履修要件とする。 正当な理由のない、遅刻・欠席・途中退室・私語・スマートフォンの利用はしないこと。	
【成績評価方法】 授業後の課題への取り組み 50% 定期試験 50%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 身の回りに溢れる統計資料やデータを正確に読むことができる。さらにデータを有効に活用することができる。	
				【実務家教員担当科目】 該当なし	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	田中 茜	イントロダクション：社会調査とデータの役割	講義資料を見直し、内容を整理する。		4 時間
2	田中 茜	統計データの収集：既存データの収集・活用方法	講義資料を見直し、内容を整理する。		4 時間
3	田中 茜	データの中身を知る：変数の種類・値・尺度	講義資料を見直し、内容を整理する。		4 時間
4	田中 茜	データを記述する（1）：度数分布・ヒストグラムの読み方、作成方法	講義資料を見直し、内容を整理する。		4 時間
5	田中 茜	データを記述する（2）：代表値の種類と特性	講義資料を見直し、内容を整理する。		4 時間
6	田中 茜	データを記述する（3）：ばらつきを示す分散・標準偏差	講義資料を見直し、内容を整理する。		4 時間
7	田中 茜	2 つの連続変数の関連を捉える（1）：散布図・関連の方向・強さ	講義資料を見直し、内容を整理する。		4 時間
8	田中 茜	2 つの連続変数の関連を捉える（2）：相関係数・共分散	講義資料を見直し、内容を整理する。		4 時間
9	田中 茜	2 つの連続変数の関連を捉える（3）：相関関係と因果関係の違い、疑似相関	講義資料を見直し、内容を整理する。		4 時間
10	田中 茜	2 つの離散変数の関連を捉える（1）：クロス集計表の読み方、作成方法	講義資料を見直し、内容を整理する。		4 時間
11	田中 茜	2 つの離散変数の関連を捉える（2）：変数間の関連の強さ、無関連	講義資料を見直し、内容を整理する。		4 時間
12	田中 茜	2 つの離散変数の関連を捉える（3）：連関係数・カイ 2 乗値	講義資料を見直し、内容を整理する。		4 時間
13	田中 茜	統計データの活用例：新聞・官庁統計・調査報告書をよむ	講義資料を見直し、内容を整理する。		4 時間
14	田中 茜	文字データの読み取り方・整理の方法・総括	講義資料を見直し、内容を整理する。		4 時間
教 科 書		なし。資料を配布する。			
参 考 書		神林博史・三輪哲, 2024, 改定新版『社会調査のための統計学』技術評論社.			
備 考		社会調査士の資格取得に関わる科目（C「基本的な資料とデータの分析に関する科目」）に該当する。履修要件：A 科目「社会調査の基礎」の単位を取得済みであることを求める。			

科 目 名		社会と統計		担 当 者	小 淵 高 志	
科目ナンバリング		1120422166			常勤	
D P		1,2		教 員 研 究 室	1305	
学 科（専攻）		現代社会学科（社会学専攻）		配 当 年 次	2 年次・前期	
授 業 形 式		講 義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☒ 自主学習支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 この科目は、統計的データをまとめたり分析したりするために必要な推測統計学の基礎的な知識の獲得を目的とする。授業では、統計に関する理解を深めるための学習を行う。具体的には、確率論の基礎、基本統計量、検定・推定理論とその応用（平均や比率の差の検定、独立性の検定）、サンプリングの理論、属性相関係数（クロス表の統計量）、相関係数、偏相関係数、変数のコントロール、回帰分析の基礎などを修得する。また、時系列データ、比較データの作成などを通して、さまざまな統計データを読み取る経験ができるよう授業の工夫を行う。						
【課題等のフィードバック方法】 授業中の課題提出の解説を次回の授業で行う。講義終了後に、質問を受け付け回答する。授業中にグーグルクラスルームのチャットやアンケートフォームなどを使い、質疑応答や意見交換やグループ・ディスカッションを行います。						
【履修上の注意・予習・復習について】 指示に従って、必ず予習と復習をしてください。授業の録画を振り返り（復習）、分からないことや理解を深めたいことを、グーグルミートのメッセージ機能を使って質問してください。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 情報社会における統計リテラシーを身に付けることができます。						
【成績評価方法】 課題レポート（40％）、筆記試験（60％）による総合評価とします。						
【実務家教員担当科目】 該当なし						

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	小 淵 高 志	なぜ社会調査や統計のことを勉強しなければならないのか	情報社会における統計を読み解く能力の大切さについて考えよう。	4 時間
2	小 淵 高 志	社会調査の歴史と現代の統計	庚午年籍から国勢調査まで（いつの時代も人口は統計の根幹だった）。いろいろな統計を調べてみよう。	4 時間
3	小 淵 高 志	社会調査はどのように行われるのか	調査統計の種類、調査過程、調査方法、調査対象の抽出方法（サンプリングの理論）を学ぶ。	4 時間
4	小 淵 高 志	聞き方しだいで答えは変わる	適切な質問文・選択肢・質問方法とはなにか？ 違いを考えてみよう。	4 時間
5	小 淵 高 志	統計で社会の姿を確認しよう (1)	センサスなどの行政統計の調べ方。卒論にも使えるデータアーカイブの利用の仕方を身に付けよう。	4 時間
6	小 淵 高 志	統計で社会の姿を確認しよう (2)	データを見るうえで重要な確率論の基礎（確率変数、正規分布等）を学ぶ。	4 時間
7	小 淵 高 志	統計で社会の姿を確認しよう (3)	データから役立つ情報を取り出し、比較してみよう（度数分布、クロス集計）。	4 時間
8	小 淵 高 志	平均だけで大丈夫？「代表値」と「ちらばり」のこと	主要な基本統計量（平均、分散、標準偏差を含む）や確率分布などの社会統計学の基本を押さえよう。	4 時間
9	小 淵 高 志	その統計は信頼できますか？	分析の結果に検定や推定を行い、統計の信頼性を確かめる方法を覚えよう。	4 時間
10	小 淵 高 志	「関係がある」ってどういうこと？ (1)	間違えやすい相関関係と因果関係との区別、属性相関係数（クロス表の統計量）、相関係数の読み方と疑似相関の概念を学ぶ。	4 時間
11	小 淵 高 志	「関係がある」ってどういうこと？ (2)	結果となる数値（被説明変数）と要因となる数値（説明変数）との関係を調べて、それぞれの関係を明らかにする回帰分析の基礎を学ぶ。	4 時間
12	小 淵 高 志	統計の勘違いに気をつけよう (1)	「数値の意味」を正しくとらえるための分析方法のまとめと応用（相関係数、偏相関係数、変数のコントロール）。	4 時間
13	小 淵 高 志	統計の勘違いに気をつけよう (2)	「統計の解釈」を正しく行うための社会統計学のまとめ。検定・推定理論とその応用（平均や比率の差の検定、独立性の検定）。	4 時間
14	小 淵 高 志	統計を使って「証拠に基づいた議論」をしてみよう	時系列データの作成と分析、コホート研究などを参照して、統計から「言えること」と「言えないこと」との事例検討を行う。	4 時間
教 科 書		神林博史『1歩前からはじめる「統計」の読み方・考え方 [第2版]』ミネルヴァ書房		
参 考 書		授業中、適宜紹介します。		
備 考		特になし		

科 目 名	メディア社会学			担 当 者	崔 博憲
科目ナンバリング	1120422167				常勤
D P	1,2			教員研究室	3308
学科（専攻）	現代社会学科（社会学専攻）			配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 さまざまな視点・切り口からメディアとは何かを学び、わたしたちが世界／社会を理解したり、他者を意味づけたりするために決定的な影響を与えていることについて考える。またメディアについて学びつつ、それを通じて描かれる現代社会の課題についても考察をする。				【課題等のフィードバック方法】 質問やコメントについては基本的には授業中に対応するが、内容によっては次回以降の講義やオフィスアワーで対応する。	
【学習の到達目標】 多様化するメディアの特徴や課題を理解できるようになる。また現代社会が直面しているグローバル化や戦争、分断といった問題について知見を深めることができる。				【履修上の注意・予習・復習について】 事前に配布したテキストや資料等は必ず読んでから授業に参加してください。	
【成績評価方法】 小レポート・コメントシート：50% 定期試験：50%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 現代社会にとってのメディアの重要性や各メディアの特徴を理解することができる。また日本を含め世界中で生起している問題と自身の関係について考えることができる。	
【実務家教員担当科目】 該当しない。					

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	崔 博憲	ガイダンス：わたし（たち）と世界	社会を媒介するメディアの役割について学ぶ。	4 時間
2	崔 博憲	世界／社会を伝え、創るメディア①	メディアとしての辞書について学ぶ。	4 時間
3	崔 博憲	世界／社会を伝え、創るメディア②	メディアとしての地図について学ぶ。	4 時間
4	崔 博憲	他者とメディア①	エドワード・サイードの『オリエンタリズム』について学ぶ。	4 時間
5	崔 博憲	他者とメディア②	現代世界における紛争と他者について学ぶ。	4 時間
6	崔 博憲	他者とメディア③	映画が創り出す他者像について学ぶ。	4 時間
7	崔 博憲	メディアで学ぶ現代という時代①	アメリカの分断をメディアという視点から学ぶ。	4 時間
8	崔 博憲	メディアで学ぶ現代という時代②	フェイク／ポスト・トゥルースについて学ぶ。	4 時間
9	崔 博憲	メディアで学ぶ現代という時代③	メディアとしての教育・教科書（その1）について学ぶ。	4 時間
10	崔 博憲	メディアで学ぶ現代という時代④	メディアとしての教育・教科書（その2）について学ぶ。	4 時間
11	崔 博憲	揺らぐリアルとフェイクの境界線	技術進歩が揺るがすウソ／ホントについて学ぶ。	4 時間
12	崔 博憲	戦争とメディア	武器としてのメディアについて学ぶ。	4 時間
13	崔 博憲	現代日本とメディア①	差別・偏見・ヘイトスピーチとメディアについて学ぶ。	4 時間
14	崔 博憲	現代日本とメディア②	ネット／SNS に依存する社会について学ぶ、。	4 時間
教 科 書		なし。使用するテキストや資料は配布する。		
参 考 書		適宜紹介する。		
備 考		なし。		

科 目 名		量的調査法		担 当 者	田中 茜
科目ナンバリング		1120432168			常勤
D	P	2,3		教員研究室	3312
学科（専攻）		現代社会学科（社会学専攻）		配 当 年 次	2 年次・後期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし			
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 ☒ 自主学習支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当する
【授業内容】 本授業では、社会調査データの分析に用いられる分析手法について、基本的な考え方と統計ソフトウェアを用いた実践的な手続きを学ぶ。分析手法の特性を理解し、目的に適した分析方法を選択する力を身につける。さらに分析結果を正確に読み取り、解釈する方法を習得する。 【学習の到達目標】 1. データを適切に加工できる。 2. 目的に適した分析方法を選択できる。 3. 分析結果を正しく読み取り、解釈できる。 【成績評価方法】 課題への取り組み 100% 【課題等のフィードバック方法】 課題は答え合わせを行う。さらに次回の講義の冒頭に前回の講義の振り返りと合わせて課題の解説を実施する。授業に関する質問や感想については、授業時間中に適宜フィードバックする。 【履修上の注意・予習・復習について】 課題に意欲的に取り組むこと。 発展的な内容を学ぶため、C「データ分析の基礎」を履修済みであることを履修要件とする。 正当な理由のない遅刻・欠席・途中退室・私語・スマートフォンの利用はしないこと。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 データの加工・分析・結果の解釈を通じて、社会問題を客観的に把握することができる。さらに問題解決の道筋を立てることができる。 【実務家教員担当科目】 該当なし					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	田中 茜	イントロダクション：統計分析の有用性と統計ソフトウェア、データ分析の基礎（1）：データ・変数	講義資料を見直し、内容を整理する。		4 時間
2	田中 茜	データ分析の基礎（2）：1 変数の記述統計（度数分布・代表値・散布度の算出）とデータ加工①	講義資料を見直し、内容を整理する。次回授業に向けて課題を解く。		4 時間
3	田中 茜	データ分析の基礎（3）：2 変数の記述統計（相関係数）とデータ加工②	講義資料を見直し、内容を整理する。次回授業に向けて課題を解く。		4 時間
4	田中 茜	データ分析の基礎（4）：2 変数の記述統計（クロス集計表）とデータ加工③・クロス集計表の解釈の仕方	講義資料を見直し、内容を整理する。次回授業に向けて課題を解く。		4 時間
5	田中 茜	データ分析の基礎（5）：データ加工と処理（欠損処理・ラベル付け・条件文）	講義資料を見直し、内容を整理する。次回授業に向けて課題を解く。		4 時間
6	田中 茜	平均値の差の検定（t 検定・分散分析）	講義資料を見直し、内容を整理する。次回授業に向けて課題を解く。		4 時間
7	田中 茜	重回帰分析（1）：単回帰分析との違い・考え方と実践方法	講義資料を見直し、内容を整理する。次回授業に向けて課題を解く。		4 時間
8	田中 茜	重回帰分析（2）：結果の読み取り方・解釈の仕方	講義資料を見直し、内容を整理する。次回授業に向けて課題を解く。		4 時間
9	田中 茜	重回帰分析（3）：モデルの選択、交互作用の検討	講義資料を見直し、内容を整理する。次回授業に向けて課題を解く。		4 時間
10	田中 茜	発展的分析（1）：ダミー変数を使った数量化Ⅰ類	講義資料を見直し、内容を整理する。次回授業に向けて課題を解く。		4 時間
11	田中 茜	発展的分析（2）：媒介効果の検討とパス解析	講義資料を見直し、内容を整理する。次回授業に向けて課題を解く。		4 時間
12	田中 茜	発展的分析（3）：二項ロジスティック回帰分析の考え方と実践方法	講義資料を見直し、内容を整理する。次回授業に向けて課題を解く。		4 時間
13	田中 茜	発展的分析（4）：二項ロジスティック回帰分析の解釈の仕方	講義資料を見直し、内容を整理する。次回授業に向けて課題を解く。		4 時間
14	田中 茜	その他の多変量解析の紹介とまとめ：分析手法の選択と分析上の工夫	講義資料を見直し、内容を整理する。		4 時間
教 科 書		なし。資料を配布する。			
参 考 書		授業中に適宜紹介する			
備 考		社会調査士の資格取得に関わる科目（E「多変量解析の方法に関する科目」）に該当する。			

科 目 名		質的調査法		担 当 者		齋藤 雅哉	
科目ナンバリング		1120432169				常勤	
D P		2,3		教 員 研 究 室		3306研究室	
学 科（専攻）		現代社会学科（社会学専攻）		配 当 年 次		2 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位	
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディバート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし					
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☑該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない	
【授業内容】 社会調査は、私たちが生きる社会の姿、そこに生じている現象・課題を可視化する重要な手段です。この授業では、人と関わり、「数」に還元されないデータを扱う質的調査法を総合的に学びます。具体的には、フィールドワーク、参与観察、インタビューなどの調査手法と、それらを通して得た質的データを分析・記述する手法としての内容分析、エスノグラフィー、ライフヒストリー分析などを取り上げます。 【学習の到達目標】 1. 質的調査の意義、方法を理解する 2. 質的調査を実際に企画し、データを収集、分析することができる 3. 調査倫理を正しく理解する 4. 質的調査と量的調査との相違点、両者の相補性について理解する 【成績評価方法】 リアクションペーパー、課題への取り組み 30%、ミニ・インタビューとその分析への取り組み 30%、期末レポート 40% 【課題等のフィードバック方法】 講義のおわりにリアクションペーパーを配布し、質問や感想、意見などを記入してもらいます。次回の講義の冒頭で回答・解説等を行います。 【履修上の注意・予習・復習について】 この授業では、多くの先行研究を取り上げます。各回の授業の前に、それらについて調べたり、読んだりしておくようにしてください。また、社会調査士の資格カリキュラムに該当する他の科目も併せて履修することを勧めます。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 対象者と密にかかわる質的調査に関する実践的な知識が身につきます。卒業研究でインタビューやフィールドワークを実施する予定があれば、ぜひ受講してください。 【実務家教員担当科目】 該当しません。							
授 業 計 画							
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間				
			予習・復習				学修時間
1	齋藤 雅哉	質的調査とは何か（1）	配布資料をもとに、量的調査との相違点に注目しながら、質的調査の特徴・種類について予習・復習してください。				4 時間
2	齋藤 雅哉	質的調査とは何か（2）	配布資料をもとに、質的調査の歴史的系譜を確認し、質的調査の意義と目的について予習・復習してください。				4 時間
3	齋藤 雅哉	フィールドワーク（1）	授業のテーマは「フィールドワークとは何か？」です。配布資料をもとに、代表的な先行研究、フィールドワークに関する基礎的な知識について予習・復習してください。				4 時間
4	齋藤 雅哉	フィールドワーク（2）	授業のテーマは「フィールドワークはどのように始めるのか？」です。配布資料をもとに、代表的な先行研究、フィールドワークの手法、フィールドの選定と「入り方」、ラポールの構築などについて予習・復習してください。				4 時間
5	齋藤 雅哉	フィールドワーク（3）	授業のテーマは「フィールドワークはどのように行うのか？」です。配布資料をもとに、代表的な先行研究、フィールドノートの書き方や「厚い記述」という考え方について予習・復習してください。				4 時間
6	齋藤 雅哉	インタビュー調査（1）	授業のテーマは「インタビュー調査とは何か？」です。配布資料をもとに、代表的な先行研究、インタビュー調査に関する基礎的な知識について予習・復習してください。				4 時間
7	齋藤 雅哉	インタビュー調査（2）	授業のテーマは「インタビュー調査はどのように行うのか？」です。配布資料をもとに、代表的な先行研究、インタビュー調査の手法や対象の選定、質問項目、アポイントメントの取り方などについて予習・復習してください。				4 時間
8	齋藤 雅哉	インタビュー調査（3）	授業では、これまでの学びを踏まえながらミニインタビュー調査を行い、インタビュー記録を作成します。予習ではインタビュー調査の手法について整理し、復習では授業内で実施した調査について振り返ってください。				4 時間
9	齋藤 雅哉	ライフヒストリーとライフストーリー（1）	配布資料をもとに、ライフヒストリー・ライフストーリー研究の意義や手法、代表的な先行研究について予習・復習してください。				4 時間
10	齋藤 雅哉	ライフヒストリーとライフストーリー（2）	配布資料をもとに、ライフヒストリー・ライフストーリー研究における語りの解釈や分析のあり方、代表的な先行研究について予習・復習してください。				4 時間
11	齋藤 雅哉	エスノグラフィー	配布資料をもとに、エスノグラフィーの意義や手法、データのまとめ方、代表的な先行研究について予習・復習してください。				4 時間
12	齋藤 雅哉	KJ 法と内容分析	配布資料をもとに、KJ 法の可能性と限界、内容分析の方法やプロセス、代表的な先行研究について予習・復習してください。				4 時間
13	齋藤 雅哉	質的データの分析に挑戦する	授業では、第 8 回の授業で実施したミニインタビューの記録について、授業内で取り上げた手法を用いて分析します。予習では分析手法について整理し、復習では分析結果について振り返ってください。				4 時間
14	齋藤 雅哉	まとめ	授業では、量的調査と質的調査法との相違点、メリット・デメリットについて触れます。予習・復習では質的調査の意義と課題について整理してください。				4 時間
教 科 書		特になし。適宜資料を配布します。					
参 考 書		講義のなかで適宜紹介します。参考書の購入は必須ではありませんが、手元に置き繰り返し読むことで、授業内容のより深い理解につながります。					
備 考		社会調査士の資格カリキュラム F 科目（「質的な分析の方法に関する科目」）に対応しています。					

科 目 名	家族社会学			担 当 者	田中 茜
科目ナンバリング	1120432170				常勤
D P	1,2			教員研究室	3312
学科（専攻）	現代社会学科（社会学専攻）			配 当 年 次	2 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☒ 自主学習支援 ☐ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 家族は私たちにとって身近な存在であるが、家族は、今大きな変化を迎えている。家族の姿がどのように変化してきたのか、改めて家族とはどのような集団なのか、家族がどのような課題に直面しているのか、現状の正確な把握を試みる。 【学習の到達目標】 1. 日本の家族の現状を客観的に把握できる。 2. 現代の家族が抱える課題を理解し、その解決策を考えることができる。 3. 家族の現状を踏まえて、自分自身の将来に向けて考察することができる。 【成績評価方法】 リアクションペーパー・課題への取り組み 60% 期末試験 40% 【課題等のフィードバック方法】 授業に関する質問や感想については、授業の冒頭でフィードバックする。 【履修上の注意・予習・復習について】 正当な理由のない、遅刻・欠席・途中退室・私語・スマートフォンの利用はしないこと。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 統計データや研究知見を踏まえて、身近な存在である家族について客観的に把握することができる。また、多角的な視点から原因・解決策を探る力が身につく。 【実務家教員担当科目】 該当なし					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	田中 茜	イントロダクション：家族とは	講義資料を見直し、内容を説明できるようにしておく。		4 時間
2	田中 茜	家族形態の変化：近代から現代	講義資料を見直し、内容を説明できるようにしておく。		4 時間
3	田中 茜	ライフコース上のリスク・福祉レジーム	講義資料を見直し、内容を説明できるようにしておく。		4 時間
4	田中 茜	家族の始まり：配偶者選択	講義資料を見直し、内容を説明できるようにしておく。		4 時間
5	田中 茜	結婚行動の趨勢・結婚動向	講義資料を見直し、内容を説明できるようにしておく。		4 時間
6	田中 茜	家族の解消：離婚・再婚	講義資料を見直し、内容を説明できるようにしておく。		4 時間
7	田中 茜	妊娠・出生	講義資料を見直し、内容を説明できるようにしておく。		4 時間
8	田中 茜	少子化の現状と原因	講義資料を見直し、内容を説明できるようにしておく。		4 時間
9	田中 茜	夫婦関係	講義資料を見直し、内容を説明できるようにしておく。		4 時間
10	田中 茜	家族と就業	講義資料を見直し、内容を説明できるようにしておく。		4 時間
11	田中 茜	親子関係：子育て・教育	講義資料を見直し、内容を説明できるようにしておく。		4 時間
12	田中 茜	親子関係：中期・後期	講義資料を見直し、内容を説明できるようにしておく。		4 時間
13	田中 茜	様々な家族・家族が抱える問題	講義資料を見直し、内容を説明できるようにしておく。		4 時間
14	田中 茜	家族支援・総括	講義資料を見直し、内容を説明できるようにしておく。		4 時間
教 科 書		指定しない。レジュメを配布する。			
参 考 書		講義中に随時紹介する。			
備 考		なし			

科 目 名	ジェンダー社会学			担 当 者	妙木 忍
科目ナンバリング	1120432171				非常勤
D P	1,2			教員研究室	非常勤講師室
学科（専攻）	現代社会学科（社会学専攻）			配 当 年 次	2 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 この授業では、ジェンダーの視点から社会を考察する。ジェンダー研究の蓄積を紹介するとともに、家族、労働、教育、法、政治、観光、災害、福祉など身近な論点を取り上げながら社会の考察を深める（主に日本社会を対象とする）。また、国際社会における日本の位置付けについても検討する。この授業を通して、一人一人が生きやすい社会になるためにはどのようにすればよいのかを、ともに考えていく。				【課題等のフィードバック方法】 毎回授業の最後にレスポンス・カードを提出していただき、質問やコメントを受け取る。その内容を、次の回の冒頭で紹介し、フィードバックをおこなう。	
【学習の到達目標】 ジェンダーの概念を理解する。 ジェンダーの視点から社会を読み解く力を身につける。				【履修上の注意・予習・復習について】 授業中に伝える。	
【成績評価方法】 レスポンス・カードの提出（30%）、課題（30%）、期末試験（40%）により評価する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 自分の問題関心にそって問いを立て、それを解くことができる力を身につけることも目指すため、社会を読み解く力と自分の問いを解く楽しさが得られる。また、社会を相対化する視点や、私たちがいま生きている時代や社会を分析する力が得られる。	
				【実務家教員担当科目】 該当なし	

授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	妙木 忍	イントロダクション	レジュメを復習する。ジェンダーに関する問いを身近なところから考えてみる。		4 時間
2	妙木 忍	ジェンダーとは何か	レジュメを復習する。ジェンダーの概念が理解できたかどうかを点検する。		4 時間
3	妙木 忍	ジェンダー研究の展開	レジュメを復習するとともに、どの領域に関心があるのかを考えてみる。		4 時間
4	妙木 忍	国際社会における日本	レジュメを復習する。配布プリントのなかから関心のあるデータを一つ選んで、詳しく調べる。		4 時間
5	妙木 忍	家族とジェンダー	レジュメを復習する。近代家族の概念などについて理解できたかどうかを点検する。		4 時間
6	妙木 忍	労働とジェンダー	レジュメを復習する。配布プリントの中から、労働環境に関するデータを一つ選んで、詳しく検討する。		4 時間
7	妙木 忍	教育とジェンダー	レジュメを復習する。教育におけるジェンダーの論点から一つ選んで、自らの体験も含めて考察する。		4 時間
8	妙木 忍	法とジェンダー	レジュメを復習する。関心のある法律を一つ選んで考察する。		4 時間
9	妙木 忍	政治とジェンダー	レジュメを復習する。意思決定過程への女性の参画について考察する。		4 時間
10	妙木 忍	観光とジェンダー	レジュメを復習する。観光とジェンダーに関する内容を身近な事例で考えてみる。		4 時間
11	妙木 忍	災害とジェンダー	レジュメを復習する。復習方法は授業中に説明する。		4 時間
12	妙木 忍	福祉とジェンダー	レジュメを復習する。ケアする側・ケアされる側の権利について考察を深める。		4 時間
13	妙木 忍	ユニバーサルデザインとジェンダー	レジュメを復習する。身近な事例を一つ取り上げて考察する。第 14 回で取り上げる東大祝辞（2019 年）を読んでもくる（予習）。		4 時間
14	妙木 忍	東大祝辞（2019 年、上野千鶴子氏）を読む	ポイントを復習する。授業中に検討・討論した内容をまとめること。		4 時間
教 科 書		指定しない。レジュメを配布する。			
参 考 書		授業中に適宜紹介する。			
備 考		特になし。			

科 目 名		情報社会論		担 当 者	山尾 貴則	
科目ナンバリング		1120432172			常勤	
D P		1,2		教 員 研 究 室	3304	
学 科（専攻）		現代社会学科（社会学専攻）		配 当 年 次	2 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 本講義では、我々の社会にとって情報技術がどのような意味を持ってきたのか、今後持ちうるのかについて解説する。その際いわゆるITについての技術解説にとどまるのではなく、我々が作り上げ、その中で生を営んできた／営んでいる社会のあり方（社会体制）と情報技術との密接な関わりにも注目しながら、我々が生きる社会それ自体への理解も深めていく。 【学習の到達目標】 本講義では、現在の高度情報社会がいかなる特質を有し、いかなる困難に直面しているかを理解できるようになることを目標とする。 【成績評価方法】 定期試験により行う。またコメントシートの内容も評価に加味することがある。 【課題等のフィードバック方法】 各講義の最後に Classroom を用いて講義内容のまとめやコメントを入力してもらい、次回の講義でそれらに対してコメントして講義内容の補足を行う。またストリームでの質問等も受け付ける。 【履修上の注意・予習・復習について】 私語をしないこと。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 受講生は「情報技術は我々の社会を良くしていく」という一面的な見方にとどまることなく、情報技術が我々の社会にとってどのような意味を有するのか、我々の社会が情報技術をどのように利用しようとするのか等、情報技術と社会との関係性について考えることができるようになる。 【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	山尾 貴則	ガイダンス	情報社会論に関する入門書を自分で探して読んでみる		4 時間	
2	山尾 貴則	情報社会論史（1）ーウィーナー、マッハルプ	ウィーナーのサイバネティクスについて自分で調べてみる。		4 時間	
3	山尾 貴則	情報社会論史（2）ードラッカー、ベル	ベルの社会理論について自分で調べてみる。		4 時間	
4	山尾 貴則	情報社会論の特質ー技術決定論	マクルーハンのメディア論について自分で調べてみる。		4 時間	
5	山尾 貴則	情報技術と社会の相互連関ー電話の「発達」をてがかりに	日本における電話利用の変遷について自分で調べてみる。		4 時間	
6	山尾 貴則	社会体制の変化と情報技術（1）ー自由主義の誕生	近代社会における自由主義の誕生について自分で調べてみる。		4 時間	
7	山尾 貴則	社会体制の変化と情報技術（2）ー自由主義から福祉国家へ	福祉国家の成立過程について自分で調べてみる。		4 時間	
8	山尾 貴則	自由主義の帰結としての監視社会	自由と監視の関係について自分で調べてみる。		4 時間	
9	山尾 貴則	我々の生活における監視ーNシステムを事例に	身近にある監視システムを見つけてみる。		4 時間	
10	山尾 貴則	福祉国家の帰結としての管理社会	福祉と身体管理の関係について自分で調べてみる。		4 時間	
11	山尾 貴則	身体情報の管理の歴史ー優生学の系譜	日本における優生学の変遷について自分で調べてみる。		4 時間	
12	山尾 貴則	身体情報管理の「未来」	身近にある身体情報管理システムを見つけてみる。		4 時間	
13	山尾 貴則	インターネット公共圏のゆくえ	SNS における自由なコミュニケーションを阻害するものが何かを自分で調べてみる。		4 時間	
14	山尾 貴則	社会の分断ーネット空間から現実社会へ	SNS におけるヘイトスピーチと現実社会における差別の関係について自分で調べてみる。		4 時間	
教 科 書		なし				
参 考 書		なし				
備 考		なし				

科 目 名		マスコミュニケーション論		担 当 者	寺島 英弥	
科目ナンバリング		1120432173			非常勤	
D P		1,2		教員研究室	非常勤講師室	
学科（専攻）		現代社会学科（社会学専攻）		配 当 年 次	2 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 マスコミュニケーションとは何か？ 単にテレビ、新聞を指す時代は終わり、誰かのスマホが世界とつながり世論を動かし、フェイクやデマも広げる。「個」の発信と「マス」が渦のようにつながる現代社会を知り、情報の正しい見方と選択をできる生き方を考える。		【課題等のフィードバック方法】 毎回の授業のほか、ニュースや社会問題、東日本大震災の当事者をゲストに招く授業もあり、受講生との質疑を行う。感想カードを通して質問にも答える。				
【学習の到達目標】 日々のニュースと担任の記者経験、メディアに登場する当事者たちのインタビューも教材に、マスコミュニケーションの世界を体験的に学ぶ。それを通して、情報の受発信の主役となる受講生が日々の指針、モラル、武器とすべきメディアリテラシーを身に付ける。		【履修上の注意・予習・復習について】 授業は、マスコミュニケーション論の入り口から、社会の当事者へのインタビューなどの貴重な体験を積み重ねる。レポートも自ら考え自らの言葉で書けるよう求めたい。休まずに出席すること。				
【成績評価方法】 期末にレポートを提出してもらう。出席状況、授業後の感想カードの内容とともに総合的に評価する。		【受講して得られる効果・メリット、その他】 授業で学ぶ知識や多様なものの見方は、ニュースや情報の信頼性を吟味し、ウェブやSNSの賢明な受発信者となる力を育てる。インタビューやライティング、人となつがる活動や仕事の基礎になる。				
		【実務家教員担当科目】 担当の寺島は河北新報で記者 40 年のキャリアがあり、米国留学や東日本大震災の取材経験を重ね、ルポ記事、著書は多数。現在もローカルジャーナリストとして郷里福島の原発事故被災地などの取材活動を続けている。その経験をシェアしたい。				

授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	寺島	マスコミュニケーションとは何か？	毎日のニュースに関心を持って読んでくる		4 時間
2	寺島	ニュースって何だろう？	毎日のニュースに関心を持って読んでくる		4 時間
3	寺島	フェイクニュースはどこから生まれた？	毎日のニュースに関心を持って読んでくる		4 時間
4	寺島	SNS と誹謗中傷、当事者の声	毎日のニュースに関心を持って読んでくる		4 時間
5	寺島	一人の発信が世界を変える可能性	毎日のニュースに関心を持って読んでくる		4 時間
6	寺島	コロナ禍と自粛警察	毎日のニュースに関心を持って読んでくる		4 時間
7	寺島	事実と憶測～京都アニメーション事件から	毎日のニュースに関心を持って読んでくる		4 時間
8	寺島	「実名」「匿名」論議が問うもの	毎日のニュースに関心を持って読んでくる		4 時間
9	寺島	自死遺族が語る「当事者と社会、メディア」	毎日のニュースに関心を持って読んでくる		4 時間
10	寺島	東日本大震災、原発事故の「今」を見つめる	毎日のニュースに関心を持って読んでくる		4 時間
11	寺島	津波でわが子を亡くした母親の思い	毎日のニュースに関心を持って読んでくる		4 時間
12	寺島	被災体験を伝承する意味	毎日のニュースに関心を持って読んでくる		4 時間
13	寺島	戦争と「プロパガンダ」と市民	毎日のニュースに関心を持って読んでくる		4 時間
14	寺島	地方紙はどう生きる？～現場インタビュー	毎日のニュースに関心を持って読んでくる		4 時間
教 科 書		なし			
参 考 書		『シビック・ジャーナリズムの挑戦』（寺島英弥、明石書店）			
備 考		担当教員への急ぎの問い合わせは次のメルアドへ yumeji72@gmail.com			

科 目 名		教育社会学		担 当 者	星山 幸男	
科目ナンバリング		1120432174			非常勤	
D P		1,2		教 員 研 究 室	非常勤講師室	
学 科（専攻）		現代社会学科（社会学専攻）		配 当 年 次	3 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 今日の教育がしばしば社会問題となることからもわかるように、教育は社会的な現象です。そこで教育を社会との関わりにおいて把握しその本質に迫ります。教育の社会的性格、社会的不平等と教育、社会の中で学校が果たす役割・機能についてみていきます。						
【学習の到達目標】 社会問題として教育を捉える方法、文化的再生産の過程で教育が担っている役割、学校が社会で担っている役割・機能について理解し、説明できることを目指します。						
【成績評価方法】 単元の区切りで行う小レポート（30％）と、学期末レポート（70％）を総合して評価します。						
【課題等のフィードバック方法】 小レポートについては、授業の中でフィードバックします。講義を中心に行いますが、ディスカッションも取り入れて授業を進めます。						
【履修上の注意・予習・復習について】 教育を学校の中だけで考えず、身近な教育問題を社会と関わらせて捉えようとする姿勢で参加してください。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 教育を社会との関係で捉え直すという視点と方法を学び、教育の新しい側面がみえるようになります。						
【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	星山 幸男	具体的な教育問題を手掛かりに、今までと違う教育を捉える視点を提示します。	皆さんの関心のある教育問題を考えてきてください。		4 時間	
2	星山 幸男	社会問題としての教育問題とは何かを考え、注目を集める背景についてみていきます。	皆さんから出された教育問題をそれぞれに自分の見方を考えてください。		4 時間	
3	星山 幸男	今日の議論の特徴について現代社会の特質と関わらせて考えます。	現代社会の特徴について、それぞれで思い起こして下さい。そして、ここまでの感想を小レポートで書いてもらいます。		4 時間	
4	星山 幸男	教育と社会の相互規定性について論じます。	相互規定について、授業を手掛かりに、具体的に思い起こしてみてください。		4 時間	
5	星山 幸男	従来の社会化論を紹介し、それへの批判と今日的捉え方をみていきます。	社会化という考え方に対する自分の意見を小レポートに書いてもらいます。		4 時間	
6	星山 幸男	文化的再生産という考え方について、P.ブルデューの説に沿ってみていきます。	文化的再生産という聞きなれない用語について理解してください。		4 時間	
7	星山 幸男	今日よく指摘される社会的格差と教育がどう関わっているかを考えてみます。	今日の社会的格差を具体的に思い描いてください。小レポートで感想を書いてもらいます。		4 時間	
8	星山 幸男	学校は子どもたちに教えるというだけではなく、社会的視野からみて担っている役割について考えます。	学校は知識を教えるだけではないということを考えてみましょう。		4 時間	
9	星山 幸男	学校が社会の中で担っている機能について紹介します。	今まで考えたことのない学校の機能をしっかり理解してください。		4 時間	
10	星山 幸男	ラベリングという社会学理論を紹介し、教員が注意しなければならない点をみんなで考えます。	教員が無意識で行っているラベリングについて、これまでの経験と照らして考えてみましょう。		4 時間	
11	星山 幸男	学校集団に特有な価値規範・行動様式について深く掘り下げます。	学校の役割・機能・特有の文化について、小レポートで自分の考えを書いてください。		4 時間	
12	星山 幸男	歴史的にみて、社会の中で教育が果たしてきた役割について考えます。まずは能力主義をみてきます。	戦後教育の出発点と今の教育の現状を結び付けて考えてみよう。		4 時間	
13	星山 幸男	能力主義で露呈した問題の解決に向けた取り組みを紹介しします。	今日につながる問題点と改革について、理解してください。		4 時間	
14	星山 幸男	皆さんもよく聞く「ゆとり教育」の本質について考えてみます。	自分の体験を思い返しながら、具体的に考えてみよう。		4 時間	
教 科 書		特に指定しません。				
参 考 書		「現代社会と教育」（ミネルバ書房）など授業で具体的に紹介します。				
備 考		特になし				

科 目 名		医療社会学		担 当 者	未定	
科目ナンバリング		1120432175			未定	
D	P	1,2		教員研究室	未定	
学科（専攻）		現代社会学科（社会学専攻）		配 当 年 次	3 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 社会学の世界には、専門分野の一つとして医療社会学があります。医療と社会の接点については、医療の視点に立つ「公衆衛生」の研究が行われてきましたが、同時に、社会的視点からも研究が進められてきました。さらに医療社会学では、社会的な営みとしての医療の研究や医療をめぐる社会現象の研究なども、ミクロレベル（医師 - 患者関係など）やメゾレベル（地域ケアシステムの研究など）、マクロレベル（医療をめぐる制度や政策、歴史的変化など）にわたって進められてきました。現代社会に対する医療の影響は大きい上に、私たち一人一人の人生にも関わってきます。そのような医療に関する社会学の入門編に当たる講義を行います。						
【課題等のフィードバック方法】 講義中の小課題などへのコメントは講義中に行います。						
【履修上の注意・予習・復習について】 講義の場では学ぶ人、学ぶ権利が最も尊重されますから、講義室内での受講者の学習と講義の進行の妨げとなる迷惑行為は慎んでください。特に私語と徘徊は厳禁です。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 現代社会には、広い意味での「ケア」に関わる仕事や社会的営みが数多くあります。そうした今日のケアのほとんどが、医療的な要素を含んでいます。そのような現代社会における医療との向き合い方を考えるための、重要な手がかりについて学ぶことができます。						
【実務家教員担当科目】 医療法人に常勤の研究員として勤務した経験のある教員が、勤務先の医療法人での経験、そこで行った調査や研究をふまえた講義でもあります。						
【成績評価方法】 授業中に行う小課題：30%、期末試験：70%						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	未定	はじめに：講義の概要	復習：講義資料・講義内容のふり返りをしてください。		4 時間	
2	未定	医療と社会の変化：疾病構造とその変化 (1)	予習：事前に配布された資料は一読しておいてください。 復習：講義内容の復習（講義資料やメモの読み返し）は欠かさずに行ってください。		4 時間	
3	未定	医療と社会の変化：疾病構造とその変化 (2)	予習：事前に配布された資料は一読しておいてください。 復習：講義内容の復習（講義資料やメモの読み返し）は欠かさずに行ってください。		4 時間	
4	未定	医療と社会の変化：日本における疾病構造の変化	予習：事前に配布された資料は一読しておいてください。 復習：講義内容の復習（講義資料やメモの読み返し）は欠かさずに行ってください。		4 時間	
5	未定	医療と社会の変化：医療化論	予習：事前に配布された資料は一読しておいてください。 復習：講義内容の復習（講義資料やメモの読み返し）は欠かさずに行ってください。		4 時間	
6	未定	医療の担い手とその組織について：専門職論	予習：事前に配布された資料は一読しておいてください。 復習：講義内容の復習（講義資料やメモの読み返し）は欠かさずに行ってください。		4 時間	
7	未定	医療の担い手とその組織：病院という施設	予習：事前に配布された資料は一読しておいてください。 復習：講義内容の復習（講義資料やメモの読み返し）は欠かさずに行ってください。		4 時間	
8	未定	医療の担い手とその組織：合議制アソシエーション	予習：事前に配布された資料は一読しておいてください。 復習：講義内容の復習（講義資料やメモの読み返し）は欠かさずに行ってください。		4 時間	
9	未定	医療の担い手とその組織：近・現代の組織としての官僚制と官僚制的秩序	予習：事前に配布された資料は一読しておいてください。 復習：講義内容の復習（講義資料やメモの読み返し）は欠かさずに行ってください。		4 時間	
10	未定	患者について考える：社会的役割としての病人役割	予習：事前に配布された資料は一読しておいてください。 復習：講義内容の復習（講義資料やメモの読み返し）は欠かさずに行ってください。		4 時間	
11	未定	患者について考える：病いとスティグマ	予習：事前に配布された資料は一読しておいてください。 復習：講義内容の復習（講義資料やメモの読み返し）は欠かさずに行ってください。		4 時間	
12	未定	患者について考える：ノーマライゼーション、ケアの場としての地域	予習：事前に配布された資料は一読しておいてください。 復習：講義内容の復習（講義資料やメモの読み返し）は欠かさずに行ってください。		4 時間	
13	未定	患者について考える：病いと苦悩の物語をめぐる	予習：事前に配布された資料は一読しておいてください。 復習：講義内容の復習（講義資料やメモの読み返し）は欠かさずに行ってください。		4 時間	
14	未定	おわりに：講義のふり返り	予習：事前に配布された資料は一読しておいてください。 復習：講義内容の復習（講義資料やメモの読み返し）は欠かさずに行ってください。		4 時間	
教 科 書		講義担当者が用意する資料を用いる。				
参 考 書		中川輝彦・黒田浩一郎（編著）、2010、『よくわかる医療社会学』ミネルヴァ書房 厚生労働統計協会、2023、『図説 国民衛生の動向 2023 / 2024』厚生労働統計協会				
備 考		医療は私たちにとって身近なものでもあります。講義内容の単なる丸暗記ではなく、講義に登場した概念、理論を視点として用いて、医療をめぐる自分や家族の経験を具体例として捉えなおすなどして、講義内容の理解に努めてください。				

科 目 名		非営利組織論			担 当 者	桃生 和成
科目ナンバリング		1120432176				非常勤
D P		1,4			教員研究室	非常勤講師室
学科（専攻）		現代社会学科（社会学専攻）			配 当 年 次	3 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 特定非営利活動促進法（NPO 法）が施行されて 25 年以上が経過した。社会情勢が激しく変化する中、福祉・環境、人権・ジェンダー、教育、まちづくり、文化・芸術等さまざまな分野における社会課題の解決に取り組む非営利組織（NPO）への関心が高まっている。本講義では、非営利組織に関する基本的な知識、組織の仕組み、特徴、マネジメント、社会的意義、SDGs との関係性、他セクターとの協働等について、具体的な事例をや最新の動向を踏まえながら包括的に学ぶ。授業は、講義を中心に小レポートやワーク等を加えた構成となる。 【学習の到達目標】 ・非営利組織の仕組み、特徴、マネジメント等について、理解し説明ができる。 ・非営利組織の社会的な意義について、理解し説明ができる。 ・非営利組織の最新の動向について、理解し説明ができる。 【成績評価方法】 レポート（最終）60% 小レポート（毎回）40%						
【課題等のフィードバック方法】 講義内で出た質問や意見については、講義内にてできるだけ対応する。対応できない場合は、次回以降講義にて対応する。小レポートは次回の講義内でフィードバックを行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 ・15 分以上の遅刻は欠席扱いとする場合がある。 ・講義中は積極的に質問や意見をする。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・本講義を通して、社会課題の解決手法を学び、実生活や実社会でその知識とスキルを応用して活かすことができる。 ・企業や行政に加え、キャリア形成の新たな選択肢として非営利組織を位置づけ、可能性を広げることができる。 【実務家教員担当科目】 中間支援組織 NPO に長年勤務し現在、非営利組織の代表を務める教員が、その経験を活かし、非営利組織の基本的な知識から専門的なノウハウまで具体的な事例を交えながら講義を行う。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	桃生 和成	ガイダンス	10 団体程度の NPO について、活動内容について調べままとめておく。			4 時間
2	桃生 和成	非営利組織とは（基礎）①	講義内で配布した資料の該当部分について A4 用紙 1 枚程度のポートにまとめる。			4 時間
3	桃生 和成	非営利組織とは（基礎）②	講義内で配布した資料の該当部分について A4 用紙 1 枚程度のポートにまとめる。			4 時間
4	桃生 和成	NPO のマネジメント①	講義内で配布した資料の該当部分について A4 用紙 1 枚程度のポートにまとめる。			4 時間
5	桃生 和成	NPO のマネジメント②	講義内で配布した資料の該当部分について A4 用紙 1 枚程度のポートにまとめる。			4 時間
6	桃生 和成	NPO と中間支援組織	講義内で配布した資料の該当部分について A4 用紙 1 枚程度のポートにまとめる。			4 時間
7	桃生 和成	NPO と協働・マルチパートナーシップ	講義内で配布した資料の該当部分について A4 用紙 1 枚程度のポートにまとめる。			4 時間
8	桃生 和成	NPO と SDGs	講義内で配布した資料の該当部分について A4 用紙 1 枚程度のポートにまとめる。			4 時間
9	桃生 和成	NPO 事例分析①	講義内で配布した資料の該当部分について A4 用紙 1 枚程度のポートにまとめる。			4 時間
10	桃生 和成	NPO 事例分析②	講義内で配布した資料の該当部分について A4 用紙 1 枚程度のポートにまとめる。			4 時間
11	桃生 和成	NPO 事例分析③	講義内で配布した資料の該当部分について A4 用紙 1 枚程度のポートにまとめる。			4 時間
12	桃生 和成	NPO の最新動向	講義内で配布した資料の該当部分について A4 用紙 1 枚程度のポートにまとめる。			4 時間
13	桃生 和成	NPO のつくり方	講義内で配布した資料の該当部分について A4 用紙 1 枚程度のポートにまとめる。			4 時間
14	桃生 和成	まとめ	講義内で配布した資料の該当部分について A4 用紙 1 枚程度のポートにまとめる。			4 時間
教 科 書		なし				
参 考 書		「一夜でわかる NPO のつくり方」加藤哲夫（主婦の友社） 「テキストブック NPO」雨森孝悦（東洋経済新聞社） 「はじめての NPO 論」澤村明ほか（有斐閣）				
備 考		なし				

科 目 名	防災の社会学			担 当 者	磯崎 匡
科目ナンバリング	1120432177				非常勤
D P	3,4			教員研究室	非常勤講師室
学 科（専攻）	現代社会学科（社会学専攻）			配 当 年 次	3 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 災害や防災を研究対象とする社会学は、その対象の広範さゆえに全体像を把握することが難しい。本授業では防災の社会学が対象とする領域を広く全般的に概観して、昨今の防災の社会学が問題としている課題を明らかにする。				【課題等のフィードバック方法】 講義終了後、web システム上で質問を受け付ける。 授業内課題は次回授業の冒頭で解説する。	
【学習の到達目標】 1. 防災の社会学の基本的な考え方を理解できる。 2. それをもとに現在の被災地が抱える課題について考察することができる。				【履修上の注意・予習・復習について】 初回授業は必ず出席してください。 出席できない場合、必ず事前に連絡してください。	
【成績評価方法】 授業内課題 40%、最終レポート 60%。 レポートの評価基準は初回授業で説明する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 防災の社会学に関する考え方を習得し、考察することで、今後の災害に対する備えとなることができる。	
				【実務家教員担当科目】 該当なし	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	磯崎 匡	防災の社会学の射程	授業中に説明する		4 時間
2	磯崎 匡	災害の歴史と災害研究 1	授業中に説明する		4 時間
3	磯崎 匡	災害の歴史と災害研究 2	授業中に説明する		4 時間
4	磯崎 匡	防災の社会学の理論 1	授業中に説明する		4 時間
5	磯崎 匡	防災の社会学の理論 2	授業中に説明する		4 時間
6	磯崎 匡	防災と地域	授業中に説明する		4 時間
7	磯崎 匡	防災と都市	授業中に説明する		4 時間
8	磯崎 匡	防災と福祉 1	授業中に説明する		4 時間
9	磯崎 匡	防災と福祉 2	授業中に説明する		4 時間
10	磯崎 匡	防災と環境	授業中に説明する		4 時間
11	磯崎 匡	防災と市民活動	授業中に説明する		4 時間
12	磯崎 匡	防災と教育	授業中に説明する		4 時間
13	磯崎 匡	防災と記憶	授業中に説明する		4 時間
14	磯崎 匡	防災とリスク	授業中に説明する		4 時間
教 科 書		特に指定しない。必要に応じて授業中に適宜資料を紹介する。			
参 考 書		特に指定しない。必要に応じて授業中に適宜資料を紹介する。			
備 考		該当なし			

科 目 名	社会調査演習			担 当 者	齋藤 雅哉
科目ナンバリング	1120432178				常勤
D P	2,3			教員研究室	3306研究室
学科（専攻）	現代社会学科（社会学専攻）			配 当 年 次	2 年次・通年
授 業 形 式	演習	授 業 時 間	60 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 本演習では、社会調査の基礎ならびに調査票調査のプロセスを学んだ学生を対象として、調査後のデータ処理の方法を習得することを目的とする。表計算／統計解析ソフトを用いる形での課題学習・演習・実習と講義を通じて、データを読み、分析し、可視化し、提示するための基礎的な知識と実践的な方法を習得することを目指す。					
【学習の到達目標】 本演習は、2 年次前期に開講される「社会調査法」「データ分析の基礎」、および 2 年次後期に開講される「質的調査法」「量的調査法」の各科目で学んだ内容をベースとして、実際に量的・質的データに触れ、様々な分析を行い、「社会調査で得られたデータを分析する」具体的なノウハウを身につけることを目標とする。 そのため、本演習を履修しようとする場合には「社会調査法」「データ分析の基礎」「質的調査法」「量的調査法」を同時に履修することが必須である。また、本学において 3 年次に開講される社会調査実習を履修しようとする場合には社会調査演習を履修していることが条件となるため、社会調査実習の履修を考えている学生は、必ず本演習を受講すること。					
【成績評価方法】 演習内での各種作業への取り組みによって評価する。					
【課題等のフィードバック方法】 Classroom を活用し、受講生には各課題をデータで提出してもらい、それらに対してコメントする。またストリームでの質問等も受け付ける。					
【履修上の注意・予習・復習について】 本学において 3 年次に開講される社会調査実習を履修しようとする場合には、社会調査演習を履修していることが条件となるため、社会調査実習の履修を考えている学生は、必ず本科目を受講すること。					
【受講して得られる効果・メリット、その他】 社会調査を企画・実施するための基礎的な知識・技能を身につけることができる。					
【実務家教員担当科目】 該当なし					
授 業 計 画					
1. イントロダクション：調査データを活用するということ 2. 統計データを収集する（1） 政府統計データにアクセスする 3. 質的調査の設計（1） テーマを具体化する 4. 統計データを収集する（2） 研究機関の公開データにアクセスする 5. 質的調査の設計（2） 質的調査の方法を理解する 6. データの中身を知る（1） 変数の種類・値・尺度を理解する 7. フィールドワークの古典にふれる（1） トマスとズナニエツキ『ポーランド農民』を読む 8. データの中身を知る（2） 代表値の種類と特性、分散・標準偏差を理解する 9. フィールドワークの古典に触れる（2） トマスとズナニエツキ『ポーランド農民』を読む 10. 離散変数同士の「関係」を知る X 2 乗値 11. 質的データを整理する フィールドノートやインタビュー記録のとり方 12. 連続変数同士の「関係」を知る 相関係数・共分散 13. 質的データを整理する（2） 自由記述のコーディング 14. 連続変数同士の「関係」を知る（3） 相関関係と因果関係の違い、疑似相関とは何か 15. フィールドワークの技法を学ぶ（1） 代表的な先行研究を読む 16. データ分析の実践（1） 統計ソフトウェアにふれる 17. フィールドワークの技法を学ぶ（2） エスノグラフィーの手法を学ぶ 18. データ分析の実践（2） 調査データの基本統計量を算出する 19. フィールドワークの技法を学ぶ（3） KJ 法の実践 20. データ分析の実践（3） クロス集計を実践する 21. フィールドワークの技法を学ぶ（4） KJ 法の実践 22. データ分析の実践（4） 各種検定を実践する 23. フィールドワークの技法を学ぶ（5） グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践 24. データ分析の実践（5） 重回帰分析を実践する 25. データ分析の実践（6） 重回帰分析を実践する 26. データ分析の実践（7） 数量化Ⅰ類を実践する 27. データ分析の実践（8） 二項ロジスティック回帰分析を実践する 28. 全体のまとめ・ふりかえり 各回の前後に、「社会調査法」「データ分析の基礎」「質的調査法」「量的調査法」の学習内容との関係について各自で整理し、予習・復習すること。					
教 科 書	特になし				
参 考 書	適宜指示する				
備 考	1. 本演習を履修する際には、「社会調査法」「データ分析の基礎」「質的調査法」「量的調査法」を同時に必ず履修すること。 2. 3 年次に開講される社会調査実習を履修しようとする場合には、社会調査演習を履修していることが条件となるため、社会調査実習の履修を考えている学生は、必ず本演習を受講すること。				

科 目 名	社会調査実習			担 当 者	齋藤 雅哉
科目ナンバリング	1120432178				常勤
D P	2,3			教員研究室	3306研究室
学 科（専攻）	現代社会学科（社会学専攻）			配 当 年 次	3 年次・通年
授 業 形 式	実習	授 業 時 間	180 時間	単 位	選択 4 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 この授業では、関連科目において修得した社会調査に関する知識を基礎に、実際に社会調査の全プロセスを経験する。それにより量的・質的データの収集およびその取り扱い方、データの分析、考察といった社会調査に必要な実践的な能力の習得を目指す。前期は主に量的調査（調査票調査等）について学び、後期は主に質的調査（インタビュー等）について学ぶ。				【課題等のフィードバック方法】 授業内や Classroom 等を使用してフィードバックを行う。	
【学習の到達目標】 1. 調査を実際に企画し、データを収集、分析することができる。 2. 調査倫理を正しく理解する。				【履修上の注意・予習・復習について】 履修要件：①「社会調査に関する科目」のうち A～D と社会調査演習のすべてと、「社会調査に関する科目」の E,F のうち少なくとも 1 科目、および②「社会学の専門科目」のうち 6 科目以上を単位取得済みであること。	
【成績評価方法】 実習内での各種作業への取り組みによって総合的に評価する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 自ら社会調査を企画・実施するための知識・技能を身につけることができる。	
				【実務家教員担当科目】 該当なし	

科 目 名		現代社会Ⅰ		担 当 者	山尾 貴則	
科目ナンバリング		1120432180			常勤	
D P		2,3		教員研究室	3304	
学科（専攻）		現代社会学科（社会学専攻）		配 当 年 次	3年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30時間	単 位	選択 2単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 テーマ：社会学の視点から社会を視る 現代社会Ⅰでは、受講生が社会学的な知見から我々の日常生活や現代社会に接近するために、共通のテキストを使用して講読を行う。進め方は以下の通り。 1. 各回の講義において、受講生がレジュメを作成する。履修者数が多い場合（30人以上が目安）には各回につき5人程度の受講生が、各自が講読範囲のレジュメを事前に作成し、準備する。 2. 当日はそのうち1人が発表を行う。残りのレジュメ作成担当の学生は、発表に対して必ず質問をする。それに加えて、教員が受講生にランダムに質問者を指定する。指定された学生も、発表内容に対して必ず質問をする。 3. 質疑応答を終えた後、少人数のグループに分かれ、内容についてディスカッションする。 4. 授業終了後に、内容について分かった事、疑問に思ったことなどをまとめ、レポートを作成して提出する。 以上のように、受講生の積極的な参加が必須である。受講を検討する際にはこの点十分留意すること。 【学習の到達目標】 受講生各自が社会学的な観点から自分自身の日常や社会を視ることが出来る。 【成績評価方法】 レジュメ作成、ディスカッションへの参加、コメントシートの提出等 60%、最終レポート 20%、自己評価 20%						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	山尾 貴則	スマホから社会にふれる	テキストを読みレジュメを作成する ディスカッションを通して分かったことをまとめる		4時間	
2	山尾 貴則	飯テロ現象から社会にふれる	テキストを読みレジュメを作成する ディスカッションを通して分かったことをまとめる		4時間	
3	山尾 貴則	就活から社会にふれる	テキストを読みレジュメを作成する ディスカッションを通して分かったことをまとめる		4時間	
4	山尾 貴則	働くことから社会にふれる	テキストを読みレジュメを作成する ディスカッションを通して分かったことをまとめる		4時間	
5	山尾 貴則	観光から社会にふれる	テキストを読みレジュメを作成する ディスカッションを通して分かったことをまとめる		4時間	
6	山尾 貴則	スニーカーから社会にふれる	テキストを読みレジュメを作成する ディスカッションを通して分かったことをまとめる		4時間	
7	山尾 貴則	よさこいから社会にふれる	テキストを読みレジュメを作成する ディスカッションを通して分かったことをまとめる		4時間	
8	山尾 貴則	自らの身体から社会にふれる	テキストを読みレジュメを作成する ディスカッションを通して分かったことをまとめる		4時間	
9	山尾 貴則	LGBT から社会にふれる	テキストを読みレジュメを作成する ディスカッションを通して分かったことをまとめる		4時間	
10	山尾 貴則	外国籍の子どもから社会にふれる	テキストを読みレジュメを作成する ディスカッションを通して分かったことをまとめる		4時間	
11	山尾 貴則	「ハーフ」から社会にふれる	テキストを読みレジュメを作成する ディスカッションを通して分かったことをまとめる		4時間	
12	山尾 貴則	差別現象から社会にふれる	テキストを読みレジュメを作成する ディスカッションを通して分かったことをまとめる		4時間	
13	山尾 貴則	障害から社会にふれる	テキストを読みレジュメを作成する ディスカッションを通して分かったことをまとめる		4時間	
14	山尾 貴則	「魂」から社会にふれる	テキストを読みレジュメを作成する ディスカッションを通して分かったことをまとめる		4時間	
教 科 書		ケイン樹里安他著、2019、『ふれる社会学』、北樹出版。				
参 考 書		適宜指示する。				
備 考		なし				

科 目 名		現代社会Ⅱ		担 当 者	崔 博憲	
科目ナンバリング		1120432181			常勤	
D P		1,2		教員研究室	3308	
学 科（専攻）		現代社会学科（社会学専攻）		配 当 年 次	3 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 この授業では、日本社会がいかなる史的経緯を経て現在に至ったのかを歴史社会学な視点から学ぶ。具体的には明治以降、近代国民国家として日本社会がいかなる変化を経験したのか、そして国民意識が形成されていくなかで異民族や非日本人がどのように遇されたのかについて学ぶ。						
【学習の到達目標】 授業を通じて、いかにしていまの日本が成り立ったのかということを理解できる。またその過程においてどのような人びとが包摂あるいは排除されてきたのかを学ぶことで、社会の多様性についての認識が深まる。						
【成績評価方法】 小レポート・コメントシート：50% 定期試験：50%						
【課題等のフィードバック方法】 質問やコメントについては基本的には授業内で対応するが、内容によっては次回以降の講義やオフィスアワーで対応する。						
【履修上の注意・予習・復習について】 事前に配布したテキストや資料等は必ず読んでから授業に参加してください。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 近代化のなかで日本という国家や日本国民という意識の史的形成過程について多様な視点から立体的に学ぶことができる。						
【実務家教員担当科目】 該当しない。						

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	崔 博憲	ガイダンス：いまの日本社会の成り立ちを理解するために	日本の近代化に関するニュースや事件、用語等を新聞やネット等で調べる。	4 時間
2	崔 博憲	「くに」から「近代国家」へ①：変わる日本のかたち	明治維新に関するニュースや事件、用語等を新聞やネット等で調べる。	4 時間
3	崔 博憲	「くに」から「近代国家」へ②：日本国民という意識の形成（その1）	国民意識に関するニュースや事件、用語等を新聞やネット等で調べる。	4 時間
4	崔 博憲	「くに」から「近代国家」へ③：日本国民という意識の形成（その2）	国民意識に関するニュースや事件、用語等を新聞やネット等で調べる。	4 時間
5	崔 博憲	膨張する帝国日本①：植民地－台湾・朝鮮－	日本の植民地に関するニュースや事件、用語等を新聞やネット等で調べる	4 時間
6	崔 博憲	膨張する帝国日本②：傀儡国家－満州－	満州に関するニュースや事件、用語等を新聞やネット等で調べる	4 時間
7	崔 博憲	アジア太平洋戦争①：朝鮮人BC 級戦犯	戦犯に関するニュースや事件、用語等を新聞やネット等で調べる	4 時間
8	崔 博憲	アジア太平洋戦争②：中国残留邦人	中国残留邦人に関するニュースや事件、用語等を新聞やネット等で調べる	4 時間
9	崔 博憲	アジア太平洋戦争③：中国人強制連行	強制連行に関するニュースや事件、用語等を新聞やネット等で調べる	4 時間
10	崔 博憲	アジア太平洋戦争④：地上戦と米軍基地	戦後の米軍の沖縄駐留に関するニュースや事件、用語等を新聞やネット等で調べる	4 時間
11	崔 博憲	アジア太平洋戦争⑤：非日本人被爆者	広島・長崎の被爆に関するニュースや事件、用語等を新聞やネット等で調べる	4 時間
12	崔 博憲	沖縄と日本①：王国から県に	沖縄戦に関するニュースや事件、用語等を新聞やネット等で調べる	4 時間
13	崔 博憲	沖縄と日本②沖縄戦	沖縄戦に関するニュースや事件、用語等を新聞やネット等で調べる	4 時間
14	崔 博憲	まとめ	これまでの授業についてまとめの学習をする。	4 時間
教 科 書		なし。使用するテキストや資料は配布する。		
参 考 書		講義中に適宜紹介する。		
備 考		上記のスケジュールを基本としながら、受講生の関心やその時々々の社会状況に応じたトピックも積極的にとりあげたい。		

科 目 名		現代社会Ⅲ		担 当 者	鑑 さやか	
科目ナンバリング		1120432182			常勤	
D P		3,4		教 員 研 究 室	1307	
学 科（専攻）		現代社会学科（社会学専攻）		配 当 年 次	3 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 この授業では、「子どもと家族」をテーマとして取り上げる。健全育成、育児、虐待、いじめ、暴力、など、「子ども」と「家族」に関わる事象を取り上げ、社会の文脈において、社会との関係性について考える作業に共同で取り組む。						
【課題等のフィードバック方法】 毎回提出するコメントシートを返却し、解説を行う。						
【学習の到達目標】 ・子どもと子どもを取り巻く環境を総合的に理解し、それぞれの問題の解決に向けた取り組みを理解します。 ・多角的に事象をとらえる力と客観的に課題を把握する力を養うことを目指します。						
【履修上の注意・予習・復習について】 欠席が3分の1以上の者は履修放棄となるので注意すること。 詳しくは初回授業時に提示します。 授業中のスマートフォンの使用や私語、飲食は禁止します。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 課題解決型の思考力が身につきます						
【成績評価方法】 レジュメ作成、ディスカッションへの参加発表、コメントシートの提出 70% 最終レポート 30%						
【実務家教員担当科目】 該当しない						

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	鑑 さやか	オリエンテーション	授業の中で指示する	4 時間
2	鑑 さやか	子どもと家庭を取り巻く現代社会：人口減少と少子高齢化社会	教科書の該当部分を熟読してレジュメを作成する。授業の中で明らかとなった現状や課題について復習する。	4 時間
3	鑑 さやか	子どもと家庭を取り巻く現代社会：社会の変容と子育て環境の変化	教科書の該当部分を熟読してレジュメを作成する。授業の中で明らかとなった現状や課題について復習する。	4 時間
4	鑑 さやか	子どもと家庭を取り巻く現代社会：経済構造及び労働環境	教科書の該当部分を熟読してレジュメを作成する。授業の中で明らかとなった現状や課題について復習する。	4 時間
5	鑑 さやか	子どもと家庭を取り巻く現代社会：地域と家庭・子育て環境の変化	教科書の該当部分を熟読してレジュメを作成する。授業の中で明らかとなった現状や課題について復習する。	4 時間
6	鑑 さやか	子どもと家庭を取り巻く現代社会：子どもたちの生活変化	教科書の該当部分を熟読してレジュメを作成する。授業の中で明らかとなった現状や課題について復習する。	4 時間
7	鑑 さやか	子どもと家族の課題：子ども・子育て支援	教科書の該当部分を熟読してレジュメを作成する。授業の中で明らかとなった現状や課題について復習する。	4 時間
8	鑑 さやか	子どもと家族の課題：保育	教科書の該当部分を熟読してレジュメを作成する。授業の中で明らかとなった現状や課題について復習する。	4 時間
9	鑑 さやか	子どもと家族の課題：児童虐待	教科書の該当部分を熟読してレジュメを作成する。授業の中で明らかとなった現状や課題について復習する。	4 時間
10	鑑 さやか	子どもと家族の課題：ひとり親家庭	教科書の該当部分を熟読してレジュメを作成する。授業の中で明らかとなった現状や課題について復習する。	4 時間
11	鑑 さやか	子どもと家族の課題：DV	教科書の該当部分を熟読してレジュメを作成する。授業の中で明らかとなった現状や課題について復習する。	4 時間
12	鑑 さやか	子どもと家族の課題：少年非行	教科書の該当部分を熟読してレジュメを作成する。授業の中で明らかとなった現状や課題について復習する。	4 時間
13	鑑 さやか	子どもと家族の課題：障害児	教科書の該当部分を熟読してレジュメを作成する。授業の中で明らかとなった現状や課題について復習する。	4 時間
14	鑑 さやか	総括	最終レポートを作成する。	4 時間
教 科 書		特になし		
参 考 書		授業の中で紹介します		
備 考		問合せ教員：鑑さやか		

科 目 名		現代社会Ⅳ		担 当 者	豊田 正利	
科目ナンバリング		1120432183			常勤	
D P		2,3		教員研究室	3301	
学科（専攻）		現代社会学科（社会学専攻）		配 当 年 次	3 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 本科目のテーマは「共生社会について考える―地域福祉の視点から」である。 地域福祉の視点により「共生社会」を「地域共生社会として捉え、その概念に対する理解をとおして、現状認識と実現に向けた今後の社会的課題及び自己の役割について考察することを目的とする。 【学習の到達目標】 上記「授業内容」の明確化及び達成。 【成績評価方法】 毎回作成する「講義ノート」を参考にして作成する総括レポート 40 点、定期試験（持込不可）60 点、合計 100 点満点で評価する。				【課題等のフィードバック方法】 講義終了後、質問を受け付ける。出欠カードをミニツッパーとして活用する。 【履修上の注意・予習・復習について】 ・遅刻は講義開始 20 分までとし、以降の入室は認めない。 ・講義中の私語、携帯の使用、飲食等は厳禁とする。 ・講義終了時に復習の重点事項と次回講義の予習に関する重点事項について説明するので、指示に従い、各自予習と復習を必ず行うこと。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 「地域共生社会」に対する学修をとおして、その実現の必要性を理解するとともに、その実現のために必要な専門性（価値、知識、技術）を身につけ、実現のために重要な担い手であることを自覚するとともに、必要な素養を涵養することができる。 【実務家教員担当科目】 該当しない		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	豊田 正利	1. ガイダンスーこれからの学習に向けて	新聞やニュース報道等をとおして、身近な地域で起きている様々な福祉課題について事前に理解を図る。これからの学習に向けて自己の目標を設定する。			4 時間
2	豊田 正利	2. 「生存権」の意義と社会福祉	日本国憲法の 3 大原則について事前に理解を図る。「生存権」のもつ意味について考察する。			4 時間
3	豊田 正利	3. 福祉 6 法体制の理解 ①児童福祉領域	クラスルームに事前投稿する PDF 版資料をもとに、今日の児童福祉に関わる課題について事前に理解を図る。今後の児童福祉のあり方について考察する。			4 時間
4	豊田 正利	4. 福祉 6 法体制の理解 ②障害者福祉領域	新聞やニュース報道等をもとに、今日の障害者福祉に関わる課題について事前に理解を図る。今後の障害者福祉のあり方について考察する。			4 時間
5	豊田 正利	5. 福祉 6 法体制の理解③高齢者福祉領域	新聞やニュース報道等をもとに、今日の高齢者福祉に関わる課題について事前に理解を図る。今後の高齢者福祉のあり方について考察する。			4 時間
6	豊田 正利	6. 地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題	新聞やニュース報道等をもとに、身近な地域で発生している福祉問題について事前に理解を図る。福祉課題の改善、解決のために必要な対応について考察する。			4 時間
7	豊田 正利	7. 地域福祉の形成と発展－社会福祉基礎構造改革と現代の地域福祉政策	クラスルームに事前投稿する PDF 版資料をもとに、「社会基基礎構造改革」の内容について理解しておく。今後の地域福祉政策の動向について考察する。			4 時間
8	豊田 正利	8. 地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制－地域福祉の思想「ノーマライゼーション」	「ノーマライゼーション」について、自己のイメージを事前に整理しておく。ノーマライゼーション理念が我が国の社会福祉にもたらしている影響について考察する。			4 時間
9	豊田 正利	9. 地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制－地域包括ケアシステム	クラスルームに事前投稿する PDF 版資料をもとに、「地域包括ケアシステム」の概要を理解しておく。システムの構築に向けた現状と課題について考察する。			4 時間
10	豊田 正利	10. 地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制－地域共生社会の考え方	クラスルームに事前投稿する PDF 版資料をもとに、「包括的支援体制」の意味について理解しておく。その制度的意義と実現のための方法について考察する。			4 時間
11	豊田 正利	11. 地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制－地域共生社会の実現に向けた制度	「地域福祉」について、自己のイメージを事前に整理しておく。地域福祉の考え方が必要とされる理由について考察する。			4 時間
12	豊田 正利	12. 地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制－地域共生社会の実現に向けた様々な取り組み	新聞やニュース報道等とともに、身近な地域社会において発生している様々な福祉課題について理解を図る。課題が発生する社会状況や原因について考察する。			4 時間
13	豊田 正利	13. 共生社会と SDG s p - Iー現状の理解	「地域福祉」を社会科学の視点から捉える意味について、事前に自己の考えを整理しておく。「地域福祉」を社会科学として学ぶ重要性について考察する。			4 時間
14	豊田 正利	14. 13. 共生社会と SDG s p - IIー今後の課題に向けて	「社会福祉法」の概要について、事前に基本的な理解を図る。第 3 条をもとに、戦後から今日に至る福祉理念の変遷について考察する。			4 時間
教 科 書		特に指定しない。 適宜必要な資料を印刷して使用する。				
参 考 書		特に指定しない。 適宜必要な資料を印刷して使用する				
備 考		受講生のみなさんの学修に対する積極的な姿勢を期待します。				

科 目 名		現代社会Ⅴ		担 当 者	村田 道彦	
科目ナンバリング		1120442184			常勤	
D P		3,4		教員研究室	1202	
学科（専攻）		現代社会学科（社会学専攻）		配 当 年 次	3 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 この授業では、「高齢者を取り巻く社会環境」をテーマとして取り上げる。 健康寿命、就労、社会参加、介護、虐待など「高齢者」を取り巻く社会環境に関わる事例を取り上げ社会とのつながりやその役割について考える。				【課題等のフィードバック方法】 毎回提出する振り替えシートを返却し、解説を行う。		
【学習の到達目標】 高齢者の生活実態とそれを取り巻く社会環境を総合的に理解し、それぞれの問題の解決に向けた取り組みを理解する。 よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を得る力を養うことを目指す。				【履修上の注意・予習・復習について】 欠席が3分の1以上の者は原則として定期試験の受講資格は無くなるので注意すること。授業中のスマートフォンの仕様や私語、飲食は禁止する。		
【成績評価方法】 課題点（レジュメ作成、ディスカッションへの参加、振り替えシートの提出）60%、最終レポート 20%、自己評価 20%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 課題解決の思考力を身に付け、自分が他者や社会・地域にどのように関わっていくことができるかを考えることができる。今後、自分の可能性をちょっと考える機会になる。		
【実務家教員担当科目】 該当しない						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	村田 道彦	オリエンテーション	予習：教材の該当部分を熟読し課題を行う 復習：授業の中で明らかになった現状や課題を復習し、できなかった部分の補習学習を行う			4 時間
2	村田 道彦	高齢者の定義と特性	予習：教材の該当部分を熟読し課題を行う 復習：授業の中で明らかになった現状や課題を復習し、できなかった部分の補習学習を行う			4 時間
3	村田 道彦	少子高齢社会の到来	予習：教材の該当部分を熟読し課題を行う 復習：授業の中で明らかになった現状や課題を復習し、できなかった部分の補習学習を行う			4 時間
4	村田 道彦	高齢者の生活実態	予習：教材の該当部分を熟読し課題を行う 復習：授業の中で明らかになった現状や課題を復習し、できなかった部分の補習学習を行う			4 時間
5	村田 道彦	高齢者を取り巻く社会環境の課題：健康寿命	予習：教材の該当部分を熟読し課題を行う 復習：授業の中で明らかになった現状や課題を復習し、できなかった部分の補習学習を行う			4 時間
6	村田 道彦	高齢者を取り巻く社会環境の課題：就労	予習：教材の該当部分を熟読し課題を行う 復習：授業の中で明らかになった現状や課題を復習し、できなかった部分の補習学習を行う			4 時間
7	村田 道彦	高齢者を取り巻く社会環境の課題：家族	予習：教材の該当部分を熟読し課題を行う 復習：授業の中で明らかになった現状や課題を復習し、できなかった部分の補習学習を行う			4 時間
8	村田 道彦	高齢者を取り巻く社会環境の課題：社会参加	予習：教材の該当部分を熟読し課題を行う 復習：授業の中で明らかになった現状や課題を復習し、できなかった部分の補習学習を行う			4 時間
9	村田 道彦	高齢者を取り巻く社会環境の課題：住まい	予習：教材の該当部分を熟読し課題を行う 復習：授業の中で明らかになった現状や課題を復習し、できなかった部分の補習学習を行う			4 時間
10	村田 道彦	高齢者を取り巻く社会環境の課題：高齢者虐待	予習：教材の該当部分を熟読し課題を行う 復習：授業の中で明らかになった現状や課題を復習し、できなかった部分の補習学習を行う			4 時間
11	村田 道彦	高齢者を取り巻く社会環境の課題：介護	予習：教材の該当部分を熟読し課題を行う 復習：授業の中で明らかになった現状や課題を復習し、できなかった部分の補習学習を行う			4 時間
12	村田 道彦	高齢者を取り巻く社会環境の課題：医療	予習：教材の該当部分を熟読し課題を行う 復習：授業の中で明らかになった現状や課題を復習し、できなかった部分の補習学習を行う			4 時間
13	村田 道彦	高齢者を取り巻く社会環境の課題：地域	予習：教材の該当部分を熟読し課題を行う 復習：授業の中で明らかになった現状や課題を復習し、できなかった部分の補習学習を行う			4 時間
14	村田 道彦	まとめ：これまでの学習の振り返り	予習：教材の該当部分を熟読し課題を行う 復習：授業の中で明らかになった現状や課題を復習し、できなかった部分の補習学習を行う			4 時間
教 科 書		特に指定なし。 使用するテキストや資料は配布する。				
参 考 書		特に指定なし。 使用するテキストや資料は配布する。				
備 考		受講生のみなさんに、学修に対する積極的な姿勢を期待します。				

科 目 名		現代社会Ⅶ		担 当 者	岡 恵介
科目ナンバリング		1120442185			常勤
D	P	2,3		教 員 研 究 室	1321
学 科（専攻）		現代社会学科（社会学専攻）		配 当 年 次	3 年次・後期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし			
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☒ 自主学習支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 現代の日本社会では、死は巧妙に隠蔽されている。スーパーで売られたパック入りの肉に獣の生の痕跡はなく、災害被害はけが人や死者の数で報道され、個々の生の営みが絶たれた実像をわれわれは目にすることはない。しかし、東日本大震災の被災者たちは、そうした死の現実と直面せざるを得なかった。彼らはその現実をどのように感じ、解釈し、受け入れようとしたのか。そこには、東北に生きてきた被災者たちの死生観が表出しているはずである。この授業では、この問題を取り上げた教科書を用いて、東北の人々の死生観をテーマに検証していく。 教科書の内容は、霊を乗せて走るタクシー タクシードライバーの幽霊体験、わが子は記憶のなかで生きていと慰霊碑を抱きしめる遺族、700 体もの遺体を土中から掘り起こして改葬した葬儀社、津波のデッドラインを走る消防団員、骨組みだけが残った防災庁舎を震災遺構として保存するかなど、被災地の生と死の現場に迫るノンフィクションである。亡くなった肉親や津波犠牲者の存在を確かに感じるという、目にみえない霊性の世界を探る。					
【課題等のフィードバック方法】 レジュメテンプレートを配布して WEB 上でレジュメを作成させ、ICT を活用して助言、添削を行う自主学習支援型の授業。各講義の最後に時間を設け、質問を受け付け教員が回答する。					
【履修上の注意・予習・復習について】 予習でレジュメを作成し教員の助言と確認後の発表で評価することを理解して履修すること。					
【受講して得られる効果・メリット、その他】 東北の人々の死生観についてまなび、それにどう寄り添うべきかについて理解を深めることができる。					
【実務家教員担当科目】 なし。					
【学習の到達目標】 東日本大震災の被災者たちのそれを受け入れ乗り越えていくための心の動きと行動を探り、東北の人々の死生観の様々な層での表出を理解し、そこにどう寄り添うべきかを知る。					
【成績評価方法】 テストは行わない。レジュメと発表の内容 80%、他の発表へのコメントの内容 20% で評価する。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	岡 恵介	授業形式、内容、評価の方法の確認と東日本大震災について	シラバスを読んで授業形式、内容、評価の方法、東日本大震災について予習し、現在の自分の周囲における東日本大震災の影響について復習する。		4 時間
2	岡 恵介	現代社会の隠蔽された死	東日本大震災時の報道と文化人類学者リントンについて予習し、現代社会において死がどのように隠蔽されているかについて復習する。		4 時間
3	岡 恵介	遠野物語における地震・津波災害	柳田国男の「遠野物語」について予習し、震災後に人々がとった通常ではあまりない経験や行動について復習する		4 時間
4	岡 恵介	今後の授業展開と、各自発表担当箇所の決定	教科書を通読して発表する賞を選択するための予習し、復習としてレジュメの作成を進める。		4 時間
5	岡 恵介	「霊性の震災学」を読む 各発表予定者レジュメの個別助言	担当章のレジュメ作成を進め、今時の発表について教科書を読んで質問項目を準備する。授業で指摘されたことをレジュメ作成に反映させ、今時の発表をレジュメをもとに復習する。		4 時間
6	岡 恵介	【発表】「死者たちが通う街」と「霊性の震災学」を読む 各発表予定者レジュメの個別助言	担当章のレジュメ作成を進め、今時の発表について教科書を読んで質問項目を準備する。授業で指摘されたことをレジュメ作成に反映させ、今時の発表をレジュメをもとに復習する。		4 時間
7	岡 恵介	【発表】「生ける死者の記憶を抱く」と「霊性の震災学」を読む 各発表予定者レジュメの個別助言	担当章のレジュメ作成を進め、今時の発表について教科書を読んで質問項目を準備する。授業で指摘されたことをレジュメ作成に反映させ、今時の発表をレジュメをもとに復習する。		4 時間
8	岡 恵介	【発表】「震災遺構の当事者性を越えて」と「霊性の震災学」を読む 各発表予定者レジュメの個別助言	担当章のレジュメ作成を進め、今時の発表について教科書を読んで質問項目を準備する。授業で指摘されたことをレジュメ作成に反映させ、今時の発表をレジュメをもとに復習する。		4 時間
9	岡 恵介	【発表】「埋め墓と詣り墓を架橋する」と「霊性の震災学」を読む 各発表予定者レジュメの個別助言	担当章のレジュメ作成を進め、今時の発表について教科書を読んで質問項目を準備する。授業で指摘されたことをレジュメ作成に反映させ、今時の発表をレジュメをもとに復習する。		4 時間
10	岡 恵介	【発表】「被災者の社会的孤立と平等の死」と「霊性の震災学」を読む 各発表予定者レジュメの個別助言	担当章のレジュメ作成を進め、今時の発表について教科書を読んで質問項目を準備する。授業で指摘されたことをレジュメ作成に反映させ、今時の発表をレジュメをもとに復習する。		4 時間
11	岡 恵介	【発表】「672 ご遺体の掘りおこし」と「霊性の震災学」を読む 各発表予定者レジュメの個別助言	担当章のレジュメ作成を進め、今時の発表について教科書を読んで質問項目を準備する。授業で指摘されたことをレジュメ作成に反映させ、今時の発表をレジュメをもとに復習する。		4 時間
12	岡 恵介	【発表】「津波のデッドラインに飛び込む」と「霊性の震災学」を読む 各発表予定者レジュメの個別助言	担当章のレジュメ作成を進め、今時の発表について教科書を読んで質問項目を準備する。授業で指摘されたことをレジュメ作成に反映させ、今時の発表をレジュメをもとに復習する。		4 時間
13	岡 恵介	【発表】「原発避難区域で殺生し続ける」と「霊性の震災学」を読む 各発表予定者レジュメの個別助言	担当章のレジュメ作成を進め、今時の発表について教科書を読んで質問項目を準備する。授業で指摘されたことをレジュメ作成に反映させ、今時の発表をレジュメをもとに復習する。		4 時間
14	岡 恵介	東北の死生観についてのまとめとふりかえり	これまでの発表レジュメをあらためて読み直し、まとめの内容について復習する。		4 時間
教 科 書		金菱清「呼び覚まされる霊性の震災学」新曜社			
参 考 書		授業のなかで紹介する。			
備 考		特になし。			

科 目 名		現代社会Ⅶ		担 当 者	崔 博憲	
科目ナンバリング		1120442186			常勤	
D P		3,4		教 員 研 究 室	3308	
学 科（専攻）		現代社会学科（社会学専攻）		配 当 年 次	3 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選 択 2 単 位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 この授業ではマイノリティや社会的弱者という視点から現代日本社会について学ぶ。まず、マイノリティという概念についての理解をしたうえで、アイヌ、在日韓国朝鮮人、沖縄、部落、中国残留邦人、LGBTQ、障がい者、外国人労働者、難民、ハーフ・ダブル、無国籍・無戸籍者といった人びとや集団が現代日本でどのような困難や問題を抱えているのか、また彼／彼女たち自身はそれらにいかに向き合っているのかを考える。						
【学習の到達目標】 日本におけるマイノリティ問題についての基本的理解を深め、日本の人権状況への関心を持つ。						
【成績評価方法】 小レポート・コメントシート：50% 定期試験：50%						
【課題等のフィードバック方法】 質問やコメントについては、基本的には講義後回答する。内容によっては、次回以降の講義やオフィスアワーで対応する。						
【履修上の注意・予習・復習について】 事前に配布したテキストや資料等は必ず読んでから授業に参加してください。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 現代日本社会の周縁を生きる人びとの実態について具体的に理解することができる。また日本の人権状況についての認識を深めることができる。						
【実務家教員担当科目】 該当しない。						

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	崔 博憲	ガイドランス：マイノリティとは誰のことか	マイノリティに関するニュースや事件、用語等を新聞やネット等で調べる。	4 時間
2	崔 博憲	マイノリティを生きるということ	マイノリティに関するニュースや事件、用語等を新聞やネット等で調べる。	4 時間
3	崔 博憲	戦後日本社会のなかの外国人①：在日韓国朝鮮人	在日韓国朝鮮人に関するニュースや事件、用語等を新聞やネット等で調べる。	4 時間
4	崔 博憲	戦後日本社会のなかの外国人②：ボートピープル、外国人労働者	ボートピープルや外国人労働者に関するニュースや事件、用語等を新聞やネット等で調べる。	4 時間
5	崔 博憲	いまを生きるアイヌ①	アイヌに関するニュースや事件、用語等を新聞やネット等で調べる	4 時間
6	崔 博憲	いまを生きるアイヌ②	アイヌに関するニュースや事件、用語等を新聞やネット等で調べる	4 時間
7	崔 博憲	現代の被差別部落①	被差別部落に関するニュースや事件、用語等を新聞やネット等で調べる	4 時間
8	崔 博憲	現代の被差別部落②	被差別部落に関するニュースや事件、用語等を新聞やネット等で調べる	4 時間
9	崔 博憲	「わたしは誰？」と向き合うマイノリティ	マイノリティのアイデンティティに関するニュースや事件、用語等を新聞やネット等で調べる	4 時間
10	崔 博憲	中国残留邦人3 世：我是誰	中国残留邦人の2・3 世に関するニュースや事件、用語等を新聞やネット等で調べる	4 時間
11	崔 博憲	ハーフ・ダブル：憧れと見下しの狭間	ハーツ・ダブルに関するニュースや事件、用語等を新聞やネット等で調べる	4 時間
12	崔 博憲	LGBTQ：多様な性	LGBTQ に関するニュースや事件、用語等を新聞やネット等で調べる	4 時間
13	崔 博憲	無国籍：無在住資格：所属が無いということ	無国籍者・無在留資格者に関するニュースや事件、用語等を新聞やネット等で調べる	4 時間
14	崔 博憲	まとめ	これまでの学習の振り返りとまとめを行う	4 時間
教 科 書		なし。使用するテキストや資料は配布する。		
参 考 書		講義中に適宜紹介する。		
備 考		上記のスケジュールを基本としながら、受講生の関心やその時々社会状況に応じたトピックも積極的にとりあげたい。		

科 目 名	現代社会Ⅷ			担 当 者	小 淵 高 志
科目ナンバリング	1120442187				常 勤
D P	3,4			教 員 研 究 室	1305
学 科（専攻）	現代社会学科（社会学専攻）			配 当 年 次	3 年次・後期
授 業 形 式	講 義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選 択 2 単 位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☒ 自主学習支援 ☐ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 少子・高齢化、グローバル化が進む現代社会においてもたらされるさまざまな社会問題を、「格差社会」論の視点から考察します。そして、社会的排除や貧困に対する処方箋を考案します。授業は受講者が多い場合は講義形式をとりますが、少数の場合はゼミのような演習形式で進めます。				【課題等のフィードバック方法】 授業中の課題提出の解説を次の授業で行う。講義終了後に、質問を受け付け回答する。授業中にグーグルクラスルームのチャットやアンケートフォームなどを使い、質疑応答や意見交換やグループ・ディスカッションを行います。	
【学習の到達目標】 「格差社会」論の視点から現代社会を考察する基礎的な知識を獲得し、社会問題を解決する力を身につけます。				【履修上の注意・予習・復習について】 授業の最後に、次の学習範囲を予告します。そのときに、必読文献や作業課題などを提示します。そして、復習のための作業課題なども同時に提示します。指示に従って、必ず予習と復習をしてください。授業の録画を振り返り（復習）、分からないことや理解を深めたいことを、グーグルミートのメッセージ機能を使って質問してください。	
【成績評価方法】 課題レポート（40%）、筆記試験（60%）による総合評価とします。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 「格差社会」論の視点から現代社会を考察する基礎的な知識や課題解決力が身につきます。	
【実務家教員担当科目】 該当しない					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	小 淵 高 志	日本はいつから「格差社会」になったのか	格差論争の始まり、拡散の難しさ、格差をめぐる問題せつてを考えてみよう。		4 時間
2	小 淵 高 志	「格差社会」論の社会的文脈	「格差社会」論と社会学、自由主義の観点から、格差拡大の問題を考えてみよう。		4 時間
3	小 淵 高 志	「格差社会」と「機会の平等」	「結果の格差」と「機会の格差」、格差と貧困、阪神・淡路大震災と東日本大震災から復興と格差を考えてみよう。		4 時間
4	小 淵 高 志	格差拡大の原因を考える	日米貿易摩擦によるアメリカの対日強行圧力からの脱却、自由貿易と国内産業の疲弊からの回復を、国民経済の視点から考えよう。		4 時間
5	小 淵 高 志	日本の家族と社会の変容	家族とは何か、家族・世帯の構成の変化、働き方・暮らし方の変化について考えよう。		4 時間
6	小 淵 高 志	ライフコースと性別役割分業	女性のライフコースの変化、性別役割分業の意識と実態の変化、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた政策を考えてみよう。		4 時間
7	小 淵 高 志	結婚と家族形成をめぐる問題	未婚化・晩婚化の進行、なぜ未婚化・晩婚化は問題なのか、未婚化・晩婚化の背景にあるものを考えよう。		4 時間
8	小 淵 高 志	社会的排除・貧困のパスベクティブ	社会的排除概念の登場、社会的排除と貧困論の位相とその背景、社会的排除論の優位性とは何か考えてみよう。		4 時間
9	小 淵 高 志	EU と日本における社会的排除・格差・貧困論の展開	シティズンシップと社会的排除、社会的排除とアンダークラス論、社会の変容と重複排除の実態を考えよう。		4 時間
10	小 淵 高 志	貧困と社会的排除の現状	福祉国家の崩壊とグローバル化、脱工業化、社会的排除としてのホームレス問題の現状、福祉国家の展望と社会的包摂への射程を考えよう		4 時間
11	小 淵 高 志	グローバル化における人の国際移動と日本の人口変動	増大する世界人口、国際人口移動と日本への移民の流入、日本の外国籍者数と人口補填について考えよう。		4 時間
12	小 淵 高 志	移民社会の可能性	外国籍者受け入れの現状、外国人・移民政策と「日本人」の変容、地域社会への新しい施策の可能性を考えよう。		4 時間
13	小 淵 高 志	「包摂」の社会政策としてのワークフェア	ワークフェアとは何か？、アメリカやイギリスのワークフェアから考えてみよう。		4 時間
14	小 淵 高 志	「包摂」の社会政策としてのベーシックインカム	ベーシック・インカムとは何か？、ベーシックインカムの理念と課題を考えよう。		4 時間
教 科 書	今泉礼右編著『グローバル時代の社会学—社会学の視点で読み解く現代社会の様相』みらい				
参 考 書	授業の中で適宜紹介				
備 考	授業開始時刻より 10 分以上の遅刻者の受講を禁止します。授業時間中の飲食、私語、許可のない入退出を禁止します。授業時間中における携帯電話（スマートフォン等）での通話やメール送受信等を禁止します。				

科 目 名		地域文化論		担 当 者	岡 恵介	
科目ナンバリング		1120422188			常勤	
D P		1,4		教員研究室	1321	
学科（専攻）		現代社会科学（社会学専攻）		配 当 年 次	2 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート □グループワーク ☒ プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 ☒ 自主学習支援 □該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 約 160 年前まで東京は江戸と呼ばれ、鎖国政策でほとんど外国の物資が入ってこない中で、同時代の欧米の都市と比べても後れを取らない生活文化が営まれていた。近世では世界最大の都市といえる人口 100 万都市の江戸の膨大な日常消費は、草の根レベルの活発なりサイクルで支えられていた。藁、竹、灰、みな太陽エネルギーの有効利用で捨てずにリサイクルされていた。現代社会のお手本ともなりうる循環型リサイクル社会であった江戸を、地域文化という視点から探っていく。						
【学習の到達目標】 エネルギー利用を中心とした循環型リサイクル社会としての江戸の実態を理解し、今後の日本社会にどのように反映していくべきかを述べる事が出来る。						
【成績評価方法】 作成したレジュメの内容を含む発表内容 80%、毎時の質問内容と回数 20% により評価する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	岡 恵介	ガイダンス～本講義の意図と展開～	授業概要から授業内容と流れを予習し、ノートをもとに授業の意図するところを復習し、自分が使う教科書を手配して入手しておく。			4 時間
2	岡 恵介	江戸のリサイクルの実態を探る	教科書の該当部分を読んで予習し、講義内容についてノートをもとに復習しておく。			4 時間
3	岡 恵介	照明は植物由来や魚由来の油	教科書の該当部分を読んで予習し、発表レジュメと質疑内容について復習しておく。			4 時間
4	岡 恵介	稲藁で様々な民具や防寒具が作られた	教科書の該当部分を読んで予習し、発表レジュメと質疑内容について復習しておく。			4 時間
5	岡 恵介	プラスチック登場前の重要素材だった竹	教科書の該当部分を読んで予習し、発表レジュメと質疑内容について復習しておく。			4 時間
6	岡 恵介	衣類は、麻などの畑作物や古着の再利用で	教科書の該当部分を読んで予習し、発表レジュメと質疑内容について復習しておく。			4 時間
7	岡 恵介	古い蔵に棲む微生物が、世界に類を見ない酒日本酒を醸した	教科書の該当部分を読んで予習し、発表レジュメと質疑内容について復習しておく。			4 時間
8	岡 恵介	畑作物収穫→食料→人糞尿→肥料→畑作物収穫のリサイクル	教科書の該当部分を読んで予習し、発表レジュメと質疑内容について復習しておく。			4 時間
9	岡 恵介	竈や囲炉裏の灰があく抜きや糞しの溶媒となった	教科書の該当部分を読んで予習し、発表レジュメと質疑内容について復習しておく。			4 時間
10	岡 恵介	適度な樹木の伐採が、里山を形成した	教科書の該当部分を読んで予習し、発表レジュメと質疑内容について復習しておく。			4 時間
11	岡 恵介	物流は船で、日本海側が大動脈だった	教科書の該当部分を読んで予習し、発表レジュメと質疑内容について復習しておく。			4 時間
12	岡 恵介	豊かな森林の保護が、旨い魚を育てた	教科書の該当部分を読んで予習し、発表レジュメと質疑内容について復習しておく。			4 時間
13	岡 恵介	森林保水力が川の流れを維持し、水車を回すエネルギーを生んだ	教科書の該当部分を読んで予習し、発表レジュメと質疑内容について復習しておく。			4 時間
14	岡 恵介	振り返りとまとめ	これまでの発表レジュメを読み返して予習し、これまでの授業で聞いた発表内容から江戸のリサイクル文化についてまとめる。			4 時間
教 科 書		アズビー・ブラウン著「江戸に学ぶエコ生活術」阪急コミュニケーションズ。				
参 考 書		授業のなかで紹介していく。				
備 考		なし。				

科 目 名		東北文化論		担 当 者	岡 恵介
科目ナンバリング		1120442189			常勤
D	P	1,4		教 員 研 究 室	1321
学 科（専攻）		現代社会学科（社会学専攻）		配 当 年 次	3 年次・後期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし			
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☒ 自主学習支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 この講義では、日本文化のなかで東北の特性を位置づけながら、東北が生み出した文化・芸術を、それにかかわった個人に焦点を当ててその生き様を探りながら、つまるところ「東北」とは何かを考えていく。 履修者は下にあげたテーマのうちのいずれかを選択し、参考文献を自らの手で探し、レジュメを作成・配布し、毎回順番に発表していく。					
【履修上の注意・予習・復習について】 発表形式の授業なので、予習としてレジュメの作成を個別の指導を受けながら進める。発表時に十分に答えられなかった質問に対して、復習して調べ次の時間に報告する。					
【受講して得られる効果・メリット、その他】 東北の文化と、そこで育まれてきた人々の業績や生き方について自ら調べ、多くの人の前で発表することにより東北地方固有の文化について知ることができ、本を読んでその内容と自分の考えをまとめ、その最も重要なエッセンスをいかにわかりやすく他者に伝え、質疑を通じて共通理解に至るプレゼンテーションの技法を実践的に身につけることができる。さらに書店や図書館、古書店、インターネットの検索などを駆使して、自分の知りたい情報を自分で探し手に入れる方法も身につけることができる。					
【実務家教員担当科目】 なし。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	岡 恵介	授業内容および進め方の説明と個人担当テーマの選択	シラバスから授業で取り上げる人物の業績について予習し、選択したテーマについて復習する。		4 時間
2	岡 恵介	東北文化の特性を考える	東北の地域文化にはどのような特性があるのかを予習し、授業で学習した地域特性についてノートをもとに復習する。		4 時間
3	岡 恵介	照葉樹林文化論と東北	照葉樹林文化論について参考書で予習し、その東北地方の地域特性との関連についてレジュメをもとに復習する。		4 時間
4	岡 恵介	ナラ林文化論と東北	ナラ林文化論について参考書で予習し、その東北地方の地域特性との関連についてレジュメをもとに復習する。		4 時間
5	岡 恵介	東北の森の暮らしとマタギ	マタギという生業について参考書で予習し、実際のマタギの猟法、信仰、森林生態系との関わりをレジュメをもとに復習する。		4 時間
6	岡 恵介	こけしが語る木地師の世界	こけしの由来や産地について参考書で予習し、木地師の信仰、技術伝播、森林生態系との関わりをレジュメをもとに予習する。		4 時間
7	岡 恵介	宮澤賢治が描いた岩手のネーランド	宮沢賢治の生涯と作品について予習し、彼が岩手の大地に仮託した夢や妹の死を経験して得た想いについてレジュメをもとに復習する。		4 時間
8	岡 恵介	柳宗悦が出会った東北の手仕事	柳宗悦の生涯と民芸運動について予習し、彼が出会った東北の手仕事に何を見出していたのかを、レジュメをもとに復習する。		4 時間
9	岡 恵介	柳田国男、日本民俗学の幕開けと遠野物語	柳田国男の生涯と日本民俗学について予習し、民俗学の開拓に寄与した遠野物語の意味について、レジュメをもとに復習する。		4 時間
10	岡 恵介	津軽三味線・高橋竹山の芸と旅の人生	高橋竹山の生涯と演奏について予習し、津軽という地域風土に育まれた津軽三味線の独自性について、レジュメをもとに復習する。		4 時間
11	岡 恵介	津軽文化を体現した棟方志功の版画	棟方志功の生涯と作品について予習し、棟方の津軽人らしい独特のキャラクターと勢いのある作品の美について、レジュメをもとに復習する。		4 時間
12	岡 恵介	中野清見と戦後農山村の農地解放	中野清見の生涯について参考書から予習し、戦後の農地解放が東北の農山村に何をもたらしたのか、レジュメをもとに復習する。		4 時間
13	岡 恵介	大牟羅良と岩手の農山村の戦後	大牟羅良の生涯について参考書から予習し、戦後～高度経済成長期に農山村が抱えていた問題について、レジュメをもとに復習する。		4 時間
14	岡 恵介	寺山修司の芸術活動の軌跡	寺山修司の生涯と作品について予習し、彼の芸術活動と東北人であることがどのように関連していたのかについて、レジュメをもとに復習する。		4 時間
教 科 書		講義のはじめに配布するリストの中から自分が担当するテキストを選び、自分でそのテキストを探して手に入れるところから学修をはじめる。			
参 考 書		講義の中で紹介していく。			
備 考		なし。			

科 目 名	東北の民俗			担 当 者	岡 恵介
科目ナンバリング	1120442190				常勤
D P	1,4			教 員 研 究 室	1321
学 科（専攻）	現代社会学科（社会学専攻）			配 当 年 次	3 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☒ 自主学習支援 ☐ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 宮本常一の「生きていく民俗」を手がかりに、日本の近現代において生業がどのように発達、衰退してきたのかを時代背景や技術の進展、人々の考え方の変化などと併せながら探りつつ、それが東北地方にあってはどうだったかについて発表形式で学んでいく。 【学習の到達目標】 東北を含む日本の地域社会における民俗と生業の関係性と特色について理解する。 【成績評価方法】 レジュメ・発表の内容 75%、他の発表に対する質問、コメント、感想の内容 25% で評価。 【課題等のフィードバック方法】 各講義の最後に時間を設け、質問を受け付け回答する。 【履修上の注意・予習・復習について】 発表形式の授業なので、予習としてレジュメの作成を個別の指導を受けながら進める。発表時に十分に答えられなかった質問に対して、復習して調べ次の時間に報告する。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 日本における民俗の特色を理解することによって、社会生活や企業活動、対人関係の構築において、日本人的な民俗を根源に持つ心性を踏まえたコミュニケーションを取るための基礎的なふるまいや考え方を身につけることが出来る。 【実務家教員担当科目】 なし。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習	学修時間	
1	岡 恵介	民俗学とはどんな学問か	民俗学について予習し、ノートをもとに復習する。		4 時間
2	岡 恵介	東北の地域社会、とくに山村の民俗の特徴	東北の民俗について予習し、ノートをもとに復習する。		4 時間
3	岡 恵介	自給社会	教科書の該当部分を熟読して予習し、レジュメをもとに復習する。		4 時間
4	岡 恵介	交易社会	教科書の該当部分を熟読して予習し、レジュメをもとに復習する。		4 時間
5	岡 恵介	職業貴賤観	教科書の該当部分を熟読して予習し、レジュメをもとに復習する。		4 時間
6	岡 恵介	海に生きる	教科書の該当部分を熟読して予習し、レジュメをもとに復習する。		4 時間
7	岡 恵介	山に生きる	教科書の該当部分を熟読して予習し、レジュメをもとに復習する。		4 時間
8	岡 恵介	旅のにない手	教科書の該当部分を熟読して予習し、レジュメをもとに復習する。		4 時間
9	岡 恵介	村の職業	教科書の該当部分を熟読して予習し、レジュメをもとに復習する。		4 時間
10	岡 恵介	流浪の民	教科書の該当部分を熟読して予習し、レジュメをもとに復習する。		4 時間
11	岡 恵介	振売と流し職	教科書の該当部分を熟読して予習し、レジュメをもとに復習する。		4 時間
12	岡 恵介	身売から出稼へ	教科書の該当部分を熟読して予習し、レジュメをもとに復習する。		4 時間
13	岡 恵介	手職と市と店	教科書の該当部分を熟読して予習し、レジュメをもとに復習する。		4 時間
14	岡 恵介	丁稚奉公と授業のまとめ	教科書の該当部分を熟読して予習し、ノートをもとに復習する。		4 時間
教 科 書		「生きていく民俗 生業の推移」宮本常一、河出文庫。			
参 考 書		授業のなかで紹介する。			
備 考		特になし。			

科 目 名	環境と農業			担 当 者	奥山 忠裕
科目ナンバリング	1120432191				非常勤
D P	1,4			教 員 研 究 室	非常勤講師室
学 科（専攻）	現代社会学科（社会学専攻）			配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 環境問題へのアプローチの方法に焦点を当てて、最も影響を受ける農業問題について解説と考察の機会を提供します。				【課題等のフィードバック方法】 講義中に課題等の回答のヒントを示唆する。	
【学習の到達目標】 環境問題の種類や解決方針の考え方、農業への影響を理解し環境問題の解決策について考えることができる。				【履修上の注意・予習・復習について】 6 回以上の欠席が確認された場合は履修放棄とみなす場合がある。	
【成績評価方法】 講義中の課題、最終テストによる評価（状況によってはレポートに変更する）。なお講義中に若干のグループワークを行ってもらう可能性がある。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 環境や農業政策の理論を学ぶことで自然環境問題への対処方法の基礎を習得し実務的な活動の基盤とすることができる。	
				【実務家教員担当科目】 該当なし	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	奥山 忠裕	環境政策（問題）の諸相	予習：環境問題とは何かについて調べる。 復習：講義中に提示されたお題を行う。		4 時間
2	奥山 忠裕	環境問題へのアプローチ	予習：環境規制について調べる。 復習：講義中に提示されたお題を行う。		4 時間
3	奥山 忠裕	環境の指標と評価	予習：天気予報などにある PM2.5 について調べる。 復習：講義中に提示されたお題を行う。		4 時間
4	奥山 忠裕	国・地方自治体の環境行政とその歴史	予習：公害問題について調べる。 復習：講義中に提示されたお題を行う。		4 時間
5	奥山 忠裕	環境マネジメント	予習：ISO について調べる。 復習：講義中に提示されたお題を行う。		4 時間
6	奥山 忠裕	環境マーケティング	予習：商品の包装の仕方について調べる。 復習：講義中に提示されたお題を行う。		4 時間
7	奥山 忠裕	環境ガバナンス	予習：ガバナンスの意味について調べる。 復習：講義中に提示されたお題を行う。		4 時間
8	奥山 忠裕	循環型社会	予習：水循環と物質循環を調べる。 復習：講義中に提示されたお題を行う。		4 時間
9	奥山 忠裕	資源・環境と農業（1）	予習：農業問題の中で天候被害を調べる。 復習：講義中に提示されたお題を行う。		4 時間
10	奥山 忠裕	資源・環境と農業（2）	予習：農業問題の中で化学物質問題を調べる。 復習：講義中に提示されたお題を行う。		4 時間
11	奥山 忠裕	日本の農業と食料（1）	予習：農林水産省のホームページをみて日本の農業問題について調べる。 復習：講義中に提示されたお題を行う。		4 時間
12	奥山 忠裕	日本の農業と食料（2）	予習：外務省のホームページをみて農産物交渉について調べる。 復習：講義中に提示されたお題を行う。		4 時間
13	奥山 忠裕	農業生産と土地	予習：地場産品を生産する生産者のホームページから経営方針を調べる。 復習：講義中に提示されたお題を行う。		4 時間
14	奥山 忠裕	農業の近代化	予習：農業機器や生産方式を調べる。 復習：講義中に提示されたお題を行う。		4 時間
教 科 書		講義中に指示する。			
参 考 書		荏開津典生、鈴木宣弘「農業経済学 第 5 版（岩波テキストボックス）」、岩波書店、2020			
備 考		講義内容は学生の習熟度に合わせて変わる可能性がある。			

科 目 名		持続的農業論		担 当 者	水木 麻人	
科目ナンバリング		1120432192			非常勤	
D P		1,4		教 員 研 究 室		非常勤講師室
学 科（専攻）		現代社会学科（社会学専攻）		配 当 年 次		2 年次・後期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 今日のわが国でなぜ持続的農業が必要となっているのか、そしてわが国で広範囲に持続的農業が普及・定着していくためにどのような条件が必要となるのかを学ぶ。 【学習の到達目標】 われわれ人間が生きていく上で必要不可欠な食料を供給してくれる農業のあり方を考える時には、" Farm to Fork"（農場から食卓まで）と表現されるように、農業生産のみならず食料の加工・流通から消費までのフード・チェーン全体の特徴や課題を理解する必要がある。この授業では、その理解に必要な知識と課題などを捉える視点を修得することが目標である。 【成績評価方法】 毎回の提出物 20%、レポート 80%として総合的に評価する。 【課題等のフィードバック方法】 課題は採点した後の授業で解説する。 【履修上の注意・予習・復習について】 「特になし」 【受講して得られる効果・メリット、その他】 物事を多角的な視点で考える素養を修得できる。 【実務家教員担当科目】 「該当なし」						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	水木 麻人	農業って何？持続的農業って どういうこと？	別途指示する			4 時間
2	水木 麻人	里山からみる農業と生態系の 関係、そして景観からみる農 業と暮らしの関係	別途指示する			4 時間
3	水木 麻人	わたしたちが食べている食品 はどのようにつくられている のか？	別途指示する			4 時間
4	水木 麻人	世界の食料問題：なぜ飢餓は 無くならないのか	別途指示する			4 時間
5	水木 麻人	日本の食料問題：なぜ飽食が 形成されてきたのか	別途指示する			4 時間
6	水木 麻人	日本の食料問題：食産業の発 展はなにをもたらしたか？	別途指示する			4 時間
7	水木 麻人	日本の食料問題：われわれは 「食」の安全・安心に何を求 めているのか？	別途指示する			4 時間
8	水木 麻人	世界にみる「風土」と「農法」 の関係：日本と欧州の比較	別途指示する			4 時間
9	水木 麻人	日本の有機農業の展開と CSA	別途指示する			4 時間
10	水木 麻人	効率性重視か持続性重視か、 はたまた…：農法転換に挑戦 する人々	別途指示する			4 時間
11	水木 麻人	耕畜連携による資源循環の鍵 要因	別途指示する			4 時間
12	水木 麻人	持続的農業を支える先端技術 と土、微生物の世界	別途指示する			4 時間
13	水木 麻人	持続性の高い農業経営とは？	別途指示する			4 時間
14	水木 麻人	地域農業を支える集落営農と 支援組織	別途指示する			4 時間
教 科 書		教科書は特に指定しない。授業で使用する資料はその都度配布する予定。				
参 考 書		「食料・農業・農村白書」最新版（農林水産省） https://www.maff.go.jp/j/wpaper/				
備 考		特になし				

科 目 名		グリーンツーリズム論		担 当 者	中嶋紀世生	
科目ナンバリング		1120442193			非常勤	
D P		1,4		教員研究室	非常勤講師室	
学科（専攻）		現代社会学科（社会学専攻）		配 当 年 次	3 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 この授業では、農山漁村の活性化策として取り組まれているグリーンツーリズムについて、現代の地域課題を把握した上で、その理念や背景について学ぶことを目的とする。また、農山村の振興・活性化を目指して全国的に展開されているグリーンツーリズムについて、東北地方をはじめとした具体的な実践事例を踏まえながら、その現状と課題について理解することを目的とする。本授業を通して、都市農村交流やグリーンツーリズムをきっかけとした、農山漁村の持続可能な地域社会の実現について考察を深める。						
【学習の到達目標】 [1] グリーンツーリズムに関する基本的な知識を身につけ、説明することができる。 [2] 東北地方や全国のグリーンツーリズムの取組について基礎的な知識を持ち、説明することができる。 [3] 持続性の高い地域社会の実現に向けて、グリーンツーリズムに期待される役割を理解し、自らの意見を述べるすることができる。						
【成績評価方法】 各回の小レポート 50%、授業やグループワークへの参加態度およびグループワークの相互評価 20%、期末レポート 30% による総合評価とする。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	中嶋紀世生	ガイダンス、グリーンツーリズム序論	[予習] シラバスの内容、授業の進め方、成績評価の方法を確認しておく。 [復習] 授業内容を整理して理解を定着させるとともに、授業で学んだことや考えたことに関する資料を調べる。		4 時間	
2	中嶋紀世生	グリーンツーリズムの意義と背景	[予習] 学習内容について文献や新聞、WEB サイト等で事前に調べ、理解を深めて講義に臨む。[復習] 授業内容を整理し理解を定着させる。学んだことや考えたことに関して調べたり、人と話したりして自分の意見を整理する。		4 時間	
3	中嶋紀世生	日本型グリーンツーリズムの特徴	[予習] 学習内容について文献や新聞、WEB サイト等で事前に調べ、理解を深めて講義に臨む。[復習] 授業内容を整理し理解を定着させる。学んだことや考えたことに関して調べたり、人と話したりして自分の意見を整理する。		4 時間	
4	中嶋紀世生	西欧のグリーンツーリズム	[予習] 学習内容について文献や新聞、WEB サイト等で事前に調べ、理解を深めて講義に臨む。[復習] 授業内容を整理し理解を定着させる。学んだことや考えたことに関して調べたり、人と話したりして自分の意見を整理する。		4 時間	
5	中嶋紀世生	グリーンツーリズムの展開とその種類	[予習] 学習内容について文献や新聞、WEB サイト等で事前に調べ、理解を深めて講義に臨む。[復習] 授業内容を整理し理解を定着させる。学んだことや考えたことに関して調べたり、人と話したりして自分の意見を整理する。		4 時間	
6	中嶋紀世生	グリーンツーリズムの担い手	[予習] 学習内容について文献や新聞、WEB サイト等で事前に調べ、理解を深めて講義に臨む。[復習] 授業内容を整理し理解を定着させる。学んだことや考えたことに関して調べたり、人と話したりして自分の意見を整理する。		4 時間	
7	中嶋紀世生	東北地方のグリーンツーリズム (1)(ゲストスピーカーを予定)	[復習] 授業内容を整理し理解を定着させる。学んだことや考えたことに関して調べたり、人と話したりして自分の意見を整理する。		4 時間	
8	中嶋紀世生	グリーンツーリズムを通じた地域振興	[予習] 学習内容について文献や新聞、WEB サイト等で事前に調べ、理解を深めて講義に臨む。[復習] 授業内容を整理し理解を定着させる。学んだことや考えたことに関して調べたり、人と話したりして自分の意見を整理する。		4 時間	
9	中嶋紀世生	東北地方のグリーンツーリズム事例 (2)(ゲストスピーカーを予定)	[復習] 授業内容を整理し理解を定着させる。学んだことや考えたことに関して調べたり、人と話したりして自分の意見を整理する。		4 時間	
10	中嶋紀世生	グループワーク①（グリーンツーリズム商品の企画）	[予習] グループワークに向けて事前に情報収集や資料収集を行う。 [復習] グループワークを通じての気づきや学びを深めるとともに、自らの取組姿勢や成果物について振り返る。		4 時間	
11	中嶋紀世生	東北地方のグリーンツーリズム (3)(ゲストスピーカーを予定)	[復習] 授業内容を整理し理解を定着させる。学んだことや考えたことに関して調べたり、人と話したりして自分の意見を整理する。		4 時間	
12	中嶋紀世生	グループワーク②（グリーンツーリズム商品の企画）	[予習] グループワークに向けて事前に情報収集や資料収集を行う。 [復習] グループワークを通じての気づきや学びを深めるとともに、自らの取組姿勢や成果物について振り返る。		4 時間	
13	中嶋紀世生	グループワーク③（グリーンツーリズム商品の企画）	[予習] 学習内容について文献や新聞、WEB サイト等で事前に調べ、理解を深めて講義に臨む。[復習] 授業内容を整理し理解を定着させる。学んだことや考えたことに関して調べたり、人と話したりして自分の意見を整理する。		4 時間	
14	中嶋紀世生	本講義のまとめ：持続可能な地域社会の実現に向けたグリーンツーリズムの可能性	[予習] これまでの授業内容について振り返り、特に重要であったと考える点について整理しておく。 [復習] 授業内容を整理して理解を定着させるとともに、期末レポートに向けて自分の考えや意見を整理する。		4 時間	
教 科 書		なし				
参 考 書		『グリーンライフ入門―都市農村交流の理論と実際』（佐藤誠・山崎光博・篠原徹、農山漁村文化協会、2005） 『転換するグリーン・ツーリズム：広域連携と自立をめざして』（青木辰司、学芸出版社、2010） 『交流まちづくり：サステイナブルな地域をつくる新しい観光』（国土総合研究機構観光まちづくり研究会編、学芸出版社、2022）その他、適宜授業内で紹介する。				
備 考		授業開始後の状況に応じて講義の順序や計画を変更する場合がある。				

科 目 名		復興のまちづくり		担 当 者	齋藤 雅哉	
科目ナンバリング		1120442194			常勤	
D P		1,2		教 員 研 究 室	3306研究室	
学 科（専攻）		現代社会学科（社会学専攻）		配 当 年 次	3 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 この講義は、「災害」「復興」などのキーコンセプトについて理解を深めたいうえで、過去の大規模災害において、復興が誰によって、どのように成し遂げられてきたのかを、ハード・ソフト双方の観点から考えることを目的とします。そのうえで、将来の大規模災害に向けて何をすべきか、望ましい復興まちづくりのあり方とはどのようなものか、といった問いについて考えていきます。 【学習の到達目標】 1.「復興」という理念、概念の多義性について理解できる。 2. 災害復興におけるまちづくりの意義やもたらしうる影響を理解し、説明できる。 3. 復興に携わるさまざまな主体の役割について、説明できる。 4. 将来の災害における望ましい復興まちづくりのあり方について、自分の意見を述べるができる。 【成績評価方法】 リアクションペーパー、課題への取り組み 30%、グループ・ディスカッションへの取り組み 20%、期末レポート 50% 【課題等のフィードバック方法】 講義の終わりにリアクションペーパーを配布し、質問や感想、意見などを記入してもらいます。翌週の講義の冒頭で回答・解説等を行います。 【履修上の注意・予習・復習について】 災害現場の映像や写真等を提示します。気分が悪くなった場合は遠慮せずに教えてください。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 今まさに、東北の地域社会が取り組む復興というテーマについて、理解を深めることができます。特に卒業研究で復興について調査研究したい、将来復興に関わる仕事に携わりたいという方は、ぜひ受講してください。 【実務家教員担当科目】 該当しません。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	齋藤 雅哉	講義の概要と「災害」について	配布資料をもとに、「災害」に関する基礎的な知識について予習・復習してください。		4 時間	
2	齋藤 雅哉	災害発生から復興へ（1）	授業のテーマは「災害サイクルと人びとの対応」です。配布資料をもとに、災害復興について考える際の基本的なコンセプトについて予習・復習してください。		4 時間	
3	齋藤 雅哉	災害発生から復興へ（2）	授業のテーマは「復興とは何か」です。配布資料をもとに、復興というコンセプト、理念をめぐる議論について予習・復習してください。		4 時間	
4	齋藤 雅哉	災害発生から復興へ（3）	授業のテーマは「生活復興と生活再建7要素」です。配布資料をもとに、被災者の生活復興感が高まる背景について予習・復習してください。		4 時間	
5	齋藤 雅哉	誰が復興支援を行うのか？	授業では、復興支援を行うさまざまな主体の実践とそれぞれの関係、構造について解説します。配布資料をもとに、予習・復習してください。		4 時間	
6	齋藤 雅哉	誰が復興支援を受けるのか？ (1)	授業では、「被災者」と呼ばれる人びとの多様性と復興支援の課題に焦点化します。配布資料をもとに、予習・復習してください。		4 時間	
7	齋藤 雅哉	誰が復興支援を受けるのか？ (2)	授業では、「被災者」の多様性ゆえに生じたさまざまな問題を取り上げます。配布資料をもとに予習・復習してください。		4 時間	
8	齋藤 雅哉	復興まちづくりとは何か	授業では「復興まちづくり」について、それに類する「都市計画」や「復興計画」といった言葉との関係から見ていきます。配布資料をもとに予習・復習してください。		4 時間	
9	齋藤 雅哉	復興まちづくり（1）	授業では関東大震災を事例として取り上げます。配布資料をもとに、特に後藤新平を中心に大きく改造された東京の様子について予習・復習してください。		4 時間	
10	齋藤 雅哉	復興まちづくり（2）	授業では阪神・淡路大震災を事例として取り上げます。配布資料をもとに、特に災害ボランティアの働きについて予習・復習してください。		4 時間	
11	齋藤 雅哉	復興まちづくり（3）	授業では東日本大震災を事例として取り上げます。配布資料をもとに、特に津波被災地と原子力災害の被災地における「復興」のあり方について予習・復習してください。		4 時間	
12	齋藤 雅哉	復興〈災害〉、ショック・ドクトリン	授業では、復興まちづくり（予習で整理すること）について、ショック・ドクトリンといった観点からとらえ直します（復習で整理すること）。		4 時間	
13	齋藤 雅哉	海外の復興まちづくり	授業では、スマトラ沖地震津波などの海外の復興事例を取り上げます。予習では、これまで学んできた「日本の復興まちづくり」のあり方を整理し、復習ではそれを相対化してください。		4 時間	
14	齋藤 雅哉	まとめ・ディスカッション	授業では、小グループをつくり、将来の災害における望ましい復興まちづくりのあり方について議論します。予習・復習ではこれまでの授業内容を整理してください。		4 時間	
教 科 書		特になし。適宜資料を配布します。				
参 考 書		講義のなかで適宜紹介します。参考書の購入は必須ではありませんが、手元に置き繰り返し読むことで、授業内容のより深い理解につながります。				
備 考		特になし。				

科 目 名		生涯発達心理学		担 当 者	山川 樹		
科目ナンバリング		1120422195			常勤		
D P		1,4			教員研究室		1204
学科（専攻）		現代社会学科（社会学専攻）			配 当 年 次		2 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位	
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし					
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 乳幼児期から成人期にかけての心理的な発達を体系的に理解することを目指す。特に幼児、児童及び生徒の心身の発達過程、幼児、児童及び生徒の学習の過程について理解する。具体的には幼児、児童期における記憶及び認知の発達、社会性の発達、自己認識と他者認識の発達、学校教育との関連について学ぶ。また児童期における心理特性や、青年期における進路相談にかかわる問題などを取り上げ、支援を要する児童や生徒への相談及びカウンセリングの指導について学習する。							
【学習の到達目標】 ・胎児期から成人期後期までの発達心理学に関する基礎的な知識を獲得すること。 ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法、教育相談やカウンセリングの技法について理解すること。							
【成績評価方法】 講義後に毎回課すミニ課題の内容（評価の 40%）、期末レポート（評価の 60%）により評価する。							
【課題等のフィードバック方法】 講義に関する質問や講義中に課した課題の答えは、Google フォームで受け付ける。そして回収翌週以降の講義時間内や Google クラスルームを通じて適宜フィードバックする。							
【履修上の注意・予習・復習について】 講義中は受講者に発言を求めることもあるので、積極的な講義への参加を求める。また板書を単に書き写すだけではなく、主体的なノートテイキングを期待する。 毎回のミニ課題の提出をもって出席と見なす。5 回欠席した場合、履修放棄となる。							
【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・人間の心理発達についての学習を通して、自身の過去・現在・未来に対する理解が深まる。 ・各発達段階に基づいた課題や問題、対処方法について学習することができる。							
【実務家教員担当科目】 該当しない							
授 業 計 画							
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間				
			予習・復習				学修時間
1	山川 樹	オリエンテーション（到達目標、学習内容、学習評価等）	シラバスを熟読し、発達とは何か考えてみる。				4 時間
2	山川 樹	発達心理学とは	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。				4 時間
3	山川 樹	発達の原理・心身の発達	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。				4 時間
4	山川 樹	胎児期・乳児期の発達	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。				4 時間
5	山川 樹	幼児・児童の発達と学習	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。				4 時間
6	山川 樹	幼児・児童の知性・認知の発達	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。				4 時間
7	山川 樹	幼児・児童及び生徒の社会性の発達	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。				4 時間
8	山川 樹	発達障害の理解	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。				4 時間
9	山川 樹	発達障害への教育支援	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。				4 時間
10	山川 樹	教育相談及びカウンセリング	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。				4 時間
11	山川 樹	生徒・青年期の発達	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。				4 時間
12	山川 樹	生徒・青年期の相談と指導	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。				4 時間
13	山川 樹	成人期・老年期の発達	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。				4 時間
14	山川 樹	生涯発達心理学の展望と課題	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。				4 時間
教 科 書		適宜資料を配付					
参 考 書		講義中に紹介する					
備 考		本科目はスクールソーシャルワーク実習（4 年次通年）を履修するために予め単位を取得しておく必要がある科目です。 本科目はスクールソーシャルワーク教育課程修了証の取得指定科目の 1 つです。					

科 目 名		健康心理学		担 当 者	山川 樹	
科目ナンバリング		1120422196			常勤	
D P		1,4		教員研究室	1204	
学科（専攻）		現代社会学科（社会学専攻）		配 当 年 次	2 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☒ 自主学習支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 「病は気から」という言葉があるが、心の問題は身体的な健康にどのような影響を与えるだろうか。この科目では、これまでの心理学的な研究成果に基づきながら心と身体の相互の影響関係について考えていく。 【学習の到達目標】 現代社会における多様な健康観を理解する。 人間の身体的健康と心理的要因との関連性を理解する。 健康リスク解消と疾病の予防における心理学の役割を理解する。 【成績評価方法】 講義後に毎回課すミニ課題の内容（評価の 40%）、期末レポート（評価の 60%）により評価する。						【課題等のフィードバック方法】 講義に関する質問や講義中に課した課題の答えは、Google フォームで受け付ける。そして回収翌週以降の講義時間内や Google クラスルームを通じて適宜フィードバックする。 【履修上の注意・予習・復習について】 講義中は受講者に発言を求めることもあるので、積極的な講義への参加を求める。また板書を単に書き写すだけではなく、主体的なノートテイキングを期待する。 毎回のミニ課題の提出をもって出席と見なす。5 回欠席した場合、履修放棄となる。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 健康リスクは日常生活のあらゆる場面に潜んでいる。本講義を受講することによって、心理学的な健康リスクに関する理解が深まるのはもちろん、様々な健康リスクの解消と疾病の予防における心理学的アプローチについて学ぶことができる。 【実務家教員担当科目】 該当なし
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	山川 樹	科目ガイダンス（健康心理学とは）	予習：本科目のシラバスを事前に読了すること。		4 時間	
2	山川 樹	健康リスクとエビデンス	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。		4 時間	
3	山川 樹	食生活と健康	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。		4 時間	
4	山川 樹	運動と健康	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。		4 時間	
5	山川 樹	睡眠と健康	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。		4 時間	
6	山川 樹	健康リスクとしての嗜癖	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。		4 時間	
7	山川 樹	ストレスの基礎理論	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。		4 時間	
8	山川 樹	ストレッサーとコーピング	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。		4 時間	
9	山川 樹	仕事と健康	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。		4 時間	
10	山川 樹	健康の性差	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。		4 時間	
11	山川 樹	高齢者の健康	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。		4 時間	
12	山川 樹	病者行動と病者へのアプローチ	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。		4 時間	
13	山川 樹	災害時に必要な支援	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。		4 時間	
14	山川 樹	精神医学的障害	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。		4 時間	
教 科 書		指定なし				
参 考 書		講義時間中に適宜紹介する				
備 考		特になし				

科 目 名	社会心理学			担 当 者	山川 樹
科目ナンバリング	1120432197				常勤
D P	1,4			教員研究室	1204
学科（専攻）	現代社会学科（社会学専攻）			配 当 年 次	3 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 近年、社会 (social) という言葉への注目が高まっており、もはや我々の生活は他者や社会との関わりを排して語ることはできない。社会心理学は「個人は他者からどのように影響され、また、他者の存在をどのように解釈し理解するのか」という問題を検討する学問である。本科目では、そうした探求において発展してきた社会心理学領域における諸理論ついて学ぶ。				【課題等のフィードバック方法】 講義に関する質問や講義中に課した課題の答えは、Google フォームで受け付ける。そして回収翌週以降の講義時間内や Google クラスルームを通じて適宜フィードバックする。	
【学習の到達目標】 社会心理学領域における知見を受動的に学習するだけでなく、各履修生が自身の生活状況を振り返って、本科目での学習成果を還元できるような能動的な学びを得ることを目標とする。				【履修上の注意・予習・復習について】 講義中は受講者に発言を求めることもあるので、積極的な講義への参加を求める。また板書を単に書き写すだけではなく、主体的なノートテイキングを期待する。 毎回のミニ課題の提出をもって出席と見なす。5 回欠席した場合、履修放棄となる。	
【成績評価方法】 講義後に毎回課すミニ課題の内容（評価の 40%）、期末レポート（評価の 60%）により評価する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 社会心理学は実際に起きた事件や日常的な出来事の背景に存在する心理過程を分析する中で発展してきた。身近に起こる出来事を心理学的に分析する観点を身につけることは、社会心理学を受講する大きなメリットである。	
				【実務家教員担当科目】 該当しない	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	山川 樹	社会心理学とは	予習：本科目のシラバスを事前に読了すること。		4 時間
2	山川 樹	服従傾向の顕在化	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。		4 時間
3	山川 樹	傍観者効果	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。		4 時間
4	山川 樹	認知的不協和	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。		4 時間
5	山川 樹	説得の方法と原理	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。		4 時間
6	山川 樹	ステレオタイプと認知バイアス	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。		4 時間
7	山川 樹	パーソナリティと自己呈示	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。		4 時間
8	山川 樹	後悔と反実思考	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。		4 時間
9	山川 樹	楽観性とポジティブ・イリュージョン	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。		4 時間
10	山川 樹	自己開示の機能	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。		4 時間
11	山川 樹	文化心理学的アプローチ	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。		4 時間
12	山川 樹	マスコミの影響	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。		4 時間
13	山川 樹	インターネット媒体を通じたコミュニケーション	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。		4 時間
14	山川 樹	コロナ禍を社会心理学から視る	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。		4 時間
教 科 書		指定なし			
参 考 書		講義時間中に適宜紹介する			
備 考		特になし			

科 目 名		コミュニティ心理学		担 当 者	○野崎 瑞樹・山川 樹								
科目ナンバリング		1120432198			常勤								
D P		2,4		教員研究室	3309								
学科（専攻）		現代社会学科（社会学専攻）		配 当 年 次	3 年次・後期								
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位							
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし											
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☑該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない								
【授業内容】 社会学、社会福祉学、心理学と重なり合うコミュニティ心理学を学ぶ。コミュニティ心理学は、個人とコミュニティ、社会との関係に焦点を置き、社会における生活の質を理解し、向上させる方策を模索する学問である。本講義ではコミュニティ心理学の概要および具体的な事例について解説する。 【学習の到達目標】 コミュニティ心理学の概要を理解し、社会学、社会福祉学、心理学の接点について自分なりの視点から考察することができる。学んだ内容について身近なコミュニティに引き付けて、応用的に考えることができる。 【成績評価方法】 前半レポート（40％）、後半レポート（40％）、授業への参加態度（20％）で総合的に評価する。							【課題等のフィードバック方法】 課題等は次の授業で解説し個別にコメントを加えて返却する。 【履修上の注意・予習・復習について】 講義時間内外に見学、情報収集等のフィールドワークを実施する予定である。積極的参加を求める。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 社会学、社会福祉学どちらの専攻にも関連する内容であるため、各専攻の視点や意見を交えてながら相互に考察を深めることができる。 【実務家教員担当科目】 NPO 法人での勤務経験あり						
授 業 計 画													
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間										
			予習・復習			学修時間							
1	野崎 瑞樹 山川 樹	オリエンテーション 科目の概要	シラバスを読んでくる			4 時間							
2	山川 樹	コミュニティ心理学とは何か	予習：資料を読んでくる 復習：授業内容と合わせて考察する			4 時間							
3	山川 樹	コミュニティ心理学の歴史的 背景・基本的理論	予習：資料を読んでくる 復習：授業内容と合わせて考察する			4 時間							
4	山川 樹	コミュニティ心理学の研究法	予習：資料を読んでくる 復習：授業内容と合わせて考察する			4 時間							
5	山川 樹	コミュニティ・ケア	予習：資料を読んでくる 復習：授業内容と合わせて考察する			4 時間							
6	山川 樹	地域メンタルヘルス	予習：資料を読んでくる 復習：授業内容と合わせて考察する			4 時間							
7	野崎 瑞樹	ソーシャルサポート	予習：資料を読んでくる 復習：授業内容と合わせて考察する			4 時間							
8	野崎 瑞樹	ソーシャルネットワーク①	予習：資料を読んでくる 復習：授業内容と合わせて考察する			4 時間							
9	野崎 瑞樹	ソーシャルネットワーク②	予習：資料を読んでくる 復習：授業内容と合わせて考察する			4 時間							
10	野崎 瑞樹	コミュニティ感覚①	予習：資料を読んでくる 復習：授業内容と合わせて考察する			4 時間							
11	野崎 瑞樹	コミュニティ感覚②	予習：資料を読んでくる 復習：授業内容と合わせて考察する			4 時間							
12	野崎 瑞樹	地域コミュニティ	予習：資料を読んでくる 復習：授業内容と合わせて考察する			4 時間							
13	野崎 瑞樹	ハンセン病療養所のコミュニティ	予習：資料を読んでくる 復習：授業内容と合わせて考察する			4 時間							
14	野崎 瑞樹 山川 樹	まとめ・総括	予習：資料を読んでくる 復習：授業内容と合わせて考察する			4 時間							
教 科 書		指定なし											
参 考 書		随時紹介する											
備 考		特になし											

科 目 名	社会保障Ⅰ			担 当 者	森田慎二郎
科目ナンバリング	1120422199				常勤
D P	1,2			教 員 研 究 室	3305
学 科（専攻）	現代社会学科（社会学専攻）			配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 この講義は、社会保障論Ⅱとあわせて、現代社会における社会保障制度の役割と課題について学ぶ。				【課題等のフィードバック方法】 授業終了後、ミニッツペーパーにより質問を受け付け、次回に回答する。	
【学習の到達目標】 社会保障制度の体系と概要、医療保険制度、介護保険制度、雇用保険制度、労働者災害補償保険制度のしくみについて理解し、該当する国家試験過去問題を解く。				【履修上の注意・予習・復習について】 携帯電話、私語は周りの迷惑になるので厳禁。	
【成績評価方法】 期末テスト 100%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 社会福祉士国家試験「社会保障」を解ける学力が身につけられる。	
				【実務家教員担当科目】 該当なし。	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	森田慎二郎	ガイダンス	復習として教科書で全体像を把握する。		4 時間
2	森田慎二郎	社会保障制度の概要	テキストでキーワードを予習する。 配布資料で国家試験の過去問を中心に復習する。		4 時間
3	森田慎二郎	医療保険制度の概要	テキストでキーワードを予習する。 配布資料で国家試験の過去問を中心に復習する		4 時間
4	森田慎二郎	国民健康保険のしくみ	テキストでキーワードを予習する。 配布資料で国家試験の過去問を中心に復習する		4 時間
5	森田慎二郎	健康保険のしくみ	テキストでキーワードを予習する。 配布資料で国家試験の過去問を中心に復習する		4 時間
6	森田慎二郎	高齢者医療制度のしくみ	テキストでキーワードを予習する。 配布資料で国家試験の過去問を中心に復習する		4 時間
7	森田慎二郎	近年の医療制度改革①	テキストでキーワードを予習する。 配布資料で国家試験の過去問を中心に復習する		4 時間
8	森田慎二郎	近年の医療制度改革②	テキストでキーワードを予習する。 配布資料で国家試験の過去問を中心に復習する		4 時間
9	森田慎二郎	介護保険制度の概要	テキストでキーワードを予習する。 配布資料で国家試験の過去問を中心に復習する		4 時間
10	森田慎二郎	要介護認定とケアマネジメント	テキストでキーワードを予習する。 配布資料で国家試験の過去問を中心に復習する		4 時間
11	森田慎二郎	介護保険のサービス内容と法改正	テキストでキーワードを予習する。 配布資料で国家試験の過去問を中心に復習する		4 時間
12	森田慎二郎	雇用保険制度の概要	テキストでキーワードを予習する。 配布資料で国家試験の過去問を中心に復習する		4 時間
13	森田慎二郎	労働者災害補償保険制度の概要	テキストでキーワードを予習する。 配布資料で国家試験の過去問を中心に復習する		4 時間
14	森田慎二郎	全体のまとめ	教科書、これまでの配布で出題範囲を学習する。		4 時間
教 科 書		椋野美智子・田中耕太郎著『はじめての社会保障』有斐閣アルマ			
参 考 書		適宜紹介する。			
備 考					

科 目 名	社会保障Ⅱ			担 当 者	森田慎二郎
科目ナンバリング	11204221100				常勤
D P	1,2			教 員 研 究 室	3305
学 科（専攻）	現代社会学科（社会学専攻）			配 当 年 次	2 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 この講義は、社会保障論Ⅰとあわせて、現代社会における社会保障制度の役割と課題について学ぶ。				【課題等のフィードバック方法】 授業終了後、ミニッツペーパーにより質問を受け付け、次回に回答する。	
【学習の到達目標】 年金保険制度の具体的内容、社会保険の理論、諸外国における社会保障制度の概要、社会保障制度の歴史と財政など理解し、該当する国家試験過去問題を解く。				【履修上の注意・予習・復習について】 携帯電話、私語は周りの迷惑になるので厳禁。	
【成績評価方法】 期末テスト 100%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 社会福祉士国家試験「社会保障」を解ける学力が身につけられる。	
				【実務家教員担当科目】 該当なし。	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	森田慎二郎	年金制度の概要と被保険者	テキストでキーワードを予習する。 配布資料で国家試験の過去問題を中心に復習する。		4 時間
2	森田慎二郎	老齢給付	テキストでキーワードを予習する。 配布資料で国家試験の過去問題を中心に復習する。		4 時間
3	森田慎二郎	障害給付 遺族給付	テキストでキーワードを予習する。 配布資料で国家試験の過去問題を中心に復習する。		4 時間
4	森田慎二郎	公的年金の特徴と年金財政	テキストでキーワードを予習する。 配布資料で国家試験の過去問題を中心に復習する。		4 時間
5	森田慎二郎	年金改革の歴史	テキストでキーワードを予習する。 配布資料で国家試験の過去問題を中心に復習する。		4 時間
6	森田慎二郎	年金の3階建て構造と企業年金の基礎	テキストでキーワードを予習する。 配布資料で国家試験の過去問題を中心に復習する。		4 時間
7	森田慎二郎	社会保険の歴史と理論	テキストでキーワードを予習する。 配布資料で国家試験の過去問題を中心に復習する。		4 時間
8	森田慎二郎	社会保障の歴史（世界）	テキストでキーワードを予習する。 配布資料で国家試験の過去問題を中心に復習する。		4 時間
9	森田慎二郎	諸外国における社会保障制度	テキストでキーワードを予習する。 配布資料で国家試験の過去問題を中心に復習する。		4 時間
10	森田慎二郎	人口問題と社会保障	テキストでキーワードを予習する。 配布資料で国家試験の過去問題を中心に復習する。		4 時間
11	森田慎二郎	社会保障の財政	テキストでキーワードを予習する。 配布資料で国家試験の過去問題を中心に復習する。		4 時間
12	森田慎二郎	社会保障の歴史（日本）	テキストでキーワードを予習する。 配布資料で国家試験の過去問題を中心に復習する。		4 時間
13	森田慎二郎	社会保障の機能と現代的課題	テキストでキーワードを予習する。 配布資料で国家試験の過去問題を中心に復習する。		4 時間
14	森田慎二郎	全体のまとめ	教科書、これまでの配布資料で出題範囲を学習する。		4 時間
教 科 書		椋野美智子・田中耕太郎著『はじめての社会保障』有斐閣アルマ			
参 考 書		適宜紹介する。			
備 考		特になし。			

科 目 名	障害者支援論			担 当 者	黒沢 麻美
科目ナンバリング	11204221101				常勤
D P	1,2			教 員 研 究 室	3313
学 科（専攻）	現代社会学科（社会学専攻）			配 当 年 次	2 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 障害種別ごとの概要について理解し、支援上必要な知識や対応の在り方について理解を深める。				【課題等のフィードバック方法】 随時、講義終了後に質問や意見等を受け付け、次回解説する。	
【学習の到達目標】 障害当事者の生活状況、実態を踏まえ支援者として必要な対応について理解を深めることができる。				【履修上の注意・予習・復習について】 ゲストスピーカーの講義もあるため、授業態度や身だしなみについて注意することがある。また、講義中の私語、飲食、私的な携帯電話の使用は禁止。	
【成績評価方法】 定期試験 80%、課題レポート又は振り返り課題 20%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 障害者に関する知識のみならず、実際に障害者支援事業所の方のお話を聞くことで、当事者の生活実態が理解でき、支援方法や対応方法について理解を深めることができる。	
				【実務家教員担当科目】 該当なし	

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	黒沢 麻美	オリエンテーションー障害者支援の視点ー	障害者支援における自分なりの対応の在り方について考える。	4 時間
2	黒沢 麻美	障害者とは①	障害者の定義と特性についてテキストの該当する部分を確認する。	4 時間
3	黒沢 麻美	障害者とは②（視覚障害者）	視覚障害に伴う生活上の困難さについて調べる。	4 時間
4	黒沢 麻美	障害者とは③（聴覚、言語障害）	聴覚障害に伴う生活上の困難について調べる。	4 時間
5	黒沢 麻美	障害者の生活実態とこれを取り巻く社会環境と課題①	障害者支援施設について調べる。	4 時間
6	黒沢 麻美・非常勤	障害者の生活実態とこれを取り巻く社会環境と課題②	障害者支援施設について調べる。	4 時間
7	黒沢 麻美・非常勤	障害者の生活実態とこれを取り巻く社会環境と課題③	障害者支援施設について調べる。	4 時間
8	黒沢 麻美・非常勤	障害者の生活実態とこれを取り巻く社会環境と課題④	障害者支援施設について調べる。	4 時間
9	黒沢 麻美	障害者の生活実態とこれを取り巻く社会環境と課題⑤	障害者支援施設について調べる。	4 時間
10	黒沢 麻美	障害者と家族等に対する支援の実際①	障害者支援施設について調べる。	4 時間
11	黒沢 麻美	障害者と家族等に対する支援の実際②	障害者の日常生活、当事者・家族の心理について考える。	4 時間
12	黒沢 麻美	事例を用いて支援方法を考える①	これまでの講義を踏まえて障害者支援について考える	4 時間
13	黒沢 麻美	事例を用いて支援方法を考える②	これまでの講義を踏まえて障害者支援について考える。	4 時間
14	黒沢 麻美	まとめ	これまでの自身の体験や、講義の内容を踏まえ、当事者や家族にいかに関わっていくか、自分の考えを中心にまとめる。	4 時間
教 科 書		指定なし		
参 考 書		最新 介護福祉士養成講座 14. 障害の理解 中央法規 最新 社会福祉士 精神保健福祉士養成講座 8. 障害者福祉 中央法規		
備 考		非常勤の担当回は講師との調整の上決定する。		

科 目 名		高齢者支援論		担 当 者	黒沢 麻美
科目ナンバリング		11204221102			常勤
D	P	1,2		教員研究室	3313
学科（専攻）		現代社会学科（社会学専攻）		配 当 年 次	2 年次・後期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし			
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 高齢化の進展と人々の住まい方の変化により、高齢者夫婦のみの世帯や一人暮らしの高齢者が増加している。また介護保険の導入から19年が経過し、介護に対する意識、介護サービスの在り方・利用の仕方、介護予防の考え方が変化している。この講義では、高齢者の生活の個性を理解し、対象者の主体性を尊重した総合的な支援の方法を学ぶことを目的としている。そのために介護保険制度を中心として、高齢者福祉サービスの内容、高齢者福祉に携わる専門職の役割、高齢者虐待への対応と予防策等、高齢者の生活を支える諸制度や社会資源について解説する。 【学習の到達目標】 介護保険制度の仕組みと運用の実態を理解し、高齢者に対する多様な生活支援のあり方の実際を知る。支援者の視点だけでなく、高齢者の視点を理解することの重要性を学ぶ。 【成績評価方法】 定期試験 80％、課題レポート又は振り返り課題 20％					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	黒沢 麻美	高齢者の生活ニーズと支援（フォーマルサポート、インフォーマルサポート）	シラバスを読んで授業内容を理解する。		4 時間
2	黒沢 麻美	介護保険法の概要（背景と目的、保険制度の内容、要介護認定のプロセスなど）	予習：介護保険法について調べる。 復習：授業で学習した例示等を含めて考察する。		4 時間
3	黒沢 麻美	介護保険法における各種機関の役割（国、自治体、事業者、国保連など）	予習：介護保険法について調べる。 復習：授業で学習した例示等を含めて考察する。		4 時間
4	黒沢 麻美	介護保険サービスの内容①（居宅サービス）	予習：介護保険サービスについて調べる。 復習：授業で学習した例示等を含めて考察する。		4 時間
5	黒沢 麻美	介護保険サービスの内容②（地域密着型サービス、施設サービス）	予習：介護保険サービスについて調べる。 復習：授業で学習した例示等を含めて考察する。		4 時間
6	黒沢 麻美	地域包括支援センターの役割と活動	予習：地域包括支援センターについて調べる。 復習：授業で学習した例示等を含めて考察する。		4 時間
7	黒沢 麻美	専門職の役割と実際①（介護支援専門員、訪問介護職員、介護職員、生活相談員など）	予習：高齢者に関する専門職について調べる。 復習：授業で学習した例示等を含めて考察する。		4 時間
8	黒沢 麻美	専門職の役割と実際②（福祉用具専門相談員、介護相談員、認定審査会委員など）	予習：高齢者に関する専門職について調べる。 復習：授業で学習した例示等を含めて考察する。		4 時間
9	黒沢 麻美	職種間の連携ネットワーク	予習：職種間連携について調べる。 復習：授業で学習した例示等を含めて考察する。		4 時間
10	黒沢 麻美	認知症ケアの理解①（認知症の理解、認知症高齢者の行動の理解）	予習：認知症について調べる。 復習：授業で学習した例示等を含めて考察する。		4 時間
11	黒沢 麻美	認知症ケアの理解②（認知症ケアの理念、認知症ケアの実践）	予習：認知症について調べる。 復習：授業で学習した例示等を含めて考察する。		4 時間
12	黒沢 麻美	認知症ケアの理解③（認知症ケアの実際）	予習：認知症について調べる。 復習：授業で学習した例示等を含めて考察する。		4 時間
13	黒沢 麻美	認知症ケアの理解④（認知症ケアの実際、若年性認知症など）	予習：認知症について調べる。 復習：授業で学習した例示等を含めて考察する。		4 時間
14	黒沢 麻美	高齢者のQOLを高める環境要素（住環境の改善、福祉機器の活用）	予習：適切な住環境について調べる。 復習：授業で学習した例示等を含めて考察する。		4 時間
教 科 書		指定なし			
参 考 書		最新社会福祉士養成講座 2 高齢者福祉 最新介護福祉士養成講座 13 認知症の理解			
備 考		特になし。			

科 目 名	児童・家庭支援論			担 当 者	鑑 さやか
科目ナンバリング	11204221103				常勤
D P	1,2			教 員 研 究 室	1307
学 科（専攻）	現代社会学科（社会学専攻）			配 当 年 次	2 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☒ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☐ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 子どもを取り巻く福祉施策は、昭和 20 年代の要保護児童や非行児童の保護活動を原点とし、社会のニーズに即応しつつその幅を広げてきている。 この講義では、「子ども家庭福祉論」の内容を基盤とし、最新の動向および事例を中心に紹介しながら「子どもの最善の利益」を最優先した子ども家庭福祉のあり方について講義を行う。				【課題等のフィードバック方法】 授業内で実施する小テストを返却し、解説を行う 【履修上の注意・予習・復習について】 授業開始後 20 分までは教室への入室を認めます。 欠席が 5 回以上の者は原則として定期試験の受験資格はないので注意すること。 詳しくは初回授業時に提示します。 授業中のスマートフォンの使用や私語、飲食は禁止します。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 本科目では、子どもと子どもを取り巻く環境を総合的に理解し、子ども家庭福祉の現場で活用できる知識を学ぶことができる。 【実務家教員担当科目】 該当なし	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	鑑 さやか	オリエンテーション	予習・復習の内容および方法についてはオリエンテーション時に指示する		4 時間
2	鑑 さやか	子ども家庭福祉領域で活躍する専門職	予習：教科書を読み、専門用語等について理解しておく 復習：次回授業の最初に授業内容に係る小テストを実施するので、復習をしておくこと		4 時間
3	鑑 さやか	少子化社会の子育て支援サービス①	予習：教科書を読み、専門用語等について理解しておく 復習：次回授業の最初に授業内容に係る小テストを実施するので、復習をしておくこと		4 時間
4	鑑 さやか	少子化社会の子育て支援サービス②	予習：教科書を読み、専門用語等について理解しておく 復習：次回授業の最初に授業内容に係る小テストを実施するので、復習をしておくこと		4 時間
5	鑑 さやか	ひとり親家庭に対する福祉サービス	予習：教科書を読み、専門用語等について理解しておく 復習：次回授業の最初に授業内容に係る小テストを実施するので、復習をしておくこと		4 時間
6	鑑 さやか	障害児に対する福祉サービス	予習：教科書を読み、専門用語等について理解しておく 復習：次回授業の最初に授業内容に係る小テストを実施するので、復習をしておくこと		4 時間
7	鑑 さやか	思春期の子どもに対する福祉サービス	予習：教科書・文献等を用いて思春期の子どもの現状や課題を調べ理解しておく 復習：次回授業の最初に授業内容に係る小テストを実施するので、復習をしておくこと		4 時間
8	鑑 さやか	非行少年に対する福祉サービス	予習：教科書を読み、専門用語等について理解しておく 復習：次回授業の最初に授業内容に係る小テストを実施するので、復習をしておくこと		4 時間
9	鑑 さやか	子どもの貧困に対する福祉サービス	予習：教科書を読み、専門用語等について理解しておく 復習：次回授業の最初に授業内容に係る小テストを実施するので、復習をしておくこと		4 時間
10	鑑 さやか	要保護児童に対する福祉サービス①	予習：教科書を読み、専門用語等について理解しておく 復習：次回授業の最初に授業内容に係る小テストを実施するので、復習をしておくこと		4 時間
11	鑑 さやか	要保護児童に対する福祉サービス②	予習：教科書を読み、専門用語等について理解しておく 復習：次回授業の最初に授業内容に係る小テストを実施するので、復習をしておくこと		4 時間
12	鑑 さやか	要保護児童に対する福祉サービス③	予習：教科書を読み、専門用語等について理解しておく 復習：次回授業の最初に授業内容に係る小テストを実施するので、復習をしておくこと		4 時間
13	鑑 さやか	子ども虐待による死亡事例から学ぶ	予習：教科書・文献等を用いて子どもの虐待の現状や課題についてまとめておく 復習：授業内容に係る小レポートを課す		4 時間
14	鑑 さやか	子ども家庭福祉領域の援助の実際①～事例検討～	予習：前回まで使用した教科書・資料を再確認し理解しておく 復習：授業内容に係る小レポートを課す		4 時間
教 科 書	最新社会福祉士養成講座 児童・家庭福祉 中央法規出版				
参 考 書	社会福祉小六法 日本子ども資料年鑑 KTC 出版 その他 必要な文献は講義の都度提示予定				
備 考	特になし				

科 目 名	レクリエーション実技Ⅰ			担 当 者	○森田 清美・犬塚 剛
科目ナンバリング	11204221104				常勤
D P	3,4			教員研究室	3303
学科（専攻）	現代社会学科（社会学専攻）			配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式	実技	授 業 時 間	45 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 本授業は、様々なレクリエーション活動をとおして、支援者として必要なコミュニケーション技術や対象・目的に合わせたレクリエーション素材の選択とレクリエーションプログラムを指導できるようになるための基礎実技を学修する。本授業は「レクリエーション・インストラクター」資格の学習内容に基づき、レクリエーション実技の指導方法について学修する。 【学習の到達目標】 ・体験したレクリエーション活動について面白さや楽しさ、効果について気づく。 ・個人や集団に合わせたレクリエーション活動のアレンジ方法を理解し指導できる。 ・アイスブレーキングのプログラムの指導できる。 【成績評価方法】 課題 30%、実技指導試験 10%、事業企画と支援（個別・集団）40%、最終レポート 20%					
【課題等のフィードバック方法】 専用ノートを準備し、資料や振り返りを書く。毎回授業時に前授業の振り返りを行い、授業終了後に質問を受け付け回答する。 【履修上の注意・予習・復習について】 ・1 年次後期の「レクリエーション理論」を受講した者が履修することが望ましい。また、後期の「レクリエーション実技Ⅱ」も授業することが望ましい。 ・実技科目のため、運動できる服装、室内シューズを準備すること。 ・レク実技Ⅰ専用ノートを準備すること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 本授業は公益社団法人日本レクリエーション協会の「レクリエーション・インストラクター」資格取得のための必修科目である。 【実務家教員担当科目】 該当なし					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	森田 清美 犬塚 剛	オリエンテーション、アイス ブレーキング	実技ノートを作成し、振り返りをまとめる		－
2	犬塚 剛	アイスブレーキング	実技ノートを作成し、振り返りをまとめる		－
3	犬塚 剛	アイスブレーキング実技指導 の基礎と企画立案 ニュースポーツ体験①ピック バトミントン	アイスブレーキングの実技ノートを作成し、振り返り学習を行う		－
4	犬塚 剛 森田 清美	アイスブレーキングの指導実 習（一人 10 分）	実技ノートを作成し、振り返り学習を行う		－
5	犬塚 剛	ニュースポーツ体験②イン ディアカ・ネットパスラリー	実技ノートを作成し、振り返り学習を行う		－
6	犬塚 剛	ニュースポーツ体験③キン ボール・プラズマカー	実技ノートを作成し、振り返り学習を行う		－
7	森田 清美 犬塚 剛	ニュースポーツ体験④ペタン ク、ターゲットパドゴルフ	実技ノートを作成し、振り返り学習を行う		－
8	森田 清美	ニュースポーツ体験⑤フロア ボール・スライドボード	実技ノートを作成し、振り返り学習を行う		－
9	森田 清美	ニュースポーツ体験⑥スラッ クライン・バルーン	実技ノートを作成し、振り返り学習を行う		－
10	森田 清美 犬塚 剛	ニュースポーツ体験⑦シャフ ルボード・ユニカール	実技ノートを作成し、振り返り学習を行う		－
11	森田 清美 犬塚 剛	レクリエーション事業と支援 の方法	役割分担で与えられたレクリエーション活動について段階的なアレンジを考えレポートする		－
12	森田 清美 犬塚 剛	目的に合わせた支援・対象者 に応じた支援	事前課題で与えられたレポートを作成する		－
13	森田 清美 犬塚 剛	レクリエーション行事のプロ グラム作成	事前課題で与えられたレポートを修正し、完成させる		－
14	森田 清美 犬塚 剛	レクリエーション行事の実践・ 振り返り	レクリエーション行事の実践について個人・全体の評価を振り返り、レポートにまとめ、発表の準備をする。		－
教 科 書	「楽しさを通した心の元気づくり レクリエーション支援の理論と方法」日本レクリエーション協会 （この教科書はレクリエーション理論、レクリエーション実技Ⅰ・Ⅱの3科目で使用する）				
参 考 書	レクリエーション支援の基礎				
備 考	問い合わせ担当：森田清美				

科 目 名		レクリエーション実技Ⅱ		担 当 者	○森田 清美・犬塚 剛	
科目ナンバリング		11204221105			常勤	
D P		3,4		教員研究室	3303	
学科（専攻）		現代社会学科（社会学専攻）		配 当 年 次	2 年次・後期	
授 業 形 式		実技	授 業 時 間	45 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 本授業は様々な場面でのレクリエーション事業の展開方法について実践を通して体験する。また、場面に応じたレクリエーション活動のアレンジ方法について学習し、実際にレクリエーション支援（指導）を行う。「レクリエーション実技Ⅰ」と同様、学校の授業やイベント、地域レクリエーションなどで実践能力を身につける。						
【学習の到達目標】 ・レクリエーション事業での意義や価値を理解する。 ・レクリエーションプログラムを作成し、それに必要な目的、時間配分、素材の選択、手順、相互作用などの理解ができ、計画通りに支援（指導）することができる。 ・レクリエーションプログラム実施後の評価の視点を習得する。						
【成績評価方法】 課題 30%、実技指導試験 50%、最終レポート 20%						
【課題等のフィードバック方法】 専用ノートを準備し、資料や振り返りを書く。毎回授業時に前授業の振り返りを行い、授業終了後に質問を受け付け回答する。						
【履修上の注意・予習・復習について】 1 年次後期の「レクリエーション理論」、2 年次前期の「レクリエーション実技Ⅰ」を受講した者が履修することが望ましい。実技科目のため、運動できる服装、室内シューズを準備すること。初回の授業から体育館で実施する。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 本科目は、（財）日本レクリエーション協会公認レクリエーション・インストラクター資格取得のための必修科目である。						
【実務家教員担当科目】 該当なし						

授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習	学修時間		
1	森田 清美 犬塚 剛	ガイダンス	授業内容を理解し、HP の閲覧や登録など必要な手続きをおこなう	－		
2	森田 清美 犬塚 剛	ニュースポーツ体験 モルック、クップ	実技ノートを作成し、振り返りをまとめる	－		
3	森田 清美 犬塚 剛	レクリエーション事業計画① （レクリエーション課程認定校交流会「交楽祭」）	実技ノートを作成し、振り返りをまとめる	－		
4	森田 清美 犬塚 剛	レクリエーション事業計画② （ウォークラリー体験）	実技ノートを作成し、振り返りをまとめる	－		
5	森田 清美 犬塚 剛	指導演習（ウォークラリーコマ図作成）	実技ノートを作成し、振り返りをまとめる	－		
6	森田 清美 犬塚 剛	指導演習（ウォークラリーコマ図作成）	実技ノートを作成し、振り返りをまとめる	－		
7	森田 清美 犬塚 剛	ニュースポーツ体験 キンボール	実技ノートを作成し、振り返りをまとめる	－		
8	森田 清美 犬塚 剛	伝承遊び体験	実技ノートを作成し、振り返りをまとめる	－		
9	森田 清美 犬塚 剛	レクリエーション支援プログラム作成①	役割分担で与えられたレクリエーション活動についてプログラムを作成する	－		
10	森田 清美 犬塚 剛	レクリエーション支援プログラム作成②	作成したプログラムが、段階的な展開方法になっているか確認する。	－		
11	森田 清美 犬塚 剛	レクリエーション支援プログラム試験（グループ）①	他グループの発表と自分のグループの発表について振り返り、違いを理解し、企画内容、指導方法について評価行う。	－		
12	森田 清美 犬塚 剛	レクリエーション支援プログラム試験（グループ）②	他グループの発表と自分のグループの発表について振り返り、違いを理解し、企画内容、指導方法について評価行う。	－		
13	森田 清美 犬塚 剛	グループごとに実技試験についてのディスカッション	他グループの発表と自分のグループの発表について振り返り、違いを理解し、企画内容、指導方法について評価行う。	－		
14	森田 清美 犬塚 剛	まとめ	レクリエーション企画の実技試験について個人・グループの評価を振り返りレポートを作成する。	－		
教 科 書		「楽しさを通した心の元気づくり レクリエーション支援の理論と方法」日本レクリエーション協会 （この教科書はレクリエーション理論、レクリエーション実技Ⅰ・Ⅱの3科目で使用する）				
参 考 書		適宜プリント、資料を配布する。				
備 考		なし				

科 目 名	レクリエーション現場実習			担 当 者	○森田 清美・犬塚 剛
科目ナンバリング	11204221106				常勤
D P	2,4			教員研究室	3303
学科（専攻）	現代社会学科（社会学専攻）			配 当 年 次	2 年次・通年
授 業 形 式	実習	授 業 時 間	45 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 各都道府県、市区町村レク協会の活動の一端を、実際に事業に参加することで体験し、地域におけるイベントでのレクリエーション・インストラクターの活動やイベントのプロセスを理解する。 参加形式は、一般参加者とともにイベント参加をする「事業参加」と、スタッフとしてイベント運営に関わる「スタッフ参加」の2種類がある。					
【学習の到達目標】 一般参加者を対象とした各種レクリエーションイベントの企画・運営ができるようになる。					
【成績評価方法】 レクリエーション現場実習習得の要件をすべて満たすことによって単位の認定とする。 イベント参加時の取り組み 50%、レポート 50%					
【課題等のフィードバック方法】 学生は現場実習後に指定レポート用紙に参加企画名、自分の役割と行動、気づきや反省等を記入し提出する。 担当教員がレポート添削後、個人面談で振り返りを行う。					
【履修上の注意・予習・復習について】 詳細に関してはレクリエーション講義・実技内において説明を行います。 classroom に必ず登録してください。					
【受講して得られる効果・メリット、その他】 本科目は、(財)日本レクリエーション協会公認 レクリエーション・インストラクター資格取得のための必修科目である。					
【実務家教員担当科目】 該当なし					
授 業 計 画					
本事業では「必修参加」と「選択参加」がある。以下の要件を満たすように計画をして選択すること。					
【必修参加】 ①夏季野外活動実習 (病気、けが等の事情により履修ができない場合は要相談) ②交楽祭（学外でのレクリエーション事業の体験）					
【選択参加】1つ選択 ①夏季野外活動実習指導型＋学外レクリエーション事業参加1～2回程度 ②交楽祭実行委員の運営体験＋学外レクリエーション事業参加1～2回程度 ③学外レクリエーション事業3回程度参加（学内も一部含んでよい）					
■学外レクリエーション事業とは 各都道府県レクリエーション協会が主催するレクイベント（ニュースポーツセミナー、市民スポ・レクフェスティバル等）に事業参加（一般参加者としての参加）、あるいは指導参加（指導スタッフとしての参加）することである ・実施される事業については、県協会の事業が決定次第、履修者に通知する。 ・参加後は所定の書式のレポートを提出すること。 ・実習時間によってはカウント回数が増減する場合がある。					
教 科 書	「楽しさを通した心の元気づくり レクリエーション支援の理論と方法」日本レクリエーション協会（レクリエーション理論、レクリエーション実技Ⅰ・Ⅱで購入した教科書を活用する）				
参 考 書	・適宜紹介する				
備 考	・1年間で実習回数及び時間数が満たない場合は翌年も履修することができます。翌年も時間割を確認して class コードから登録してください。 ・資格申請等の説明会には必ず出席し詳細を確認すること（4年後期10月頃で掲示版で確認すること）。				

科 目 名		介護予防論		担 当 者	○犬塚 剛・吉田 裕人 戸田 孝史・未定	
科目ナンバリング		11204321107			常勤	
D	P	1,2		教 員 研 究 室	1304	
学 科（専攻）		現代社会学科（社会学専攻）		配 当 年 次	3 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 平成 18 年度に我が国の介護保険制度は予防重視型に改正され、新たに介護予防事業が各自治体で実施されるようになった。要支援・要介護状態になっていない高齢者へは、地域支援事業が展開され、その事業も、要支援・要介護ハイリスク群である虚弱高齢者に対する特定高齢者施策と、それに至らない一般高齢者施策の 2 つから構成されている。さらに、要支援 1・要支援 2 の高齢者には、介護保険から新予防給付が行われている。本講義では、こうした制度の現況を整理し、厚生労働省が提案する介護予防事業マニュアルの内容について学習する。また、各自治体での先進事例や問題点に触れることにより、真の介護予防につなげていくための介護予防事業展開のあり方や評価のあり方について解説する。 【学習の到達目標】 我が国の介護予防事業について理解し、実際に事業展開を図るための企画・立案・評価が実施できるための基本的な知識とノウハウを習得する。 【成績評価方法】 毎回の小レポート 20% 最終レポート 80%						
【課題等のフィードバック方法】 毎回、ミニッツペーパーを課す。ミニッツペーパーの質疑について次の授業で解説を行う。中間と最終講義において「振り返り」レポートの提出を課す。 【履修上の注意・予習・復習について】 授業中の私語・飲食・携帯電話操作は厳禁 出欠確認（点呼）終了後の入室は遅刻 授業前に予習（事前配布プリント参照）・授業後に復習（配布プリント・ノート参照） 予習・復習がなされているか授業中に質問をする。 規定の出席日数に到達しない者は評価対象外とする。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 近年、高齢期の健康づくりにおいて重要性の高まる介護予防に関する法制度やサービスの内容を理解し、具体的に介護予防事業を展開する上での基礎的な理論や知識を習得できる。 【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	犬塚 剛	介護予防の定義と意義	介護予防とは？その歴史と背景など		4 時間	
2	吉田 裕人	二次予防事業の対象者把握事業	二次予防事業とは？その事業内容など		4 時間	
3	吉田 裕人	二次予防事業対象者の介護予防ケアマネジメント	介護予防・日常生活支援総合事業のサービス利用の流れなど		4 時間	
4	吉田 裕人	介護予防事業の先進事例と複合プログラム	区市町村が実践している介護予防事業の先進事例の内容など		4 時間	
5	吉田 裕人	事業評価と予防給付の流れ	介護予防事業の効果評価のための指標、介護保険における予防給付の内容など		4 時間	
6	犬塚 剛	栄養改善マニュアル	介護予防における栄養指導のアプローチ方法や高齢期に気をつける食生活など		4 時間	
7	犬塚 剛	高齢期の食と栄養	地域在住高齢者の栄養や栄養素の分析から見る低栄養を予防する食生活など		4 時間	
8	犬塚 剛	地域在住高齢者の健康の実態	登米市の高齢者実態調査からのレポート紹介		4 時間	
9	犬塚 剛	運動器の機能向上マニュアル～理論	高齢期の運動器・身体機能・体力など		4 時間	
10	大竹 伸治	高齢期のうつ・メンタルヘルス	高齢期のうつ予防など		4 時間	
11	大竹 伸治	高齢期の閉じこもり	閉じこもりの弊害など		4 時間	
12	戸田 孝史	高齢期の口腔機能口腔機能向上マニュアル	口腔機能の重要性など		4 時間	
13	戸田 孝史	高齢期の口腔機能	咀嚼、嚥下など口腔機能の低下にみる実態と予防の方法など		4 時間	
14	犬塚 剛	まとめ	介護予防論の授業を振り返る		4 時間	
教 科 書		適宜プリントを配布する。				
参 考 書		「介護予防事業マニュアル」厚生労働省 HP 「介護予防のねらいと戦略」「介護予防実践事例集～介護予防事業の一層の推進を目指して～」社会保険研究所 「健康長寿新ガイドラインエビデンスブック」社会保険出版社				
備 考		問い合わせ教員：犬塚剛				

科 目 名		介護予防実習		担 当 者	○犬塚 剛・吉田 裕人 森田 清美・戸田 孝史 未定	
科目ナンバリング		11204321108			常勤	
D P		3,4		教員研究室	1304	
学科（専攻）		現代社会学科（社会学専攻）		配 当 年 次	3 年次・後期	
授 業 形 式		実習	授 業 時 間	45 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 厚生労働省の介護予防事業マニュアルの6つのプログラム（運動器の機能向上、低栄養予防、口腔ケア、閉じこもり予防、うつ予防、認知症予防）の基本的な内容を学習し、国見介護予防大学での地域高齢者を対象とした健康教室でのグループワークや高齢者による介護予防自主活動の見学等を通じて、介護予防プログラムの指導方法を習得する。 【学習の到達目標】 介護予防事業プログラムの基本的な内容を理解し、実際に地域高齢者に指導できるノウハウを習得する。 【成績評価方法】 国見介護予防大学の事前準備や開催期間、事後を含めて担当役割への対応 60% 最終レポート 40% 【課題等のフィードバック方法】 中間と最終講義において「振り返り」レポートの提出を課す 【履修上の注意・予習・復習について】 授業中の私語・飲食・携帯電話操作は厳禁 出欠確認（点呼）終了後の入室は遅刻 授業前に予習（事前配布プリント参照）・授業後に復習（配布プリント・ノート参照） 予習・復習がなされているか授業中に質問をする。 なお、実際に地域高齢者を対象とした介護予防教室を開催し、運営のノウハウを学習する。したがって、服装や言葉遣い等には細心の注意を払うこと。 規定の出席日数に到達しない者は評価対象外とする。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 この授業を通じて、具体的な介護予防プログラム指導のノウハウを習得できる。 【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	犬塚 剛・森田 清美・吉田 裕人	介護予防事業実施上の留意点の理解	対象者（地域高齢者）への配慮・言葉づかいなど		－	
2	犬塚 剛・森田 清美・吉田 裕人	介護予防事業プログラムの実際 1	国見介護予防大学のふり 返り		－	
3	犬塚 剛・森田 清美・吉田 裕人	介護予防事業プログラムの実際 2	運動器の機能向上栄養改善・口腔機能向上		－	
4	犬塚 剛・森田 清美・吉田 裕人	介護予防事業プログラムの実際 3	閉じこもり・認知機能低下・うつ予防・支援		－	
5	犬塚 剛・森田 清美・吉田 裕人	介護予防事業プログラムの評価方法	基本チェックリストと体力測定評価		－	
6	犬塚 剛・森田 清美・吉田 裕人	介護予防事業プログラム作成方法	事後評価のための指標確認		－	
7	犬塚 剛・森田 清美・吉田 裕人	介護予防事業プログラムの指導方法と実践 1	会場設営と体力測定評価方法の確認		－	
8	犬塚 剛・森田 清美・吉田 裕人	介護予防事業プログラムの指導方法と実践 2	プログラム実践指導方法の確認		－	
9	犬塚 剛・森田 清美・吉田 裕人	地域高齢者を対象とした介護予防事業プログラム指導の実際 1	体力測定評価		－	
10	犬塚 剛・森田 清美・吉田 裕人	地域高齢者を対象とした介護予防事業プログラム指導の実際 2	運動器の機能向上		－	
11	犬塚 剛・森田 清美・吉田 裕人	地域高齢者を対象とした介護予防事業プログラム指導の実際 3	栄養改善		－	
12	犬塚 剛・森田 清美・吉田 裕人・戸田 孝史	地域高齢者を対象とした介護予防事業プログラム指導の実際 4	口腔機能向上		－	
13	犬塚 剛・森田 清美・吉田 裕人・大竹 伸治	地域高齢者を対象とした介護予防事業プログラム指導の実際 5	うつ予防・認知機能低下予防		－	
14	犬塚 剛・森田 清美・吉田 裕人	介護予防事業プログラム実施の振り返りと反省	国見介護予防大学の総括対象者（地域高齢者）への接遇における反省点など		－	
教 科 書		適宜プリントを配布する。				
参 考 書		「介護予防事業マニュアル」厚生労働省 HP 「介護予防のねらいと戦略」「介護予防実践事例集～介護予防事業の一層の推進を目指して～」社会保険研究所 「健康長寿新ガイドラインエビデンスブック」社会保険出版社				
備 考		問い合わせ教員：犬塚剛・森田清美				

科 目 名	専門演習Ⅰ			担 当 者	○齊藤 綾美・山尾 貴則 野崎 瑞樹・豊田 正利 森田慎二郎・岡 恵介 崔 博憲・村田 道彦 小淵 高志・鑑 さやか 森田 清美・犬塚 剛 徳田 律子・大竹 伸治 山川 樹・黒沢 麻美 高濱 壮斗・未定
科目ナンバリング	11204421109				常勤
D P	2,3				教員研究室 3307
学科（専攻）	現代社会学科（社会学専攻）			配 当 年 次	3 年次・前期
授 業 形 式	演習	授 業 時 間	60 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 各教員が実践的指導を行います。1 クラス 5-6 名程度の少人数授業です。				【課題等のフィードバック方法】 担当教員の指示に基づきます。	
【学習の到達目標】 広い視野を涵養する。 高度な専門性を獲得する。 社会的現実を理解するために必要なスキルを獲得する。				【履修上の注意・予習・復習について】 担当教員の指示に従ってください。	
【成績評価方法】 担当教員がそれぞれ評価します。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 担当教員に積極的にアプローチするなど、学生には主体的に取り組む姿勢が求められます。	
				【実務家教員担当科目】	
授 業 計 画					
所属の決定は、3 年次開始までに掲示にて連絡します。 指導教員の授業計画に基づきます。					

科 目 名	専門演習Ⅱ			担 当 者	○齊藤 綾美・山尾 貴則 野崎 瑞樹・豊田 正利 森田慎二郎・岡 恵介 崔 博憲・村田 道彦 小淵 高志・鑑 さやか 森田 清美・犬塚 剛 徳田 律子・大竹 伸治 山川 樹・黒沢 麻美 高濱 壮斗・未定
科目ナンバリング	11204421110				常勤
D P	2,3				教員研究室 3307
学科（専攻）	現代社会学科（社会学専攻）			配 当 年 次	3 年次・後期
授 業 形 式	演習	授 業 時 間	60 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 各教員が実践的指導を行います。1 クラス 5-6 名程度の少人数授業です。				【課題等のフィードバック方法】 指導担当教員の指示に基づきます。	
【学習の到達目標】 広い視野を涵養する。 高度な専門性を獲得する。 社会学的実践に必要なスキルを獲得する。				【履修上の注意・予習・復習について】 担当教員の指示に従ってください。	
【成績評価方法】 担当教員がそれぞれ評価します。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 専門演習ⅠおよびⅡにおける学びを、4 年次の卒業研究につなげていきます。	
				【実務家教員担当科目】	
授 業 計 画					
各指導教員の授業計画に基づきます。					

科 目 名	卒業研究			担 当 者	○齊藤 綾美・山尾 貴則 野崎 瑞樹・豊田 正利 森田慎二郎・岡 恵介 崔 博憲・村田 道彦 小淵 高志・鑑 さやか 森田 清美・犬塚 剛 徳田 律子・大竹 伸治 山川 樹・黒沢 麻美 高濱 壮斗・未定
科目ナンバリング	11204421111				常勤
D P	2,4				教 員 研 究 室 3307
学 科（専攻）	現代社会学科（社会学専攻）			配 当 年 次	4 年次・通年
授 業 形 式	演習	授 業 時 間	120 時間	単 位	必修 4 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 各教員が実践的指導を行います。1 クラス 5-6 名程度の少人数授業です。				【課題等のフィードバック方法】 指導担当教員の指示に基づきます。	
【学習の到達目標】 広い視野を涵養する。 高度な専門性を獲得する。 社会学的実践に必要なスキルを獲得する。				【履修上の注意・予習・復習について】 担当教員の指示に従ってください。	
【成績評価方法】 担当教員がそれぞれ評価します。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 専門演習ⅠおよびⅡにおける学びを、4 年次の卒業研究につなげていきます。	
				【実務家教員担当科目】 多種多様な経験値を有する複数の学科教員で担当する。	
授 業 計 画					
各指導教員の授業計画に基づきます。					

科 目 名		ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ			担 当 者	鑑 さやか
科目ナンバリング		1120422162				常勤
D	P	1			教 員 研 究 室	1307
学 科（専攻）		現代社会学科（社会福祉学専攻）			配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 □自主学习支援 □該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 相談援助の専門性に係る倫理や定義、およびその形成過程についてのベーシックな理解を図ると共に、今後専門職者として学習を進めるうえで必要な素養を身に着ける。						【課題等のフィードバック方法】 単元終了時に実施する小テストを返却し、解説を行う
【学習の到達目標】 step1：相談援助専門職の役割と意義について理解する step2：相談援助の倫理・範囲および理念について理解する step3：ソーシャルワーク形成過程を理解する						【履修上の注意・予習・復習について】 授業開始 20 分までは教室への入室を認めます。 欠席が 3 分の 1 以上の者は原則として定期試験の受験資格はないので注意すること。 授業中のスマートフォンの使用や私語、飲食は禁止します。 詳しくは初回授業時に提示します。
【成績評価方法】 定期試験評価 70% 授業内課題評価 30%						【受講して得られる効果・メリット、その他】 ソーシャルワーカーとしての価値・知識等の基盤となる相談援助の概念・範囲および理念・歴史等について理解できる。
						【実務家教員担当科目】 該当なし
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	鑑 さやか	社会福祉士・精神保健福祉士の役割と意義、現代社会と地域生活	事前に教科書の該当箇所に目を通し、講義後は講義時に指示するレジメの重要箇所の確実な理解を図る			4 時間
2	鑑 さやか	ソーシャルワークの概念	事前に教科書の該当箇所に目を通し、講義後は講義時に指示するレジメの重要箇所の確実な理解を図る			4 時間
3	鑑 さやか	ソーシャルワークの構成要素	事前に教科書の該当箇所に目を通し、講義後は講義時に指示するレジメの重要箇所の確実な理解を図る			4 時間
4	鑑 さやか	ソーシャルワークの形成過程：源流	事前に教科書の該当箇所に目を通し、講義後は講義時に指示するレジメの重要箇所の確実な理解を図る			4 時間
5	鑑 さやか	ソーシャルワークの形成過程：基礎確立期・発展期	事前に教科書の該当箇所に目を通し、講義後は講義時に指示するレジメの重要箇所の確実な理解を図る			4 時間
6	鑑 さやか	ソーシャルワークの形成過程：展開期・統合化	事前に教科書の該当箇所に目を通し、講義後は講義時に指示するレジメの重要箇所の確実な理解を図る			4 時間
7	鑑 さやか	ソーシャルワークの形成過程：日本	事前に教科書の該当箇所に目を通し、講義後は講義時に指示するレジメの重要箇所の確実な理解を図る			4 時間
8	鑑 さやか	ソーシャルワーカーと価値・ソーシャルワーク実践と価値	事前に教科書の該当箇所に目を通し、講義後は講義時に指示するレジメの重要箇所の確実な理解を図る			4 時間
9	鑑 さやか	ソーシャルワーク実践と権利擁護	事前に教科書の該当箇所に目を通し、講義後は講義時に指示するレジメの重要箇所の確実な理解を図る			4 時間
10	鑑 さやか	クライアントの尊厳と自己決定	事前に教科書の該当箇所に目を通し、講義後は講義時に指示するレジメの重要箇所の確実な理解を図る			4 時間
11	鑑 さやか	ノーマライゼーションと社会的包摂	事前に教科書の該当箇所に目を通し、講義後は講義時に指示するレジメの重要箇所の確実な理解を図る			4 時間
12	鑑 さやか	専門職倫理	事前に教科書の該当箇所に目を通し、講義後は講義時に指示するレジメの重要箇所の確実な理解を図る			4 時間
13	鑑 さやか	倫理綱領の内容と歴史	事前に教科書の該当箇所に目を通し、講義後は講義時に指示するレジメの重要箇所の確実な理解を図る			4 時間
14	鑑 さやか	倫理的ジレンマ	事前に教科書の該当箇所に目を通し、講義後は講義時に指示するレジメの重要箇所の確実な理解を図る			4 時間
教 科 書		最新 社会福祉士・精神保健福祉士養成講座 第 11 巻 ソーシャルワークの基盤と専門職 中央法規出版				
参 考 書		講義内にて随時紹介する				
備 考		本科目は社会福祉士及び精神保健福祉士国家試験受験資格に必要な指定科目である				

科 目 名		ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ		担 当 者	徳田 律子	
科目ナンバリング		1120422163			常勤	
D P		1		教員研究室	3302	
学科（専攻）		現代社会学科（社会福祉学専攻）		配 当 年 次	2 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 人間の関係性の理解や関係形成に必要なコミュニケーションに関する基本的知識を学び、対人援助職としての基盤を醸成する。具体的内容は次のとおり。 ・現代社会における人間の生き方の多様性を理解する。 ・相談援助における人と環境の交互作用を用いた援助理論を理解する。 ・ソーシャルワークの対象及び様々な実践モデルを理解する。 【学習の到達目標】 ・相談援助の基本的理解 ・人と環境の交互作用に関する理解 ・ソーシャルワークの代表的な実践モデル及び実践アプローチの理解 【成績評価方法】 予習・復習課題・確認テスト（60 点）及び定期試験（40 点）に基づき、到達目標の達成度を総合的に評価する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	徳田 律子	相談援助の基礎 1：人間関係におけるコミュニケーションを用いた援助の意義	予習：科目シラバスを熟読する。 復習：科目の概要と進め方に基づき、学習計画を立てる。		4 時間	
2	徳田 律子	相談援助の基礎 2：相談援助における対象者理解―他者理解と自己覚知等	予習：予習課題に取り組み、期限内に提出する。 復習：確認テスト課題等に取り組み、期限内に提出する。		4 時間	
3	徳田 律子	相談援助の基礎 3：基礎理論の誕生と変遷―精神分析、システム理論、生態学等	予習：予習課題に取り組み、期限内に提出する。 復習：確認テスト課題等に取り組み、期限内に提出する。		4 時間	
4	徳田 律子	実践モデルの理解 1：心理社会的アプローチ、機能的アプローチ	予習：予習課題に取り組み、期限内に提出する。 復習：確認テスト課題等に取り組み、期限内に提出する。		4 時間	
5	徳田 律子	実践モデルの理解 2：問題解決アプローチ、課題中心アプローチ	予習：予習課題に取り組み、期限内に提出する。 復習：確認テスト課題等に取り組み、期限内に提出する。		4 時間	
6	徳田 律子	実践モデルの理解 3：危機介入アプローチ、行動変容アプローチ	予習：予習課題に取り組み、期限内に提出する。 復習：確認テスト課題等に取り組み、期限内に提出する。		4 時間	
7	徳田 律子	実践モデルの理解 4：治療モデルと生活モデルの理解	予習：予習課題に取り組み、期限内に提出する。 復習：確認テスト課題等に取り組み、期限内に提出する。		4 時間	
8	徳田 律子	実践モデルの理解 5：ストレングスモデル、エンパワメントアプローチ	予習：予習課題に取り組み、期限内に提出する。 復習：確認テスト課題等に取り組み、期限内に提出する。		4 時間	
9	徳田 律子	実践モデルの理解 6：ジェネラリストアプローチ等	予習：予習課題に取り組み、期限内に提出する。 復習：確認テスト課題等に取り組み、期限内に提出する。		4 時間	
10	徳田 律子	集団を活用した相談援助 1：グループワークの歴史等	予習：予習課題に取り組み、期限内に提出する。 復習：確認テスト課題等に取り組み、期限内に提出する。		4 時間	
11	徳田 律子	集団を活用した相談援助 2：グループワークの実際、自助グループ等	予習：予習課題に取り組み、期限内に提出する。 復習：確認テスト課題等に取り組み、期限内に提出する。		4 時間	
12	徳田 律子	相談援助の技術 1：面接の基礎―面接空間、言語的・非言語的コミュニケーション	予習：予習課題に取り組み、期限内に提出する。 復習：確認テスト課題等に取り組み、期限内に提出する。		4 時間	
13	徳田 律子	相談援助の技術 2：面接の技術―バイスティックの原則、傾聴、共感、直面化等	予習：予習課題に取り組み、期限内に提出する。 復習：確認テスト課題等に取り組み、期限内に提出する。		4 時間	
14	徳田 律子	相談援助の技術 3：面接の実際―面接の構造、面接の工夫（機器や記述の活用等）	予習：各授業のポイントを整理してまとめる。 復習：全体の振り返りとまとめを行う。		4 時間	
教 科 書		「新版・ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」（株）みらい				
参 考 書		必要に応じて適宜指示する。				
備 考		本科目は社会福祉士国家試験の指定科目である。国試受験者は履修漏れの無いよう留意すること。				

科 目 名		ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ		担 当 者	村田 道彦
科目ナンバリング		1120422164			常勤
D	P	2,3		教員研究室	1202
学科（専攻）		現代社会学科（社会福祉学専攻）		配 当 年 次	2 年次・後期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
		必修 2 単位			
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし			
I C T 活 用		□双方向型授業 ☒ 自主学習支援 □該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 ソーシャルワークの理論と方法Ⅰでは、相談援助の実践における理論的な指針となるさまざまな実践モデルとアプローチについて学んだ。この講義では、ソーシャルワーク実践における共通基盤となる援助過程に関わる知識と技術について学ぶことを目的としている。そのために、インテークからアフターケアに至るまでのソーシャルワークの展開過程を中心とした講義を行うとともに、介護保険法・障害者自立支援法等に基づくサービス計画の実際や支援に関わる人的・社会的資源について解説する。					
【課題等のフィードバック方法】 講義の最後に実施する確認テストを返却し、解説を行う。					
【履修上の注意・予習・復習について】 復習課題を提示するので積極的に取り組むこと。また、理解を深めるために、事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。講義中の私語・飲食・携帯電話等の使用および充電は認めない。ただし、どうしても必要な場合の飲量摂取は認めるが机の上には置かない。他の学生の迷惑になると判断した場合は、退室を指示する場合がある。					
【受講して得られる効果・メリット、その他】 実践の基盤となる知識・技術を身につけることにより、演習における学習効果を高め、実習、さらには現場での実践において利用者支援の方策を検討する際に役立てることができる。					
【実務家教員担当科目】 地元の病院・施設のソーシャルワーカーや生活相談員と連携し、臨床現場で展開する支援計画の課題に対して学生自身が問題の抽出やアプローチの検証を行い実践的な技術を学習する。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	村田 道彦	オリエンテーション・ソーシャルワークの展開過程の概要を学ぶ	教科書・シラバスを読んで授業形式・内容を把握する。		4 時間
2	村田 道彦	ケースの発見（アウトリーチ・スクリーニング）について学ぶ	予習：教科書の該当箇所・関連資料に目を通す。復習：授業で学習した箇所を考察する。課題プリントを課す。		4 時間
3	村田 道彦	インテーク（意義・目的・方法・留意点・契約）	予習：教科書の該当箇所・関連資料に目を通す。復習：授業で学習した箇所を考察する。課題プリントを課す。		4 時間
4	村田 道彦	アセスメント（意義・目的・方法・留意点）	予習：教科書の該当箇所・関連資料に目を通す。復習：授業で学習した箇所を考察する。課題プリントを課す。		4 時間
5	村田 道彦	プランニング（意義・目的・方法・留意点・効果と限界の予測・支援方針・内容の説明・同意）	予習：教科書の該当箇所・関連資料に目を通す。復習：授業で学習した箇所を考察する。課題プリントを課す。		4 時間
6	村田 道彦	支援の実施（意義・目的・方法・留意点）	予習：教科書の該当箇所・関連資料に目を通す。復習：授業で学習した箇所を考察する。課題プリントを課す。		4 時間
7	村田 道彦	モニタリング（意義・目的・方法・留意点・効果測定）	予習：教科書の該当箇所・関連資料に目を通す。復習：授業で学習した箇所を考察する。課題プリントを課す。		4 時間
8	村田 道彦	支援の終結（目的・方法・留意点）	予習：教科書の該当箇所・関連資料に目を通す。復習：授業で学習した箇所を考察する。課題プリントを課す。社会福祉法と関連法に関するミニレポート課題を課す。		4 時間
9	村田 道彦	事後評価（目的・方法・留意点）	予習：教科書の該当箇所・関連資料に目を通す。復習：授業で学習した箇所を考察する。課題プリントを課す。		4 時間
10	村田 道彦	アフターケア（目的・方法・留意点）	予習：教科書の該当箇所・関連資料に目を通す。復習：授業で学習した箇所を考察する。課題プリントを課す。		4 時間
11	村田 道彦	ケアマネジメントの原則、意義と方法（歴史・適用と対象・意義・プロセス・モデル）	予習：教科書の該当箇所・関連資料に目を通す。復習：授業で学習した箇所を考察する。課題プリントを課す。		4 時間
12	村田 道彦	コミュニティワークの意義と目的（ソーシャルインクルージョン・住民参加）	予習：教科書の該当箇所・関連資料に目を通す。復習：授業で学習した箇所を考察する。課題プリントを課す。		4 時間
13	村田 道彦	スーパービジョンの意義、目的、方法（定義・バイザーとバイジー・機能・形態と方法）	予習：教科書の該当箇所・関連資料に目を通す。復習：授業で学習した箇所を考察する。課題プリントを課す。		4 時間
14	村田 道彦	コンサルテーションの意義、目的、方法（定義、コンサルタンとコンサルティーの関係、方法）	予習：教科書の該当箇所・関連資料に目を通す。復習：授業で学習した箇所を考察する。課題プリントを課す。		4 時間
教 科 書		日本ソーシャルワーク教育学校連携『ソーシャルワークの理論と方法』中央法規			
参 考 書		特に指定なし			
備 考		この科目は社会福祉士国家試験受験資格取得に必要な指定科目である。			

科 目 名	社会保障Ⅰ			担 当 者	森田慎二郎
科目ナンバリング	1120422165				常勤
D P	1,2			教 員 研 究 室	3305
学 科（専攻）	現代社会学科（社会福祉学専攻）			配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 この講義は、社会保障論Ⅱとあわせて、現代社会における社会保障制度の役割と課題について学ぶ。				【課題等のフィードバック方法】 授業終了後、ミニッツペーパーにより質問を受け付け、次回に回答する。	
【学習の到達目標】 社会保障制度の体系と概要、医療保険制度、介護保険制度、雇用保険制度、労働者災害補償保険制度のしくみについて理解し、該当する国家試験過去問題を解く。				【履修上の注意・予習・復習について】 携帯電話、私語は周りの迷惑になるので厳禁。	
【成績評価方法】 期末テスト 100%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 社会福祉士国家試験「社会保障」を解ける学力が身につけられる。	
				【実務家教員担当科目】 該当なし。	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	森田慎二郎	ガイダンス	復習として教科書で全体像を把握する。		4 時間
2	森田慎二郎	社会保障制度の概要	テキストでキーワードを予習する。 配布資料で国家試験の過去問を中心に復習する。		4 時間
3	森田慎二郎	医療保険制度の概要	テキストでキーワードを予習する。 配布資料で国家試験の過去問を中心に復習する		4 時間
4	森田慎二郎	国民健康保険のしくみ	テキストでキーワードを予習する。 配布資料で国家試験の過去問を中心に復習する		4 時間
5	森田慎二郎	健康保険のしくみ	テキストでキーワードを予習する。 配布資料で国家試験の過去問を中心に復習する		4 時間
6	森田慎二郎	高齢者医療制度のしくみ	テキストでキーワードを予習する。 配布資料で国家試験の過去問を中心に復習する		4 時間
7	森田慎二郎	近年の医療制度改革①	テキストでキーワードを予習する。 配布資料で国家試験の過去問を中心に復習する		4 時間
8	森田慎二郎	近年の医療制度改革②	テキストでキーワードを予習する。 配布資料で国家試験の過去問を中心に復習する		4 時間
9	森田慎二郎	介護保険制度の概要	テキストでキーワードを予習する。 配布資料で国家試験の過去問を中心に復習する		4 時間
10	森田慎二郎	要介護認定とケアマネジメン ト	テキストでキーワードを予習する。 配布資料で国家試験の過去問を中心に復習する		4 時間
11	森田慎二郎	介護保険のサービス内容と法 改正	テキストでキーワードを予習する。 配布資料で国家試験の過去問を中心に復習する		4 時間
12	森田慎二郎	雇用保険制度の概要	テキストでキーワードを予習する。 配布資料で国家試験の過去問を中心に復習する		4 時間
13	森田慎二郎	労働者災害補償保険制度の概 要	テキストでキーワードを予習する。 配布資料で国家試験の過去問を中心に復習する		4 時間
14	森田慎二郎	全体のまとめ	教科書、これまでの配布で出題範囲を学習する。		4 時間
教 科 書		椋野美智子・田中耕太郎著『はじめての社会保障』有斐閣アルマ			
参 考 書		適宜紹介する。			
備 考		特になし。			

科 目 名	社会保障Ⅱ			担 当 者	森田慎二郎
科目ナンバリング	1120422166				常勤
D P	1,2			教 員 研 究 室	3305
学 科（専攻）	現代社会学科（社会福祉学専攻）			配 当 年 次	2 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 この講義は、社会保障論Ⅰとあわせて、現代社会における社会保障制度の役割と課題について学ぶ。				【課題等のフィードバック方法】 授業終了後、ミニッツペーパーにより質問を受け付け、次回に回答する。	
【学習の到達目標】 年金保険制度の具体的内容、社会保険の理論、諸外国における社会保障制度の概要、社会保障制度の歴史と財政など理解し、該当する国家試験過去問題を解く。				【履修上の注意・予習・復習について】 携帯電話、私語は周りの迷惑になるので厳禁。	
【成績評価方法】 期末テスト 100%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 社会福祉士国家試験「社会保障」を解ける学力が身につけられる。	
				【実務家教員担当科目】 該当なし。	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	森田慎二郎	年金制度の概要と被保険者	テキストでキーワードを予習する。 配布資料で国家試験の過去問題を中心に復習する。		4 時間
2	森田慎二郎	老齢給付	テキストでキーワードを予習する。 配布資料で国家試験の過去問題を中心に復習する。		4 時間
3	森田慎二郎	障害給付 遺族給付	テキストでキーワードを予習する。 配布資料で国家試験の過去問題を中心に復習する。		4 時間
4	森田慎二郎	公的年金の特徴と年金財政	テキストでキーワードを予習する。 配布資料で国家試験の過去問題を中心に復習する。		4 時間
5	森田慎二郎	年金改革の歴史	テキストでキーワードを予習する。 配布資料で国家試験の過去問題を中心に復習する。		4 時間
6	森田慎二郎	年金の3階建て構造と企業年金の基礎	テキストでキーワードを予習する。 配布資料で国家試験の過去問題を中心に復習する。		4 時間
7	森田慎二郎	社会保険の歴史と理論	テキストでキーワードを予習する。 配布資料で国家試験の過去問題を中心に復習する。		4 時間
8	森田慎二郎	社会保障の歴史（世界）	テキストでキーワードを予習する。 配布資料で国家試験の過去問題を中心に復習する。		4 時間
9	森田慎二郎	諸外国における社会保障制度	テキストでキーワードを予習する。 配布資料で国家試験の過去問題を中心に復習する。		4 時間
10	森田慎二郎	人口問題と社会保障	テキストでキーワードを予習する。 配布資料で国家試験の過去問題を中心に復習する。		4 時間
11	森田慎二郎	社会保障の財政	テキストでキーワードを予習する。 配布資料で国家試験の過去問題を中心に復習する。		4 時間
12	森田慎二郎	社会保障の歴史（日本）	テキストでキーワードを予習する。 配布資料で国家試験の過去問題を中心に復習する。		4 時間
13	森田慎二郎	社会保障の機能と現代的課題	テキストでキーワードを予習する。 配布資料で国家試験の過去問題を中心に復習する。		4 時間
14	森田慎二郎	全体のまとめ	教科書、これまでの配布資料で出題範囲を学習する。		4 時間
教 科 書	椋野美智子・田中耕太郎著『はじめての社会保障』有斐閣アルマ				
参 考 書	適宜紹介する。				
備 考	特になし。				

科 目 名		障害者福祉		担 当 者	伊藤 清市	
科目ナンバリング		1120422167			非常勤	
D P		1,2		教員研究室		非常勤講師室
学科（専攻）		現代社会学科（社会福祉学専攻）		配 当 年 次		2 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 本講義では共生社会の実現に不可欠な障害者福祉について、その基本的理念、歴史的展開、法制度、諸課題等を学ぶとともに、身体障害当事者である講師のライフヒストリーを交えながら考察する。				【課題等のフィードバック方法】 ・ミニッツペーパー記載の質問、感想等について、次回講義時に回答・解説。 ・講義終了後に質問を受付回答。		
【学習の到達目標】 ・障害者福祉に関する基本的知識を深める。 ・知識を深めることにより人権感覚を磨く。 ・毎回の事前事後学修により自分の関心考えを意見表明することができる。				【履修上の注意・予習・復習について】 ・やむを得ない理由以外の 20 分以上の遅刻は欠席扱いとする。理由がある場合には講義終了後に申し出ること。遅刻は2回で欠席1回に換算する。 ・講義時間数5分の1を超える欠席の場合、単位の修得資格を失う。		
【成績評価方法】 定期試験 60%、講義毎ミニッツペーパー 40%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 共生社会の実現に不可欠な障害者福祉に関わる視点や方法を学ぶことにより、将来の専門性のみならず、日々の生活で実践できるようになる。 毎回社会福祉士国家試験の問題演習解説を行う。		
【実務家教員担当科目】 社会福祉士、精神保健福祉士および障害者施設を運営する社会福祉法人の役員として、施設の運営や関係機関とのネットワーク構築等について講義する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	伊藤 清市	はじめに（講師の自己紹介、障害者福祉を学ぶ意義）	予習：開講日まで障害者福祉に関するニュースを一つ取り上げ講義時のミニッツペーパーに記載 復習：講義時に指示する			4 時間
2	伊藤 清市	総論（国際生活機能分類、障害者基本法）	予習：講義1週間内に起きた障害福祉に関するニュースを一つ取り上げミニッツペーパーに記載 復習：講義時に指示する			4 時間
3	伊藤 清市	各論Ⅰ（身体障害、知的障害）	予習：講義1週間内に起きた障害福祉に関するニュースを一つ取り上げミニッツペーパーに記載 復習：講義時に指示する			4 時間
4	伊藤 清市	各論Ⅱ（精神障害、発達障害、難病等）	予習：講義1週間内に起きた障害福祉に関するニュースを一つ取り上げミニッツペーパーに記載 復習：講義時に指示する			4 時間
5	伊藤 清市	障害者を取り巻く歴史（古代～第二次世界大戦）	予習：講義1週間内に起きた障害福祉に関するニュースを一つ取り上げミニッツペーパーに記載 復習：講義時に指示する			4 時間
6	伊藤 清市	障害者を取り巻く歴史（第二次世界大戦後）	予習：講義1週間内に起きた障害福祉に関するニュースを一つ取り上げミニッツペーパーに記載 復習：講義時に指示する			4 時間
7	伊藤 清市	優生思想・社会防衛思想	予習：講義1週間内に起きた障害福祉に関するニュースを一つ取り上げミニッツペーパーに記載 復習：講義時に指示する			4 時間
8	伊藤 清市	障害者差別解消法・障害者虐待防止法	予習：講義1週間内に起きた障害福祉に関するニュースを一つ取り上げミニッツペーパーに記載 復習：講義時に指示する			4 時間
9	伊藤 清市	所得保障・医療・教育（特別支援教育）	予習：講義1週間内に起きた障害福祉に関するニュースを一つ取り上げミニッツペーパーに記載 復習：講義時に指示する			4 時間
10	伊藤 清市	障害者総合支援法・雇用就労	予習：講義1週間内に起きた障害福祉に関するニュースを一つ取り上げミニッツペーパーに記載 復習：講義時に指示する			4 時間
11	伊藤 清市	災害支援（防災・減災）	予習：講義1週間内に起きた障害福祉に関するニュースを一つ取り上げミニッツペーパーに記載 復習：講義時に指示する			4 時間
12	伊藤 清市	文化芸術・スポーツ	予習：講義1週間内に起きた障害福祉に関するニュースを一つ取り上げミニッツペーパーに記載 復習：講義時に指示する			4 時間
13	伊藤 清市	バリアフリー・ユニバーサルデザイン	予習：講義1週間内に起きた障害福祉に関するニュースを一つ取り上げミニッツペーパーに記載 復習：講義時に指示する			4 時間
14	伊藤 清市	自立生活・障害者福祉の展望	予習：講義1週間内に起きた障害福祉に関するニュースを一つ取り上げミニッツペーパーに記載 復習：講義時に指示する			4 時間
教 科 書		最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 8 障害者福祉 第2 版 中央法規出版				
参 考 書		講義内で適宜紹介する。				
備 考		身体障害(車いす)のある教員のため、みなさんにご協力をお願いすることがあるかもしれません。どうぞよろしく願ひいたします。 ・本科目は社会福祉士・精神保健福祉士国家試験指定科目です。国家試験受験予定者は履修漏れのないように注意してください。				

科 目 名		地域福祉と包括的支援体制Ⅰ		担 当 者	豊田 正利	
科目ナンバリング		1120422168			常勤	
D P		3,4		教 員 研 究 室	3301	
学 科（専攻）		現代社会学科（社会福祉学専攻）		配 当 年 次	2 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☑該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 社会福祉士養成課程における教育内容をもとに設定する。 1. 地域福祉の基本的考え方、展開、動向について理解する。 2. 地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念を理解する。 3. 地域福祉を推進するための、福祉行政の実施体制と果たす役割について理解する。 【学習の到達目標】 上記「授業内容」の明確化及び達成。 【成績評価方法】 定期試験 60%、その他提出を求めるレポート 40%、以上に基づき総合的に評価する。 【課題等のフィードバック方法】 講義終了後、質問を受け付ける。出欠カードをミニッツペーパーとして活用する。 【履修上の注意・予習・復習について】 ・遅刻は講義開始 20 分までとし、以降の入室は認めない。 ・講義中の私語、携帯の使用等は厳禁とする。 ・講義終了時に復習の重点事項と次回講義の予習に関する重点事項について説明するので、指示に従い、各自予習と復習を必ず行うこと。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 今後の社会福祉士に求められている「地域の福祉課題の把握や社会資源の調整・開発、ネットワークの形成を図るなど、地域福祉の増進に働きかける役割」について理解と修得を図ることができる。 【実務家教員担当科目】 社会福祉協議会職員としての実務経験を活かした実践的な業務内容について講義する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	豊田 正利	1. ガイダンスーこれからの学習に向けて	新聞やニュース報道等とおして、身近な地域で起きている様々な福祉課題について事前に理解を図る。これからの学習に向けて自己の目標を設定する。			4 時間
2	豊田 正利	2. 「生存権」の意義と社会福祉	日本国憲法の 3 大原則について事前に復習して理解を図る。「生存権」のもつ意味について考察する。			4 時間
3	豊田 正利	3. 地域福祉とは何かー地域福祉の概念 p－Ⅰ	事前にテキストを熟読して内容を理解しておく。社会福祉法の改正の経緯をもとに、地域福祉の意味の変遷について考察する。			4 時間
4	豊田 正利	4. 地域福祉とは何かー地域福祉の概念 p－Ⅱ	事前にテキストを熟読して、わが国における主要な理論の内容を把握しておく。理論の体系的理解をもとに、意味の変遷について考察する。			4 時間
5	豊田 正利	5. 地域福祉とは何かーコミュニティの考え方	事前にテキストを熟読して内容を理解しておく。自己が居住する地域について、学修したコミュニティのモデルに充当して考察する。			4 時間
6	豊田 正利	6. 地域福祉とは何かーノーマライゼーションの考え方	事前にテキストを熟読して内容を理解しておく。ノーマライゼーション理念がわが国の地域福祉にもたらしている影響について考察する。			4 時間
7	豊田 正利	7. 地域福祉の歴史ー日本の地域福祉の歴史	事前にテキストを熟読して内容を理解しておく。社会の諸状況と地域福祉政策の変遷過程の関連を考察する。			4 時間
8	豊田 正利	8. 地域福祉の歴史ー諸外国の地域福祉の歴史	事前にテキストを熟読して内容を理解しておく。諸外国の政策が我が国の地域福祉政策にもたらした影響について考察する。			4 時間
9	豊田 正利	9. 地域福祉の推進主体ー社会福祉協議会	事前に自身の出身地（居住地）の社会福祉協議会について調べておく。今日の社会福祉協議会が求められる役割について考察する。			4 時間
10	豊田 正利	10. 地域福祉の推進主体ー民生委員・児童委員	事前にテキストを熟読して内容を理解しておく。民生委員・児童委員の制度の歴史の変遷と役割の変化について考察する。			4 時間
11	豊田 正利	11. 地域福祉の推進主体ー住民組織	事前に身近な地域における町内会、自治会等の活動について理解しておく。町内会・自治会の必要性について考察する。			4 時間
12	豊田 正利	12. 地域福祉の推進主体ーボランティア、NPO組織ー	事前に「ボランティア」に対するイメージについて整理しておく。今日のわが国において求められるボランティアやNPO組織の役割について考察する。			4 時間
13	豊田 正利	13. 住民主体の地域福祉活動ー住民の組織化活動	事前に身近な地域における住民による福祉活動について理解しておく。「住民主体」という言葉のもつ意味と意義について考察する。			4 時間
14	豊田 正利	14. 住民主体の地域福祉活動ー福祉教育	小・中・高等学校で体験した福祉教育活動について振り返る。地域福祉の推進に向けた福祉教育の意味と意義について考察する。			4 時間
教 科 書		都築光一編豊田正利他著『現代の地域福祉第 2 版』建帛社、2022 年				
参 考 書		別途指示する。				
備 考		本科目は社会福祉士養成指定科目である。				

科 目 名		地域福祉と包括的支援体制Ⅱ		担 当 者	豊田 正利	
科目ナンバリング		1120432169			常勤	
D P		3,4		教 員 研 究 室	3301	
学 科（専攻）		現代社会学科（社会福祉学専攻）		配 当 年 次	3 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☑該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 社会福祉士養成における教育目標にもとづいて設定する。 1. 地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を理解する。 2. 包括的支援体制の考え方と、多職種および多機関協働の意義と実際について理解する。 3. 地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を理解する。 (1) 社会資源の活用・調整・開発の方法について理解する。 (2) 福祉ニーズの把握方法について理解する。 (3) 地域トータルケアシステムの構築方法について理解する。 (4) サービスの評価方法について理解する。				【課題等のフィードバック方法】 講義終了後、質問を受け付ける。出欠カードをミニッツペーパーとして活用する。 【履修上の注意・予習・復習について】 講義終了時の指示に従い、各自予習と復習を必ず行うこと。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 今後の社会福祉士に求められる知識と技術の修得が可能となる。 【実務家教員担当科目】 社会福祉協議会職員としての経験を活かして実践的な講義を行う。		
【学習の到達目標】 上記「授業内容」の明確化及び達成。						
【成績評価方法】 定期試験 60%、提出を求めるレポート 40%、以上に基づき総合的に評価する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	豊田 正利	1. ガイダンスーこれからの学習に向けて	新聞やニュース報道等をもとに、身近な地域で発生している課題とその原因について理解を図る。その課題の改善・解決を図るための地域社会のあり方について考察する。			4 時間
2	豊田 正利	2. 福祉行財政の組織と原則	事前にテキストを熟読して大まかな内容の理解を図る。福祉行財政の原則の今日的な意義について考察する。			4 時間
3	豊田 正利	3. 福祉行財政の歴史	事前にテキストを熟読して大まかな内容の理解を図る。福祉行財政の変遷過程に対する理解をとおして現状と課題について考察する。			4 時間
4	豊田 正利	4. 福祉計画の概要	事前にテキストを熟読して大まかな内容の理解を図る。様々な領域における福祉計画の関連性を考察する。			4 時間
5	豊田 正利	5. 地域福祉計画策定の過程と方法	事前にテキストを熟読して大まかな内容の理解を図る。地域福祉計画及び地域福祉活動計画の作手にかかわる住民参加の重要性について考察する。			4 時間
6	豊田 正利	6. 地域福祉の支援体制ー地域包括ケアシステム	事前にテキストを熟読して大まかな内容の理解を図る。地域包括ケアシステムの構築が必要とされる社会状況について考察する。			4 時間
7	豊田 正利	7. 地域福祉の支援体制ー生活困窮者自立支援の考え方	事前にテキストを熟読して大まかな内容の理解を図る。多様化する住民の生活課題とニーズについて考察する。			4 時間
8	豊田 正利	8. 地域福祉の支援体制ー多機関連携と多職種連携	事前にテキストを熟読して大まかな内容の理解を図る。多機関連携・多職種連携の重要性について考察する。			4 時間
9	豊田 正利	9. 地域福祉の支援体制ー権利擁護	事前にテキストを熟読して大まかな内容の理解を図る。権利擁護に関する制度の理解をとおして今後の課題について考察する。			4 時間
10	豊田 正利	10. 地域福祉を推進する方法と技術ーコミュニティワークの基本原則	事前にソーシャルワークに関する知識の整理を図る。コミュニティワークの基本原則の重要性について身近な事例をとおして考察する。			4 時間
11	豊田 正利	11. 地域福祉を推進する方法と技術ーコミュニティワークの展開過程	ケースワークとグループワークの展開過程について知識の整理を図る。コミュニティワークの展開過程との共通点と相違について考察する。			4 時間
12	豊田 正利	12. 地域福祉を推進する方法と技術ーコミュニティソーシャルワークの考え方	事前にコミュニティソーシャルワークに対する大まかな理解を図る。今後のコミュニティソーシャルワークの役割について考察する。			4 時間
13	豊田 正利	13. 地域における福祉ニーズの把握と実際	様々な情報媒体をとおして身近な地域における福祉ニーズについて理解を図る。学修した内容をもとにテーマを設定して調査用紙を作成する。			4 時間
14	豊田 正利	14. 災害と地域福祉	事前にテキストを熟読するとともに、東日本大震災発生時における当時の生活状況について整理する。災害発生時における自身の役割について考察する。			4 時間
教 科 書		都築光一編豊田正利他著『現代の地域福祉第2版』建帛社、2022 年				
参 考 書		別途指示する。				
備 考		この科目は社会福祉士国家試験受験指定科目である。				

科 目 名		権利擁護を支える法制度			担 当 者	前川 勤
科目ナンバリング		1120422170				非常勤
D P		1,2			教 員 研 究 室	非常勤講師室
学 科（専攻）		現代社会学科（社会福祉学専攻）			配 当 年 次	2 年次・後期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 「権利擁護を支える法制度」の法である、憲法、民法、行政法、成年後見制度を中心に学びます。レジメを配布し、パワーポイントや動画などを利用しながら理解を深める授業を行います。 【学習の到達目標】 相談援助に必要な知識を理解するとともに、国家試験に対応した授業により合格レベルの力を養います。 【成績評価方法】 レポートにより評価します（100%） 【課題等のフィードバック方法】 授業後に、質問等を受け付けます。 【履修上の注意・予習・復習について】 私語やゲーム機、携帯電話等の講義に関係ないものの使用及び充電等の行為については禁止する。他の学生の迷惑となると判断した場合は退室を指示する場合がある。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 ソーシャルワーカーとして必要とされる「権利擁護を支える法制度」の知識を得るとともに、卒業時の社会福祉士国家試験合格のための基礎力を養成します。 【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	前川 勤	ガイダンス・法の基礎	第 2 章			4 時間
2	前川 勤	憲法	第 1 章 第 2 節 1 ～ 3			4 時間
3	前川 勤	憲法	第 1 章 第 2 節 4 ～ 5			4 時間
4	前川 勤	憲法	第 1 章 第 2 節 6 ～ 8			4 時間
5	前川 勤	民法	第 1 章 第 3 節 1			4 時間
6	前川 勤	民法	第 1 章 第 3 節 2 ～ 3			4 時間
7	前川 勤	民法	第 1 章 第 3 節 4 ～ 5			4 時間
8	前川 勤	行政法	第 1 章 第 4 節 1 ～ 3			4 時間
9	前川 勤	行政法	第 1 章 第 4 節 4 ～ 5			4 時間
10	前川 勤	権利擁護の意義と支える仕組み	第 3 章			4 時間
11	前川 勤	権利擁護活動と意思決定支援	第 4 章			4 時間
12	前川 勤	権利擁護にかかわる組織、団体、専門職	第 5 章			4 時間
13	前川 勤	成年後見制度	第 6 章 第 1 節～第 4 節			4 時間
14	前川 勤	成年後見制度	第 6 章 第 5 節～第 8 節			4 時間
教 科 書		社会福祉学習双書 2025「権利擁護を支える法制度・刑事司法と福祉」一般社団法人全国社会福祉協議会「社会福祉学習双書」編集委員会編				
参 考 書		蘆部信喜「憲法」（第 7 版）岩波書店、藤田宙靖「行政法入門」有斐閣、裁判所職員総合研修所監修「民法概説」司法協会				
備 考		なし				

科 目 名	刑事司法と福祉			担 当 者	前川 勤
科目ナンバリング	1120432171				非常勤
D P	1,2			教 員 研 究 室	非常勤講師室
学 科（専攻）	現代社会学科（社会福祉学専攻）			配 当 年 次	3 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 刑事司法と福祉は、「犯罪とは何か」とか、「社会と犯罪」、「多様なニーズを有する犯罪者」など「刑事司法と福祉」について学びます。レジュメを配布し、パワーポイントや動画などを利用しながら理解を深める授業を行います。				【課題等のフィードバック方法】 授業後に、質問等を受け付けます。	
【学習の到達目標】 相談援助に必要な知識を理解するとともに、国家試験に対応した授業により合格レベルの力を養います。				【履修上の注意・予習・復習について】 私語やゲーム機、携帯電話等の講義に関係ないものの使用及び充電等の行為については禁止する。他の学生の迷惑となると判断したばあいは退室を指示する場合がある。	
【成績評価方法】 レポートにより評価します（100%）。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 社会福祉士国家試験に対応した授業を行うので、受験予定者は受講するのが望ましい。	
				【実務家教員担当科目】 該当なし	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	前川 勤	刑事司法と福祉・社会と犯罪	第 1 章・第 2 章		4 時間
2	前川 勤	犯罪原因と対策	第 3 章		4 時間
3	前川 勤	刑罰とは何か	第 4 章		4 時間
4	前川 勤	刑事司法	第 5 章		4 時間
5	前川 勤	少年司法	第 6 章		4 時間
6	前川 勤	施設内処遇①	第 7 章		4 時間
7	前川 勤	施設内処遇②	第 8 章		4 時間
8	前川 勤	社会内処遇①	第 9 章		4 時間
9	前川 勤	社会内処遇②	第 10 章		4 時間
10	前川 勤	多様なニーズを有する犯罪行為者①	第 11 章		4 時間
11	前川 勤	多様なニーズを有する犯罪行為者②	第 12 章		4 時間
12	前川 勤	多様なニーズを有する犯罪行為者③	第 13 章		4 時間
13	前川 勤	犯罪被害者支援	第 14 章		4 時間
14	前川 勤	コミュニティと刑事司法	第 15 章		4 時間
教 科 書	社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座「刑事司法と福祉」一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集中央法規				
参 考 書	社会福祉学習双書 2025「権利擁護を支える法制度・刑事司法と福祉」社会福祉法人全国社会福祉協議会「社会福祉学習双書」				
備 考	なし				

科 目 名		ソーシャルワーク基礎演習		担 当 者	○村田 道彦・大竹 伸治	
科目ナンバリング		1120422172			常勤	
D P		2,3		教員研究室	1202	
学科（専攻）		現代社会学科（社会福祉学専攻）		配 当 年 次	2 年次・前期	
授 業 形 式		演習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 ☒ 自主学習支援 □該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 ソーシャルワークとは、「人」が何らかの社会生活上の困難に直面している「人」にかかわり、様々な社会資源を活用しながらその「生活」を支援することをいう。本科目では、専門職者として「人」が「人」にかかわる時に求められる人権尊重、権利擁護、自立支援、面接技法、プレゼンテーション等についての基礎的な理解を図ることを目的とする。具体的には、ロールプレイやディスカッション、グループワーク等を通じた学習により、今後ソーシャルワーカーを目指す者として、自ら学び、考え、主体的に行動する態度を涵養するものである						
【学習の到達目標】 Step1: ソーシャルワークにおける支援者としての視点や態度、倫理や価値などにかかわる基礎的な知識、技術を理解する。 Step2: ソーシャルワークとは何かについて考え、支援者に求められる価値・知識・技術の本来の意義とは何かに気づく。						
【成績評価方法】 課題の提出（60%）、レポート（40%）等により、総合的に評価する。評価に際しては、当該科目の性質上とくに受講態度を重視する。						
【課題等のフィードバック方法】 毎回の演習終了後に提出された振り返りレポート又は課題へ対し、コメントあるいは解説を行う						
【履修上の注意・予習・復習について】 本科目は演習という科目の性質上、受講者の主体的な参加を前提としている。 演習には積極的に取り組み、実施後には毎回振り返りを行うことが求められる						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 本科目を通し、ソーシャルワーカーとしての素養を得ることができる。また、日常生活において、ワーカーとしての視点や技術がいかに養われるものであるかについて学ぶことができる。						
【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	村田 道彦 大竹 伸治	自己覚知の理解	自己覚知に関するミニレポート課題を課す			1 時間
2	村田 道彦 大竹 伸治	価値観の相違（多様性）	価値観の相違に関するミニレポート課題を課す			1 時間
3	村田 道彦 大竹 伸治	人権（権利擁護）と尊厳	人権（権利擁護）と尊厳に関するミニレポート課題を課す			1 時間
4	村田 道彦 大竹 伸治	平等と個性の尊重	平等と個性の尊重に関するミニレポート課題を課す			1 時間
5	村田 道彦 大竹 伸治	社会正義とは何か	社会正義に関するミニレポート課題を課す			1 時間
6	村田 道彦 大竹 伸治	自己決定の尊重とクライアントの利益	自己決定の尊重とクライアントの利益に関するミニレポート課題を課す			1 時間
7	村田 道彦 大竹 伸治	ワーカーの倫理的責任	ワーカーの倫理的責任に関するミニレポート課題を課す			1 時間
8	村田 道彦 大竹 伸治	基本的なコミュニケーションの技法 1	基本的なコミュニケーションに関するミニレポート課題を課す			1 時間
9	村田 道彦 大竹 伸治	基本的なコミュニケーションの技法 2	基本的なコミュニケーションに関するミニレポート課題を課す			1 時間
10	村田 道彦 大竹 伸治	ソーシャルワークの記録	ソーシャルワークの記録に関するミニレポート課題を課す			1 時間
11	村田 道彦 大竹 伸治	ソーシャルワークの展開過程と面接技法 1	ソーシャルワークの展開過程と面接に関するミニレポート課題を課す			1 時間
12	村田 道彦 大竹 伸治	ソーシャルワークの展開過程と面接技法 2	ソーシャルワークの展開過程と面接に関するミニレポート課題を課す			1 時間
13	村田 道彦 大竹 伸治	グループダイナミクスの活用	グループダイナミクスに関するミニレポート課題を課す			1 時間
14	村田 道彦 大竹 伸治	ソーシャルワークにおけるプレゼンテーション技術	プレゼンテーションに関するミニレポート課題を課す			1 時間
教 科 書		13. ソーシャルワーク演習〔共通科目〕2021.2.1 発行 中央法規出版 また適宜、授業においてプリントを配布する				
参 考 書		特に指定なし。				
備 考		・本科目は社会福祉士国家試験指定科目である。国家試験受験予定者は、履修漏れの無いよう注意すること。・本科目は演習という科目の性質上、やむを得ない理由による欠席は3回まで認めるが、4回以上となった時点で履修放棄とする。遅刻は20分までとし、2回で欠席1回分とする。（問合せ教員：村田道彦）				

科 目 名		ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ		担 当 者	野崎 瑞樹	
科目ナンバリング		1120422173			常勤	
D P		2,3		教 員 研 究 室	3309	
学 科（専攻）		現代社会学科（社会福祉学専攻）		配 当 年 次	2 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 総合的かつ包括的な支援としてのソーシャルワークについて学ぶ 倫理綱領を中心に専門職のあり方と多職種との連携について学ぶ 【学習の到達目標】 ・ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解する ・相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理について理解する ・総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する 【成績評価方法】 定期試験評価 70% 授業内課題評価 30% 【課題等のフィードバック方法】 リアクションペーパーに書かれた質問は次回に回答する。 【履修上の注意・予習・復習について】 予習復習は適宜指示するので積極的に取り組むこと 【受講して得られる効果・メリット、その他】 本科目では、総合的かつ包括的な相談援助を実践するために必要な概念、範囲、専門職倫理について学ぶことができる。 【実務家教員担当科目】 NPO にて相談業務経験のある教員が担当する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	野崎 瑞樹	オリエンテーション：ソーシャルワーカーが重視すべき理念の概説	予習・復習の内容および方法についてはオリエンテーション時に指示する		4 時間	
2	野崎 瑞樹	ソーシャルワーク専門職の概念と範囲	予習：授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておく 復習：適宜指示する		4 時間	
3	野崎 瑞樹	社会福祉士の職域と役割	予習：授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておく 復習：適宜指示する		4 時間	
4	野崎 瑞樹	多様な組織・機関・団体における専門職	予習：授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておく 復習：適宜指示する		4 時間	
5	野崎 瑞樹	諸外国の動向	予習：授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておく 復習：適宜指示する		4 時間	
6	野崎 瑞樹	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象	予習：授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておく 復習：適宜指示する		4 時間	
7	野崎 瑞樹	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開①	予習：授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておく 復習：適宜指示する		4 時間	
8	野崎 瑞樹	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開②	予習：授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておく 復習：適宜指示する		4 時間	
9	野崎 瑞樹	地域を基盤としたソーシャルワーク①	予習：授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておく 復習：適宜指示する		4 時間	
10	野崎 瑞樹	地域を基盤としたソーシャルワーク②	予習：授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておく 復習：適宜指示する		4 時間	
11	野崎 瑞樹	総合的かつ包括的な支援①ジェネラリスト	予習：授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておく 復習：適宜指示する		4 時間	
12	野崎 瑞樹	総合的かつ包括的な支援②社会資源	予習：授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておく 復習：適宜指示する		4 時間	
13	野崎 瑞樹	総合的かつ包括的な支援③ネットワークング	予習：授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておく 復習：適宜指示する		4 時間	
14	野崎 瑞樹	総合的かつ包括的な支援④多職種連携	予習：授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておく 復習：適宜指示する		4 時間	
教 科 書		最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 11「ソーシャルワークの基盤と専門職」（共通・社会専門）中央法規出版（2021 年）				
参 考 書		特になし				
備 考		・授業開始後 20 分までは教室への入室を認めます。 ・欠席が 3 分の 1 以上の者は原則として定期試験の受験資格はないので注意すること。 ・本科目は社会福祉士国家試験指定科目である。				

科 目 名		児童・家庭福祉			担 当 者	鑑 さやか
科目ナンバリング		1120422174				常勤
D P		1,2			教員研究室	1307
学科（専攻）		現代社会学科（社会福祉学専攻）			配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 □自主学習支援 □該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 この講義では、子ども家庭福祉施策の概況を念頭に置きつつ、子どもを巡る社会事情がどのように変化してきているか、また、今後の子ども家庭福祉の方向はどのようなものであるべきかについて、最新の動向を中心に紹介しながら子ども家庭福祉の理念、制度、援助の実践について講義を行う。 【学習の到達目標】 ・現代社会における子ども観と子どもの権利保障について理解する ・子ども家庭福祉の法制度および行政について理解する ・子ども家庭福祉援助の実践と課題について理解し、援助活動を行う際に必要な基礎的知識を身につける 【成績評価方法】 定期試験評価 70% 授業内課題評価 30%						
【課題等のフィードバック方法】 授業内で実施する小テストを返却し、解説を行う 【履修上の注意・予習・復習について】 授業開始後 20 分までは教室への入室を認めます。 欠席が3 分の 1 以上の者は原則として定期試験の受験資格はないので注意すること。 詳しくは初回授業時に提示します。 授業中のスマートフォンの使用や私語、飲食は禁止します。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 本科目では、子ども家庭福祉領域の概況を理解することにより、基礎的な知識を学ぶことができる。 【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	鑑 さやか	オリエンテーション・子どもと家庭を取り巻く状況	予習・復習の内容および方法についてはオリエンテーション時に指示する			4 時間
2	鑑 さやか	子ども家庭福祉の理念と概念	予習：教科書を読み、専門用語の意味を理解しておく 復習：最初に授業内容に係る小テストを実施するので、復習をしておくこと			4 時間
3	鑑 さやか	子ども家庭福祉の権利保障	予習：教科書を読み、専門用語の意味を理解しておく 復習：次回授業の最初に授業内容に係る小テストを実施するので、復習をしておくこと			4 時間
4	鑑 さやか	子ども家庭福祉の歴史的展開①	予習：教科書を読み、専門用語の意味を理解しておく 復習：次回授業の最初に授業内容に係る小テストを実施するので、復習をしておくこと			4 時間
5	鑑 さやか	子ども家庭福祉の歴史的展開②	予習：教科書を読み、専門用語の意味を理解しておく 復習：次回授業の最初に授業内容に係る小テストを実施するので、復習をしておくこと			4 時間
6	鑑 さやか	子ども家庭福祉の歴史的展開③	予習：教科書を読み、専門用語の意味を理解しておく 復習：次回授業の最初に授業内容に係る小テストを実施するので、復習をしておくこと			4 時間
7	鑑 さやか	子ども家庭福祉の法制度①	予習：教科書を読み、専門用語の意味を理解しておく 復習：次回授業の最初に授業内容に係る小テストを実施するので、復習をしておくこと			4 時間
8	鑑 さやか	子ども家庭福祉の法制度②	予習：教科書を読み、専門用語の意味を理解しておく 復習：次回授業の最初に授業内容に係る小テストを実施するので、復習をしておくこと			4 時間
9	鑑 さやか	子ども家庭福祉の実施体制①	予習：教科書を読み、専門用語の意味を理解しておく 復習：次回授業の最初に授業内容に係る小テストを実施するので、復習をしておくこと			4 時間
10	鑑 さやか	子ども家庭福祉の実施体制②	予習：教科書を読み、専門用語の意味を理解しておく 復習：次回授業の最初に授業内容に係る小テストを実施するので、復習をしておくこと			4 時間
11	鑑 さやか	子ども家庭福祉を取り巻く状況と福祉サービス～子どもの虐待～	予習：教科書を読み、専門用語の意味を理解しておく 復習：次回授業の最初に授業内容に係る小テストを実施するので、復習をしておくこと			4 時間
12	鑑 さやか	子ども家庭福祉を取り巻く状況と福祉サービス～少子化～	予習：教科書を読み、専門用語の意味を理解しておく 復習：次回授業の最初に授業内容に係る小テストを実施するので、復習をしておくこと			4 時間
13	鑑 さやか	子ども家庭福祉を取り巻く状況と福祉サービス～子育て支援～	予習：教科書を読み、専門用語の意味を理解しておく 復習：次回授業の最初に授業内容に係る小テストを実施するので、復習をしておくこと			4 時間
14	鑑 さやか	社会的養護を必要とする子どもに対する福祉サービス～事例検討～	予習：前回まで使用した教科書・資料を再確認しておく 復習：次回授業の最初に授業内容に係る小テストを実施するので、復習をしておくこと			4 時間
教 科 書		児童・家庭福祉 中央法規出版				
参 考 書		社会福祉小六法 日本子ども資料年鑑 KTC 出版 その他 必要な文献は講義の都度提示予定				
備 考		特になし				

科 目 名		高齢者福祉		担 当 者	村田 道彦	
科目ナンバリング		1120422175			常勤	
D	P	2,3		教員 研究室	1202	
学 科（専攻）		現代社会学科（社会福祉学専攻）		配 当 年 次	2 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☒ 自主学習支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 日本における高齢化率は既に 29% を超え、国民の 4 人に 1 人が 65 歳以上の高齢者となる時代を迎えている。こうした「超」高齢社会は今後、継続することが確実視されており、介護をはじめとする高齢者福祉施策の充実には国民にとって重要な関心事となっている。この講義では、高齢者が直面する様々な生活上の課題について学び、高齢者の生活を支える社会的諸制度について理解することを目的とする。そのために高齢者福祉に関わる現在の社会的状況と基本的な法制度・施策、および介護に関わる基本的考え方について講義する。						
【課題等のフィードバック方法】 授業内あるいは次の授業で解説する。						
【履修上の注意・予習・復習について】 復習課題を提示するので積極的に取り組むこと。また、理解を深めるために、事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。講義中の私語・飲食・携帯電話等の使用および充電は認めない。ただし、どうしても必要な場合の飲量摂取は認めるが、机の上には置かない。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 高齢者の生活課題や制度の特徴を考察する能力を高めることができる。						
【実務家教員担当科目】 福祉サービス第三者評価者として 10 年以上の経験をもつ者が、経験を活かして施設や在宅サービスにおける組織マネジメント、相談・介護支援、リスク管理、住環境等、その現状や課題について解説する。						
【成績評価方法】 ＜基礎点＞ 定期試験 60% (a) ※出席回数が 10 回未満の場合は受験資格なし ＜加算点＞課題レポート 40% (b) ＜評価＞ (a) + (b) = 90 点以上 S, 89 ～ 80 点 A, 79 ～ 70 点 B, 69 ～ 60 点 C, 59 点以下 D						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	村田 道彦	高齢者の定義と特徴（社会的・身体的・精神的理解）	予習：教科書の該当箇所・関連資料に目を通す。復習：授業で学習した箇所を考察する。課題プリントを課す。		4 時間	
2	村田 道彦	高齢者の生活実態（住居・所得・世帯・雇用、就労・介護需要、介護予防）	予習：教科書の該当箇所・関連資料に目を通す。復習：授業で学習した箇所を考察する。課題プリントを課す。		4 時間	
3	村田 道彦	高齢者を取り巻く社会環境（独居・老老介護・ダブルケア・8050 問題・高齢者虐待・介護者の離職）	予習：教科書の該当箇所・関連資料に目を通す。復習：授業で学習した箇所を考察する。課題プリントを課す。		4 時間	
4	村田 道彦	高齢者福祉の理念（人権の尊重・尊厳の保持・老人福祉法、介護保険法における理念）	予習：教科書の該当箇所・関連資料に目を通す。復習：授業で学習した箇所を考察する。課題プリントを課す。		4 時間	
5	村田 道彦	高齢者観の変遷（敬老思想・エイジズム・社会的弱者・アクティブエイジング）	予習：教科書の該当箇所・関連資料に目を通す。復習：授業で学習した箇所を考察する。課題プリントを課す。		4 時間	
6	村田 道彦	高齢者福祉制度の発展過程	予習：教科書の該当箇所・関連資料に目を通す。復習：授業で学習した箇所を考察する。課題プリントを課す。		4 時間	
7	村田 道彦	介護保険制度（介護保険法と介護保険制度の概要・介護報酬の概要・組織及び団体の役割）	予習：教科書の該当箇所・関連資料に目を通す。復習：授業で学習した箇所を考察する。課題プリントを課す。		4 時間	
8	村田 道彦	介護保険制度（保険者と被保険者・保険料・要介護認定の仕組みとプロセス・居宅サービス、施設サービスの種類）	予習：教科書の該当箇所・関連資料に目を通す。復習：授業で学習した箇所を考察する。課題プリントを課す。		4 時間	
9	村田 道彦	老人福祉法（老人福祉法の概要・措置）	予習：教科書の該当箇所・関連資料に目を通す。復習：授業で学習した箇所を考察する。課題プリントを課す。		4 時間	
10	村田 道彦	高齢者虐待防止法（概要・未然防止・通報義務、早期発見）	予習：教科書の該当箇所・関連資料に目を通す。復習：授業で学習した箇所を考察する。課題プリントを課す。		4 時間	
11	村田 道彦	バリアフリー法（概要・施設設置管理者等の責務）	予習：教科書の該当箇所・関連資料に目を通す。復習：授業で学習した箇所を考察する。課題プリントを課す。		4 時間	
12	村田 道彦	高齢者住まい法及び高齢者雇用安定法、育児・介護休業法	予習：教科書の該当箇所・関連資料に目を通す。復習：授業で学習した箇所を考察する。課題プリントを課す。		4 時間	
13	村田 道彦	高齢者と家族等の支援における関係機関の役割	予習：教科書の該当箇所・関連資料に目を通す。復習：授業で学習した箇所を考察する。課題プリントを課す。		4 時間	
14	村田 道彦	高齢者と家族等に対する支援の実態	予習：教科書の該当箇所・関連資料に目を通す。復習：授業で学習した箇所を考察する。課題プリントを課す。		4 時間	
教 科 書		日本ソーシャルワーク教育学校連盟『高齢者福祉』中央法規				
参 考 書		特に指定なし				
備 考		社会福祉士国家試験受験資格取得に必要な指定科目である。				

科 目 名		福祉サービスの組織と経営			担 当 者	○千脇 隆志・高梨 友也
科目ナンバリング		1120432176				非常勤
D P		1,2			教 員 研 究 室	非常勤講師室
学 科（専攻）		現代社会学科（社会福祉学専攻）			配 当 年 次	3 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☑該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 「福祉サービスの組織と経営」第3版を教科書に、社会福祉施設の経営全般に関する基本的な理解と、社会福祉事業を取り巻く環境及び課題等について、実践的視点から講義や演習を行います。 【学習の到達目標】 社会福祉サービスに関する基礎的な知識、事業運営上の課題、求められる意義、スキル等について包括的に学びます。 【成績評価方法】 定期試験 60%（点）、小レポート【毎回】20%（点）、小テスト 20%により評価します。 【課題等のフィードバック方法】 小レポート提出と、講義に関する振り返り等を行います。 小レポートにて、質問を受付し、次回の講義等で回答する。 【履修上の注意・予習・復習について】 専門用語等の習熟や、その時々社会福祉に関する状況把握等が必要です。 事前に教科書に目を通すことや、福祉関連のニュース等に関心を持つことを心がけてください。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 実習や、実際の現場に立った際に、社会状況を反映した包括的な視点や、社会福祉施設経営に必要な実践的知識を身につけることができます。 【実務家教員担当科目】 該当なし。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	千脇 隆志	社会福祉法人の概要と役割	事前に教科書（該当する学習内容、項目）をよく読みこんでくこと 2 回目以降も同様			4 時間
2	高梨 友也	社会福祉施設の概要と推移	事前に教科書（該当する学習内容、項目）をよく読みこんでくこと			4 時間
3	千脇 隆志	社会福祉法人・社会福祉施設の経営管理	事前に教科書（該当する学習内容、項目）をよく読みこんでくこと			4 時間
4	高梨 友也	経営管理、問題解決のあり方、モチベーション	事前に教科書（該当する学習内容、項目）をよく読みこんでくこと			4 時間
5	千脇 隆志	社会福祉施設のサービス管理	事前に教科書（該当する学習内容、項目）をよく読みこんでくこと			4 時間
6	千脇 隆志	社会福祉施設・事業のリスクマネジメント	事前に教科書（該当する学習内容、項目）をよく読みこんでくこと			4 時間
7	高梨 友也	社会福祉施設のサービスと権利擁護	事前に教科書（該当する学習内容、項目）をよく読みこんでくこと			4 時間
8	高梨 友也	社会福祉施設の人事管理と労務管理、研修	事前に教科書（該当する学習内容、項目）をよく読みこんでくこと			4 時間
9	千脇 隆志	社会福祉施設の情報管理	事前に教科書（該当する学習内容、項目）をよく読みこんでくこと			4 時間
10	千脇 隆志	組織におけるリーダーシップ	事前に教科書（該当する学習内容、項目）をよく読みこんでくこと			4 時間
11	高梨 友也	社会福祉事業のマーケティングと品質管理	事前に教科書（該当する学習内容、項目）をよく読みこんでくこと			4 時間
12	高梨 友也	社会福祉施設のサービス評価と契約	事前に教科書（該当する学習内容、項目）をよく読みこんでくこと			4 時間
13	高梨 友也	社会福祉施設の会計管理と財務管理	事前に教科書（該当する学習内容、項目）をよく読みこんでくこと			4 時間
14	千脇 隆志	社会福祉施設整備と福祉用具	事前に教科書（該当する学習内容、項目）をよく読みこんでくこと 授業で行った過去問題を学習してくこと			4 時間
教 科 書		「福祉サービスの組織と経営」第3版 福祉臨床シリーズ編集委員会編 弘文堂				
参 考 書		社会福祉六法、 P・ドラッカー等マネジメントに関する本				
備 考		質問等の問い合わせ先 千脇 隆志				

科 目 名		貧困に対する支援			担 当 者	小 淵 高 志
科目ナンバリング		1120432177				常勤
D P		1,2			教 員 研 究 室	1305
学科（専攻）		現代社会学科（社会福祉学専攻）			配 当 年 次	3 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 ☒ 自主学習支援 □該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 医療保険や年金などの諸制度は、今日、人々が社会生活を送っていく上で欠かすことのできないものとなっています。このように、国民の生活を保障するために制度化されているのが社会保障です。社会保障の諸制度は、それぞれどのような仕組みとなっているのか、どのような考え方で、どのようにして生み出されてきたのか、といった点の理解を深めるとともに、少子・高齢化、グローバル化が進む現代社会において、それぞれの制度の今日的な役割と意義を評価するとともに、各制度が抱える問題点の検討を行います。さらに、福祉国家から福祉社会へという流れの中で、これからの社会保障がどのような方向を目指すべきかを考えていきます。						【課題等のフィードバック方法】 授業中の課題提出の解説を次回の授業で行う。講義終了後に、質問を受け付け回答する。授業中にグーグルクラスルームのチャットやアンケートフォームなどを使い、質疑応答や意見交換やグループ・ディスカッションを行います。
【学習の到達目標】 社会保障制度の全体像を把握し、それぞれの制度の役割を理解します。						【履修上の注意・予習・復習について】 授業の最後に、次回の学習範囲を予告します。そのときに、必読文献や作業課題などを提示します。そして、復習のための作業課題なども同時に提示します。指示に従って、必ず予習と復習をしてください。授業の録画を振り返り（復習）、分からないことや理解を深めたいことを、グーグルミートのメッセージ機能を使って質問してください。
【成績評価方法】 課題レポート（40%）、筆記試験（60%）による総合評価とします。						【受講して得られる効果・メリット、その他】 社会保障制度の基礎的な知識が身につきます。
【実務家教員担当科目】 該当しない						

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	小 淵 高 志	低所得者に対する支援の制度と方法を学ぶ前に	低所得者と貧困問題とを整理しておこう。	4 時間
2	小 淵 高 志	低所得階層の生活実態と貧困	低所得階層が生み出される背景と問題とを考えてみよう。	4 時間
3	小 淵 高 志	社会保障制度と公的扶助	社会保障制度の仕組みと公的扶助制度との関係を調べておこう。	4 時間
4	小 淵 高 志	生活保護の実施体制	国と自治体との役割を整理しておこう。	4 時間
5	小 淵 高 志	生活保護制度の原理・原則（1）	生活保護法の基本原理を押さえておこう。	4 時間
6	小 淵 高 志	生活保護制度の原理・原則（2）	生活保護法の原則を押さえておこう。	4 時間
7	小 淵 高 志	生活保護基準と要否判定	最低生活保障水準と保護基準の設定方式を調べてみよう。	4 時間
8	小 淵 高 志	生活保護の動向と財源	生活保護費の財源と動向を調べておこう。	4 時間
9	小 淵 高 志	専門職の役割と相談援助活動	専門職の役割と支援過程を整理しておこう。	4 時間
10	小 淵 高 志	自立支援プログラムによる相談援助	プログラムの策定と支援過程を整理しておこう。	4 時間
11	小 淵 高 志	ホームレスの生活と相談援助	ホームレスの現状と生活への理解を進めておこう。	4 時間
12	小 淵 高 志	低所得者への社会福祉サービス	生活困窮者自立支援制度や生活福祉資金貸付制度について調べてみよう。	4 時間
13	小 淵 高 志	所得者への就労支援サービス	雇用・就労の動向と労働政策について調べておこう。	4 時間
14	小 淵 高 志	公的扶助制度の歴史	イギリスの救貧制度や日本の歴史を調べてみよう。	4 時間
教 科 書		渋谷哲編『貧困に対する支援の制度と方法』（株）みらい		
参 考 書		授業の中で適宜紹介		
備 考		授業開始時刻より 10 分以上の遅刻者の受講を禁止します。授業時間中の飲食、私語、許可のない入退出を禁止します。授業時間中における携帯電話（スマートフォン等）での通話やメール送受信等を禁止します。		

科 目 名		保健医療と福祉			担 当 者	加藤 由美
科目ナンバリング		1120422178				常勤
D	P	1,2			教員研究室	1301
学科（専攻）		現代社会学科（社会福祉学専攻）			配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 □自主学习支援 □該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 「保健医療と福祉」における各領域の体系的理解を図る。 傷病者・家族の理解と適切な支援のあり方／保健医療の動向／保健医療領域に関する政策、制度、サービス／保健医療領域における社会福祉士の役割と連携・協働 【学習の到達目標】 ・保健医療の動向を踏まえて、関連する制度、政策、サービスを理解している ・医療機能の分化・分担と連携に基づく、医療提供体制の概要を理解している ・保健医療における社会福祉士の役割を理解している ・保健医療の各専門職の役割とチームアプローチを理解している ・医療倫理の基礎を踏まえて、傷病者と家族に対する適切な支援のあり方を理解している ・「傷病者と家族に対する理解」を援ける基礎的知識を有している 【成績評価方法】 科目内容の理解度（85 点）及び学修態度（15 点）で評価する。科目内容の理解度は定期試験（85 点満点）の点数を評価に用いる。学修態度の評価には、授業毎の予習課題（5 点満点）及び確認テスト（10 点満点）の各平均点を用いる。 【課題等のフィードバック方法】 classroom でフィードバックを行う 【履修上の注意・予習・復習について】 授業は BYOD（Bring Your Own Device）で行う。PC またはタブレットを必ず持参のこと 【受講して得られる効果・メリット、その他】 ソーシャルワーク実践に不可欠な保健医療と福祉に関する知識を習得できる。 【実務家教員担当科目】 医療ソーシャルワーカーの職歴を有する教員が、その実務経験を活かして社会福祉士の国試指定科目「保健医療と福祉」の実践的理解を促す講義を行う。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	加藤 由美	科目オリエンテーション	予習：科目シラバスを熟読する。 復習：科目の概要と進め方を理解し、学習計画を立てる。			4 時間
2	加藤 由美	医療保険と診療報酬	予習：予習課題に取り組み、期限内に提出する。 復習：確認テスト結果等に基づき、授業内容の理解を深める。			4 時間
3	加藤 由美	公費負担医療／国民医療費	予習：予習課題に取り組み、期限内に提出する。 復習：確認テスト結果等に基づき、授業内容の理解を深める。			4 時間
4	加藤 由美	医療法と医療提供体制	予習：予習課題に取り組み、期限内に提出する。 復習：確認テスト結果等に基づき、授業内容の理解を深める。			4 時間
5	加藤 由美	医療機能と医療提供体制	予習：予習課題に取り組み、期限内に提出する。 復習：確認テスト結果等に基づき、授業内容の理解を深める。			4 時間
6	加藤 由美	地域包括ケアシステムにおける医療介護	予習：予習課題に取り組み、期限内に提出する。 復習：確認テスト課題等に取り組み、期限内に提出する。			4 時間
7	加藤 由美	我が国の疾病構造の変化	予習：予習課題に取り組み、期限内に提出する。 復習：確認テスト結果等に基づき、授業内容の理解を深める。			4 時間
8	加藤 由美	傷病者と家族の理解	予習：予習課題に取り組み、期限内に提出する。 復習：確認テスト結果等に基づき、授業内容の理解を深める。			4 時間
9	加藤 由美	医療倫理／患者の権利	予習：予習課題に取り組み、期限内に提出する。 復習：確認テスト結果等に基づき、授業内容の理解を深める。			4 時間
10	加藤 由美	患者の意思決定支援	予習：予習課題に取り組み、期限内に提出する。 復習：確認テスト結果等に基づき、授業内容の理解を深める。			4 時間
11	加藤 由美	医療ソーシャルワーカーの業務	予習：予習課題に取り組み、期限内に提出する。 復習：確認テスト結果等に基づき、授業内容の理解を深める。			4 時間
12	加藤 由美	保健医療の各専門職	予習：予習課題に取り組み、期限内に提出する。 復習：確認テスト結果等に基づき、授業内容の理解を深める。			4 時間
13	加藤 由美	チーム医療と多職種連携	予習：予習課題に取り組み、期限内に提出する。 復習：確認テスト結果等に基づき、授業内容の理解を深める。			4 時間
14	加藤 由美	全体の振り返りとまとめ	予習：これまでの授業のポイントを整理してまとめる。 復習：全体の振り返りとまとめを行う。			4 時間
教 科 書		最新 社会福祉士養成講座 保健医療と福祉保健医療と福祉： 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟（編集） 出版社：中央法規				
参 考 書		なし				
備 考		この科目は社会福祉士国家試験の指定科目である。国試受験者は必ず履修すること。				

科 目 名		ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ		担 当 者	志水田鶴子	
科目ナンバリング		1120432179			非常勤	
D	P	1,2		教員研究室	非常勤講師室	
学科（専攻）		現代社会学科（社会福祉学専攻）		配 当 年 次	3 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 1) ソーシャルワークにおける援助関係の形成 2) ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発 3) ネットワークの形成 【学習の到達目標】 ①社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法を理解する。 ②社会資源の活用の意義を踏まえ、地域における社会資源の開発やソーシャルアクションについて理解する。 【成績評価方法】 ・定期試験の代わりに授業内でミニテストを2回実施する 90点(a) ※出席回数が10回以上でない場合は受験資格無し ・リアクションペーパー1回1点×10回＝10点(b) (a)＋(b)＝90点以上S、89点～80点A、79点～70点B、69点～60点C 59点以下D				【課題等のフィードバック方法】 Google フォームを活用し、リアクションペーパーを提出してもらいが、リアクションペーパーに記載された質問は授業内又は次の授業で解説する。 【履修上の注意・予習・復習について】 ・復習課題を適宜指示するため、積極的に取り組み、達成すること ・やむを得ない理由以外の20分以上の遅刻は欠席扱いとする。理由がある場合には講義終了後に申し出ること。特段の理由のない遅刻は2回で欠席1回に換算する。 ・私語や携帯電話等の講義に関係ないものの使用及び充電等の行為については禁止する。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 1) ソーシャルワークにおける「面接」の技術について理解が深められる 2) 我が国の最新の福祉情報支援の現状を知ることができる 3) ソーシャルワークの実践場面において求められる記録の管理方法について習得できる 【実務家教員担当科目】 なし		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	志水田鶴子	オリエンテーション	ソーシャルワークにおける専門技術に関して調べる		4 時間	
2	志水田鶴子	第1章 ソーシャルワークにおける援助関係の形成	ソーシャルワーカーが身につけておかなければならない専門的態度と援助関係の形成について、バISTEックの7原則と来談者（クライアント）中心療法のセラピストについて調べておく。実際の面接場面の事例を調べておく。		4 時間	
3	志水田鶴子	第1章 ソーシャルワークにおける援助関係の形成 第2章 ソーシャルワーカーの自己覚知と他者理解	ソーシャルワーカーが身につけておかなければならない専門的態度と援助関係の形成について、バISTEックの7原則と来談者（クライアント）中心療法のセラピストについて調べておく。実際の面接場面の事例を調べておく。		4 時間	
4	志水田鶴子	第2章 ソーシャルワーカーの自己覚知と他者理解	教科書の事例を読み、ソーシャルワーカーとしての自己理解の必要性について、自分に置き換えて考えてみる。そのプロセスでわからないことは調べておく。		4 時間	
5	志水田鶴子	第2章 ソーシャルワーカーの自己覚知と他者理解 第3章 ソーシャルワークにおけるコミュニケーション	ソーシャルワーカーがクライアントに対して支援活動を展開する際に直面する葛藤について、事例などを参考にしながら調べておく。		4 時間	
6	志水田鶴子	第3章 ソーシャルワークにおけるコミュニケーション	コミュニケーションとは何か、コミュニケーション技術について調べておく。自分のコミュニケーションの特徴についても確認しておく。		4 時間	
7	志水田鶴子	第4章 ソーシャルワークにおける面接技術	ソーシャルワークにおける面接技術について調べておく。		4 時間	
8	志水田鶴子	第4章 ソーシャルワークにおける面接技術	ソーシャルワークにおける面接技術について調べておく。 ミニテスト①		4 時間	
9	志水田鶴子	第5章 ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発	社会資源にはどのようなものがあるのかについて調べておく。		4 時間	
10	志水田鶴子	第5章 ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発	ソーシャルアクションについて調べておく。		4 時間	
11	志水田鶴子	第5章 ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発	ソーシャルアクション実践でのアセスメントについて調べておく。		4 時間	
12	志水田鶴子	第6章 ソーシャルネットワーキング	ソーシャルネットワーキングとは何か、その意義について調べておく		4 時間	
13	志水田鶴子	第6章 ソーシャルネットワーキング	ソーシャルネットワーキング意義について振り返りを行っておく		4 時間	
14	志水田鶴子	第6章 ソーシャルネットワーキング まとめ	授業で学んだことを復習しておく。 ミニテスト②		4 時間	
教 科 書		新版ソーシャルワーカー教育シリーズ③ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ（専門）（株）みらい ※すでに購入している場合は、新たに購入する必要はない。				
参 考 書		特になし				
備 考		本科目は社会福祉士国家試験指定科目である。国家試験受験予定者は、履修漏れのないよう注意すること。 ミニテストは Google フォームで2回実施する予定である。欠席がないように注意すること。				

科 目 名		ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ		担 当 者		志水田鶴子	
科目ナンバリング		1120432180				非常勤	
D P		1,2		教 員 研 究 室		非常勤講師室	
学 科（専攻）		現代社会学科（社会福祉学専攻）		配 当 年 次		3 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位	
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし					
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☑該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない	
【授業内容】 1. ソーシャルワークに関連する方法 2. カンファレンス、事例分析 3. ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援の実際				【課題等のフィードバック方法】 リアクションペーパーに記載された質問は授業内又は次の授業で解説する。			
【学習の到達目標】 1. 社会福祉士として実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法を理解する。 2. 支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うための、知識と技術について理解する。 3. 地域における社会資源の開発やソーシャルアクションについて理解する。 4. 個別の事例の具体的な解決策及び事例の共通性や一般性を見出すための、事例分析の意義や方法を理解する。				【履修上の注意・予習・復習について】 ・復習や予習課題を適宜指示された場合、積極的に取り組み、達成すること ・やむを得ない理由以外の 20 分以上の遅刻は欠席扱いとする。理由がある場合には講義終了後に申し出ること。特段の理由のない遅刻は 2 回で欠席 1 回に換算する。 ・私語や携帯電話等の講義に関係ないものの使用及び充電等の行為については禁止する。			
【成績評価方法】 ・定期試験の代わりに授業内でミニテストを 2 回実施する 90 点 (a) ※出席回数が 10 回以上でない場合は受験資格無し ・リアクションペーパー 1 回 1 点× 10 回＝ 10 点 (b) (a) + (b) = 90 点以上 S、89 点～ 80 点 A、79 点～ 70 点 B、69 点～ 60 点 C 59 点以下 D				【受講して得られる効果・メリット、その他】 これまで学んだソーシャルワーカーに求められる価値と倫理、専門知識と技術などを統合し、事例を活用しながらソーシャルワーカーとしての実践力を高めるための基盤を整備する。			
				【実務家教員担当科目】 なし			
授 業 計 画							
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間				
			予習・復習			学修時間	
1	志水田鶴子	オリエンテーション	第 1 章から第 6 章までの振り返りを行う。第 7 章について読み、わからない言葉や制度等について調べておく。			4 時間	
2	志水田鶴子	第 7 章 ソーシャルワークの関連技法	第 7 章について読み、わからない言葉や制度等について調べておく。			4 時間	
3	志水田鶴子	第 7 章 ソーシャルワークの関連技法 第 8 章 事例研究の方法と事例分析	第 7 章と第 8 章について読み、わからない言葉や制度等について調べておく。			4 時間	
4	志水田鶴子	第 8 章 事例研究の方法と事例分析	第 8 章について読み、わからない言葉や制度等について調べておく。			4 時間	
5	志水田鶴子	第 8 章 事例研究の方法と事例分析	第 8 章について読み、わからない言葉や制度等について調べておく。			4 時間	
6	志水田鶴子	第 8 章 事例研究の方法と事例分析 第 9 章 ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援の実際	第 8 章と第 9 章について読み、わからない言葉や制度等について調べておく。			4 時間	
7	志水田鶴子	第 9 章 ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援の実際 ミニテスト①	第 9 章について読み、わからない言葉や制度等について調べておく。			4 時間	
8	志水田鶴子	第 9 章 ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援の実際	第 9 章について読み、わからない言葉や制度等について調べておく。			4 時間	
9	志水田鶴子	第 10 章 総合的・包括的なソーシャルワークの実際 1—家族支援	第 10 章について読み、わからない言葉や制度等について調べておく。			4 時間	
10	志水田鶴子	第 10 章 総合的・包括的なソーシャルワークの実際 1—家族支援	第 10 章について読み、わからない言葉や制度等について調べておく。			4 時間	
11	志水田鶴子	第 10 章 総合的・包括的なソーシャルワークの実際 1—家族支援 第 11 章 総合的・包括的なソーシャルワークの実際 2—地域支援	第 10 章と第 11 章について読み、わからない言葉や制度等について調べておく。			4 時間	
12	志水田鶴子	第 11 章 総合的・包括的なソーシャルワークの実際 2—地域支援	第 11 章について読み、わからない言葉や制度等について調べておく。			4 時間	
13	志水田鶴子	第 11 章 総合的・包括的なソーシャルワークの実際 2—地域支援 第 12 章 総合的・包括的なソーシャルワークの実際 3—非常時・災害時の支援	第 11 章と第 12 章について読み、わからない言葉や制度等について調べておく。			4 時間	
14	志水田鶴子	第 12 章 総合的・包括的なソーシャルワークの実際 3—非常時・災害時の支援 ミニテスト②	第 12 章について読み、わからない言葉や制度等について調べておく。			4 時間	
教 科 書		新社会福祉士養成課程対応 ソーシャルワーカー教育シリーズ③新版ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ（専門編） 株式会社みらい ＊すでに購入している場合には、新たに購入する必要はない。					
参 考 書		適宜紹介する。					
備 考		社会福祉士国家試験の指定科目であるので、社会福祉士国家試験を受験希望の者は履修漏れに注意すること。					

科 目 名		ソーシャルワーク演習Ⅰ		担 当 者	○鑑 さやか・徳田 律子	
科目ナンバリング		1120422181			常勤	
D P		2,3		教員研究室	1307	
学科（専攻）		現代社会学科（社会福祉学専攻）		配 当 年 次	2 年次・後期	
授 業 形 式		演習	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 ロールプレイやディスカッション、グループワーク等を通じた学習により、ソーシャルワーカーを目指す者として必要な基礎的技術の習得を目的とする。 【学習の到達目標】 ・ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を修得する ・社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う。 ・ソーシャルワークの展開過程において用いられる、知識と技術を実践的に理解する 【成績評価方法】 課題の提出（60%）、演習内での各種ワークへの取り組み（40%）等により、総合的に評価する。 【課題等のフィードバック方法】 毎回の演習終了後に提出された振り返りレポート又は課題へ対し、コメントあるいは解説を行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 本科目は演習という科目の性質上、受講者の主体的な参加を前提としている。 演習には積極的に取り組み、実施後には毎回振り返りを行うことが求められる。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 本科目は原則としてソーシャルワーク実習を履修する予定の学生を対象とする科目であり、演習を通して相談援助技術の基礎的技術を習得することができる。 【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	鑑 さやか・徳田 律子	オリエンテーション・ソーシャルワークの専門性とは	ソーシャルワークにおける面接の専門性についてまとめる		1 時間	
2	鑑 さやか・徳田 律子	事例の理解とケースの発見	相談援助における事例の理解とケースの発見に関するレポート課題を課す		1 時間	
3	鑑 さやか・徳田 律子	インテークにおける利用者理解と面接技法①	インテークにおける利用者理解と面接技法を復習し、レポートにまとめる		1 時間	
4	鑑 さやか・徳田 律子	インテークにおける利用者理解と面接技法②	インテークにおける利用者理解と面接技法を復習し、レポートにまとめる		1 時間	
5	鑑 さやか・徳田 律子	アセスメントにおける利用者理解と面接技法	コアセスメントにおける利用者理解と面接技法を復習し、レポートにまとめる		1 時間	
6	鑑 さやか・徳田 律子	アセスメントにおける利用者理解と記録技術	アセスメントにおける利用者理解と記録技術を復習し、レポートにまとめる		1 時間	
7	鑑 さやか・徳田 律子	プランニングにおける利用者理解と技術①	プランニングにおける利用者理解と技術を復習し、レポートにまとめる		1 時間	
8	鑑 さやか・徳田 律子	プランニングにおける利用者理解と技術②	プランニングにおける利用者理解と技術を復習し、レポートにまとめる		1 時間	
9	鑑 さやか・徳田 律子	介入における利用者理解と技術	介入における利用者理解と技術を復習し、レポートにまとめる		1 時間	
10	鑑 さやか・徳田 律子	モニタリングと評価・チームアプローチの理解	モニタリングと評価・チームアプローチを復習し、レポートにまとめる		1 時間	
11	鑑 さやか・徳田 律子	終結と事後評価	終結と事後評価を復習し、レポートにまとめる		1 時間	
12	鑑 さやか・徳田 律子	実践事例検討演習①	実践事例検討演習を振り返り、レポートをまとめる		1 時間	
13	鑑 さやか・徳田 律子	実践事例検討演習①	実践事例検討演習を振り返り、レポートをまとめる		1 時間	
14	鑑 さやか・徳田 律子	ソーシャルワークの展開過程とその専門性	ソーシャルワークの展開過程とその専門性に関するレポートを課す		1 時間	
教 科 書		なし 適宜、授業においてプリントを配布する。				
参 考 書		特に指定なし				
備 考		・本科目は社会福祉士国家試験指定科目である。国家試験受験予定者は、履修漏れのないよう注意すること。 ・本科目は演習という科目の性質上、やむを得ない理由による欠席は3回まで認めるが、4回以上となった時点で履修放棄とする。遅刻は20分までとし、2回で欠席1回分とする。 (問合せ教員：各演習担当教員)				

科 目 名		ソーシャルワーク演習Ⅱ		担 当 者	○小渡 加依・天間 淳平	
科目ナンバリング		1120432182			非常勤	
D P		2,3		教員研究室	非常勤講師室	
学科（専攻）		現代社会学科（社会福祉学専攻）		配 当 年 次	3 年次・前期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 この科目ではソーシャルワーク実習を視野に入れながら、演習を通じて支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解することを目指している。 演習においてはグループ討議に積極的に参加し、課題について自ら考えて他の学生と意見を交換する経験を積むことでソーシャルワーカーとしての視野を広げることが求められる。 【学習の到達目標】 現場実習においてケースを担当した相談援助実習を行う際に必要な基礎的知識・技術および倫理を身につける。 【成績評価方法】 課題の提出（60%）及び、レポート（40%）等により、総合的に評価する。 評価に際しては、当該科目の性質上とくに受講態度も重視する。 【課題等のフィードバック方法】 毎回の演習終了後に提出された振り返りレポート又は課題へ対し、コメントあるいは解説を行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 本科目は演習という科目の性質上、受講者の主体的な参加を前提としている。 演習には積極的に取り組み、実施後には毎回振り返りを行うことが求められる。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 本科目は原則としてソーシャルワーク実習を履修する予定の学生を対象として開講する科目であり、実習での利用者理解、支援目標の設定、支援計画作成に活用できる技術を学ぶことができる。 【実務家教員担当科目】 社会福祉施設や機関での実務に携わっている講師が、現場経験を活かし指導を行う。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容		学修課題・必要な学修時間		
				予習・復習	学修時間	
1	小渡 加依・天間 淳平	オリエンテーション・ソーシャルワークにおける包括的支援とは		ソーシャルワークにおける包括的支援についてレポートにまとめる	1 時間	
2	小渡 加依・天間 淳平	虐待（児童・障害・高齢）における事例検討と支援アプローチ①		虐待における支援アプローチに関するレポート課題を課す	1 時間	
3	小渡 加依・天間 淳平	虐待（児童・障害・高齢）における事例検討と支援アプローチ②チームアプローチ		虐待におけるチームアプローチに関するレポート課題を課す	1 時間	
4	小渡 加依・天間 淳平	虐待（児童・障害・高齢）における事例検討と支援アプローチ③ネットワークキング		虐待におけるネットワークキングに関するレポート課題を課す	1 時間	
5	小渡 加依・天間 淳平	虐待（児童・障害・高齢）における事例検討と支援アプローチ④ソーシャルアクション		虐待におけるソーシャルアクションに関するレポート課題を課す	1 時間	
6	小渡 加依・天間 淳平	認知症高齢者における事例検討と支援アプローチ①		認知症高齢者に対する支援アプローチに関するレポート課題を課す	1 時間	
7	小渡 加依・天間 淳平	認知症高齢者における事例検討と支援アプローチ②チームアプローチ		認知症高齢者に対する支援におけるチームアプローチに関するレポート課題を課す	1 時間	
8	小渡 加依・天間 淳平	認知症高齢者における事例検討と支援アプローチ③ネットワークキング		認知症高齢者に対する支援におけるネットワークキングに関するレポート課題を課す	1 時間	
9	小渡 加依・天間 淳平	認知症高齢者における事例検討と支援アプローチ④ソーシャルアクション		認知症高齢者に対する支援におけるソーシャルアクションに関するレポート課題を課す	1 時間	
10	小渡 加依・天間 淳平	貧困者に対する事例検討と支援アプローチ①		貧困者に対する支援アプローチに関するレポート課題を課す	1 時間	
11	小渡 加依・天間 淳平	貧困者に対する事例検討と支援アプローチ②チームアプローチ		貧困者に対する支援におけるチームアプローチに関するレポート課題を課す	1 時間	
12	小渡 加依・天間 淳平	貧困者に対する事例検討と支援アプローチ③ネットワークキング		貧困者に対する支援におけるネットワークキングに関するレポート課題を課す	1 時間	
13	小渡 加依・天間 淳平	貧困者に対する事例検討と支援アプローチ④ソーシャルアクション		貧困者に対する支援におけるソーシャルアクションに関するレポート課題を課す	1 時間	
14	小渡 加依・天間 淳平	ソーシャルワークにおける横断的な総合的かつ包括的な支援について		ソーシャルワークにおける横断的な総合的かつ包括的な支援についてレポートを作成する	1 時間	
教 科 書		特になし。適宜、授業においてプリントを配布する。				
参 考 書		なし				
備 考		・本科目は社会福祉士国家試験指定科目である。国家試験受験予定者は、履修漏れのないよう注意すること。 ・本科目は演習という科目の性質上、やむを得ない理由による欠席は3回まで認めるが、4回以上となった時点で履修放棄とする。遅刻は20分までとし、2回で欠席1回分とする。 (問合せ教員：鑑さやか)				

科 目 名		ソーシャルワーク演習Ⅲ		担 当 者	○末田 耕司・天間 淳平								
科目ナンバリング		1120432183			非常勤								
D P		2,3		教 員 研 究 室	非常勤講師室								
学 科（専攻）		現代社会学科（社会福祉学専攻）		配 当 年 次	3 年次・後期								
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 1 単位							
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし											
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない							
【授業内容】 ソーシャルワーク演習Ⅲでは、ソーシャルワーク基礎演習・Ⅰ～Ⅱで理解した基本的技術とソーシャルワークの展開過程を基盤に、地域援助技術について学習します。 これまでのコミュニティワークの展開過程を基本としつつ、個別支援から地域社会における支援への展開を図るための実践的技術の理解を図ります。 【学習の到達目標】 ・地域援助技術（コミュニティワーク）における実践技術の基本的理解と実践力を身につける ・地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する ・ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する 【成績評価方法】 課題の提出（60%）及び、レポート（40%）等により、総合的に評価する。 評価に際しては、当該科目の性質上とくに受講態度も重視する。							【課題等のフィードバック方法】 毎回の演習終了後に提出された振り返りレポート又は課題へ対し、コメントあるいは解説を行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 本科目は演習という科目の性質上、受講者の主体的な参加を前提としている。 演習には積極的に取り組み、実施後には毎回振り返りを行うことが求められる。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 本科目は原則としてソーシャルワーク実習を履修する予定の学生を対象として開講する科目であり、地域援助技術（コミュニティソーシャルワーク）を中心とした実践技術の理解と修得を可能とすることができる。 【実務家教員担当科目】 社会福祉施設や機関での実務に携わっている講師が、現場経験を活かし指導を行う。						
授 業 計 画													
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間										
			予習・復習			学修時間							
1	末田 耕司・ 天間 淳平	地域援助技術の基本的な考え方	地域援助技術について調べ、その基本的な考え方についてまとめる			1 時間							
2	末田 耕司・ 天間 淳平	地域アセスメント ①地域（コミュニティ）の捉え方	地域（コミュニティ）の捉え方に関するレポート課題を課す			1 時間							
3	末田 耕司・ 天間 淳平	地域アセスメント ②地域住民のニーズの把握	地域住民のニーズの把握に関するレポート課題を課す			1 時間							
4	末田 耕司・ 天間 淳平	地域アセスメント ③地域住民に対するアウトリーチ	地域住民に対するアウトリーチに関するレポート課題を課す			1 時間							
5	末田 耕司・ 天間 淳平	地域における自立生活の支援 ①活動主体の組織化	活動主体の組織化に関するレポート課題を課す			1 時間							
6	末田 耕司・ 天間 淳平	地域における自立生活の支援 ②活動計画の策定	活動計画の策定に関するレポート課題を課す			1 時間							
7	末田 耕司・ 天間 淳平	地域における自立生活の支援 ③社会資源の活用	社会資源の活用に関するレポート課題を課す			1 時間							
8	末田 耕司・ 天間 淳平	地域における自立生活の支援 ④ソーシャルサポートネットワーク	ソーシャルサポートネットワークに関するレポートを課す			1 時間							
9	末田 耕司・ 天間 淳平	地域における自立生活の支援 ⑤評価	地域支援における評価に関するレポート課題を課す			1 時間							
10	末田 耕司・ 天間 淳平	地域における組織化活動	地域における組織化活動に関するレポート課題を課す			1 時間							
11	末田 耕司・ 天間 淳平	地域における社会資源の活用 と調整・開発	社会資源の活用と調整・開発に関するレポート課題を課す			1 時間							
12	末田 耕司・ 天間 淳平	サービス評価の実際	地域におけるサービス評価に関するレポート課題を課す			1 時間							
13	末田 耕司・ 天間 淳平	地域住民をエンパワメントする 視点と技法	地域住民をエンパワメントする視点と技法に関するレポート課題を課す			1 時間							
14	末田 耕司・ 天間 淳平	地域福祉の基盤整備と開発	地域福祉の基盤整備と開発に関するレポートを課す			1 時間							
教 科 書		特に指定なし。											
参 考 書		特に指定なし。											
備 考		・本科目は社会福祉士国家試験指定科目である。国家試験受験予定者は、履修漏れのないように注意すること。 ・本科目は演習という科目の性質上、やむを得ない理由による欠席は3回まで認めるが、4回以上となった時点で履修放棄とする。遅刻は20分までとし、2回で欠席1回分とする。 (問合せ教員：鑑さやか)											

科 目 名		ソーシャルワーク演習Ⅳ		担 当 者	○村田 道彦・豊田 正利 野崎 瑞樹	
科目ナンバリング		1120442184			常勤	
D P		2,3		教 員 研 究 室	1202	
学 科（専攻）		現代社会学科（社会福祉学専攻）		配 当 年 次	4 年次・後期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 相談援助における知識と技術を習得するとともに、それらを概念化、理論化し、体系立てていく能力を涵養します。 ・ソーシャルワーク実習における各学生の個別的な体験等も視野に入れつつ、集団指導並びに個別指導による実技指導を行います。 ・相談援助の知識と技術に関する他の科目との関連性も鑑みながら、社会福祉士に求められる相談援助の知識と技術について、個別指導や集団指導を適宜用いて、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイ等）を中心に、少人数の演習形態で指導します。 【学習の到達目標】 ・相談援助に関する個別的な体験等を理論や技法等に基づき一般化できる。 ・社会福祉士に必要な相談援助の実践的な知識と技術を体系的に理解できる。 ・社会福祉士に必要な相談援助の実践的な知識と技術を、実践の場で活用できる。 【成績評価方法】 課題の提出（60%）、レポート（40%）等により、総合的に評価する。 評価に際しては、当該科目の性質上とくに受講態度も重視する。 【課題等のフィードバック方法】 毎回の演習終了後に提出された振り返りレポート又は課題へ対し、コメント又は解説を行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 社会福祉士国家試験受験資格取得に必要な科目であり、原則としてソーシャルワーク実習を履修済みの学生が対象です。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 多問題ケースの検討を重ねることによって、社会福祉士としての実践力を身につけることができます。 【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	鑑 さやか・豊田 正利・ 村田 道彦・徳田 律子・ 野崎 瑞樹	事例研究の方法について	事例研究について調べ、レポート課題としてまとめる		1 時間	
2	鑑 さやか・豊田 正利・ 村田 道彦・徳田 律子・ 野崎 瑞樹	事例研究方法・ロールプレイングについて	ロールプレイングについてレポート課題を課す		1 時間	
3	鑑 さやか・豊田 正利・ 村田 道彦・徳田 律子・ 野崎 瑞樹	知的障害者に対する支援事例から考える利用者理解の方法	知的障害者に対する支援事例から考える利用者理解の方法についてレポート課題を課す		1 時間	
4	鑑 さやか・豊田 正利・ 村田 道彦・徳田 律子・ 野崎 瑞樹	知的障害者に対する支援事例の検討、グループディスカッション	知的障害者に対する支援事例の検討、グループディスカッションを振り返り、レポート課題にまとめる		1 時間	
5	鑑 さやか・豊田 正利・ 村田 道彦・徳田 律子・ 野崎 瑞樹	低所得者に対する個別支援の方法の検討	低所得者に対する個別支援の方法について調べ、レポートにまとめる		1 時間	
6	鑑 さやか・豊田 正利・ 村田 道彦・徳田 律子・ 野崎 瑞樹	低所得者に対する支援事例の検討、グループディスカッション	低所得者に対する支援事例の検討、グループディスカッションを振り返り、レポート課題にまとめる		1 時間	
7	鑑 さやか・豊田 正利・ 村田 道彦・徳田 律子・ 野崎 瑞樹	こども虐待家庭に対する家族支援の方法の理解	こども虐待家庭に対する家族支援の方法について調べ、レポートにまとめる		1 時間	
8	鑑 さやか・豊田 正利・ 村田 道彦・徳田 律子・ 野崎 瑞樹	こども虐待家庭に対する事例検討、相談援助のロールプレイ	こども虐待家庭に対する事例検討、相談援助のロールプレイを振り返り、レポート課題にまとめる		1 時間	
9	鑑 さやか・豊田 正利・ 村田 道彦・徳田 律子・ 野崎 瑞樹	ホームレスに対する支援事例から考えるグループ支援の方法	ホームレスに対する支援事例から考えるグループ支援の方法について調べ、レポートにまとめる		1 時間	
10	鑑 さやか・豊田 正利・ 村田 道彦・徳田 律子・ 野崎 瑞樹	ホームレスに対する事例検討、グループ発表	ホームレスに対する事例検討、グループ発表に向けた準備を行う		1 時間	
11	鑑 さやか・豊田 正利・ 村田 道彦・徳田 律子・ 野崎 瑞樹	特別養護老人ホーム利用者の権利擁護活動に対するチームアプローチの方法	特別養護老人ホーム利用者の権利擁護活動に対するチームアプローチの方法について調べ、レポートにまとめる		1 時間	
12	鑑 さやか・豊田 正利・ 村田 道彦・徳田 律子・ 野崎 瑞樹	特別養護老人ホーム利用者の権利擁護活動に関するグループディスカッション	特別養護老人ホーム利用者の権利擁護活動に関するグループディスカッションを振り返り、レポート課題にまとめる		1 時間	
13	鑑 さやか・豊田 正利・ 村田 道彦・徳田 律子・ 野崎 瑞樹	家庭内暴力（DV）被害者に対する支援方法の事例検討	家庭内暴力（DV）被害者に対する支援方法について調べ、レポートにまとめる		1 時間	
14	鑑 さやか・豊田 正利・ 村田 道彦・徳田 律子・ 野崎 瑞樹	家庭内暴力（DV）被害者に対する支援方法の事例検討	家庭内暴力（DV）被害者に対する支援方法の事例検討を振り返り、レポート課題にまとめる		1 時間	
教 科 書		特になし				
参 考 書		特になし				
備 考		・本科目は社会福祉士国家試験指定科目である。国家試験受験予定者は、履修漏れのないよう注意すること。 ・本科目は演習という科目の性質上、やむを得ない理由による欠席は3回まで認めるが、4回以上となった時点で履修放棄とする。遅刻は20分までとし、2回で欠席1回分とする。 （問合せ教員：各演習担当教員）				

科 目 名		ソーシャルワーク実習指導Ⅰ		担 当 者	○村田 道彦・鑑 さやか 徳田 律子・豊田 正利 野崎 瑞樹	
科目ナンバリング		1120422185			常勤	
D	P	2,4		教員研究室	1202	
学科（専攻）		現代社会学科（社会福祉学専攻）		配 当 年 次	2 年次・後期	
授 業 形 式		演習	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱの意義や心構え、必要な知識等に関する基本的理解を得る事により、実習への意欲を高めると共に、実習生としての資質の涵養を図る。 実習指導Ⅱ及びⅢへ繋がる動機付けの段階として、実習に関わる基本的知識を習得するとともに、実習施設の選択に必要な幅広い情報の提供を行う。 【学習の到達目標】 実習に向けた基礎的・基本的資質を涵養するとともに、具体的な実習施設・機関等の選択と決定を行うことを目標とする。 【成績評価方法】 面接・テスト（60%）、課題の提出（40%）で総合的に評価する。なお実習に直接結びつく授業として、受講態度も重視する。 【課題等のフィードバック方法】 特別講義、レポートについて、添削したものを返却する。尚、不可の評価がついたものについては再提出とする。 【履修上の注意・予習・復習について】 本科目は、以下の全ての要件を満たしていないと履修できない。 1. 「現代社会基礎演習Ⅰ」を履修済みであること。 2. 2 年前期までに開講される社会福祉士国家試験指定科目の全てを履修済みであること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・本科目は3 年次後期「ソーシャルワーク実習Ⅰ」、4 年時前期「ソーシャルワーク実習Ⅱ」実施に向けた事前指導の意味を持つ重要な科目である。 ・本科目を履修することにより、実習に向けた基礎的・基本的資質を涵養するとともに、具体的な実習施設・機関等の決定を行うことが可能となる。 【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
自己の学習を基本とし、原則として毎回レポートを提出することとする。 1. ソーシャルワーク実習への基本的理解①社会福祉士養成教育における実習の位置 2. ソーシャルワーク実習への基本的理解②実習の概要 3. ソーシャルワーク実習への基本的理解③実習の目的・達成課題 4. ソーシャルワーク実習の基本的姿勢①社会福祉専門職に求められる職業倫理 5. ソーシャルワーク実習の基本的姿勢②日本社会福祉士会の倫理綱領及び行動規範 6. ソーシャルワーク実習の基本的姿勢③実習生としての基本的姿勢 7. 実習を行う領域、施設等に関する基本的理解①高齢者の領域、施設 8. 実習を行う領域、施設等に関する基本的理解②身体障害児・者の領域、施設 9. 実習を行う領域、施設等に関する基本的理解③知的障害児・者の領域、施設 10. 実習を行う領域、施設等に関する基本的理解④児童の領域、施設 11. 実習を行う領域、施設等に関する基本的理解⑤医療の領域、施設 12. 実習を行う領域、施設等に関する基本的理解⑥福祉事務所、社協等の機関 13. 実習を行う領域、施設、機関等に関する基本的理解Ⅶ その他の領域、施設 14. 実習施設等の選択に向けた準備、決定、実習に向けた自己の目標の設定						
教 科 書		最新社会福祉士養成講座 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習 中央法規				
参 考 書		特に指定なし。				
備 考		・本科目は社会福祉士国家試験指定科目である。国家試験受験予定者は、履修漏れのないよう注意すること。 ・本科目はその性質上、やむを得ない理由による欠席は3 回まで認めるが、4 回以上となった時点で履修放棄とする。遅刻は20 分までとし、2 回で欠席1 回分とする。 ・質問等問い合わせ先については、各実習指導担当教員とする。				

科 目 名		ソーシャルワーク実習指導Ⅱ		担 当 者	○村田 道彦・鑑 さやか 徳田 律子・豊田 正利 野崎 瑞樹	
科目ナンバリング		1120432186			常勤	
D P		2,4		教員研究室	1202	
学科（専攻）		現代社会学科（社会福祉学専攻）		配 当 年 次	3 年次・前期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☑該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 ソーシャルワーク実習指導Ⅱは、ソーシャルワーク実習に向けて社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題の把握等に対応できる能力を習得するため、実習計画の立案、記録方法の理解など実践的な学習を行う。 実習配属先分野別のクラスに分かれ、実習先に対する理解と実習先で必要とされる相談援助に関わる知識・技術の理解を深める。 また、実習先への事前訪問等を通じて実習先の指導者から直接指導を受けながら実習計画の内容を深めていく。		【課題等のフィードバック方法】 実習指導Ⅱで作成する課題（実習計画書・提出物等）について、添削・助言を行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 本科目は、以下の全ての要件を満たしていないと履修できない。 ①「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」が履修済みであること ②2年後期開講の社会福祉士国家試験指定科目の全てを履修済みであること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 ソーシャルワーク実習の実施に向けた個別具体的な準備や実習計画策定の過程を通して、円滑かつ有意義な実習展開のための素養を醸成できる。 【実務家教員担当科目】 該当なし				
授 業 計 画						
実習前に必要な知識、技術の確認と実習計画の策定、および実習開始前に各自実習配属先への訪問・見学を行う 1. 各実習先に対する理解：制度、地域社会の特色等の理解 1（事前見学を基にした学習） 2. 各実習先に対する理解：制度、地域社会の特色等の理解 2（グループ学習） 3. 実習先で必要とされる相談援助に関わる知識と技術の理解 1 4. 実習先で必要とされる相談援助に関わる知識と技術の理解 2（グループ学習） 5. 実習先で必要とされる個人のプライバシー保護と守秘義務の理解 6. 実習計画の策定 1：実習テーマの策定 7. 実習計画の策定 2：実習における達成課題の検討 8. 実習計画の策定 3：計画書原案作成 9. 実習計画の策定 4：計画書原案の検討、完成 10. 実習先指導者との実習計画調整：実習先プログラムとの調整 11. 実習計画の策定 5：実習計画の完成 12. 実習における倫理的配慮に関する理解 13. 実習における実習記録の記録法の理解 14. 実習前ガイダンス						
教 科 書		社会福祉士 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習 中央法規 ソーシャルワーク実習指導Ⅰで購入済みの場合は、改めて購入する必要はない。				
参 考 書		特に指定なし。				
備 考		○本科目は科目の性質上、やむを得ない理由による欠席は3回まで認めるが、4回以上となった時点で履修放棄とする。 遅刻は20分までとし、2回で欠席1回分とする。 ○質問等問合せ先は実習指導担当教員とする				

科 目 名	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ			担 当 者	村田 道彦
科目ナンバリング	1120442187				常勤
D P	2,4			教 員 研 究 室	1202
学 科（専攻）	現代社会学科（社会福祉学専攻）			配 当 年 次	4 年次・後期
授 業 形 式	演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 ソーシャルワーク実習指導Ⅲは、ソーシャルワーク実習の終了後、実習で得られた具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として理解を深めていくための学内での授業です。 個別での実習の振り返りや実習記録の整理を行うほか、グループ学習を通して実習経験の概念化、理論化を行います。また実習報告会でのプレゼンテーションや実習報告書の作成を通して実習を総括し、社会福祉士に求められる理論、知識、技術、倫理等を身につけていきます。				【課題等のフィードバック方法】 ・各自の実習体験について考察について助言を行う ・個人のまとめの添削・指導を行う ・グループディスカッションの際に助言を行う ・グループのまとめの添削・指導を行う	
【学習の到達目標】 ・各自の実習経験と課題の整理 ・グループ学習を通して課題を深める ・実習報告会でのプレゼンテーションと実習全体の総括				【履修上の注意・予習・復習について】 本科目を履修するためには、「ソーシャルワーク実習」を履修している必要があります。	
【成績評価方法】 個人のまとめの達成状況（50%）・グループのまとめの状況（50%）を総合して評価を行う。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 ソーシャルワーク実習に対する綿密な事後指導を行うことにより、各自の課題を明確化し整理することができるとともに、様々な振り返りや反省をとおして、社会福祉士としての資質の涵養を計ることが可能となる。	
				【実務家教員担当科目】 該当なし	
授 業 計 画					
以下は、ソーシャルワーク実習指導Ⅲで学ぶ基本的な項目を示したものです。 それぞれの項目に関する具体的な内容については、実習配属先の領域や各担当教員によって異なります。					
1. ～ 2. 実習体験の整理 1：実習経験を振り返り個別の整理と発表を行う。 3. ～ 4. 実習体験の整理 2：グループ学習を通して、実習で得られたことを深める。 5. ～ 6. 実習体験の整理 3：実習記録、実習体験を踏まえた課題の整理（個別） 7. ～ 8. 実習体験の総括 1：グループ学習を通して共通課題を見いだす。 9. ～ 10. 実習体験の総括 2：グループ報告書（総括レポート）の作成 11. ～ 12. 実習体験の総括 3：実習報告会でのプレゼンテーションの準備 13. 実習報告会でのプレゼンテーション（実習の評価全体総括会） 14. 実習体験の総括 4：個別の総括、個別報告書（総括レポート）の作成					
教 科 書	社会福祉士 相談援助実習 中央法規 ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱで購入済みの場合は、改めて購入する必要はない。				
参 考 書	別途指示する。				
備 考	・本科目は演習という性質上、やむを得ない理由による欠席は3回まで認めるが、4回以上となった時点で履修放棄とする。 遅刻は20分までとし、2回で欠席1回分とする。 ・質問等問い合わせ先は、各クラス担当教員とする。				

科 目 名	ソーシャルワーク実習Ⅰ			担 当 者	○村田 道彦・鑑 さやか 徳田 律子
科目ナンバリング	1120442188				常勤
D P	2,3			教員研究室	1202
学科（専攻）	現代社会学科（社会福祉学専攻）			配 当 年 次	3 年次・後期
授 業 形 式	実習	授 業 時 間	90 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 ソーシャルワーク実習Ⅰでは、相談援助に係る知識と技術について、具体的、实际的に理解し、実践的な技術を学びます。また、社会福祉士に求められる資質・技能・倫理の習得と自己の課題の把握により実践現場における総合的な対応力を養成します。 実習中は、それぞれの現場に即した課題にそって現場指導者による指導を受けます。また巡回により担当教員と現場指導者が連携して個別指導も行われます。				【課題等のフィードバック方法】 ソーシャルワーク実習中に実施する巡回・帰校日指導等において、質問を受けつけ回答を行う。	
【学習の到達目標】 利用者理解、実践現場の理解、職業倫理、多機関連携、コミュニティの理解など実践に必要な知識と技術を総合的に身につける。				【履修上の注意・予習・復習について】 ソーシャルワーク実習は、実践現場で働く方々や利用者の方々と直接触れ合うこととなる科目です。そのため、知識だけでなく社会的なマナーや実習に向けての真剣さが必要とされます。ゆえに専門科目等の履修状況、学内での指導への取り組み方などによっては、実習施設へ配属しない場合があります。配属実習中、実習態度等に問題がある場合は実習を中止します。	
【成績評価方法】 実習における課題の達成状況、実習態度（60%）、配属先での評価（40%）などにより、総合的に判断します。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・ソーシャルワーク実習の実施を通して、相談援助に係る知識と技術について、実践現場において、具体的、实际的に学ぶことができる。 ・社会福祉士に求められる資質・技能・倫理の習得と自己の課題の把握が可能となり、総合的な対応力を身につける。	
				【実務家教員担当科目】 該当なし	
</					

科 目 名		ソーシャルワーク実習Ⅱ		担 当 者	○村田 道彦・豊田 正利 野崎 瑞樹・黒沢 麻美
科目ナンバリング		1120442189			常勤
D	P	2,3		教員研究室	1202
学科（専攻）		現代社会学科（社会福祉学専攻）		配 当 年 次	4 年次・通年
授 業 形 式		実 習	授 業 時 間	180 時間	単 位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし			
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 ソーシャルワーク現場実習Ⅱでは、相談援助に係る知識と技術について、具体的、实际的に理解し、実践的な技術を学びます。また、社会福祉士に求められる資質・技能・倫理の習得と自己の課題の把握により実践現場における総合的な対応力を養成します。 実習中は、それぞれの現場に即した課題にそって現場指導者による指導を受けます。また巡回により担当教員と現場指導者が連携して個別指導も行われます。 【学習の到達目標】 利用者理解、実践現場の理解、職業倫理、多機関連携、コミュニティの理解など実践に必要な知識と技術を総合的に身につける。 【成績評価方法】 実習Ⅱにおける課題の達成状況、実習態度（60%）、配属先での評価（40%）などにより、総合的に判断します。 【課題等のフィードバック方法】 ソーシャルワーク実習中に実施する巡回・帰校日指導等において、質問を受けつけ回答を行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 ソーシャルワーク実習Ⅱは、実践現場で働く方々や利用者の方々と直接触れ合うこととなる科目です。そのため、知識だけでなく社会的なマナーや実習に向けての真剣さが必要とされます。ゆえに専門科目等の履修状況、学内での指導への取り組み方などによっては、実習施設へ配属しない場合があります。配属実習中、実習態度等に問題がある場合は実習を中止します。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・ソーシャルワーク実習Ⅱの実施を通して、相談援助に係る知識と技術について、実践現場において、具体的、实际的に学ぶことができる。 ・社会福祉士に求められる資質・技能・倫理の習得と自己の課題の把握が可能となり、総合的な対応力を身につける。 【実務家教員担当科目】 該当なし					
授 業 計 画					
ソーシャルワーク実習Ⅱは、社会福祉士国家試験の受験資格取得に必須であり、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ～Ⅲと合わせて履修する科目です。実習は、地域の社会福祉施設・機関などにおいて 23 日間かつ 180 時間以上にわたって行われます。実習の配属先は、ソーシャルワーク実習指導でのガイダンスや個別面接等を通じて決定します。					
以下は、実習中に学ぶべき基本的な事項です。具体的な内容は、実習先となる領域や施設の状況および各自の実習課題、計画内容によって異なります。 ・専門職としての倫理、組織の職員としての責任の理解 ・利用者やその関係者、施設・機関の職員、地域住民やボランティア等のインフォーマルな資源となる関係者との基本的コミュニケーションの確立 ・利用者理解とニーズの把握 ・支援計画の作成 ・専門的援助関係の理解に基づいた援助関係の形成 ・利用者に対するエンパワメントと権利擁護の姿勢 ・サービス全体の管理運営の理解 ・多職種、多機関との連携 ・地域社会における施設・機関の役割の理解					
教 科 書		なし			
参 考 書		別途指示する			
備 考		問合せ教員：各実習指導担当教員			

科 目 名		精神医学Ⅰ		担 当 者	○進藤 克博・内海 裕介 大竹 伸治・高濱 壮斗	
科目ナンバリング		1120422190			常勤・非常勤	
D P		1,2		教 員 研 究 室	1303 3313 非常勤講師室	
学 科（専攻）		現代社会学科（社会福祉学専攻）		配 当 年 次	2 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 精神医学は数多い臨床医学の中の一分野にすぎないが、その対象は「こころ」あるいは「精神」であり、領域は広く奥行きも深い。本授業では、この精神医学の概念や方法、精神症候学、精神障害の分類、治療等について 15 回にわたって講義を行う。				【課題等のフィードバック方法】 授業終了時に質問を受けつけ、回答する。		
【学習の到達目標】 医療・福祉の場で必要とされる精神医学的な、ものの見方および基本的知識の習得を目標とする。				【履修上の注意・予習・復習について】 教科書・参考資料の予習復習を欠かさないようにすること。		
【成績評価方法】 定期試験により評価する。また、出席率 67% 以上でなければ定期試験は受けることができません。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 メンタルヘルスの需要が昨今、精神疾患に対する理解を得られることは重要である。		
【実務家教員担当科目】 精神科医師及び精神科リハビリテーションの専門職が担当する。精神保健福祉援助にかかわる実践的な知識と技術について体系的に指導を行う。						

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	進藤 克博 内海 裕介 大竹 高濱	1. 精神医学序論	事前に講義内容のプリントを配布するので授業の前日までに目を通しておくこと、授業が終わってから講義内容を復習すること。	4 時間
2	同上	2. 脳の構造と機能、こころの生物学的理解と心理学的理解	同上	4 時間
3	同上	3. 精神疾患の従来の分類、ICD と DSM の分類、精神疾患の診断法	同上	4 時間
4	同上	4. 症状性および器質性精神障害 ①アルツハイマー型認知症（前半）	同上	4 時間
5	同上	5. 症状性および器質性精神障害 ②アルツハイマー型認知症（後半）	同上	4 時間
6	同上	6. 症状性および器質性精神障害 ③血管性認知症	同上	4 時間
7	同上	7. 症状性および器質性精神障害 ④その他の認知症	同上	4 時間
8	同上	8. 症状性および器質性精神障害 ⑤てんかん	同上	4 時間
9	同上	9. 精神作用物質による精神と行動の障害 ①アルコール関連障害	同上	4 時間
10	同上	10. 精神作用物質による精神と行動の障害 ②薬物依存	同上	4 時間
11	同上	11. 内因性の精神疾患：気分障害①	同上	4 時間
12	同上	12. 内因性の精神疾患：気分障害②	同上	4 時間
13	同上	13. 内因性の精神疾患：統合失調症①	同上	4 時間
14	同上	14. 内因性の精神疾患：統合失調症②	同上	4 時間
教 科 書		中央法規 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟＝編集 『最新 精神保健福祉士養成講座 1 精神医学と精神医療』 ISBN 978-4-8058-8252-8		
参 考 書		必要に応じて授業中、紹介する。		
備 考		本科目は精神保健福祉士国家試験の指定科目です。 担当者：大竹伸治 高濱壮斗		

科 目 名		精神医学Ⅱ		担 当 者	○進藤 克博・内海 裕介 大竹 伸治・高濱 壮斗	
科目ナンバリング		1120422191			常勤・非常勤	
D	P	1,2		教 員 研 究 室	1303 3313 非常勤講師室	
学 科（専攻）		現代社会学科（社会福祉学専攻）		配 当 年 次	2 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 精神医学は数多い臨床医学の中の一分野にすぎないが、その対象は「こころ」あるいは「精神」であり、領域は広く奥行きも深い。本授業では、この精神医学の概念や方法、精神症候学、精神障害の分類、治療等について 15 回にわたって講義を行う。					【課題等のフィードバック方法】 授業終了時に質問を受け付け回答する。	
【学習の到達目標】 医療・福祉の場で必要とされる精神医学的な、ものの見方および基本的知識の習得を目標とする。					【履修上の注意・予習・復習について】 教科書・参考資料の予習復習を欠かさないようにすること。	
【成績評価方法】 定期試験により評価する。また、出席率 67% 以上でなければ定期試験は受けることができません。					【受講して得られる効果・メリット、その他】 メンタルヘルスの需要が昨今、精神疾患に対する理解を得られることは重要である。	
【実務家教員担当科目】 精神科医師及び精神科リハビリテーションの専門職が担当する。精神保健福祉援助にかかわる実践的な知識と技術について体系的に指導を行う。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	進藤 克博 内海 裕介 大竹 高濱	1. 神経症性障害、ストレス関連障害 および身体表現性障害①	事前に講義内容のプリントを配布するので授業の前日までに目を通しておくこと、授業が終わってから講義内容を復習すること。		4 時間	
2	同上	2. 神経症性障害、ストレス関連障害 および身体表現性障害②	同上		4 時間	
3	同上	3. 神経症性障害、ストレス関連障害 および身体表現性障害③	同上		4 時間	
4	同上	4. 摂食障害、睡眠障害	同上		4 時間	
5	同上	5. パーソナリティと行動の障害	同上		4 時間	
6	同上	6. 小児期および青年期にみられる精神障害① 心理的発達の障害	同上		4 時間	
7	同上	7. 小児期および青年期にみられる精神障害② 心理的発達の障害	同上		4 時間	
8	同上	8. 児童および青年期にみられる精神障害③ 行動と情緒の障害	同上		4 時間	
9	同上	9. 児童および青年期にみられる精神障害④ 知的障害	同上		4 時間	
10	同上	10. 精神医療の歴史① 西欧の精神医療	同上		4 時間	
11	同上	11. 精神医療の歴史② 日本の精神医療	同上		4 時間	
12	同上	12. 精神科医療機関における医療の実 際：外来医療	同上		4 時間	
13	同上	13. 精神科医療機関における医療の実 際：入院医療①	同上		4 時間	
14	同上	14. 精神科医療機関における医療の実 際：入院医療②	同上		4 時間	
教 科 書		中央法規 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟＝編集 『最新 精神保健福祉士養成講座 1 精神医学と精神医療』 ISBN 978-4-8058-8252-8				
参 考 書		必要に応じ授業中、紹介する。				
備 考		本科目は精神保健福祉士国家試験の指定科目である。				

科 目 名	精神保健学 I			担 当 者	○釣舟 晴一・高濱 壮斗
科目ナンバリング	1120432192				常勤・非常勤
D P	1,2			教 員 研 究 室	非常勤講師室
学 科（専攻）	現代社会学科（社会福祉学専攻）			配 当 年 次	3 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 精神保健とは狭義には精神疾患の予防と治療およびリハビリテーションを指し、広義には精神的健康の保持・増進を目的とする諸活動である。その対象とする範囲は広く、乳幼児から高齢者まで様々な分野でメンタルヘルスの必要性が指摘されている。また近年、地域における精神保健が精神障害者の社会復帰を軸として展開されるなど、精神保健活動に期待される部分は大きい。 本講義では、精神保健に関する基本的理解を深め、ライフサイクルにおける精神保健と精神障害者対策について学ぶ。 【課題等のフィードバック方法】 レポート等は適宜 Google クラスルーム等で返却する。 【履修上の注意・予習・復習について】 本科目は精神保健福祉士養成科目である。また、関連科目である精神医学等の科目を履修済み（中）であることが望ましい。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 精神障害者が 300 万人を超える現在、精神保健を学ぶことの意義は大きい。 【実務家教員担当科目】 本科目を担当する教員は、精神保健福祉領域において実務経験を有している。 【学習の到達目標】 医療・福祉の場で必要とされる精神保健の基礎的知識の習得を目標とする。 【成績評価方法】 評価はレポート 40% および定期試験 60% によって行う。					
授 業 計 画					
1. 人と環境と精神保健 2. 現代の精神保健分野の動向と基本的な考え方 3. 家族に関連する精神保健の課題と支援 4. 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ 5. 精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ 6. 精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ 7. 精神保健に関する発生予防と対策 8. 地域精神保健に関する偏見・差別等の課題 9. 精神保健に関する専門職種と国、都道府県、市町村、団体等の役割および連携 10. 諸外国の精神保健活動の現状および対策					
教 科 書	新・精神保健福祉士シリーズ 2『現代の精神保健の課題と支援』弘文堂				
参 考 書	必要に応じて紹介する。				
備 考	本科目は精神保健福祉士国家試験の指定科目です。				

科 目 名	精神保健学Ⅱ			担 当 者	○内海 裕介・高濱 壮斗
科目ナンバリング	1120432193				常勤・非常勤
D P	1,2			教 員 研 究 室	非常勤講師室
学 科（専攻）	現代社会学科（社会福祉学専攻）			配 当 年 次	3 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 精神保健とは狭義には精神疾患の予防と治療およびリハビリテーションを指し、広義には精神的健康の保持・増進を目的とする諸活動である。その対象とする範囲は広く、乳幼児から高齢者まで様々な分野でメンタルヘルスの必要性が指摘されている。 精神保健Ⅱでは精神保健Ⅰでの理解をふまえ、わが国における精神保健の現状と問題点について概観し、地域精神保健活動の実践について学ぶ。 【学習の到達目標】 医療・福祉の場で必要とされる精神保健の基礎的知識の習得を目標とする。 【成績評価方法】 レポート 40% および定期試験 60% によって行う。 【課題等のフィードバック方法】 Google クラスルーム等で適宜行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 本科目は精神保健福祉士養成科目である。関連科目である精神医学等の履修済み（中）であることが望ましい。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 精神障害者が300 万人を超える現在、精神保健を学ぶ意義は大きい。 【実務家教員担当科目】 本科目を担当する教員は、精神保健福祉領域における実務経験を有している。					
授 業 計 画					
1. 人と環境と精神保健 2. 現代の精神保健分野の動向と基本的な考え方 3. 家族に関連する精神保健の課題と支援 4. 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ 5. 精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ 6. 精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ 7. 精神保健に関する発生予防と対策 8. 地域精神保健に関する偏見・差別等の課題 9. 精神保健に関する専門職種と国、都道府県、市町村、団体等の役割および連携 10. 諸外国の精神保健活動の現状および対策					
教 科 書	新・精神保健福祉士シリーズ2『現代の精神保健の課題と支援』弘文堂				
参 考 書	必要に応じて紹介する。				
備 考	本科目は精神保健福祉士国家試験の指定科目です。				

科 目 名		精神保健福祉の原理Ⅰ			担 当 者	熊谷由起子
科目ナンバリング		1120422194				非常勤
D P		1,2			教 員 研 究 室	非常勤講師室
学 科（専攻）		現代社会学科（社会福祉学専攻）			配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク ☒ 該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 ①障害者に対する思想や社会的立場の変遷から、障害者福祉の基本的枠組み（理念・視点・関係性）について理解する。 ②精神保健福祉士が対象とする精神障害者の定義と障害特性を理解し生活の実態について学ぶ。 ③精神疾患や精神障害を持つ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷をふまえて、問題意識を持つ価値観を体得する。 【学習の到達目標】 精神保健福祉士が行う支援についての基礎を体系的に理解し、基盤となる価値や理論について学ぶ。実際のソーシャルワーク実践を行う上で、どのような視点が必要かについて援助対象者の理解を通して学ぶ。 【成績評価方法】 課題レポート（40%）定期試験（60%）以上を基に総合的に評価し、60 点以上を合格とする。 【課題等のフィードバック方法】 課題や授業の振り返りなどは、Google classroom 等でフィードバックし、講義中は質問を受け付けて回答する。 【履修上の注意・予習・復習について】 遅刻厳禁 飲食禁止 携帯電話禁止 おしゃべり禁止 事前に予習し、不明な項目は調べておくこと。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 精神保健福祉士としての基本的な学習と現在の精神保健福祉の現状を学ぶことができる。 【実務家教員担当科目】 精神保健福祉士として、精神科病院と地域の精神保健福祉相談業務を担当した経験を基に講義を行い、精神保健福祉士としての見方や行動が理解できる。（精神科病院勤務 38 年）						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	熊谷由起子	オリエンテーション、障害の捉え方、障害者福祉の理念	機能障害・社会的障壁、障害者総合支援法について調べる。障害の捉え方の変化を年代ごとに押さえておく。復習－資料見直し			4 時間
2	熊谷由起子	障害者福祉の理念	優生思想・ノーマライゼーション・糸賀一雄・自立生活運動のエド ロバーツ・障害者権利擁護について調べる。復習－資料をノートにまとめる。			4 時間
3	熊谷由起子	精神障害者の歴史的展開	明治から第 2 次世界大戦までの精神障害者の法律を年代ごとにまとめる。呉秀三について調べる。復習－資料の見直し。			4 時間
4	熊谷由起子	制度における精神障害者の定義	精神衛生法から精神保健福祉法に至るまでの精神障害者の定義と障害者基本法の定義について調べる。復習－資料を基にノートに整理			4 時間
5	熊谷由起子	国際生活機能分類（ICF）と精神障害	国際生活機能分類について理解し、精神障害者を ICF にあてはめ障害を理解する。復習－資料の見直し。			4 時間
6	熊谷由起子	精神障害の障害特性	上田モデルと蜂谷モデルを学び、精神障害者の障害特性を理解する。復習－資料を見直し。			4 時間
7	熊谷由起子	精神障害の理解と支援 新たな潮流	ナラティブ・アプローチ、自助グループ、当事者研究、オープンダイアログ、認知症の人の語りについて理解する。復習－資料を見直し。			4 時間
8	熊谷由起子	諸外国における解除の歴史	魔女狩り、ピネル、アメリカの精神保健運動、イタリアの精神医療改革を学ぶ。復習－資料を見直しノートにまとめる。			4 時間
9	熊谷由起子	国連原則について	国連原則と日本の精神医療を比較し人権侵害について理解する。資料を参考に学ぶ。復習－資料を見直し整理する。			4 時間
10	熊谷由起子	日本における排除の歴史と構造①	相馬事件・ライシャワー事件・宇都宮病院事件・大和川病院事件について概要を調べておく。復習－資料を見直し、問題点の整理。			4 時間
11	熊谷由起子	日本における排除の歴史と構造②	池田小学校事件・相模原障害者殺傷事件の概要を調べておく。復習－資料を見直し、問題点の整理			4 時間
12	熊谷由起子	日本の社会的障壁と課題、克服への取り組み	優生保護法、ハンセン病、欠格条項について学ぶ。事前に調べておく。復習－資料を見直し、整理する。			4 時間
13	熊谷由起子	自己責任論と受療への障壁、誤った障害観の流布と排除	薬物依存症・アルコール依存症への理解と自己責任と受療への障壁について資料を参考に理解する、復習－資料を見直し。			4 時間
14	熊谷由起子	私たちの中にある差別と偏見、アンコンシャスバイアスについて	無意識の偏見（アンコンシャスバイアス）、施設コンフリクト、家族に対する支援の必要性。復習－資料を見直し、整理してノートにまとめる。			4 時間
教 科 書		最新 精神保健福祉士養成講座 5 「精神保健福祉の原理」 一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 中央法規				
参 考 書		必要に応じて、授業の中で紹介する。				
備 考		本科目は、精神保健福祉士国家資格の指定科目である。				

科 目 名		精神保健福祉の原理Ⅱ		担 当 者	熊谷由起子		
科目ナンバリング		1120422195			非常勤		
D	P	1,2		教 員 研 究 室	非常勤控室		
学 科（専攻）		現代社会学科（社会福祉学専攻）		配 当 年 次	2 年次・後期		
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位		
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位		
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☒ 該当なし					
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない		
【授業内容】 ①精神障害者の関りについて、精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた価値を学び、精神保健福祉の存在意義を理解し職業的アイデンティティの基礎を理解する。 ②現在の精神保健福祉士の基本的枠組み（理念・視点・関係性）と倫理綱領に基づく職責について理解する。 ③精神保健福祉士を規定する法律と倫理綱領を把握し、求められる機能や役割を理解する。 ④近年の精神保健福祉の動向を踏まえ、精神保健福祉士の職域と業務特性を理解する。 【学習の到達目標】 精神保健福祉士の実践を通して、支援対象を理解すると共に、精神保健福祉士の基礎となる価値・倫理について学び、ソーシャルワーカーとして必要な理論を学ぶ。精神障害者への相談援助について体系的な理解を深めていく。 【成績評価方法】 レポート 40%、定期試験 60% 以上をもとに総合的に評価し、60 点以上を合格とする。							
【課題等のフィードバック方法】 課題や授業の振り返りなどは、Google classroom 等でフィードバックし、講義中にも質問は受け付け回答する。 【履修上の注意・予習・復習について】 遅刻厳禁、飲食禁止、携帯電話禁止、おしゃべり禁止 事前に予習して、不明な項目は調べておくこと。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 精神保健福祉士としての、基本的な学習と現在の精神保健福祉の現状を学ぶことができる。 【実務家教員担当科目】 精神保健福祉士として、精神科病院と地域の精神保健福祉相談業務を担当した経験を基に、講義を行い精神保健福祉士としての見方や行動が理解できる。 （精神科病棟勤務 38 年間）							
授 業 計 画							
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間				
			予習・復習		学修時間		
1	熊谷由起子	精神科医療による生活への影響	精神科医療の特異性、生活への影響、支援の展開を学ぶ。やどかりの里・べてるの家について調べる。復習－資料を見直しとまとめる		4 時間		
2	熊谷由起子	精神障害者の家族の状況	保護者制度の歴史、家族の生活実態、支援について学ぶ。ヤングケアラーについて調べる。復習－資料の家族の体験談・他の家族の体験を調べる。		4 時間		
3	熊谷由起子	精神障害者の社会生活の実際	生活実態・生活保障・就労。事例を通して学ぶ、社会的入院者について調べる。復習－資料を見直し。		4 時間		
4	熊谷由起子	メンタルヘルスをめぐる新たな課題	学校・職場・多様性・災害・アディクションのメンタルヘルスの課題を学ぶ。不明な用語は調べる。復習－資料を見直し、まとめる。		4 時間		
5	熊谷由起子	精神保健福祉士の原理と理念 1 精神保健福祉士の資格化	専門職団体と Y 問題について。資料を参考に学ぶ Y 問題について調べておく。復習－資料を見直し。		4 時間		
6	熊谷由起子	精神保健福祉士の原理と理念 2 精神医学ソーシャルワーカーの価値	倫理綱領と国家資格化までの経緯。倫理綱領とは（教科書 P265 ～ 267）を見ておく。復習－ノートにまとめる。		4 時間		
7	熊谷由起子	精神保健福祉の原理と理念 3 実践の価値・原理	社会的復権と権利擁護、自己決定、当事者主体、社会正義、ごく当たり前の生活。やどかりの里について調べる。復習－各項目ごとに整理しノートにまとめる。		4 時間		
8	熊谷由起子	精神保健福祉の原理と理念 4 実践の視野や視点	事例（P223）を読んでおく。人と環境の相互作用の視点・生活者の視点・エンパワメント・リカバリー・アンチスティグマの視点－各用語を調べる。復習－資料見直し。		4 時間		
9	熊谷由起子	精神保健福祉の原理と理念 5 援助における関係性	援助における多様な関係性の特徴と立場について学ぶ。事例を読んでおく（P241、P244 ～ P245） 復習－資料の見直し。		4 時間		
10	熊谷由起子	精神保健福祉士の役割と機能 1 精神保健福祉法の理解	精神保健福祉法と義務規定について、重要な項目は調べておく。復習－資料の見直しとまとめ。		4 時間		
11	熊谷由起子	精神保健福祉士の役割と機能 2 職業倫理	倫理綱領と専門職としてのジレンマ・専門職団体の存在価値について。復習－資料の見直し。		4 時間		
12	熊谷由起子	精神保健福祉士の役割と機能 3 業務特性と業務指針	業務特性と業務指針の概要を学ぶ。重要な項目は調べておく。復習－資料の見直しとまとめをノートに整理。		4 時間		
13	熊谷由起子	精神保健福祉士の役割と機能 4 職場と職域	働く職域の理解、各機関の特徴と課題を学ぶ。復習－資料の見直し。		4 時間		
14	熊谷由起子	精神保健福祉士の役割と機能 5 業務内容と業務指針	業務特性の理解として、事例（P308 ～ P309）を読んでおく。復習－資料の見直し		4 時間		
教 科 書		最新 精神保健福祉士養成講座 5 「精神保健福祉の原理」 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 中央法規					
参 考 書		必要に応じて、授業の中で紹介する。					
備 考		本科目は、精神保健福祉士国家資格試験の指定科目である。					

科 目 名		ソーシャルワークの理論と方法Ⅴ		担 当 者	○大竹 伸治・高濱 壮斗 齊藤 健輔・渡部 裕一	
科目ナンバリング		1120432196			常勤・非常勤	
D P		1,2		教 員 研 究 室	1303 3313	
学 科（専攻）		現代社会学科（社会福祉学専攻）		配 当 年 次	3 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 ① 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークの過程を理解する。 ② 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を理解する。 ③ 精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について理解する。 【学習の到達目標】 精神保健福祉士が行うソーシャルワークの展開過程について理解し、併せて多職種連携を構造的に理解し、精神障害者の地域生活の実態と、それら取り巻く社会情勢及び地域相談援助における基本的な考え方について理解することを目的とする。 【成績評価方法】 ①講義前後のレポート提出、②講義後のリアクションペーパー、③定期試験の3点から総合的に判断する。				【課題等のフィードバック方法】 ・小テスト・レポート内容について解説を次の講義に行う。 ・講義終了後、質問を受け説明する。 【履修上の注意・予習・復習について】 ・教科書、参考資料などで予習・復習を欠かさないこと。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・精神保健福祉士の援助技術や理論を体系的に習得できる。 【実務家教員担当科目】 ・精神保健福祉士である教員が、精神障害者の相談支援の実践的な理論を解説する。		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	大竹 伸治	オリエンテーション	テキストより、当該講義内容に関する事前レポートと終了レポートを提出の方法および受講の注意について説明をする		4 時間	
2	大竹 伸治	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの概要①	当該講義内容に関する事前レポートと終了レポートを提出すること		4 時間	
3	大竹 伸治	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの概要②	当該講義内容に関する事前レポートと終了レポートを提出すること		4 時間	
4	大竹 伸治	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの概要③	当該講義内容に関する事前レポートと終了レポートを提出すること		4 時間	
5	非常勤講師・他	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程①	当該講義内容に関する事前レポートと終了レポートを提出すること		4 時間	
6	非常勤講師・他	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程②	当該講義内容に関する事前レポートと終了レポートを提出すること		4 時間	
7	非常勤講師・他	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程③	当該講義内容に関する事前レポートと終了レポートを提出すること		4 時間	
8	非常勤講師・他	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程④	当該講義内容に関する事前レポートと終了レポートを提出すること		4 時間	
9	高濱 壮斗	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程⑤	当該講義内容に関する事前レポートと終了レポートを提出すること		4 時間	
10	高濱 壮斗	精神保健福祉分野における家族支援の実践①	当該講義内容に関する事前レポートと終了レポートを提出すること		4 時間	
11	高濱 壮斗	精神保健福祉分野における家族支援の実践②	当該講義内容に関する事前レポートと終了レポートを提出すること		4 時間	
12	非常勤講師・他	多職種連携・多機関連携（チームアプローチ）①	当該講義内容に関する事前レポートと終了レポートを提出すること		4 時間	
13	非常勤講師・他	多職種連携・多機関連携（チームアプローチ）②	当該講義内容に関する事前レポートと終了レポートを提出すること		4 時間	
14	大竹 伸治	まとめ	これまでの講義内容を振り返り、総合的に理解を図る		4 時間	
教 科 書		講義の中で必要に応じて紹介する				
参 考 書		講義の中で必要に応じて紹介する				
備 考		本科目は精神保健福祉士国家試験の指定科目である。 問い合わせ教員：大竹伸治				

科 目 名		ソーシャルワークの理論と方法Ⅵ		担 当 者	○高濱 壮斗・大竹 伸治 渡部 裕一・飯室 勉	
科目ナンバリング		1120432197			常勤・非常勤	
D P		1,2		教 員 研 究 室	3313	
学 科（専攻）		現代社会学科（社会福祉学専攻）		配 当 年 次	3 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 ・精神医療の特性や精神障害者に対する基本的な支援について理解する。 ・精神障害者を対象とした相談援助技術や家族に支援について理解する。 ・精神障害者の地域移行支援や医療機関との連携について理解する。 ・精神障害者の地域相談援助の基本的な考え方を理解する。 ・ケアマネジメント、コミュニティワークの実践について理解する。 【学習の到達目標】 精神障害者の疾病および障害の特質に配慮した個別援助・集団援助、地域援助、ケアマネジメントを行う上で必要な知識、技術について具体的事例に基づき習得する。 【成績評価方法】 レポート 40%、小テスト・定期試験 60% の総合評価によって 60 点以上を合格とする。 【課題等のフィードバック方法】 ・小テスト、レポート内容について解説を次の講義に行う。・講義終了後、質問を受け説明を行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 ・教科書、参考資料等での予習、復習を欠かさないこと。 ・課題として指示したものは期日厳守とする。特別の事情がない限り指定された日時以外は受け取らない。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 精神障害者の支援について広く学ぶことに加え、精神保健福祉士が行う実践的な相談援助の取り組みを学ぶことできる。 【実務家教員担当科目】 総合病院で精神保健福祉士の業務に携わった経験を持つ教員が、その経験を活かして、精神保健福祉士の援助技術や理論について講義						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	大竹 伸治	精神保健医療福祉の歴史と動向	当該講義内容に関する事前レポートと終了レポートを提出すること。		4 時間	
2	大竹 伸治	精神保健福祉士における活動の歴史	当該講義内容に関する事前レポートと終了レポートを提出すること。		4 時間	
3	大竹 伸治	精神障害者の人権	当該講義内容に関する事前レポートと終了レポートを提出すること。		4 時間	
4	高濱 壮斗	精神科リハビリテーションの概念と構成	当該講義内容に関する事前レポートと終了レポートを提出すること。		4 時間	
5	高濱 壮斗	精神専門療法	当該講義内容に関する事前レポートと終了レポートを提出すること。		4 時間	
6	高濱 壮斗	家族教育プログラム	当該講義内容に関する事前レポートと終了レポートを提出すること。		4 時間	
7	非常勤講師	精神科デイケア	当該講義内容に関する事前レポートと終了レポートを提出すること。		4 時間	
8	非常勤講師	チーム医療	当該講義内容に関する事前レポートと終了レポートを提出すること。		4 時間	
9	非常勤講師	地域を基盤とした相談援助	当該講義内容に関する事前レポートと終了レポートを提出すること。		4 時間	
10	高濱 壮斗	医療機関における多職種との協働・連携	当該講義内容に関する事前レポートと終了レポートを提出すること。		4 時間	
11	高濱 壮斗	相談援助活動のための面接技術	当該講義内容に関する事前レポートと終了レポートを提出すること。		4 時間	
12	高濱 壮斗	相談援助活動のための面接技術	当該講義内容に関する事前レポートと終了レポートを提出すること。		4 時間	
13	大竹 伸治	精神障害者の支援の実践モデル	当該講義内容に関する事前レポートと終了レポートを提出すること。		4 時間	
14	大竹 伸治	スーパービジョンとコンサルテーション	当該講義内容に関する事前レポートと終了レポートを提出すること。		4 時間	
教 科 書		中央法規出版 最新・精神保健福祉士養成講座 6『ソーシャルワークの理論と方法 [精神専門]』				
参 考 書		講義の中で適宜紹介する。				
備 考		本科目は精神保健福祉士国家試験の指定科目である。 問い合わせ先教員 高濱壮斗				

科 目 名		精神障害リハビリテーション論		担 当 者	○内海 裕介・高濱 壮斗	
科目ナンバリング		1120432198			常勤・非常勤	
D P		1,2		教員研究室	非常勤講師室	
学科（専攻）		現代社会学科（社会福祉学専攻）		配 当 年 次	3 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 ・精神科リハビリテーションの概念とチーム医療の一員としての精神保健福祉士の役割を理解する。 ・精神科リハビリテーションの知識と技術について理解する						
【学習の到達目標】 精神障害者の疾病および障害の特質に配慮した個別援助技術、集団援助技術、地域援助技術を理解し、関連専門職種との連携や、ケアマネジメントを行う上で必要な知識、技術について具体的事例に基づき習得する。						
【成績評価方法】 レポート 40%、小テスト・定期試験 60% の総合評価によって、60 点以上を合格とする。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	内海 雄介／高濱 壮斗	オリエンテーション	教科書等の確認を行うこと		4 時間	
2	内海 雄介	精神障害リハビリテーションとソーシャルワーカー精神障害リハビリテーションとソーシャルワークの関係ー	テキストより、当該講義内容に関する事前レポートと終了レポートを提出すること		4 時間	
3	内海 雄介	精神障害リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割	テキストより、当該講義内容に関する事前レポートと終了レポートを提出すること		4 時間	
4	内海 雄介	精神障害リハビリテーションの理念、定義、基本原則	テキストより、当該講義内容に関する事前レポートと終了レポートを提出すること		4 時間	
5	内海 雄介	精神障害リハビリテーションの基本原則	テキストより、当該講義内容に関する事前レポートと終了レポートを提出すること		4 時間	
6	内海 雄介	精神障害リハビリテーションの構成および展開	テキストより、当該講義内容に関する事前レポートと終了レポートを提出すること		4 時間	
7	内海 雄介	精神障害リハビリテーションの構成および展開におけるチームアプローチ	テキストより、当該講義内容に関する事前レポートと終了レポートを提出すること		4 時間	
8	内海 雄介	領域毎の精神障害リハビリテーションプログラムの内容と実施機関（医学的リハビリテーション）	テキストより、当該講義内容に関する事前レポートと終了レポートを提出すること		4 時間	
9	内海 雄介	領域毎の精神障害リハビリテーションプログラムの内容と実施機関（職業的リハビリテーション）	テキストより、当該講義内容に関する事前レポートと終了レポートを提出すること		4 時間	
10	内海 雄介	領域毎の精神障害リハビリテーションプログラムの内容と実施機関（社会的リハビリテーション）	テキストより、当該講義内容に関する事前レポートと終了レポートを提出すること		4 時間	
11	内海 雄介	領域毎の精神障害リハビリテーションプログラムの内容と実施機関（教育的リハビリテーション）	テキストより、当該講義内容に関する事前レポートと終了レポートを提出すること		4 時間	
12	内海 雄介	領域毎の精神障害リハビリテーションプログラムの内容と実施機関（家族支援プログラム・その他）	テキストより、当該講義内容に関する事前レポートと終了レポートを提出すること		4 時間	
13	内海 雄介	精神障害リハビリテーションの動向と実際ー精神障害当事者や家族ー	テキストより、当該講義内容に関する事前レポートと終了レポートを提出すること		4 時間	
14	内海 雄介	精神障害リハビリテーションの動向と実際ー依存症のリハビリテーションー	テキストより、当該講義内容に関する事前レポートと終了レポートを提出すること		4 時間	
教 科 書		最新 精神保健福祉士養成講座 3 「精神障害リハビリテーション論」一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟				
参 考 書		編集 中央法規				
備 考		適宜紹介する				
		精神保健福祉士国家試験の指定科目である。問い合わせ担当教員：高濱壮斗				

科 目 名		精神保健福祉制度論		担 当 者	長岡 千裕	
科目ナンバリング		1120422199			非常勤	
D	P	1,2		教員研究室	非常勤講師室	
学科（専攻）		現代社会学科（社会福祉学専攻）		配 当 年 次	2 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 精神保健福祉士が相談援助を行う上で不可欠な精神障害者に関する法律や制度・サービスについて精神障害者等の医療や生活、支援の実際と絡めながら解説します。各制度における課題、制度における精神保健福祉士の役割を理解するとともに、精神保健福祉士としての視点を養い、援助場面で活用できることを目指します。						
【学習の到達目標】 精神に障害を持ち生活に困難を抱える人々に対する法制度等に関する知識の修得のみならずその背景や成立プロセスを理解し、法制度が生活に与える影響を理解することを目的とします。さらに「生活者としての精神障害者」がよりよく生きる為の支援に必要な施策、制度とは何かを考察、理解することを目標とします。						
【成績評価方法】 レポート 30%、定期試験 70% の総合評価によって 60 点以上を合格とします。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	長岡 千裕	オリエンテーション・精神保健福祉制度論の講義について			4 時間	
2	長岡 千裕	精神障害者に関する制度・施策の理解 ・精神障害者に関する制度の成立過程とその特徴	テキスト第 1 章を読んでくこと、また関連する資料などにも目を通し講義内容の理解を深めること。		4 時間	
3	長岡 千裕	精神保健福祉法の概要と精神保健福祉士の役割①	テキスト第 2 章第 1 節を読んでくこと、また関連する資料などにも目を通し講義内容の理解を深めること。		4 時間	
4	長岡 千裕	精神保健福祉法の概要と精神保健福祉士の役割②	テキスト第 2 章第 2 節を読んでくこと、また関連する資料などにも目を通し講義内容の理解を深めること。		4 時間	
5	長岡 千裕	・精神科医療に関わりを持つ施策	テキスト第 2 章第 2 節を読んでくこと、また関連する資料などにも目を通し講義内容の理解を深めること。		4 時間	
6	長岡 千裕	・医療観察法の概要と精神保健福祉士の役割 ・精神障害者の医療と関連する施策	テキスト第 2 章第 3 節を読んでくこと、また関連する資料などにも目を通し講義内容の理解を深めること。		4 時間	
7	長岡 千裕	・障害者の権利に関する施策 ・家族支援	テキスト第 2 章第 4 節を読んでくこと、また関連する資料などにも目を通し講義内容の理解を深めること。		4 時間	
8	長岡 千裕	・生活支援の基本的な考え方、障害者総合支援法 ・相談支援制度	テキスト第 3 章第 1 節、第 2 節を読んでくこと、また関連する資料などにも目を通し講義内容の理解を深めること。		4 時間	
9	長岡 千裕	・居住支援制度	テキスト第 3 章第 3 節を読んでくこと、また関連する資料などにも目を通し講義内容の理解を深めること。		4 時間	
10	長岡 千裕	・就労支援制度	テキスト第 3 章第 4 節を読んでくこと、また関連する資料などにも目を通し講義内容の理解を深めること。		4 時間	
11	長岡 千裕	・経済的支援の意義と役割 ・障害年金制度	テキスト第 4 章第 1 節、第 2 節を読んでくこと、また関連する資料などにも目を通し講義内容の理解を深めること。		4 時間	
12	長岡 千裕	・社会手当、その他の社会保障の関連制度 ・医療保険	テキスト第 4 章第 2 節、第 3 節を読んでくこと、また関連する資料などにも目を通し講義内容の理解を深めること。		4 時間	
13	長岡 千裕	・生活困窮と生活保護制度	テキスト第 5 章第 1 節を読んでくこと、また関連する資料などにも目を通し講義内容の理解を深めること。		4 時間	
14	長岡 千裕	・生活困窮者自立支援制度、低所得者対策	テキスト第 5 章第 2 節、第 3 節を読んでくこと、また関連する資料などにも目を通し講義内容の理解を深めること。		4 時間	
教 科 書		一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集「最新 精神保健福祉士養成講座 4 精神保健福祉制度論」、中央法規出版				
参 考 書		講義の中で必要に応じて紹介します。				
備 考		本科目は精神保健福祉士国家試験の指定科目です。精神保健福祉士を目指す方は受講してください。				

科 目 名		精神保健福祉援助演習Ⅰ		担 当 者	○大竹 伸治・高濱 壮斗 相澤 洸太・一岡 仁	
科目ナンバリング		11204321100			常勤・非常勤	
D	P	2,3		教 員 研 究 室	1303 3313	
学 科（専攻）		現代社会学科（社会福祉学専攻）		配 当 年 次	3 年次・前期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 ・精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎を獲得する。 ・精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようにする。				【課題等のフィードバック方法】 ・事後課題についての解説を次の講義で行う。 ・講義終了後、質問を受けつけ回答する。		
【学習の到達目標】 ソーシャルワーク実践における基本的な対人援助技術や方法などについて、現場に即した具体的な事例を用いた援助場面を設定してロールプレイ等での演習を通して、個人やグループでの知識や技術の習得を目指す。				【履修上の注意・予習・復習について】 ・テキスト、配布した資料を利用し理解を深めること。 ・ロールプレイ等の振り返りを十分行うこと。 ・課題として指示したものは期日厳守とする。		
【成績評価方法】 ①グループワークによるディスカッション、②グループによる課題発表、③レポート提出の3点から総合的に判断する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 実践的な精神障害者支援の技術を身につけることで、自分自身を振り返ると共に、適切なアサーティブが出来るようになる。		
【実務家教員担当科目】 精神保健福祉士として勤務経験のある教員が、精神障害者の相談援助に係る専門的援助技術について修得できるよう指導を行う。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	大竹 伸治・高濱 壮斗	オリエンテーション	テキストに目を通しておくこと。		1 時間	
2	大竹 伸治・高濱 壮斗	ソーシャルワークの過程を通じた援助の理解①	テキストを読んでおくこと。また関連科目のテキストを参照し、講義内容について理解を深めること。		1 時間	
3	大竹 伸治・高濱 壮斗	ソーシャルワークの過程を通じた援助の理解②	テキストを読んでおくこと。また関連科目のテキストを参照し、講義内容について理解を深めること。		1 時間	
4	大竹 伸治・高濱 壮斗	ソーシャルワークの過程を通じた援助の理解③	テキストを読んでおくこと。また関連科目のテキストを参照し、講義内容について理解を深めること。		1 時間	
5	大竹 伸治・高濱 壮斗	ソーシャルワークの過程を通じた援助の理解④	テキストを読んでおくこと。また関連科目のテキストを参照し、講義内容について理解を深めること。		1 時間	
6	大竹 伸治・高濱 壮斗	ソーシャルワークの過程を通じた援助の理解⑤	テキストを読んでおくこと。また関連科目のテキストを参照し、講義内容について理解を深めること。		1 時間	
7	大竹 伸治・高濱 壮斗	ソーシャルワークの過程を通じた援助の理解⑥	テキストを読んでおくこと。また関連科目のテキストを参照し、講義内容について理解を深めること。		1 時間	
8	大竹 伸治・高濱 壮斗	個別面接	テキストを読んでおくこと。また関連科目のテキストを参照し、講義内容について理解を深めること。		1 時間	
9	非常勤講師・他	グループワークの展開	テキストを読んでおくこと。また関連科目のテキストを参照し、講義内容について理解を深めること。		1 時間	
10	非常勤講師・他	ケア会議や関係者会議のコーディネートとマネジメント	テキストを読んでおくこと。また関連科目のテキストを参照し、講義内容について理解を深めること。		1 時間	
11	非常勤講師・他	リハビリテーションプログラムの実施	テキストを読んでおくこと。また関連科目のテキストを参照し、講義内容について理解を深めること。		1 時間	
12	非常勤講師・他	アウトリーチ、コミュニティソーシャルワークの展開	テキストを読んでおくこと。また関連科目のテキストを参照し、講義内容について理解を深めること。		1 時間	
13	大竹 伸治・高濱 壮斗	社会福祉調査の実施、計画策定、評価、資源創出、政策提言	テキストを読んでおくこと。また関連科目のテキストを参照し、講義内容について理解を深めること。		1 時間	
14	大竹 伸治・高濱 壮斗	まとめ	講義全体を振り返り総合的に理解を深める		1 時間	
教 科 書		これまでのテキスト・参考書等全て				
参 考 書		適宜紹介する				
備 考		問い合わせ担当教員：大竹伸治・高濱壮斗				

科 目 名	精神保健福祉援助演習Ⅱ			担 当 者	○高濱 壮斗・大竹 伸治 未定
科目ナンバリング	11204321101				常勤・非常勤
D P	2,3			教 員 研 究 室	3313
学 科（専攻）	現代社会学科（社会福祉学専攻）			配 当 年 次	3 年次・後期
授 業 形 式	演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 精神障害者の生活や生活上の困難について把握し精神保健福祉士の求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的修得し、専門的援助技術を概念化し理論的に体系立てる能力を涵養する。このため、①総合的・包括的な相談援助、医療と協働・連携する相談援助の具体的な相談援助事例を取り上げる。②個別指導・集団指導を具体的な相談援助場面を想定して実技指導を中心に演習を行う。				【課題等のフィードバック方法】 ・事後課題についての解説を次の講義で行う。・講義終了後、質問を受けつけ回答する。	
【学習の到達目標】 精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士の求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に修得し、専門的援助技術を概念化し理論的に体系立てる能力を身につける。				【履修上の注意・予習・復習について】 ・テキスト、配布した資料を利用し理解を深めること。 ・ロールプレイ等の振り返りを十分行うこと。 ・課題として指示したものは期日厳守とする。	
【成績評価方法】 レポート 40%、小テスト・定期試験等 60% の総合評価によって 60 点以上を合格とする。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 実践的な精神障害者支援の技術を身につけることで、自分自身を振り返ると共に、適切なアサーティブが出来るようになる。	
				【実務家教員担当科目】 精神保健福祉士として勤務経験のある教員が、精神障害者の相談援助に係る専門的援助技術について修得できるよう指導を行う。	
授 業 計 画					
①自己理解と他者理解【利用者理解の基本対応と援助技術の習得】 ②価値と倫理 - 【利用者理解の基本対応と援助技術の習得】 ③利用者・援助【利用者理解の基本対応と援助技術の習得】 ④スーパービジョンとコンサルテーション【利用者理解の基本対応と援助技術の習得】 ⑤記録の理解①記録の必要性とその方法 ⑥記録の理解②記録の技術法 ⑦記録の理解③観察法 ⑧記録の理解④マッピング ⑨チームアプローチの理解①―チームアプローチの必要性― ⑩チームアプローチの理解②―ケアカンファレンス― ⑪個人に対する相談援助の理解インタビュー・契約・アセスメント					
事前事後学習：配布する資料に目を通し、不明な項目を拾い上げること。また関連科目のテキストを参考に理解を深めること 担当教員：高濱壮斗・大竹伸治					

科 目 名	精神保健福祉援助演習Ⅲ			担 当 者	○大竹 伸治・高濱 壮斗
科目ナンバリング	11204421102				常勤
D P	2,3			教 員 研 究 室	1303 3313
学 科（専攻）	現代社会学科（社会福祉学専攻）			配 当 年 次	4 年次・通年
授 業 形 式	演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	選 択 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 精神障害者の生活や生活上の困難について把握し精神保健福祉士の求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的修得し、専門的援助技術を概念化し理論的に体系立てる能力を涵養する。このため、①総合的・包括的な相談援助、医療と協働・連携する相談援助の具体的な相談援助事例を取り上げる。②個別指導・集団指導を具体的な相談援助場面を想定して実技指導を中心に演習を行う。 【学習の到達目標】 精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士の求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に修得し、専門的援助技術を概念化し理論的に体系立てる能力を身につける。 【成績評価方法】 ①グループワークによるディスカッション、②グループによる課題発表、③レポート提出の3点から総合的に判断する。 【課題等のフィードバック方法】 ・事後課題についての解説を次の講義で行う。・講義終了後、質問を受けつけ回答する。 【履修上の注意・予習・復習について】 ・テキスト、配布した資料を利用し理解を深めること。 ・ロールプレイ等の振り返りを十分行うこと。 ・課題として指示したものは期日厳守とする。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 実践的な精神障害者支援の技術を身につけることで、自分自身を振り返ると共に、適切なアサーティブが出来るようになる。 【実務家教員担当科目】 精神保健福祉士として勤務経験のある教員が、精神障害者の相談援助に係る専門的援助技術について修得できるよう指導を行う。					
授 業 計 画					
①自己理解と他者理解【利用者理解の基本対応と援助技術の習得】 ②価値と倫理－【利用者理解の基本対応と援助技術の習得】 ③利用者・援助【利用者理解の基本対応と援助技術の習得】 ④スーパービジョンとコンサルテーション【利用者理解の基本対応と援助技術の習得】 ⑤記録の理解①記録の必要性とその方法 ⑥記録の理解②記録の技術法 ⑦記録の理解③観察法 ⑧記録の理解④マッピング ⑨チームアプローチの理解①―チームアプローチの必要性― ⑩チームアプローチの理解②―ケアカンファレンス― ⑪個人に対する相談援助の理解インタビュー・契約・アセスメント					
事前事後学習：配布する資料に目を通し、不明な項目を拾い上げること。また関連科目のテキストを参考に理解を深めること 担当教員：高濱壮斗・大竹伸治					
</					

科 目 名	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ			担 当 者	○大竹 伸治・高濱 壮斗 岡崎 茂・岡崎 茂 小野 彩香・黒澤 尚樹 市川 芳美・長谷 諭
科目ナンバリング	11204221103				常勤・非常勤
D P	2,4			教 員 研 究 室	1303 3313
学 科（専攻）	現代社会学科（社会福祉学専攻）			配 当 年 次	2 年次・後期
授 業 形 式	演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング	□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用	□双方向型授業 □自主学習支援 ☑該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 ・講義形式で授業のほかに、グループワークを行い理解を深める。 ・課題については、次回授業時に発表を行うほか、ふりかえりを設ける。				【課題等のフィードバック方法】 ・グループディスカッション時に助言・指導を行う。 ・個人のまとめの添削・指導を行う。	
【学習の到達目標】 ・精神保健福祉士の役割を理解するとともに、専門職養成における実習の意義、目的を理解する。さらに、精神保健福祉の現状を理解するとともに、実習施設・機関の種別とそれぞれの援助方法について理解することを目的とする。				【履修上の注意・予習・復習について】 ・テキスト、配布した資料、自習を利用し理解を深めること。 ・ロールプレイ等の振り返りを十分行うこと。 ・特別な場合を除き欠席は認められない。	
【成績評価方法】 ①グループワークによるディスカッション、②グループによる課題発表、 ③レポート提出の3点から総合的に判断する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・「精神保健福祉援助実習」の履修に向けた事前指導の意味を持つ重要な科目である。 ・本科目を履修することにより、実習に際しての基礎的な精神保健福祉士としてふさわしい資質の涵養を図ることが可能となる。	
				【実務家教員担当科目】 精神保健福祉士の教員が、精神保健福祉援助実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について、具体的にかつ実際の理解し、実践的な技術等を体得できるように指導を行う。	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予 習 ・ 復 習		学修時間
1	高濱 壮斗 大竹 伸治 非常勤	ソーシャルワーク実習とソーシャルワーク実習指導における個別指導及び集団指導の意義①			1 時間
2	高濱 壮斗 大竹 伸治 非常勤	ソーシャルワーク実習とソーシャルワーク実習指導における個別指導及び集団指導の意義②			1 時間
3	高濱 壮斗 大竹 伸治 非常勤	ソーシャルワーク実習とソーシャルワーク実習指導における個別指導及び集団指導の意義③			1 時間
4	高濱 壮斗 大竹 伸治 非常勤	精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む。）に関する基本的な理解①			1 時間
5	高濱 壮斗 大竹 伸治 非常勤	精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む。）に関する基本的な理解②			1 時間
6	高濱 壮斗 大竹 伸治 非常勤	精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む。）に関する基本的な理解③			1 時間
7	高濱 壮斗 大竹 伸治 非常勤	実際に実習を行う施設・機関・事業者・団体・地域社会等に関する基本的な理解①			1 時間
8	高濱 壮斗 大竹 伸治 非常勤	実際に実習を行う施設・機関・事業者・団体・地域社会等に関する基本的な理解②			1 時間
9	高濱 壮斗 大竹 伸治 非常勤	実際に実習を行う施設・機関・事業者・団体・地域社会等に関する基本的な理解③			1 時間
10	高濱 壮斗 大竹 伸治 非常勤	精神疾患や精神障害のある当事者の語りに触れる体験①			1 時間
11	高濱 壮斗 大竹 伸治 非常勤	精神疾患や精神障害のある当事者の語りに触れる体験②			1 時間
12	高濱 壮斗 大竹 伸治 非常勤	現場体験学習及び見学実習①			1 時間
13	高濱 壮斗 大竹 伸治 非常勤	現場体験学習及び見学実習②			1 時間
14	高濱 壮斗 大竹 伸治 非常勤	現場体験学習及び見学実習③			1 時間
教 科 書	実習生必携 ソーシャルワーク実習ノート [第3版] 杉本浩章・田中和彦 著 みらい				
参 考 書	これまでのテキスト・参考書等全て				
備 考	一部、集中講義を予定している。 本科目は精神保健福祉士国家試験の指定科目である。 問い合わせ担当教員：高濱壮斗				

科 目 名		精神保健福祉援助実習指導Ⅱ		担 当 者	○大竹 伸治・高濱 壮斗 佐々木千鶴
科目ナンバリング		11204321104			常勤・非常勤
D	P	2,4		教 員 研 究 室	1303 3313
学 科（専攻）		現代社会学科（社会福祉学専攻）		配 当 年 次	3 年次・通年
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位
		選択 1 単位			
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし			
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 精神障害者の生活や生活上の困難について把握し精神保健福祉士の求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的修得し、専門的援助技術を概念化し理論的に体系立てる能力を涵養する。このため、①総合的・包括的な相談援助、医療と協働・連携する相談援助の具体的な相談援助事例を取り上げる。②個別指導・集団指導を具体的な相談援助場面を想定して実技指導を中心に演習を行う。				【課題等のフィードバック方法】 ・事後課題についての解説を次の講義で行う。・講義終了後、質問を受けつけ回答する。	
【学習の到達目標】 精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士の求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に修得し、専門的援助技術を概念化し理論的に体系立てる能力を身につける。				【履修上の注意・予習・復習について】 ・テキスト、配布した資料を利用し理解を深めること。 ・ロールプレイ等の振り返りを十分行うこと。 ・課題として指示したものは期日厳守とする。	
【成績評価方法】 ①グループワークによるディスカッション、②グループによる課題発表、③レポート提出の3点から総合的に判断する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 実践的な精神障害者支援の技術を身につけることで、自分自身を振り返ると共に、適切なアサーティブが出来るようになる。	
【実務家教員担当科目】 精神保健福祉士として勤務経験のある教員が、精神障害者の相談援助に係る専門的援助技術について修得できるよう指導を行う。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	高濱 壮斗・大竹 伸治・非常勤講師	精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務の理解①			1 時間
2	高濱 壮斗・大竹 伸治・非常勤講師	精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務の理解②			1 時間
3	高濱 壮斗・大竹 伸治・非常勤講師	実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解（個人情報保護を含む）①			1 時間
4	高濱 壮斗・大竹 伸治・非常勤講師	実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解（個人情報保護を含む）②			1 時間
5	高濱 壮斗・大竹 伸治・非常勤講師	実習記録ノートへの記録内容及び記録方法の理解①			1 時間
6	高濱 壮斗・大竹 伸治・非常勤講師	実習記録ノートへの記録内容及び記録方法の理解②			1 時間
7	高濱 壮斗・大竹 伸治・非常勤講師	実習記録ノートへの記録内容及び記録方法の理解③			1 時間
8	高濱 壮斗・大竹 伸治・非常勤講師	実習生、担当教員、実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成①			1 時間
9	高濱 壮斗・大竹 伸治・非常勤講師	実習生、担当教員、実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成②			1 時間
10	高濱 壮斗・大竹 伸治・非常勤講師	実習生、担当教員、実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成③			1 時間
11	高濱 壮斗・大竹 伸治・非常勤講師	実習生、担当教員、実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成④			1 時間
12	高濱 壮斗・大竹 伸治・非常勤講師	実習生、担当教員、実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成⑤			1 時間
13	高濱 壮斗・大竹 伸治・非常勤講師	実習生、担当教員、実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成⑥			1 時間
14	高濱 壮斗・大竹 伸治・非常勤講師	実習生、担当教員、実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成⑦			1 時間
教 科 書		PSW 実習ハンドブック 実習生のための手引き ヘルス出版 ISBN 978-4-89269-791-3			
参 考 書		参考書 これまでのテキスト・参考書等全て			
備 考		備 考 一部、集中講義を予定している。本科目は精神保健福祉士国家試験の指定科目である。問い合わせ担当教員：高濱壮斗			

科 目 名	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ			担 当 者	○高濱 壮斗・大竹 伸治
科目ナンバリング	11204421105				常勤
D P	2,4			教 員 研 究 室	3313
学 科（専攻）	現代社会学科（社会福祉学専攻）			配 当 年 次	4 年次・通年
授 業 形 式	演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	選 択 1 単 位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 個別指導及び集団指導により、精神保健福祉援助実習の意義及び精神障害者の置かれている現状を理解し、生活上の困難を理解する。				【課題等のフィードバック方法】 ・グループディスカッション時に助言・指導を行う。 ・個人のまとめの添削・指導を行う。	
【学習の到達目標】 具体的な体験や援助活動を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を身につける。				【履修上の注意・予習・復習について】 ・テキスト、配布した資料等を利用し理解を深めること。 ・ロールプレイ等の振り返りを十分行うこと。 ・実習後の総括として、報告会でのプレゼンテーションと実習総括レポートの提出を求める。 ・巡回指導（訪問指導）の代わりに、大学への帰校日を設けることがある。	
【成績評価方法】 レポート 40%、小テスト・プレゼンテーションおよび報告書等 60% の総合評価によって 60 点以上を合格とする。（特別な場合を除き欠席は認められない）				【受講して得られる効果・メリット、その他】 精神保健福祉援助実習に対して、事前・事後指導を行うことで各自の課題を明確化し整理することが可能となる。さらに、振り返りの作業を通じて、精神保健福祉士としての資質や力量の涵養を図ることが可能となる。	
				【実務家教員担当科目】 精神保健福祉士の教員が、精神保健福祉援助実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について、具体的にかつ实际的に理解し、実践的な技術等を体得できるよう指導を行う。	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	高濱 壮斗 大竹 伸治	・巡回指導（訪問指導）			1 時間
2	高濱 壮斗 大竹 伸治	・巡回指導（訪問指導）			1 時間
3	高濱 壮斗 大竹 伸治	・巡回指導（訪問指導）			1 時間
4	高濱 壮斗 大竹 伸治	・巡回指導（訪問指導）			1 時間
5	高濱 壮斗 大竹 伸治 非常勤	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理			1 時間
6	高濱 壮斗 大竹 伸治 非常勤	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理			1 時間
7	高濱 壮斗 大竹 伸治 非常勤	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理			1 時間
8	高濱 壮斗 大竹 伸治 非常勤	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理			1 時間
9	高濱 壮斗 大竹 伸治 非常勤	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理（個別指導）			1 時間
10	高濱 壮斗 大竹 伸治 非常勤	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理			1 時間
11	高濱 壮斗 大竹 伸治	実習総括レポートの作成			1 時間
12	高濱 壮斗 大竹 伸治	実習総括レポートの作成			1 時間
13	高濱 壮斗 大竹 伸治	実習総括レポートの作成			1 時間
14	高濱 壮斗 大竹 伸治	実習の評価全体総括会			1 時間
教 科 書	特になし				
参 考 書	これまでのテキスト・参考書等全て				
備 考	一部集中講義を予定している。 本科目は精神保健福祉士国家試験の指定科目である。 問い合わせ担当教員：高濱壮斗				

科 目 名		精神保健福祉援助実習Ⅰ		担 当 者	○高濱 壮斗・大竹 伸治	
科目ナンバリング		11204421106			常勤	
D P		2,3		教 員 研 究 室	3313	
学 科（専攻）		現代社会学科（社会福祉学専攻）		配 当 年 次	3 年次・後期	
授 業 形 式		実 習	授 業 時 間	135 時間	単 位	選 択 3 単 位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 ①精神保健福祉援助実習を通して、精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を体得する。 ②精神保健福祉援助実習を通して、精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。 ③精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ④総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。 【学習の到達目標】 精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助の専門的知識と技術の体得、精神障害者の置かれている現状理解と生活上の課題の把握、精神保健福祉士として求められる資質・技能・倫理・課題把握等の総合的対応能力の習得、地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方等を身につける。 【成績評価方法】 実習巡回指導、配属先からの評価等から総合的に判断を行う。 【課題等のフィードバック方法】 実習先の指示に従うこと。 【履修上の注意・予習・復習について】 法定施設・機関にて合計 210 時間の実習を行う。原則、遅刻・欠席は認められない。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・精神障害者の医療・保健・福祉について、総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解することが出来る。 ・精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することが出来る。 【実務家教員担当科目】 精神保健福祉士として実務経験を有する教員が実習巡回を専任で行う。実習先においては実習指導者が指導を行う。						
授 業 計 画						
【実習の具体的達成課題】 ①精神科病院等の病院においては、患者への個別支援を経験し、次に掲げる事項を経験し、実習指導者による指導を受ける。 ア 入院時又は急性期の患者及びその家族への相談援助 イ 退院又は地域移行・地域支援に向けた、患者及びその家族への相談援助 ウ 多職種や病院外の関係機関との連携を通じた援助 ②精神科診療所においては、患者への個別支援を経験し、次に掲げる事項を経験し、実習指導者による指導を受ける。 ア 治療中の患者及びその家族への相談援助 イ 日常生活や社会生活上の問題に関する、患者及びその家族への相談援助 ウ 地域の精神科病院や関係機関との連携を通じた援助 ③地域の障害福祉サービス事業を行う施設等や精神科病院等の医療機関の実習を通して、次に掲げる事項をできる限り経験し実習指導者による指導を受ける。 ア 利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成 イ 利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成 ウ 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との支援関係の形成 エ 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援（エンパワメントを含む。）とその評価 オ 精神医療・保健・福祉に係る多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実践 カ 精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務への理解 キ 施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解 ク 施設・機関・事業者・団体等の経営やサービスの管理運営の実践 ケ 当該実習先が地域社会の中の施設・機関・事業者・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解						
教 科 書		へるす出版『PSW 実習ハンドブック 実習生のための手引き』ISBN 978-4-89269-791-3				
参 考 書		これまでのテキスト・参考書等全て				
備 考		実習巡回指導日および大学帰校日を設け指導を行う。 学生便覧にて履修要件を確認しておくこと。 本科目は、精神保健福祉士国家試験の指定科目である。				

科 目 名		精神保健福祉援助実習Ⅱ		担 当 者	○高濱 壮斗・大竹 伸治	
科目ナンバリング		11204421107			常勤	
D P		2,3		教 員 研 究 室	3313	
学 科（専攻）		現代社会学科（社会福祉学専攻）		配 当 年 次	4 年次・通年	
授 業 形 式		実 習	授 業 時 間	90 時間	単 位	選 択 2 単 位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 ①精神保健福祉援助実習を通して、精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を体得する。 ②精神保健福祉援助実習を通して、精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。 ③精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ④総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。						
【課題等のフィードバック方法】 実習先の指示に従うこと。						
【履修上の注意・予習・復習について】 法定施設・機関に合計 210 時間の実習を行う。原則、遅刻・欠席は認められない。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・精神障害者の医療・保健・福祉について、総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解することが出来る。 ・精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することが出来る。						
【実務家教員担当科目】 精神保健福祉士として実務経験を有する教員が専任で巡回指導を行う。実習先では実習指導者が指導を行う。						
【成績評価方法】 実習巡回指導、配属先からの評価等から総合的に判断を行う。						
授 業 計 画						
【実習の具体的達成課題】 ①精神科病院等の病院においては、患者への個別支援を経験し、次に掲げる事項を経験し、実習指導者による指導を受ける。 ア 入院時又は急性期の患者及びその家族への相談援助 イ 退院又は地域移行・地域支援に向けた、患者及びその家族への相談援助 ウ 多職種や病院外の関係機関との連携を通じた援助 ②精神科診療所においては、患者への個別支援を経験し、次に掲げる事項を経験し、実習指導者による指導を受ける。 ア 治療中の患者及びその家族への相談援助 イ 日常生活や社会生活上の問題に関する、患者及びその家族への相談援助 ウ 地域の精神科病院や関係機関との連携を通じた援助 ③地域の障害福祉サービス事業を行う施設等や精神科病院等の医療機関の実習を通して、次に掲げる事項をできる限り経験し実習指導者による指導を受ける。 ア 利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成 イ 利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成 ウ 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との支援関係の形成 エ 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援（エンパワメントを含む。）とその評価 オ 精神医療・保健・福祉に係る多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実践 カ 精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務への理解 キ 施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解 ク 施設・機関・事業者・団体等の経営やサービスの管理運営の実践 ケ 当該実習先が地域社会の中の施設・機関・事業者・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解						
教 科 書		へるす出版 PSW 実習ハンドブック 実習生のための手引き ISBN 978-4-89269-791-3				
参 考 書		これまでのテキスト・参考書等全て				
備 考		実習巡回指導日および大学帰校日を設け指導を行う。 本科目は、精神保健福祉士国家試験の試験科目である。 学生便覧にて履修要件を確認しておくこと。				

科 目 名	チーム医療福祉論			担 当 者	大黒 一司
科目ナンバリング	11204221108				常勤
D P	2,3,4			教 員 研 究 室	3211
学 科（専攻）	現代社会学科（社会福祉学専攻）			配 当 年 次	2 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 本学では、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、視能訓練士、社会福祉士、精神保健福祉士、看護師、保健師、臨床工学技士の9の保健医療福祉専門職を養成している。それぞれが専門的知識と技術を習得することは大切である。しかし、将来現場で働く際には、本学において養成している職種に限らず多くの専門職と関わることになる。そこで、この授業では保健医療福祉分野においてチームとして関わる専門職について知ることを目的として、それぞれの専門職の仕事内容、保健医療福祉分野における役割、機能について講義をする。また、多職種連携の実際について実践例の紹介を通して学ぶ。受講する学生が自身の目指す職種について、他の学生に紹介することや他の職種について説明を受ける機会（グループワーク）を通して多職種について理解することができる。				【課題等のフィードバック方法】 ・講義終了後、質問を受け付け回答する。 ・レスポンスペーパーによる質問を受け付け回答する（クラスルーム）。 ・次回講義時に受講者全体に向けて回答する。 【履修上の注意・予習・復習について】 指定された席で受講する。私語・携帯電話の使用・飲食の禁止 レスポンスペーパーは毎回必ず提出する。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 1 年次から他学科・他専攻で学ぶ学生と授業を通して交流することができる。また、自分が目指す職種のことを他者に伝えるために一層理解することができる。 【実務家教員担当科目】 病院・施設において多職種連携を実践していた。	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	大黒 一司	保健医療福祉を支える専門職とチームの役割	復習：配布資料を基に授業内容を復習する		4 時間
2	大黒 一司	専門職の理解（紹介）1 医師、歯科医師、薬剤師	予習：事前配布資料の次回授業内容（テキストのページ）を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する		4 時間
3	大黒 一司	専門職の理解（紹介）2 (1) 看護師、保健師、管理栄養士、臨床工学技士 (2) グループワーク	予習：事前配布資料の次回授業内容（テキストのページ）を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する		4 時間
4	大黒 一司	専門職の理解（紹介）3 (1) 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、視能訓練士 (2) グループワーク	予習：事前配布資料の次回授業内容（テキストのページ）を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する		4 時間
5	大黒 一司	専門職の理解（紹介）4 社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、義肢装具士、ほか	予習：事前配布資料の次回授業内容（テキストのページ）を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する		4 時間
6	大黒 一司	多職種連携の実際 (1) 保健医療福祉における多職種連携の実践の紹介 (2) グループワークを通して多職種連携を模倣的に体験する	予習：事前配布資料の次回授業内容（テキストのページ）を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する		4 時間
7	大黒 一司	全体の振り返りとまとめ（課題の実施と提出）	予習：事前配布資料のこれまでの授業内容（テキストのページ）について振り返る 復習：まとめの課題についてテキストで確認する。		4 時間
教 科 書	指定教科書は特になし				
参 考 書	必要に応じて図書や文献を紹介する				
備 考	質問等の問い合わせ：大黒一司（リハビリテーション学科作業療法学専攻）				

科 目 名		専 門 職 連 携 論		担 当 者	○大黒 一司・大庭 みよ 渡邊 隆夫・伊藤 清世 樽林 雅司・佐藤 尚子 土井 勝幸	
科目ナンバリング		11204321109			常勤	
D P		2,3,4		教 員 研 究 室	3211	
学 科（専攻）		現代社会学科（社会福祉学専攻）		配 当 年 次	3 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		☑双方向型授業 □自主学习支援 □該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 疾病を抱えた患者や障害のある人の課題を解決しニーズに応えることは、対象者（利用者）に対して保健医療福祉の各分野の専門家が協働することであると理解できる。各分野の専門職が関わることでより質の高いサービスを提供することが可能になる。保健医療福祉の連携は、各分野の専門職の視点も大切であるが、むしろチームとしての視点が重要になる。しかし、チームとしてのアプローチが各専門職の技術を持ち寄るだけでは十分とは言えない。対象者（利用者）の課題やニーズに対する共通の理解、価値観にも基づいて関わること（連携）が重要である。専門職連携論では、多職種連携が求められる背景、多職種連携の理念・定義、実践方法、実践事例の学習を通して連携の基盤と方法について学ぶ。 【学習の到達目標】 ・専門職連携が求められる背景について説明できる。 ・専門職連携の理論及び実践方法について理解できる。 【成績評価方法】 授業時のレスポンスペーパー 30% 課題レポート 70%						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	大黒 一司	1) オリエンテーション 2) 本学における多職種連携教育 (IPE)	復習：配布資料を基に授業内容を復習する。		4 時間	
2	大黒 一司	1) 多職種連携 (IPW) とは 2) IPE の経緯と定義、目標	予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。		4 時間	
3	大黒 一司	1) 多職種のチームにおけるさまざまな連携のありかた 2) 多職種連携における課題	予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。		4 時間	
4	大黒 一司	多職種連携の実践に必要なコミュニケーション能力	予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。		4 時間	
5	大黒 一司	チームワークの成り立ち	予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。		4 時間	
6	大庭 みよ（看護師・助産師）	多職種連携における医療福祉連携士の役割	予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。		4 時間	
7	渡邊 隆夫（医師）	IPW の実際 1 医療における IPW の実際と医師の役割	予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。		4 時間	
8	相澤 康弘（臨床工学技士）	IPW の実際 2 多職種連携における臨床工学技士の役割と実践	予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。		4 時間	
9	樽林 雅司（薬剤師）	IPW の実際 3 多職種連携における薬剤師の役割と実践	予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。		4 時間	
10	伊藤 清世（管理栄養士）	IPW の実際 4 多職種連携における管理栄養士の役割と実践	予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。		4 時間	
11	佐藤 尚子（看護師・診療看護師）	IPW の実際 5 福祉施設における多職種連携の実際	予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。		4 時間	
12	土井 勝幸（施設長・作業療法士）	IPW の実際 6 地域包括ケアにおける多職種連携の実際	予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。		4 時間	
13	大黒 一司、他	グループワーク 多職種連携に必要なこと 事例を通して考える	予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。		4 時間	
14	大黒 一司、他	グループワーク 多職種連携に必要なこと 事例を通して考える	予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。		4 時間	
教 科 書		指定教科書は特になし				
参 考 書		必要に応じて図書や文献を紹介する				
備 考		質問等の問い合わせ：大黒一司（リハビリテーション学科作業療法学専攻）				

科 目 名	専門職連携セミナー			担 当 者	大黒 一司
科目ナンバリング	11204321110				常勤
D P	2,3,4			教 員 研 究 室	3211
学 科（専攻）	現代社会学科（社会福祉学専攻）			配 当 年 次	3 年次・後期
授 業 形 式	演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☒ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☐ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 これからの専門職に求められるのは、対象者（利用者）を中心としてその多面的なニーズに的確に答える能力です。そのためには専門職連携という基礎的な素養の上に各々の専門性が確立されなければならない。専門職としての成長と専門職連携教育の融合（trans-disciplinary）により、時代が求める専門職連携の中核になりうる人材育成を目指します。					
【学習の到達目標】 ・自分の専門性を他の専門職に説明し、他の専門性を学ぶことができる。 ・対象者（利用者）のニーズを多面的に理解し、考えることができる。 ・専門職間の協働によって解決できる共通の課題と目標を抽出することができる。 ・共通目標達成のために専門職としてのそれぞれの役割を理解し実践できる。 ・専門的立場から事例に内在する課題を見出し、各々の目標と計画を作成することができる。					
【成績評価方法】 ・グループワークによる「専門職連携セミナー報告書」 「成果報告会プレゼンテーション」 70% ・リフレクションシート 30%					
授 業 計 画					
1. 専門職連携セミナーの目的と意義、進め方について 2. 連携セミナーにおける学習方法（グループワーク）の理解 3. グループワーク、スケジュール確認、活動計画作成 4. 各職の紹介とこれまでの学び、実習経験など 5. 実習室ツアー 6. 事例について読みあわせと情報の確認 7. 用語について各職種間の共通認識 8. 事例の共通目標検討 9. 共通目標達成に向けた各職種の目標と問題点、問題点解決のための支援策の検討 10. 共通目標達成に向けた目標と問題点、問題点解決のための支援策の共通認識と実現の可能性の検討 11. 発表に向けた準備 12. リフレクション 13. 発表会 14. 発表会					
</					

科 目 名		生活支援工学		担 当 者	徳田 律子	
科目ナンバリング		11204221111			常勤	
D P		2		教 員 研 究 室	3302	
学 科（専攻）		現代社会学科（社会福祉学専攻）		配 当 年 次	2 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☒ 自主学習支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 本講義では、まず福祉用具の歴史や現代の法制度などの福祉用具総論について講義を行います。次に、移動用具、起居用具、排泄用具、入浴用具、コミュニケーション機器など、それぞれの福祉用具の種類別に機能や使い方、選定のポイントについて講義を行います。最後に、福祉用具を使用する環境整備や二次障害の問題、福祉用具専門職について講義を行い、まとめます。						
【学習の到達目標】 高齢者や障害のある人がより豊かな生活を送るための支援において、生活環境を含めた問題への取り組みは最も基本に存在するものである。生活支援工学では、医療・保健・福祉に携わる専門職者が利用者の生活状況全体を理解する視点を持つことを目標にしつつ、福祉用具支援に必要と考えられる基本的知識と技術を学習することを目的としている。						
【成績評価方法】 出席が3分の2を上回る者を評価の対象とする。 授業中に示した課題に対する達成度の評価（授業中に課す課題15%、レポート課題3つで45%、復習課題5つで40%）により総合的に評価する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	徳田 律子	医療福祉専門職者と生活支援工学	障害と住環境整備の重要性について整理する		4 時間	
2	徳田 律子	福祉用具の歴史と現代の法制度	福祉用具の種類について調べる		4 時間	
3	徳田 律子	生活場面別にみた福祉用具の理論と実際－歩行を補助する道具－	人間の歩行動作を阻害する疾病・障害等について調べる		4 時間	
4	徳田 律子	生活場面別にみた福祉用具の理論と実際－歩行を代替する道具－	車いすの各部の名称について調べる 最新の車いすを取り扱った視聴覚教材を視聴し、感想をまとめる		4 時間	
5	徳田 律子	生活場面別にみた福祉用具の理論と実際－車いすとシーティング－	シーティングを取り扱った視聴覚教材を視聴し、感想をまとめる		4 時間	
6	徳田 律子	生活場面別にみた福祉用具の理論と実際－排泄用具－	身近な障害者用トイレを取り上げ、その特徴について整理する		4 時間	
7	徳田 律子	生活場面別にみた福祉用具の理論と実際－起居関連用具－	起居関連用具を取り扱った視聴覚教材を視聴し、感想をまとめる		4 時間	
8	徳田 律子	福祉用具に関わる専門職者の理解	専門職者の活動に関する視聴覚教材を視聴し、感想をまとめる		4 時間	
9	徳田 律子	福祉用具の利用と住環境整備の実際	介護保険で利用可能な住宅改修費の具体的項目と費用負担など各種手続きについて調べる		4 時間	
10	徳田 律子	福祉用具と二次障害（1）	二次障害を取り扱った視聴覚教材を視聴し、二次障害が発生した原因を分析し、望ましい対応について整理する		4 時間	
11	徳田 律子	福祉用具と二次障害（2）	二次障害を取り扱った視聴覚教材を視聴し、二次障害が発生した原因を分析し、望ましい対応について整理する		4 時間	
12	徳田 律子	テクノロジーウォッチング	身近なアシスティブテクノロジーを観察し、レポートにまとめる		4 時間	
13	徳田 律子	福祉用具とアフォーダンスの世界	私たちの行動を阻害する環境を探し、レポートにまとめる		4 時間	
14	徳田 律子	介護ロボット技術への応用	実用化された介護ロボットについて調べる 介護ロボットに関する視聴覚教材を視聴し、目的ごとに類型化する		4 時間	
教 科 書		特になし				
参 考 書		ドナルド・A. ノーマン著「誰のためのデザイン?—認知科学者のデザイン原論」新曜社				
備 考		特になし				

科 目 名		医療ソーシャルワーク論		担 当 者	○加藤 由美・熊谷 智美 広瀬 和之	
科目ナンバリング		11204321112			常勤・非常勤	
D P		1,4		教員研究室		1301
学科（専攻）		現代社会学科（社会福祉学専攻）		配 当 年 次		3 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 □自主学习支援 □該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 社会福祉士の国試指定科目「保健医療と福祉」の内容理解を、医療ソーシャルワークの側面（クライアントの理解／専門職の役割／多職種連携／面接／意思決定支援）から強化・深化させる。				【課題等のフィードバック方法】 classroom でフィードバックを行う		
【学習の到達目標】 ・クライアントを生活者として捉えることが出来る ・医療ソーシャルワーカーの業務を理解している ・保健医療における各専門職の役割を理解している ・保健医療における多職種連携の諸形態を理解している ・ソーシャルワークの面接に関する知識を習得している ・インフォームドコンセントを「患者の意思決定支援」の文脈で捉えることが出来る				【履修上の注意・予習・復習について】 授業はBYOD（Bring Your Own Device）で行う。PC またはタブレットを必ず持参のこと 【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・国試指定科目「保健医療と福祉」の理解が深まり、強化される ・当該科目の学修それ自体が国試受験対策となる 【実務家教員担当科目】 医療ソーシャルワーカーの職歴を有する教員が、その実務経験を活かして国試指定科目「保健医療と福祉」の実践的理解を促す講義を行う。		
【成績評価方法】 下記①②③の合計で評価する（詳細はオリエンテーションで説明） ①指示された事前学習の達成度を問う「予習課題」（複数回）平均点：10 点 ②各授業の理解度を問う「確認テスト」（複数回）平均点：10 点 ③領域毎のテスト（3 回）平均点：80 点						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	加藤 由美	科目オリエンテーション	予習：科目シラバスを熟読する。 復習：科目の到達目標の達成に向けて学習計画を立てる。			4 時間
2	加藤 由美	クライアント理解を援ける複眼的視点	予習：予習課題に取り組み、期限内に提出する。 復習：確認テスト等に基づき授業内容の理解を深める。			4 時間
3	加藤 由美	クライアント理解を援けるマッピング技法	予習：予習課題に取り組み、期限内に提出する。 復習：確認テスト等に基づき授業内容の理解を深める。			4 時間
4	加藤 由美	領域【クライアント理解】の振り返りとまとめ：領域テスト（1）	予習：領域全体の俯瞰的理解を図る。 復習：テストの振り返りを行う。			4 時間
5	加藤 由美	保健医療の専門職（1）	予習：予習課題に取り組み、期限内に提出する。 復習：確認テスト等に基づき授業内容の理解を深める。			4 時間
6	加藤 由美	保健医療の専門職（2）	予習：予習課題に取り組み、期限内に提出する。 復習：確認テスト等に基づき授業内容の理解を深める。			4 時間
7	加藤 由美	医療ソーシャルワーク業務の範囲と内容	予習：予習課題に取り組み、期限内に提出する。 復習：確認テスト等に基づき授業内容の理解を深める。			4 時間
8	広瀬 和之 加藤 由美	医療ソーシャルワークの実際	予習：予習課題に取り組み、期限内に提出する。 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。			4 時間
9	加藤 由美	領域【専門職とチーム医療】の振り返りとまとめ：領域テスト（2）	予習：領域全体の俯瞰的理解を図る。 復習：テストの振り返りを行う。			4 時間
10	加藤 由美	医療におけるソーシャルワーク面接（1）	予習：予習課題に取り組み、期限内に提出する。 復習：確認テスト等に基づき授業内容の理解を深める。			4 時間
11	加藤 由美	医療におけるソーシャルワーク面接（2）	予習：予習課題に取り組み、期限内に提出する。 復習：確認テスト等に基づき授業内容の理解を深める。			4 時間
12	加藤 由美	患者の意思決定支援とインフォームドコンセント	予習：予習課題に取り組み、期限内に提出する。 復習：確認テスト等に基づき授業内容の理解を深める。			4 時間
13	熊谷 智美 加藤 由美	クライアントとのコミュニケーション	予習：予習課題に取り組み、期限内に提出する。 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。			4 時間
14	加藤 由美	領域【面接と自己決定支援】の振り返りとまとめ：領域テスト（3）	予習：領域全体の俯瞰的理解を図る。 復習：テストの振り返りを行う。			4 時間
教 科 書		地域包括ケア時代の医療ソーシャルワーク実践テキスト：日本医療ソーシャルワーク学会（編）、日総研出版				
参 考 書		必要に応じて適宜指示する				
備 考		社会福祉士国試受験者の履修を推奨する。				

科 目 名	医療福祉マネジメント論			担 当 者	○加藤 由美・二瓶 洋子
科目ナンバリング	11204321113				常勤
D P	3,4			教 員 研 究 室	1301
学 科（専攻）	現代社会学科（社会福祉学専攻）			配 当 年 次	3 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☒ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☐ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 社会福祉士の国試指定科目「保健医療と福祉」の内容理解を、医療マネジメントの側面（医療保険と診療報酬／国民医療費／医療提供体制／地域連携クリティカルパス／医療安全管理等）から強化・深化させる。				【課題等のフィードバック方法】 classroom でフィードバックを行う	
【学習の到達目標】 ・医療保険と診療報酬に関連づけて理解している。 ・医療政策の動向を国民医療費等と関連づけて捉えることが出来る。 ・医療機能の分化・分担と連携に基づく医療提供体制を理解している。 ・クリティカルパスや地域連携パスを医療マネジメントの視点で捉えることが出来る。 ・医療安全管理の概要を理解している。				【履修上の注意・予習・復習について】 授業は BYOD (Bring Your Own Device) で行う。PC またはタブレットを必ず持参のこと	
【成績評価方法】 下記①②③の合計で評価する（詳細はオリエンテーションで説明） ①指示された事前学習の達成度を問う「予習課題」（複数回）平均点：10 点 ②各授業の理解度を問う「確認テスト」（複数回）平均点：10 点 ③領域毎のテスト（3 回）平均点：80 点				【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・国試指定科目「保健医療と福祉」の理解が深まり、強化される ・当該科目の学修それ自体が国試受験対策となる	
【実務家教員担当科目】 医療ソーシャルワーカーの職歴を有する教員が、その実務経験を活かして国試指定科目「保健医療と福祉」の実践的理解を促す講義を行う。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	加藤 由美	オリエンテーション	予習：科目シラバスを熟読する。 復習：科目の概要と進め方を理解し、学習計画を立てる。		4 時間
2	加藤 由美	医療保険と診療報酬の仕組み	予習：予習課題に取り組み、期限内に提出する。 復習：確認テスト課題等に取り組み、期限内に提出する。		4 時間
3	加藤 由美	国民医療費の動向	予習：予習課題に取り組み、期限内に提出する。 復習：確認テスト課題等に取り組み、期限内に提出する。		4 時間
4	加藤 由美	公費医療制度等の概要	予習：予習課題に取り組み、期限内に提出する。 復習：確認テスト課題等に取り組み、期限内に提出する。		4 時間
5	加藤 由美	領域【医療提供の経済的仕組み】の振り返りとまとめ：領域テスト（1）	予習：領域の俯瞰的理解を図る。 復習：テストの振り返りを通じて領域内容の理解を深める。		4 時間
6	加藤 由美	医療法と医療機能	予習：予習課題に取り組み、期限内に提出する。 復習：確認テスト課題等に取り組み、期限内に提出する。		4 時間
7	加藤 由美	医療施設と医療機能	予習：予習課題に取り組み、期限内に提出する。 復習：確認テスト課題等に取り組み、期限内に提出する。		4 時間
8	加藤 由美	地域医療計画と医療機能	予習：予習課題に取り組み、期限内に提出する。 復習：確認テスト課題等に取り組み、期限内に提出する。		4 時間
9	加藤 由美	領域【医療提供体制】の振り返りとまとめ：領域テスト（2）	予習：領域の俯瞰的理解を図る。 復習：テストの振り返りを通じて領域内容の理解を深める。		4 時間
10	加藤 由美	医療の背景と特性	予習：予習課題に取り組み、期限内に提出する。 復習：確認テスト課題等に取り組み、期限内に提出する。		4 時間
11	加藤 由美	医療の質と評価	予習：予習課題に取り組み、期限内に提出する。 復習：確認テスト課題等に取り組み、期限内に提出する。		4 時間
12	加藤 由美	クリティカルパス／地域連携パス	予習：予習課題に取り組み、期限内に提出する。 復習：確認テスト課題等に取り組み、期限内に提出する。		4 時間
13	二瓶 洋子 加藤 由美	医療安全管理の理論と実際	予習：予習課題に取り組み、期限内に提出する。 復習：確認テスト課題等に取り組み、期限内に提出する。		4 時間
14	加藤 由美	領域【医療の質とマネジメント】の振り返りとまとめ：領域テスト（3）	予習：領域の俯瞰的理解を図る。 復習：テストの振り返りを通じて領域内容の理解を深める。		4 時間
教 科 書	病院早わかり読本※：飯田修平（編著）医学書院 ※その年度の最新版を用いる				
参 考 書	必要に応じて適宜指示する				
備 考	社会福祉士国試受験者の履修を推奨する。				

科 目 名		スクールソーシャルワーク論		担 当 者	大竹 伸治	
科目ナンバリング		11204321114			常勤	
D	P	1,2		教員研究室	1303 3313	
学科（専攻）		現代社会学科（社会福祉学専攻）		配 当 年 次	3 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 児童・生徒の問題行動の背景には、こころの問題、家庭生活、地域、学校などといった要素が複雑に影響している。スクールソーシャルワーカーは、学校の枠を超えて、関係機関とのネットワークを利用し、さまざまな環境に働き掛け、児童・生徒並びに家族の自立を支援していく。これら具体的な実践方法を紹介しながら、スクールソーシャルワークについて理解を深める。						
【学習の到達目標】 ・2008年に「スクールソーシャルワーク活用事業」が導入された背景について理解をする。 ・児童・生徒が抱えている課題を家庭・学校・地域といった全体性から理解を深め、スクールソーシャルワーカーの果たす役割について理解を深める。 ・スクールソーシャルワーカーの実践モデルを理解するとともに、実際にどのように活用されてるのかを事例を通し理解する。						
【成績評価方法】 ①講義前後のレポート提出、②講義後のリアクションペーパー、③定期試験の3点から総合的に判断する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	大竹 伸治 高濱 壮斗	スクールソーシャルワークとは	テキストの「Ⅱ スクールソーシャルとは」を読んでくこと。また関連科目のテキストや資料を参照し、講義内容の理解を深めること。			4 時間
2	大竹 伸治 高濱 壮斗	スクールソーシャルワークの歴史	テキストの「Ⅲ スクールソーシャルの歴史と動向」を読んでくこと。また関連科目のテキストや資料を参照し、講義内容の理解を深めること。			4 時間
3	大竹 伸治 高濱 壮斗	スクールソーシャルワークの基礎的理論	テキストの「Ⅵ スクールソーシャルの基礎理論」を読んでくこと。また関連科目のテキストや資料を参照し、講義内容の理解を深めること。			4 時間
4	大竹 伸治 高濱 壮斗	学校教育現場の現状 1	テキストの「Ⅳ スクールソーシャルの基礎理論」を読んでくこと。また関連科目のテキストや資料を参照し、講義内容の理解を深めること。			4 時間
5	大竹 伸治 高濱 壮斗	学校教育現場の現状 2	テキストの「Ⅳ スクールソーシャルの基礎理論」を読んでくこと。また関連科目のテキストや資料を参照し、講義内容の理解を深めること。			4 時間
6	大竹 伸治 高濱 壮斗	児童・思春期の精神保健福祉的諸問題 1	テキストの「Ⅷ スクールソーシャルの基礎理論」を読んでくこと。また関連科目のテキストや資料を参照し、講義内容の理解を深めること。			4 時間
7	大竹 伸治 高濱 壮斗	児童・思春期の精神保健福祉的諸問題 2	テキストの「Ⅷ スクールソーシャルの基礎理論」を読んでくこと。また関連科目のテキストや資料を参照し、講義内容の理解を深めること。			4 時間
8	大竹 伸治 高濱 壮斗	スクールソーシャルワークの実際 1	テキストの「Ⅷ スクールソーシャルの基礎理論」を読んでくこと。また関連科目のテキストや資料を参照し、講義内容の理解を深めること。			4 時間
9	大竹 伸治 高濱 壮斗	スクールソーシャルワークの実際 2	テキストの「Ⅷ スクールソーシャルの基礎理論」を読んでくこと。また関連科目のテキストや資料を参照し、講義内容の理解を深めること。			4 時間
10	大竹 伸治 高濱 壮斗	スクールソーシャルワークの実際 3	テキストの「Ⅷ スクールソーシャルの基礎理論」を読んでくこと。また関連科目のテキストや資料を参照し、講義内容の理解を深めること。			4 時間
11	大竹 伸治 高濱 壮斗	スクールソーシャルワークの実際 4	テキストの「Ⅷ スクールソーシャルの基礎理論」を読んでくこと。また関連科目のテキストや資料を参照し、講義内容の理解を深めること。			4 時間
12	大竹 伸治 高濱 壮斗	スクールソーシャルワークの実際 5	テキストの「Ⅷ スクールソーシャルの基礎理論」を読んでくこと。また関連科目のテキストや資料を参照し、講義内容の理解を深めること。			4 時間
13	大竹 伸治 高濱 壮斗	スクールソーシャルワークの実際 6	テキストの「Ⅷ スクールソーシャルの基礎理論」を読んでくこと。また関連科目のテキストや資料を参照し、講義内容の理解を深めること。			4 時間
14	大竹 伸治 高濱 壮斗	これまでの講義内容を振り返り、総合的な理解を図る	テキストに示されているゴッチック体を再度読み返すこと。また配布された資料、ノートに目を通すこと。			4 時間
教 科 書		山野則子・野田正人・半場利美佳編（2016）『よくわかるスクールソーシャルワーク』第2版 ミネルヴァ書房 ISBN9784623078349				
参 考 書		講義の中で必要に応じて紹介する。				
備 考		特になし				

科 目 名		スクールソーシャルワーク演習		担 当 者	○高濱 壮斗・大竹 伸治 鈴木 正貴・堀内 美咲 平泉 武志						
科目ナンバリング		11204321115			常勤・非常勤						
D P		2,3		教員研究室	3313						
学科（専攻）		現代社会学科（社会福祉学専攻）		配 当 年 次	3 年次・後期						
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 1 単位					
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし									
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☑該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない						
【授業内容】 ・スクールソーシャルワーク実習の意義について理解し、学校における相談援助活動やソーシャルワーク実践に係る価値・知識・技術を総合的に学習する。 ・効果的な個別援助を行うために必要な他職種・他機関との連携の意義と方法について学習する。 ・ミクロ・メゾ・マクロレベルを体系的に学習する。 【学習の到達目標】 ・スクールソーシャルワーク実践の相談援助技について価値・知識・技術について理解を深める。 ・学校教育現場の理解及び学校組織の理解を深め、他職種連携、チーム支援のありかたについて理解を深める。 ・スクールソーシャルワーカーとしての記録のデータ化、効果的測定を行う力を養う。 【成績評価方法】 ・レポート・小テスト 40%、定期試験 60% の総合評価として 60 点以上を合格とする。						【課題等のフィードバック方法】 ・小テストの解説を次の講義に行う。 ・講義終了後、質問に対し回答を行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 ・講義中の私語は禁止。他の学生の迷惑になると判断した場合は、退室を指示することがある。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・スクールソーシャルワーカーの具体的な実践活動を知ることができる。 ・ソーシャル・コンサルテーションの視点を知ることができる。 ・スクールソーシャルワーカーの採用状況や活動について情報を得ることができる。 【実務家教員担当科目】 スクールソーシャルワーカーとして勤務経験のある教員が、相談援助に係る専門的援助技術について修得できるように指導を行う。					
授 業 計 画											
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間								
			予習・復習		学修時間						
1	大竹 伸治 高濱 壮斗	スクールソーシャルワークの価値及び・知識・技術について理解する	学習内容について調べノートにまとめておく		1 時間						
2	大竹 伸治 高濱 壮斗	関係機関、教育委員会、学校の現状及び支援のありかたについて理解する	学習内容について調べノートにまとめておく 復習：講義資料とノー		1 時間						
3	大竹 伸治 高濱 壮斗	学校アセスメントの視点を理解する①	学習内容について調べノートにまとめておく		1 時間						
4	大竹 伸治 高濱 壮斗	学校アセスメントの意義を理解する②	学習内容について調べノートにまとめておく		1 時間						
5	大竹 伸治 高濱 壮斗	地域アセスメントの視点を理解する①	学習内容について調べノートにまとめておく		1 時間						
6	大竹 伸治 高濱 壮斗	地域アセスメントの意義を理解する②	学習内容について調べノートにまとめておく		1 時間						
7	大竹 伸治 高濱 壮斗	児童生徒・家庭へのマイクロレベルの実践を理解する ①	学習内容について調べノートにまとめておく		1 時間						
8	大竹 伸治 高濱 壮斗	児童生徒・家庭へのマイクロレベルの実践を理解する ②	学習内容について調べノートにまとめておく		1 時間						
9	大竹 伸治 高濱 壮斗	チームアプローチのメゾレベルの実践を理解する①	学習内容について調べノートにまとめておく		1 時間						
10	大竹 伸治 高濱 壮斗	チームアプローチのメゾレベルの実践を理解する②	学習内容について調べノートにまとめておく		1 時間						
11	大竹 伸治 高濱 壮斗	福祉・教育機関の相談体制づくり地域への開発などのマクロレベルの実践を理解する ①	学習内容について調べノートにまとめておく		1 時間						
12	大竹 伸治 高濱 壮斗	福祉・教育機関の相談体制づくり地域への開発などのマクロレベルの実践について理解を深める②	学習内容について調べノートにまとめておく		1 時間						
13	大竹 伸治 高濱 壮斗	記録の書き方、情報共有、スーパービジョンについて学ぶ	学習内容について調べノートにまとめておく		1 時間						
14	大竹 伸治 高濱 壮斗	スクールソーシャルワークの意義についてグループで学ぶ	学習内容について調べノートにまとめておく		1 時間						
教 科 書		米川和雄編著 「スクールソーシャルワーク実習・演習テキスト」(2010) 北大路書房									
参 考 書		講義の中で必要に応じて紹介する。									
備 考		本科目は認定スクールソーシャルワークを取得するために必要な科目である。 問い合わせ担当教員：大竹伸治・高濱壮斗									

科 目 名	スクールソーシャルワーク実習指導			担 当 者	○高濱 壮斗・大竹 伸治	
科目ナンバリング	11204421116				常勤	
D P	2,4			教員研究室	3313	
学科（専攻）	現代社会学科（社会福祉学専攻）			配 当 年 次	4 年次・前期	
授 業 形 式	演習	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 1 単位	
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし					
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 ①スクールソーシャルワーカー（SSW）実習を通して、SSW の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。 ②SSW 実習を通して、児童のおかれている現状を理解し、児童を取り巻く生活環境や生活上の課題について把握する。 ③SSW として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ④チーム学校の一員としての他職種と、関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。 【学習の到達目標】 SSW の相談援助の専門的知識と技術の体得、児童の置かれている現状理解と生活上の課題の把握、SSW として求められる資質・技能・倫理・課題把握等の総合的対応能力の習得、地域生活支援におけるチーム学校の一員としての他職種と、関連分野の専門職との連携のあり方等を身につける。 【成績評価方法】 実習巡回指導、配属先からの評価等から総合的に判断を行う。 【課題等のフィードバック方法】 実習先の指示に従うこと。 【履修上の注意・予習・復習について】 教育機関等において合計 80 時間の実習を行う。原則、遅刻・欠席は認められない。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・SSW の実践的支援と、総合的かつ包括的な地域生活支援と、チーム学校の一員としての他職種関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解することが出来る。 ・SSW として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することが出来る。 【実務家教員担当科目】 SSW として実務経験を有する教員が巡回指導を行う。また、実習先では実習指導者が指導を行う。						
授 業 計 画						
【実習の具体的達成課題】 教育機関において、児童と児童を取り巻く環境に対する支援から、次に掲げる事項を経験し、実習指導者による指導を受ける。 ①児童やその関係者等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成 ②児童の理解とそれを取り巻く環境の把握及びその必要性 ③児童やその関係者への権利擁護及び支援（エンパワメントを含む。）とその評価 ④チーム学校の一員としての他職種・関係機関との連携 ⑤学校を含む地域特性のアセスメント ⑥アウトリーチ、ネットワーク、社会資源の活用・調整・開発に関する理解 ⑦その他の関係者（施設・機関・事業者・団体住民やボランティア等）との連携						
教 科 書	特になし					
参 考 書	これまでのテキスト・参考書等全て					
備 考	実習巡回指導日および大学帰校日を設け指導を行う。 学生便覧にて履修要件を確認しておくこと。 本科目は、SSW 養成の指定科目である。					

科 目 名	スクールソーシャルワーク実習			担 当 者	○大竹 伸治・高濱 壮斗
科目ナンバリング	11204421117				常勤
D P	2,3			教 員 研 究 室	1303 3313
学 科（専攻）	現代社会学科（社会福祉学専攻）			配 当 年 次	4 年次・通年
授 業 形 式	実 習	授 業 時 間	90 時間	単 位	選 択 2 単 位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 ・スクールソーシャルワークの現場実習では、相談支援に係る知識と技術について具体的、実践的に理解し、実践的な技術を学ぶ。 ・スクールソーシャルワークに求められる資質・技術・倫理の習得と自己の課題の把握により実践現場における総合的な能力を養成する。 ・実習中はそれぞれの現場に即した課題にそって現場指導者による指導を受ける。 【学習の到達目標】 ①学校現場及び組織の理解、児童生徒、家庭、教職員、関係機関、地域からスクールソーシャルワーカーに求められる課題を把握し、対応できる能力を習得する。 ②学校現場の教職員や他の職種との連携を学び、チーム支援としてのありかたを理解し実践的に習得する。 ③スクールソーシャルワーカーの援助過程として、人権尊重、権利擁護、自立支援の視点を、実践を通して理解し習得する。 【成績評価方法】 ・実習における課題の達成状況、実習態度、配属先での評価などにより、総合的に判断する。 【課題等のフィードバック方法】 ・巡回指導日・帰校日等において、質問を受けつけ回答を行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 ・90 時間以上、大学が指定する学校・機関・組織にて実習。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・スクールソーシャルワーカー実習の実施を通して、相談支援に係る知識と技術につて、実践現場において、具体的、实际的に学ぶことができる。 ・スクールソーシャルワーカーに求められる資質・技術・倫理の習得と自己の課題の把握が可能となり、総合的な対応力を身に付ける。 【実務家教員担当科目】 精神診療所や精神科病院で精神保健福祉士の業務にかかわった経験を持つ教員が担当する。					
授 業 計 画					
【実習の具体的達成課題】 ①学生は、次に掲げる事項について実習指導者（スクール（学校）ソーシャルワーカー）による指導、教育委員会や学校の指導を受けるものとする。 ②スクール（学校）ソーシャルワーク実習指導担当教員は、巡回指導等を通して、次に掲げる事項について学生及び実習指導者（スクール（学校）ソーシャルワーカー、教育委員会や学校）との連絡調整を密に行い、学生の実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を十分に行うものとする。 ア. 子どもたち、教職員、教育委員会、事例や学校に関する関係者との基本的コミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成 イ. 子ども・家族の理解、学校、教育委員会、教育センター、適応指導教室など基本的な理解、そしてそのニーズ把握と支援計画の作成 ウ. 子ども・家族、そして学校、教育委員会などとの援助関係の形成 エ. 子ども・家族への権利擁護、そして学校、教育委員会など含めての支援（エンパワメント含む）とその評価 オ. 校内におけるケース会議や学年会議でのケース検討における進め方の実際 カ. 校内や関係機関含めた多職種によるチームアプローチの実際 キ. 社会福祉士としての職業倫理、教員など学校関係者の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解 ク. 学校運営、学校組織、教育委員会組織の実際 ケ. 市町村の子ども相談体制について理解し、学校がどのようにつながっているのかを学ぶ。具体的なネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解					
教 科 書	特になし				
参 考 書	米川和雄編著「スクールソーシャルワーク実践技術」（2015）北大路書房				
備 考	本科目は認定スクールソーシャルワークを取得するために必要な科目である。				

科 目 名	障害者支援論			担 当 者	黒沢 麻美
科目ナンバリング	11204221118				常勤
D P	1,2			教 員 研 究 室	3313
学 科（専攻）	現代社会学科（社会福祉学専攻）			配 当 年 次	2 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 障害種別ごとの概要について理解し、支援上必要な知識や対応の在り方について理解を深める。				【課題等のフィードバック方法】 随時、講義終了後に質問や意見等を受け付け、次回解説する。	
【学習の到達目標】 障害当事者の生活状況、実態を踏まえ支援者として必要な対応について理解を深めることができる。				【履修上の注意・予習・復習について】 ゲストスピーカーの講義もあるため、授業態度や身だしなみについて注意することがある。また、講義中の私語、飲食、私的な携帯電話の使用、充電は原則認めない。	
【成績評価方法】 定期試験 80%、課題レポート又は振り返り課題 20%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 障害者に関する知識のみならず、実際に障害者支援事業所の方のお話を聞くことで、当事者の生活実態が理解でき、支援方法や対応方法について理解を深めることができる。	
				【実務家教員担当科目】 該当なし	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	黒沢 麻美	オリエンテーション－障害者支援の視点－	障害者支援における自分なりの対応の在り方について考える。		4 時間
2	黒沢 麻美	障害者とは①	障害者の定義と特性についてテキストの該当する部分を確認する。		4 時間
3	黒沢 麻美	障害者とは② (視覚障害者)	視覚障害に伴う生活上の困難さについて調べる。		4 時間
4	黒沢 麻美	障害者とは③（聴覚、言語障害）	聴覚障害に伴う生活上の困難について調べる。		4 時間
5	黒沢 麻美	障害者の生活実態とこれを取り巻く社会環境と課題①	障害者支援施設について調べる。		4 時間
6	黒沢 麻美・非常勤	障害者の生活実態とこれを取り巻く社会環境と課題②	障害者支援施設について調べる。		4 時間
7	黒沢 麻美・非常勤	障害者の生活実態とこれを取り巻く社会環境と課題③	障害者支援施設について調べる。		4 時間
8	黒沢 麻美	障害者の生活実態とこれを取り巻く社会環境と課題④	障害者支援施設について調べる。		4 時間
9	黒沢 麻美	障害者の生活実態とこれを取り巻く社会環境と課題⑤	障害者支援施設について調べる。		4 時間
10	黒沢 麻美	障害者と家族等に対する支援の実際①	障害者支援施設について調べる。		4 時間
11	黒沢 麻美	障害者と家族等に対する支援の実際②	障害者の日常生活、当事者・家族の心理について考える。		4 時間
12	黒沢 麻美	事例を用いて支援方法を考える①	これまでの講義を踏まえて障害者支援について考える		4 時間
13	黒沢 麻美	事例を用いて支援方法を考える②	これまでの講義を踏まえて障害者支援について考える。		4 時間
14	黒沢 麻美	まとめ	これまでの自身の体験や、講義の内容を踏まえ、当事者や家族にいかに関わっていくか、自分の考えを中心にまとめる。		4 時間
教 科 書		指定なし			
参 考 書		最新 介護福祉士養成講座 14. 障害の理解 中央法規 最新 社会福祉士 精神保健福祉士養成講座 8. 障害者福祉 中央法規			
備 考		非常勤の担当回は、講師との調整の上決定する。			

科 目 名		児童・家庭支援論		担 当 者	鑑 さやか	
科目ナンバリング		11204221119			常勤	
D P		1,2		教 員 研 究 室	1307	
学 科（専攻）		現代社会学科（社会福祉学専攻）		配 当 年 次	2 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 子どもを取り巻く福祉施策は、昭和 20 年代の要保護児童や非行児童の保護活動を原点とし、社会のニーズに即応しつつその幅を広げてきている。 この講義では、「子ども家庭福祉論」の内容を基盤とし、最新の動向および事例を中心に紹介しながら「子どもの最善の利益」を最優先した子ども家庭福祉のあり方について講義を行う。 【学習の到達目標】 子ども家庭福祉の発展に資する人材の養成を目標とする。具体的には、子どもと、子どもをとりまく環境を総合的に把握し行動できる感性と行動力、思考力の習得を目的とする。 【成績評価方法】 定期試験評価 70% 授業内課題評価 30%						
【課題等のフィードバック方法】 授業内で実施する小テストを返却し、解説を行う 【履修上の注意・予習・復習について】 授業開始後 20 分までは教室への入室を認めます。 欠席が 5 回以上の者は原則として定期試験の受験資格はないので注意すること。 詳しくは初回授業時に提示します。 授業中のスマートフォンの使用や私語、飲食は禁止します。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 本科目では、子どもと子どもを取り巻く環境を総合的に理解し、子ども家庭福祉の現場で活用できる知識を学ぶことができる。 【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	鑑 さやか	オリエンテーション	予習・復習の内容および方法についてはオリエンテーション時に指示する		4 時間	
2	鑑 さやか	子ども家庭福祉領域で活躍する専門職	予習：教科書を読み、専門用語等について理解しておく 復習：次回授業の最初に授業内容に係る小テストを実施するので、復習をしておくこと		4 時間	
3	鑑 さやか	少子化社会の子育て支援サービス①	予習：教科書を読み、専門用語等について理解しておく 復習：次回授業の最初に授業内容に係る小テストを実施するので、復習をしておくこと		4 時間	
4	鑑 さやか	少子化社会の子育て支援サービス②	予習：教科書を読み、専門用語等について理解しておく 復習：次回授業の最初に授業内容に係る小テストを実施するので、復習をしておくこと		4 時間	
5	鑑 さやか	ひとり親家庭に対する福祉サービス	予習：教科書を読み、専門用語等について理解しておく 復習：次回授業の最初に授業内容に係る小テストを実施するので、復習をしておくこと		4 時間	
6	鑑 さやか	障害児に対する福祉サービス	予習：教科書を読み、専門用語等について理解しておく 復習：次回授業の最初に授業内容に係る小テストを実施するので、復習をしておくこと		4 時間	
7	鑑 さやか	思春期の子どもに対する福祉サービス	予習：教科書・文献等を用いて思春期の子どもの現状や課題をを調べ理解しておく 復習：次回授業の最初に授業内容に係る小テストを実施するので、復習をしておくこと		4 時間	
8	鑑 さやか	非行少年に対する福祉サービス	予習：教科書を読み、専門用語等について理解しておく 復習：次回授業の最初に授業内容に係る小テストを実施するので、復習をしておくこと		4 時間	
9	鑑 さやか	子どもの貧困に対する福祉サービス	予習：教科書を読み、専門用語等について理解しておく 復習：次回授業の最初に授業内容に係る小テストを実施するので、復習をしておくこと		4 時間	
10	鑑 さやか	要保護児童に対する福祉サービス①	予習：教科書を読み、専門用語等について理解しておく 復習：次回授業の最初に授業内容に係る小テストを実施するので、復習をしておくこと		4 時間	
11	鑑 さやか	要保護児童に対する福祉サービス②	予習：教科書を読み、専門用語等について理解しておく 復習：次回授業の最初に授業内容に係る小テストを実施するので、復習をしておくこと		4 時間	
12	鑑 さやか	要保護児童に対する福祉サービス③	予習：教科書を読み、専門用語等について理解しておく 復習：次回授業の最初に授業内容に係る小テストを実施するので、復習をしておくこと		4 時間	
13	鑑 さやか	子ども虐待による死亡事例から学ぶ	予習：教科書・文献等を用いて子どもの虐待の現状や課題についてまとめる 復習：授業内容に係る小レポートを課す		4 時間	
14	鑑 さやか	子ども家庭福祉領域の援助の実際①～事例検討～	予習：前回まで使用した教科書・資料を再確認し理解しておく 復習：授業内容に係る小レポートを課す		4 時間	
教 科 書		最新社会福祉士養成講座 児童・家庭福祉 中央法規出版				
参 考 書		社会福祉小六法 日本子ども資料年鑑 KTC 出版 その他 必要な文献は講義の都度提示予定				
備 考		特になし				

科 目 名		高齢者支援論		担 当 者	黒沢 麻美	
科目ナンバリング		11204221120			常勤	
D	P	1,2		教 員 研 究 室	3313	
学 科（専攻）		現代社会学科（社会福祉学専攻）		配 当 年 次	2 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 高齢化の進展と人々の住まい方の変化により、高齢者夫婦のみの世帯や一人暮らしの高齢者が増加している。また介護保険の導入から19 年が経過し、介護に対する意識、介護サービスの在り方・利用の仕方、介護予防の考え方が変化している。この講義では、高齢者の生活の個性を理解し、対象者の主体性を尊重した総合的な支援の方法を学ぶことを目的としている。そのために介護保険制度を中心として、高齢者福祉サービスの内容、高齢者福祉に携わる専門職の役割、高齢者虐待への対応と予防策等、高齢者の生活を支える諸制度や社会資源について解説する。						
【課題等のフィードバック方法】 授業内あるいは次の授業で解説する。						
【履修上の注意・予習・復習について】 講義中の私語・食事・私的な携帯電話の使用は認めない。他の学生の迷惑になると判断した場合は、退室を指示する場合がある。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 要介護高齢者の生活を支える重要な社会資源である介護保険制度を理解することで、当事者および家族が支援を必要とする時の相談援助および支援計画の作成に役立てることができる。						
【実務家教員担当科目】 高齢者施設での実務経験、介護福祉士、介護支援専門員資格を取得している教員が担当						
【学習の到達目標】 介護保険制度の仕組みと運用の実態を理解し、高齢者に対する多様な生活支援のあり方の実際を知る。支援者の視点だけでなく、高齢者の視点を理解することの重要性を学ぶ。						
【成績評価方法】 定期試験 80%、課題レポート又は振り返り課題 20%						

授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	黒沢 麻美	高齢者の生活ニーズと支援（フォーマルサポート、インフォーマルサポート）	シラバスを読んで授業内容を理解する。		4 時間
2	黒沢 麻美	介護保険法の概要（背景と目的、保険制度の内容、要介護認定のプロセスなど）	予習：介護保険法について調べる。 復習：授業で学習した例示等を含めて考察する。		4 時間
3	黒沢 麻美	介護保険法における各種機関の役割（国、自治体、事業者、国保連など）	予習：介護保険法について調べる。 復習：授業で学習した例示等を含めて考察する。		4 時間
4	黒沢 麻美	介護保険サービスの内容①（居宅サービス）	予習：介護保険サービスについて調べる。 復習：授業で学習した例示等を含めて考察する。		4 時間
5	黒沢 麻美	介護保険サービスの内容②（地域密着型サービス、施設サービス）	予習：介護保険サービスについて調べる。 復習：授業で学習した例示等を含めて考察する。		4 時間
6	黒沢 麻美	地域包括支援センターの役割と活動	予習：地域包括支援センターについて調べる。 復習：授業で学習した例示等を含めて考察する。		4 時間
7	黒沢 麻美	専門職の役割と実際①（介護支援専門員、訪問介護職員、介護職員、生活相談員など）	予習：高齢者に関する専門職について調べる。 復習：授業で学習した例示等を含めて考察する。		4 時間
8	黒沢 麻美	専門職の役割と実際②（福祉用具専門相談員、介護相談員、認定審査会委員など）	予習：高齢者に関する専門職について調べる。 復習：授業で学習した例示等を含めて考察する。		4 時間
9	黒沢 麻美	職種間の連携ネットワーク	予習：職種間連携について調べる。 復習：授業で学習した例示等を含めて考察する。		4 時間
10	黒沢 麻美	認知症ケアの理解①（認知症の理解、認知症高齢者の行動の理解）	予習：認知症について調べる。 復習：授業で学習した例示等を含めて考察する。		4 時間
11	黒沢 麻美	認知症ケアの理解②（認知症ケアの理念、認知症ケアの実践）	予習：認知症について調べる。 復習：授業で学習した例示等を含めて考察する。		4 時間
12	黒沢 麻美	認知症ケアの理解③（認知症ケアの実践）	予習：認知症について調べる。 復習：授業で学習した例示等を含めて考察する。		4 時間
13	黒沢 麻美	認知症ケアの理解④（認知症ケアの実践、若年性認知症など）	予習：認知症について調べる。 復習：授業で学習した例示等を含めて考察する。		4 時間
14	黒沢 麻美	高齢者の QOL を高める環境要素（住環境の改善、福祉機器の活用）	予習：適切な住環境について調べる。 復習：授業で学習した例示等を含めて考察する。		4 時間
教 科 書		指定なし			
参 考 書		最新社会福祉士養成講座 2 高齢者福祉 最新介護福祉士養成講座 13 認知症の理解			
備 考		特になし。			

科 目 名		生涯発達心理学		担 当 者	山川 樹	
科目ナンバリング		11204221121			常勤	
D	P	1,4		教員研究室	1204	
学科（専攻）		現代社会学科（社会福祉学専攻）		配 当 年 次	2 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 乳幼児期から成人期にかけての心理的な発達を体系的に理解することを目指す。特に幼児、児童及び生徒の心身の発達過程、幼児、児童及び生徒の学習の過程について理解する。具体的には幼児、児童期における記憶及び認知の発達、社会性の発達、自己認識と他者認識の発達、学校教育との関連について学ぶ。また児童期における心理特性や、青年期における進路相談にかかわる問題などを取り上げ、支援を要する児童や生徒への相談及びカウンセリングの指導について学習する。						
【学習の到達目標】 ・胎児期から成人期後期までの発達心理学に関する基礎的な知識を獲得すること。 ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法、教育相談やカウンセリングの技法について理解すること。						
【成績評価方法】 講義後に毎回課すミニ課題の内容（評価の 40%）、期末レポート（評価の 60%）により評価する。						
【課題等のフィードバック方法】 講義に関する質問や講義中に課した課題の答えは、Google フォームで受け付ける。そして回収翌週以降の講義時間内や Google クラスルームを通じて適宜フィードバックする。						
【履修上の注意・予習・復習について】 講義中は受講者に発言を求めることもあるので、積極的な講義への参加を求める。また板書を単に書き写すだけではなく、主体的なノートテイキングを期待する。 毎回のミニ課題の提出をもって出席と見なす。5 回欠席した場合、履修放棄となる。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・人間の心理発達についての学習を通して、自身の過去・現在・未来に対する理解が深まる。 ・各発達段階に基づいた課題や問題、対処方法について学習することができる。						
【実務家教員担当科目】 該当しない						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	山川 樹	オリエンテーション（到達目標、学習内容、学習評価等）	シラバスを熟読し、発達とは何か考えてみる。			4 時間
2	山川 樹	発達心理学とは	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。			4 時間
3	山川 樹	発達の原理・心身の発達	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。			4 時間
4	山川 樹	胎児期・乳児期の発達	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。			4 時間
5	山川 樹	幼児・児童の発達と学習	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。			4 時間
6	山川 樹	幼児・児童の知性・認知の発達	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。			4 時間
7	山川 樹	幼児・児童及び生徒の社会性の発達	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。			4 時間
8	山川 樹	発達障害の理解	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。			4 時間
9	山川 樹	発達障害への教育支援	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。			4 時間
10	山川 樹	教育相談及びカウンセリング	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。			4 時間
11	山川 樹	生徒・青年期の発達	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。			4 時間
12	山川 樹	生徒・青年期の相談と指導	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。			4 時間
13	山川 樹	成人期・老年期の発達	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。			4 時間
14	山川 樹	生涯発達心理学の展望と課題	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。			4 時間
教 科 書		適宜資料を配付				
参 考 書		講義中に紹介する				
備 考		本科目はスクールソーシャルワーク実習（4 年次通年）を履修するために予め単位を取得しておく必要がある科目です。 本科目はスクールソーシャルワーク教育課程修了証の取得指定科目の 1 つです。				

科 目 名		健康心理学			担 当 者	山川 樹
科目ナンバリング		11204221122				常勤
D P		1,4			教員研究室	1204
学科（専攻）		現代社会学科（社会福祉学専攻）			配 当 年 次	2 年次・後期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 ☒ 自主学習支援 □該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 「病は気から」という言葉があるが、心の問題は身体的な健康にどのような影響を与えるだろうか。この科目では、これまでの心理学的な研究成果に基づきながら心と身体の相互の影響関係について考えていく。 【学習の到達目標】 現代社会における多様な健康観を理解する。 人間の身体的健康と心理学的要因との関連性を理解する。 健康リスク解消と疾病の予防における心理学の役割を理解する。 【成績評価方法】 講義後に毎回課すミニ課題の内容（評価の 40%）、期末レポート（評価の 60%）により評価する。 【課題等のフィードバック方法】 講義に関する質問や講義中に課した課題の答えは、Google フォームで受け付ける。そして回収翌週以降の講義時間内や Google クラスルームを通じて適宜フィードバックする。 【履修上の注意・予習・復習について】 講義中は受講者に発言を求めることもあるので、積極的な講義への参加を求める。また板書を単に書き写すだけではなく、主体的なノートテイキングを期待する。 毎回のミニ課題の提出をもって出席と見なす。5 回欠席した場合、履修放棄となる。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 健康リスクは日常生活のあらゆる場面に潜んでいる。本講義を受講することによって、心理学的な健康リスクに関する理解が深まるのはもちろん、様々な健康リスクの解消と疾病の予防における心理学的アプローチについて学ぶことができる。 【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	山川 樹	科目ガイダンス（健康心理学とは）	予習：本科目のシラバスを事前に読了すること。			4 時間
2	山川 樹	健康リスクとエビデンス	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。			4 時間
3	山川 樹	食生活と健康	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。			4 時間
4	山川 樹	運動と健康	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。			4 時間
5	山川 樹	睡眠と健康	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。			4 時間
6	山川 樹	健康リスクとしての嗜癖	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。			4 時間
7	山川 樹	ストレスの基礎理論	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。			4 時間
8	山川 樹	ストレッサーとコーピング	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。			4 時間
9	山川 樹	仕事と健康	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。			4 時間
10	山川 樹	健康の性差	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。			4 時間
11	山川 樹	高齢者の健康	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。			4 時間
12	山川 樹	病者行動と病者へのアプローチ	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。			4 時間
13	山川 樹	災害時に必要な支援	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。			4 時間
14	山川 樹	精神医学的障害	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。			4 時間
教 科 書		指定なし				
参 考 書		講義時間中に適宜紹介する				
備 考		特になし				

科 目 名	社会心理学			担 当 者	山川 樹
科目ナンバリング	11204321123				常勤
D P	1,3			教員研究室	1204
学科（専攻）	現代社会学科（社会福祉学専攻）			配 当 年 次	3 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 近年、社会（social）という言葉への注目が高まっており、もはや我々の生活は他者や社会との関わりを排して語ることはできない。社会心理学は「個人は他者からどのように影響され、また、他者の存在をどのように解釈し理解するのか」という問題を検討する学問である。本科目では、そうした探求において発展してきた社会心理学領域における諸理論について学ぶ。					
【学習の到達目標】 社会心理学領域における知見を受動的に学習するだけでなく、各履修生が自身の生活状況を振り返って、本科目での学習成果を還元できるような能動的な学びを得ることを目標とする。					
【成績評価方法】 講義後に毎回課すミニ課題の内容（評価の 40%）、期末レポート（評価の 60%）により評価する。					
【課題等のフィードバック方法】 講義に関する質問や講義中に課した課題の答えは、Google フォームで受け付ける。そして回収翌週以降の講義時間内や Google クラスルームを通じて適宜フィードバックする。					
【履修上の注意・予習・復習について】 講義中は受講者に発言を求めることもあるので、積極的な講義への参加を求める。また板書を単に書き写すだけではなく、主体的なノートテイキングを期待する。 毎回のミニ課題の提出をもって出席と見なす。5 回欠席した場合、履修放棄となる。					
【受講して得られる効果・メリット、その他】 社会心理学は実際に起きた事件や日常的な出来事の背景に存在する心理過程を分析する中で発展してきた。身近に起こる出来事を心理学的に分析する観点を身につけることは、社会心理学を受講する大きなメリットである。					
【実務家教員担当科目】 該当しない					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	山川 樹	社会心理学とは	予習：本科目のシラバスを事前に読了すること。		4 時間
2	山川 樹	服従傾向の顕在化	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。		4 時間
3	山川 樹	傍観者効果	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。		4 時間
4	山川 樹	認知的不協和	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。		4 時間
5	山川 樹	説得の方法と原理	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。		4 時間
6	山川 樹	ステレオタイプと認知バイアス	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。		4 時間
7	山川 樹	パーソナリティと自己呈示	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。		4 時間
8	山川 樹	後悔と反実思考	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。		4 時間
9	山川 樹	楽観性とポジティブ・イリュージョン	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。		4 時間
10	山川 樹	自己開示の機能	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。		4 時間
11	山川 樹	文化心理学的アプローチ	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。		4 時間
12	山川 樹	マスコミの影響	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。		4 時間
13	山川 樹	インターネット媒体を通じたコミュニケーション	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。		4 時間
14	山川 樹	コロナ禍を社会心理学から視る	予習：事前に資料を一読する。 復習：資料と自身のノートを元に講義内容を復習する。		4 時間
教 科 書		指定なし			
参 考 書		講義時間中に適宜紹介する			
備 考		特になし			

科 目 名		コミュニティ心理学		担 当 者	○野崎 瑞樹・山川 樹	
科目ナンバリング		11204321124			常勤	
D P		2,4		教員研究室	3309	
学科（専攻）		現代社会学科（社会福祉学専攻）		配 当 年 次	3 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☑該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 社会学、社会福祉学、心理学と重なり合うコミュニティ心理学を学ぶ。コミュニティ心理学は、個人とコミュニティ、社会との関係に焦点を置き、社会における生活の質を理解し、向上させる方策を模索する学問である。本講義ではコミュニティ心理学の概要および具体的な事例について解説する。				【課題等のフィードバック方法】 課題等は次の授業で解説し個別にコメントを加えて返却する。		
【学習の到達目標】 コミュニティ心理学の概要を理解し、社会学、社会福祉学、心理学の接点について自分なりの視点から考察することができる。学んだ内容について身近なコミュニティに引き付けて、応用的に考えることができる。				【履修上の注意・予習・復習について】 講義時間内外に見学、情報収集等のフィールドワークを実施する予定である。積極的参加を求める。		
【成績評価方法】 前半レポート（40%）、後半レポート（40%）、授業への参加態度（20%）で総合的に評価する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 社会学、社会福祉学どちらの専攻にも関連する内容であるため、各専攻の視点や意見を交えてながら相互に考察を深めることができる。		
【実務家教員担当科目】 NPO 法人での勤務経験あり						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	野崎 瑞樹 山川 樹	オリエンテーション 科目の概要	シラバスを読んでくる			4 時間
2	山川 樹	コミュニティ心理学とは何か	予習：資料を読んでくる 復習：授業内容と合わせて考察する			4 時間
3	山川 樹	コミュニティ心理学の歴史的 背景・基本的理論	予習：資料を読んでくる 復習：授業内容と合わせて考察する			4 時間
4	山川 樹	コミュニティ心理学の研究法	予習：資料を読んでくる 復習：授業内容と合わせて考察する			4 時間
5	山川 樹	コミュニティ・ケア	予習：資料を読んでくる 復習：授業内容と合わせて考察する			4 時間
6	山川 樹	地域メンタルヘルス	予習：資料を読んでくる 復習：授業内容と合わせて考察する			4 時間
7	野崎 瑞樹	ソーシャルサポート	予習：資料を読んでくる 復習：授業内容と合わせて考察する			4 時間
8	野崎 瑞樹	ソーシャルネットワーク①	予習：資料を読んでくる 復習：授業内容と合わせて考察する			4 時間
9	野崎 瑞樹	ソーシャルネットワーク②	予習：資料を読んでくる 復習：授業内容と合わせて考察する			4 時間
10	野崎 瑞樹	コミュニティ感覚①	予習：資料を読んでくる 復習：授業内容と合わせて考察する			4 時間
11	野崎 瑞樹	コミュニティ感覚②	予習：資料を読んでくる 復習：授業内容と合わせて考察する			4 時間
12	野崎 瑞樹	地域コミュニティ	予習：資料を読んでくる 復習：授業内容と合わせて考察する			4 時間
13	野崎 瑞樹	ハンセン病療養所のコミュニティ	予習：資料を読んでくる 復習：授業内容と合わせて考察する			4 時間
14	野崎 瑞樹 山川 樹	まとめ・総括	予習：資料を読んでくる 復習：授業内容と合わせて考察する			4 時間
教 科 書		指定なし				
参 考 書		随時紹介する				
備 考		特になし				

科 目 名	レクリエーション実技Ⅰ			担 当 者	○森田 清美・犬塚 剛	
科目ナンバリング	11204221125				常勤	
D P	3,4			教 員 研 究 室	3303	
学 科（専攻）	現代社会学科（社会福祉学専攻）			配 当 年 次	2 年次・前期	
授 業 形 式	実技	授 業 時 間	45 時間	単 位	選択 1 単位	
アクティブ・ラーニング	□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし					
I C T 活 用	□双方向型授業 □自主学習支援 ☑該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 本授業は、様々なレクリエーション活動をとおして、支援者として必要なコミュニケーション技術や対象・目的に合わせたレクリエーション素材の選択とレクリエーションプログラムを指導できるようになるための基礎実技を学修する。本授業は「レクリエーション・インストラクター」資格の学習内容に基づき、レクリエーション実技の指導方法について学修する。 【学習の到達目標】 ・体験したレクリエーション活動について面白さや楽しさ、効果について気づく。 ・個人や集団に合わせたレクリエーション活動のアレンジ方法を理解し指導できる。 ・アイスブレーキングのプログラムの指導できる。 【成績評価方法】 課題 30%、実技指導試験 10%、事業企画と支援（個別・集団）40%、最終レポート 20%				【課題等のフィードバック方法】 専用ノートを準備し、資料や振り返りを書く。毎回授業時に前授業の振り返りを行い、授業終了後に質問を受け付け回答する。 【履修上の注意・予習・復習について】 ・1 年次後期の「レクリエーション理論」を受講した者が履修することが望ましい。また、後期の「レクリエーション実技Ⅱ」も授業することが望ましい。 ・実技科目のため、運動できる服装、室内シューズを準備すること。 ・レク実技Ⅰ専用ノートを準備すること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 本授業は公益社団法人日本レクリエーション協会の「レクリエーション・インストラクター」資格取得のための必修科目である。 【実務家教員担当科目】 該当なし		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	森田 清美 犬塚 剛	オリエンテーション、アイス ブレーキング	実技ノートを作成し、振り返りをまとめる			－
2	犬塚 剛	アイスブレーキング	実技ノートを作成し、振り返りをまとめる			－
3	犬塚 剛	アイスブレーキング実技指導 の基礎と企画立案 ニュースポーツ体験①ピック バトミントン	アイスブレーキングの実技ノートを作成し、振り返り学習を行う			－
4	犬塚 剛 森田 清美	アイスブレーキングの指導実 習（一人 10 分）	実技ノートを作成し、振り返り学習を行う			－
5	犬塚 剛	ニュースポーツ体験②イン ディアカ・ネットパスラリー	実技ノートを作成し、振り返り学習を行う			－
6	犬塚 剛	ニュースポーツ体験③キン ボール・プラズマカー	実技ノートを作成し、振り返り学習を行う			－
7	森田 清美 犬塚 剛	ニュースポーツ体験④ペタン ク、ターゲットパドゴルフ	実技ノートを作成し、振り返り学習を行う			－
8	森田 清美	ニュースポーツ体験⑤フロア ボール・スライドボード	実技ノートを作成し、振り返り学習を行う			－
9	森田 清美	ニュースポーツ体験⑥スラッ クライン・バルーン	実技ノートを作成し、振り返り学習を行う			－
10	森田 清美 犬塚 剛	ニュースポーツ体験⑦シャフ ルボード・ユニカール	実技ノートを作成し、振り返り学習を行う			－
11	森田 清美 犬塚 剛	レクリエーション事業と支援 の方法	役割分担で与えられたレクリエーション活動について段階的なアレンジを考えレポートする			－
12	森田 清美 犬塚 剛	目的に合わせた支援・対象者 に応じた支援	事前課題で与えられたレポートを作成する			－
13	森田 清美 犬塚 剛	レクリエーション行事のプロ グラム作成	事前課題で与えられたレポートを修正し、完成させる			－
14	森田 清美 犬塚 剛	レクリエーション行事の実践・ 振り返り	レクリエーション行事の実践について個人・全体の評価を振り返り、レポートにまとめ、発表の準備をする。			－
教 科 書	「楽しさを通した心の元気づくり レクリエーション支援の理論と方法」日本レクリエーション協会 （この教科書はレクリエーション理論、レクリエーション実技Ⅰ・Ⅱの3科目で使用する）					
参 考 書	レクリエーション支援の基礎					
備 考	問い合わせ担当：森田清美					

科 目 名	レクリエーション実技Ⅱ			担 当 者	○森田 清美・犬塚 剛
科目ナンバリング	11204221126				常勤
D P	3,4			教 員 研 究 室	3303
学 科（専攻）	現代社会学科（社会福祉学専攻）			配 当 年 次	2 年次・後期
授 業 形 式	実技	授 業 時 間	45 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 本授業は様々な場面でのレクリエーション事業の展開方法について実践を通して体験する。また、場面に応じたレクリエーション活動のアレンジ方法について学習し、実際にレクリエーション支援（指導）を行う。「レクリエーション実技Ⅰ」と同様、学校の授業やイベント、地域レクリエーションなどで実践能力を身につける。					
【課題等のフィードバック方法】 専用ノートを準備し、資料や振り返りを書く。毎回授業時に前授業の振り返りを行い、授業終了後に質問を受け付け回答する。					
【学習の到達目標】 ・レクリエーション事業での意義や価値を理解する。 ・レクリエーションプログラムを作成し、それに必要な目的、時間配分、素材の選択、手順、相互作用などの理解ができ、計画通りに支援（指導）することができる。 ・レクリエーションプログラム実施後の評価の視点を習得する。					
【履修上の注意・予習・復習について】 1 年次後期の「レクリエーション理論」、2 年次前期の「レクリエーション実技Ⅰ」を受講した者が履修することが望ましい。実技科目のため、運動できる服装、室内シューズを準備すること。初回の授業から体育館で実施する。					
【受講して得られる効果・メリット、その他】 本科目は、（財）日本レクリエーション協会公認レクリエーション・インストラクター資格取得のための必修科目である。					
【成績評価方法】 課題 30%、実技指導試験 50%、最終レポート 20%					
【実務家教員担当科目】 該当なし					

授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習	学修時間	
1	森田 清美 犬塚 剛	ガイダンス	授業内容を理解し、HP の閲覧や登録など必要な手続きをおこなう	－	
2	森田 清美 犬塚 剛	ニュースポーツ体験 モルック、クップ	実技ノートを作成し、振り返りをまとめる	－	
3	森田 清美 犬塚 剛	レクリエーション事業計画①（レクリエーション課程認定校交流会「交楽祭」）	実技ノートを作成し、振り返りをまとめる	－	
4	森田 清美 犬塚 剛	レクリエーション事業計画②（ウォークラリー体験）	実技ノートを作成し、振り返りをまとめる	－	
5	森田 清美 犬塚 剛	指導演習（ウォークラリーコマ図作成）	実技ノートを作成し、振り返りをまとめる	－	
6	森田 清美 犬塚 剛	指導演習（ウォークラリーコマ図作成）	実技ノートを作成し、振り返りをまとめる	－	
7	森田 清美 犬塚 剛	ニュースポーツ体験 キンボール	実技ノートを作成し、振り返りをまとめる	－	
8	森田 清美 犬塚 剛	伝承遊び体験	実技ノートを作成し、振り返りをまとめる	－	
9	森田 清美 犬塚 剛	レクリエーション支援プログラム作成①	役割分担で与えられたレクリエーション活動についてプログラムを作成する	－	
10	森田 清美 犬塚 剛	レクリエーション支援プログラム作成②	作成したプログラムが、段階的な展開方法になっているか確認する。	－	
11	森田 清美 犬塚 剛	レクリエーション支援プログラム試験（グループ）①	他グループの発表と自分のグループの発表について振り返り、違いを理解し、企画内容、指導方法について評価行う。	－	
12	森田 清美 犬塚 剛	レクリエーション支援プログラム試験（グループ）②	他グループの発表と自分のグループの発表について振り返り、違いを理解し、企画内容、指導方法について評価行う。	－	
13	森田 清美 犬塚 剛	グループごとに実技試験についてのディスカッション	他グループの発表と自分のグループの発表について振り返り、違いを理解し、企画内容、指導方法について評価行う。	－	
14	森田 清美 犬塚 剛	まとめ	レクリエーション企画の実技試験について個人・グループの評価を振り返りレポートを作成する。	－	
教 科 書	「楽しさを通した心の元気づくり レクリエーション支援の理論と方法」日本レクリエーション協会（この教科書はレクリエーション理論、レクリエーション実技Ⅰ・Ⅱの3科目で使用する）				
参 考 書	適宜プリント、資料を配布する。				
備 考	なし				

科 目 名	レクリエーション現場実習			担 当 者	○森田 清美・犬塚 剛	
科目ナンバリング	11204221127				常勤	
D P	2,4			教員研究室	3303	
学科（専攻）	現代社会学科（社会福祉学専攻）			配 当 年 次	2 年次・通年	
授 業 形 式	実習	授 業 時 間	45 時間	単 位	選択 1 単位	
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし					
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 各都道府県、市区町村レク協会の活動の一端を、実際に事業に参加することで体験し、地域におけるイベントでのレクリエーション・インストラクターの活動やイベントのプロセスを理解する。 参加形式は、一般参加者とともにイベント参加をする「事業参加」と、スタッフとしてイベント運営に関わる「スタッフ参加」の2種類がある。				【課題等のフィードバック方法】 学生は現場実習後に指定レポート用紙に参加企画名、自分の役割と行動、気づきや反省等を記入し提出する。 担当教員がレポート添削後、個人面談で振り返りを行う。		
【学習の到達目標】 一般参加者を対象とした各種レクリエーションイベントの企画・運営ができるようになる。				【履修上の注意・予習・復習について】 詳細に関してはレクリエーション講義・実技内において説明を行います。 classroom に必ず登録してください。		
【成績評価方法】 レクリエーション現場実習習得の要件をすべて満たすことによって単位の認定とする。 イベント参加時の取り組み 50% レポート 50%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 本科目は、(財)日本レクリエーション協会公認 レクリエーション・インストラクター資格取得のための必修科目である。		
				【実務家教員担当科目】 該当なし		
授 業 計 画						
本事業では「必修参加」と「選択参加」がある。以下の要件を満たすように計画をして選択すること。						
【必修参加】 ①夏季野外活動実習 (病気、けが等の事情により履修ができない場合は要相談) ②交楽祭（学外でのレクリエーション事業の体験）						
【選択参加】1つ選択 ①夏季野外活動実習指導型＋学外レクリエーション事業参加1～2回程度 ②交楽祭実行委員の運営体験＋学外レクリエーション事業参加1～2回程度 ③学外レクリエーション事業3回程度参加（学内も一部含んでよい）						
■学外レクリエーション事業とは 各都道府県レクリエーション協会が主催するレクイベント（ニュースポーツセミナー、市民スポ・レクフェスティバル等）に事業参加（一般参加者としての参加）、あるいは指導参加（指導スタッフとしての参加）することである ・実施される事業については、県協会の事業が決定次第、履修者に通知する。 ・参加後は所定の書式のレポートを提出すること。 ・実習時間によってはカウント回数が増減する場合がある。						
教 科 書	「楽しさを通じた心の元気づくり レクリエーション支援の理論と方法」日本レクリエーション協会（レクリエーション理論、レクリエーション実技Ⅰ・Ⅱで購入した教科書を活用する）					
参 考 書	・適宜紹介する					
備 考	・1年間で実習回数及び時間数が満たない場合は翌年も履修することができます。翌年も時間割を確認して class コードから登録してください。 ・資格申請等の説明会には必ず出席し詳細を確認すること（4年後期10月頃で掲示版で確認すること）。					

科 目 名		介護予防論		担 当 者	○犬塚 剛・吉田 裕人 戸田 孝史・未定
科目ナンバリング		11204321128			常勤
D	P	1,2		教員 研 究 室	1304
学 科（専攻）		現代社会学科（社会福祉学専攻）		配 当 年 次	3 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	選 択 2 単 位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし			
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 平成 18 年度に我が国の介護保険制度は予防重視型に改正され、新たに介護予防事業が各自治体で実施されるようになった。要支援・要介護状態になっていない高齢者へは、地域支援事業が展開され、その事業も、要支援・要介護ハイリスク群である虚弱高齢者に対する特定高齢者施策と、それに至らない一般高齢者施策の 2 つから構成されている。さらに、要支援 1・要支援 2 の高齢者には、介護保険から新予防給付が行われている。本講義では、こうした制度の現況を整理し、厚生労働省が提案する介護予防事業マニュアルの内容について学習する。また、各自治体での先進事例や問題点に触れることにより、真の介護予防につなげていくための介護予防事業展開のあり方や評価のあり方について解説する。					【課題等のフィードバック方法】 毎回、ミニッツペーパーを課す。ミニッツペーパーの質疑について次の授業で解説を行う。中間と最終講義において「振り返り」レポートの提出を課す。
【学習の到達目標】 我が国の介護予防事業について理解し、実際に事業展開を図るための企画・立案・評価が実施できるための基本的な知識とノウハウを習得する。					【履修上の注意・予習・復習について】 授業中の私語・飲食・携帯電話操作は厳禁 出欠確認（点呼）終了後の入室は遅刻 授業前に予習（事前配布プリント参照）・授業後に復習（配布プリント・ノート参照） 予習・復習がなされているか授業中に質問をする。 規定の出席日数に到達しない者は評価対象外とする。
【成績評価方法】 毎回の小レポート 20% 最終レポート 80%					【受講して得られる効果・メリット、その他】 近年、高齢期の健康づくりにおいて重要性の高まる介護予防に関する法制度やサービスの内容を理解し、具体的に介護予防事業を展開する上での基礎的な理論や知識を習得できる。
【実務家教員担当科目】 該当なし					

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	犬塚 剛	介護予防の定義と意義	介護予防とは？その歴史と背景など	4 時間
2	吉田 裕人	二次予防事業の対象者把握事業	二次予防事業とは？その事業内容など	4 時間
3	吉田 裕人	二次予防事業対象者の介護予防ケアマネジメント	介護予防・日常生活支援総合事業のサービス利用の流れなど	4 時間
4	吉田 裕人	介護予防事業の先進事例と複合プログラム	区市町村が実践している介護予防事業の先進事例の内容など	4 時間
5	吉田 裕人	事業評価と予防給付の流れ	介護予防事業の効果評価のための指標、介護保険における予防給付の内容など	4 時間
6	犬塚 剛	栄養改善マニュアル	介護予防における栄養指導のアプローチ方法や高齢期に気をつける食生活など	4 時間
7	犬塚 剛	高齢期の食と栄養	地域在住高齢者の栄養や栄養素の分析から見る低栄養を予防する食生活など	4 時間
8	犬塚 剛	地域在住高齢者の健康の実態	登米市の高齢者実態調査からのレポートの紹介	4 時間
9	犬塚 剛	運動器の機能向上マニュアル	高齢期の運動器・身体機能・体力など	4 時間
10	大竹 伸治	高齢期のうつ・メンタルヘルス	高齢期のうつ予防など	4 時間
11	大竹 伸治	高齢期の閉じこもり	閉じこもりの弊害など	4 時間
12	戸田 孝史	高齢期の口腔機能	口腔機能の重要性など	4 時間
13	戸田 孝史	高齢期の口腔機能	咀嚼、嚥下など口腔機能の低下にみる実態と予防の方法など	4 時間
14	犬塚 剛	まとめ	介護予防論の授業を振り返る	4 時間
教 科 書		適宜プリントを配布する。		
参 考 書		「介護予防事業マニュアル」厚生労働省 HP 「介護予防のねらいと戦略」「介護予防実践事例集～介護予防事業の一層の推進を目指して～」社会保険研究所 「健康長寿新ガイドラインエビデンスブック」社会保険出版社		
備 考		問い合わせ教員：犬塚剛		

科 目 名		介護予防実習		担 当 者	○犬塚 剛・吉田 裕人 森田 清美・戸田 孝史 未定	
科目ナンバリング		11204321129			常勤	
D P		3,4		教員研究室	1304	
学科（専攻）		現代社会学科（社会福祉学専攻）		配 当 年 次	3 年次・後期	
授 業 形 式		実習	授 業 時 間	45 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 厚生労働省の介護予防事業マニュアルの6つのプログラム（運動器の機能向上、低栄養予防、口腔ケア、閉じこもり予防、うつ予防、認知症予防）の基本的な内容を学習し、国見介護予防大学での地域高齢者を対象とした運動教室でのグループワークや高齢者による介護予防自主活動の見学等を通じて、介護予防プログラムの指導方法を習得する。 【学習の到達目標】 介護予防事業プログラムの基本的な内容を理解し、実際に地域高齢者に指導できるノウハウを習得する。 【成績評価方法】 国見介護予防大学の事前準備や開催期間、事後を含めて担当役割への対応 60% 最終レポート 40% 【課題等のフィードバック方法】 開催期間中は、ふり返りを行う。中間と最終講義において「振り返り」レポートの提出を課す 【履修上の注意・予習・復習について】 授業中の私語・飲食・携帯電話操作は厳禁 出欠確認（点呼）終了後の入室は遅刻 授業前に予習（事前配布プリント参照）・授業後に復習（配布プリント・ノート参照） 予習・復習がなされているか授業中に質問をする。 なお、実際に地域高齢者を対象とした介護予防教室を開催し、運営のノウハウを学習する。したがって、服装や言葉遣い等には細心の注意を払うこと。 規定の出席日数に到達しない者は評価対象外とする。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 この授業を通じて、具体的な介護予防プログラム指導のノウハウを習得できる。 【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	犬塚 剛・森田 清美・吉田 裕人	介護予防事業実施上の留意点の理解	対象者（地域高齢者）への配慮・言葉づかいなど		－	
2	犬塚 剛・森田 清美・吉田 裕人	介護予防事業プログラムの実際 1	国見介護予防大学のふり返り		－	
3	犬塚 剛・森田 清美・吉田 裕人	介護予防事業プログラムの実際 2	運動器の機能向上栄養改善・口腔機能向上		－	
4	犬塚 剛・森田 清美・吉田 裕人	介護予防事業プログラムの実際 3	閉じこもり・認知機能低下・うつ予防・支援		－	
5	犬塚 剛・森田 清美・吉田 裕人	介護予防事業プログラムの評価方法	基本チェックリストと体力測定評価		－	
6	犬塚 剛・森田 清美・吉田 裕人	介護予防事業プログラム作成方法	事後評価のための指標確認		－	
7	犬塚 剛・森田 清美・吉田 裕人	介護予防事業プログラムの指導方法と実践 1	会場設営と体力測定評価方法の確認		－	
8	犬塚 剛・森田 清美・吉田 裕人	介護予防事業プログラムの指導方法と実践 2	プログラム実践指導方法の確認		－	
9	犬塚 剛・森田 清美・吉田 裕人	地域高齢者を対象とした介護予防事業プログラム指導の実際 1	体力測定評価		－	
10	犬塚 剛・森田 清美・吉田 裕人	地域高齢者を対象とした介護予防事業プログラム指導の実際 2	運動器の機能向上		－	
11	犬塚 剛・森田 清美・吉田 裕人	地域高齢者を対象とした介護予防事業プログラム指導の実際 3	栄養改善		－	
12	犬塚 剛・森田 清美・吉田 裕人・戸田 孝史	地域高齢者を対象とした介護予防事業プログラム指導の実際 4	口腔機能向上		－	
13	犬塚 剛・森田 清美・吉田 裕人・大竹 伸治	地域高齢者を対象とした介護予防事業プログラム指導の実際 5	うつ予防・認知機能低下予防		－	
14	犬塚 剛・森田 清美・吉田 裕人	介護予防事業プログラム実施の振り返りと反省	対象者（地域高齢者）への接遇における反省点など		－	
教 科 書		適宜プリントを配布する。				
参 考 書		「介護予防事業マニュアル」厚生労働省 HP 「介護予防のねらいと戦略」「介護予防実践事例集～介護予防事業の一層の推進を目指して～」社会保険研究所 「健康長寿新ガイドラインエビデンスブック」社会保険出版社				
備 考		問い合わせ教員：犬塚剛・森田清美				

科 目 名		非営利組織論		担 当 者	桃生 和成	
科目ナンバリング		11204321130			非常勤	
D P		1,2		教 員 研 究 室	非常勤講師室	
学 科（専攻）		現代社会学科（社会福祉学専攻）		配 当 年 次	3 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 特定非営利活動促進法（NPO 法）が施行されて 25 年以上が経過した。社会情勢が激しく変化する中、福祉・環境、人権・ジェンダー、教育、まちづくり、文化・芸術等さまざまな分野における社会課題の解決に取り組む非営利組織（NPO）への関心が高まっている。本講義では、非営利組織に関する基本的な知識、組織の仕組み、特徴、マネジメント、社会的意義、SDGs との関係性、他セクターとの協働等について、具体的な事例をや最新の動向を踏まえながら包括的に学ぶ。授業は、講義を中心に小レポートやワーク等を加えた構成となる。 【学習の到達目標】 ・非営利組織の仕組み、特徴、マネジメント等について、理解し説明ができる。 ・非営利組織の社会的な意義について、理解し説明ができる。 ・非営利組織の最新の動向について、理解し説明ができる。 【成績評価方法】 レポート（最終）60%、小テスト（毎回）40% 【課題等のフィードバック方法】 講義内で出た質問や意見については、講義内にてできるだけ対応する。対応できない場合は、次回以降講義にて対応する。小レポートは次回の講義内でフィードバックを行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 ・15 分以上の遅刻は欠席扱いとする場合がある。 ・講義中は積極的に質問や意見をする。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・本講義を通して、社会課題の解決手法を学び、実生活や実社会でその知識とスキルを応用して活かすことができる。 ・企業や行政に加え、キャリア形成の新たな選択肢として非営利組織を位置づけ、可能性を広げることができる。 【実務家教員担当科目】 中間支援組織 NPO に長年勤務し現在、非営利組織の代表を務める教員が、その経験を活かし、非営利組織の基本的な知識から専門的なノウハウまで具体的な事例を交えながら講義を行う。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	桃生 和成	ガイダンス	10 団体程度の NPO について、活動内容について調べまとめておく。		4 時間	
2	桃生 和成	非営利組織とは（基礎）①	講義内で配布した資料の該当部分について A4 用紙 1 枚程度のレポートにまとめる。		4 時間	
3	桃生 和成	非営利組織とは（基礎）②	講義内で配布した資料の該当部分について A4 用紙 1 枚程度のレポートにまとめる。		4 時間	
4	桃生 和成	NPO のマネジメント①	講義内で配布した資料の該当部分について A4 用紙 1 枚程度のレポートにまとめる。		4 時間	
5	桃生 和成	NPO のマネジメント②	講義内で配布した資料の該当部分について A4 用紙 1 枚程度のレポートにまとめる。		4 時間	
6	桃生 和成	NPO と中間支援組織	講義内で配布した資料の該当部分について A4 用紙 1 枚程度のレポートにまとめる。		4 時間	
7	桃生 和成	NPO と協働・マルチパートナーシップ	講義内で配布した資料の該当部分について A4 用紙 1 枚程度のレポートにまとめる。		4 時間	
8	桃生 和成	NPO と SDGs	講義内で配布した資料の該当部分について A4 用紙 1 枚程度のレポートにまとめる。		4 時間	
9	桃生 和成	NPO 事例分析①	講義内で配布した資料の該当部分について A4 用紙 1 枚程度のレポートにまとめる。		4 時間	
10	桃生 和成	NPO 事例分析②	講義内で配布した資料の該当部分について A4 用紙 1 枚程度のレポートにまとめる。		4 時間	
11	桃生 和成	NPO 事例分析③	講義内で配布した資料の該当部分について A4 用紙 1 枚程度のレポートにまとめる。		4 時間	
12	桃生 和成	NPO の最新動向	講義内で配布した資料の該当部分について A4 用紙 1 枚程度のレポートにまとめる。		4 時間	
13	桃生 和成	NPO のつくり方	講義内で配布した資料の該当部分について A4 用紙 1 枚程度のレポートにまとめる。		4 時間	
14	桃生 和成	まとめ	講義内で配布した資料の該当部分について A4 用紙 1 枚程度のレポートにまとめる。		4 時間	
教 科 書		なし				
参 考 書		「一夜でわかる NPO のつくり方」加藤哲夫（主婦の友社） 「テキストブック NPO」雨森孝悦（東洋経済新聞社） 「はじめての NPO 論」澤村明ほか（有斐閣）				
備 考		なし				

科 目 名	防災の社会学			担 当 者	磯崎 匡
科目ナンバリング	11204321131				非常勤
D P	3,4			教 員 研 究 室	非常勤講師室
学 科（専攻）	現代社会学科（社会福祉学専攻）			配 当 年 次	3 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 災害や防災を研究対象とする社会学は、その対象の広範さゆえに全体像を把握することが難しい。本授業では防災の社会学が対象とする領域を広く全般的に概観して、昨今の防災の社会学が問題としている課題を明らかにする。 【学習の到達目標】 1. 防災の社会学の基本的な考え方を理解できる。 2. それをもとに現在の被災地が抱える課題について考察することができる。 【成績評価方法】 授業内課題 40%、最終レポート 60%。 レポートの評価基準は初回授業で説明する。 【課題等のフィードバック方法】 講義終了後、web システム上で質問を受け付ける。 授業内課題は次回授業の冒頭で解説する。 【履修上の注意・予習・復習について】 初回授業は必ず出席してください。 出席できない場合、必ず事前に連絡してください。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 防災の社会学に関する考え方を習得し、考察することで、今後の災害に対する備えとなることができる。 【実務家教員担当科目】 該当なし					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	磯崎 匡	防災の社会学の射程	授業中に説明する		4 時間
2	磯崎 匡	災害の歴史と災害研究 1	授業中に説明する		4 時間
3	磯崎 匡	災害の歴史と災害研究 2	授業中に説明する		4 時間
4	磯崎 匡	防災の社会学の理論 1	授業中に説明する		4 時間
5	磯崎 匡	防災の社会学の理論 2	授業中に説明する		4 時間
6	磯崎 匡	防災と地域	授業中に説明する		4 時間
7	磯崎 匡	防災と都市	授業中に説明する		4 時間
8	磯崎 匡	防災と福祉 1	授業中に説明する		4 時間
9	磯崎 匡	防災と福祉 2	授業中に説明する		4 時間
10	磯崎 匡	防災と環境	授業中に説明する		4 時間
11	磯崎 匡	防災と市民活動	授業中に説明する		4 時間
12	磯崎 匡	防災と教育	授業中に説明する		4 時間
13	磯崎 匡	防災と記憶	授業中に説明する		4 時間
14	磯崎 匡	防災とリスク	授業中に説明する		4 時間
教 科 書	特に指定しない。必要に応じて授業中に適宜資料を紹介する。				
参 考 書	特に指定しない。必要に応じて授業中に適宜資料を紹介する。				
備 考	該当なし				

科 目 名		復興のまちづくり		担 当 者	齋藤 雅哉	
科目ナンバリング		1124421132			常勤	
D	P	1,2		教員研究室	3306研究室	
学科（専攻）		現代社会学科（社会福祉学専攻）		配 当 年 次	3 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 この講義は、「災害」「復興」などのキーコンセプトについて理解を深めたいうえで、過去の大規模災害において、復興が誰によって、どのように成し遂げられてきたのかを、ハード・ソフト双方の観点から考えることを目的とします。そのうえで、将来の大規模災害に向けて何をすべきか、望ましい復興まちづくりのあり方とはどのようなものか、といった問いについて考えていきます。						【課題等のフィードバック方法】 講義の終わりにリアクションペーパーを配布し、質問や感想、意見などを記入してもらいます。翌週の講義の冒頭で回答・解説等を行います。
【学習の到達目標】 1. 「復興」という理念、概念の多義性について理解できる。 2. 災害復興におけるまちづくりの意義やもたらしうる影響を理解し、説明できる。 3. 復興に携わるさまざまな主体の役割について、説明できる。 4. 将来の災害における望ましい復興まちづくりのあり方について、自分の意見を述べるができる。						【履修上の注意・予習・復習について】 災害現場の映像や写真等を提示します。気分が悪くなった場合は遠慮せずに教えてください。
【成績評価方法】 平常点（リアクションペーパー、課題への取り組み）30%、グループ・ディスカッションへの取り組み 20%、期末レポート 50%						【受講して得られる効果・メリット、その他】 今まさに、東北の地域社会が取り組む復興というテーマについて、理解を深めることができます。特に卒業研究で復興について調査研究したい、将来復興に関わる仕事に携わりたいという方は、ぜひ受講してください。
【実務家教員担当科目】 該当しません。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	齋藤 雅哉	講義の概要と「災害」について	配布資料をもとに、「災害」に関する基礎的な知識について予習・復習してください。		4 時間	
2	齋藤 雅哉	災害発生から復興へ（1）	授業のテーマは「災害サイクルと人びとの対応」です。配布資料をもとに、災害復興について考える際の基本的なコンセプトについて予習・復習してください。		4 時間	
3	齋藤 雅哉	災害発生から復興へ（2）	授業のテーマは「復興とは何か」です。配布資料をもとに、復興というコンセプト、理念をめぐる議論について予習・復習してください。		4 時間	
4	齋藤 雅哉	災害発生から復興へ（3）	授業のテーマは「生活復興と生活再建7要素」です。配布資料をもとに、被災者の生活復興感が高まる背景について予習・復習してください。		4 時間	
5	齋藤 雅哉	誰が復興支援を行うのか？	授業では、復興支援を行うさまざまな主体の実践とそれぞれの関係、構造について解説します。配布資料をもとに、予習・復習してください。		4 時間	
6	齋藤 雅哉	誰が復興支援を受けるのか？ (1)	授業では、「被災者」と呼ばれる人びとの多様性と復興支援の課題に焦点化します。配布資料をもとに、予習・復習してください。		4 時間	
7	齋藤 雅哉	誰が復興支援を受けるのか？ (2)	授業では、「被災者」の多様性ゆえに生じたさまざまな問題を取り上げます。配布資料をもとに予習・復習してください。		4 時間	
8	齋藤 雅哉	復興まちづくりとは何か	授業では「復興まちづくり」について、それに類する「都市計画」や「復興計画」といった言葉との関係から見ていきます。配布資料をもとに予習・復習してください。		4 時間	
9	齋藤 雅哉	復興まちづくり（1）	授業では関東大震災を事例として取り上げます。配布資料をもとに、特に後藤新平を中心に大きく改造された東京の様子について予習・復習してください。		4 時間	
10	齋藤 雅哉	復興まちづくり（2）	授業では阪神・淡路大震災を事例として取り上げます。配布資料をもとに、特に災害ボランティアの働きについて予習・復習してください。		4 時間	
11	齋藤 雅哉	復興まちづくり（3）	授業では東日本大震災を事例として取り上げます。配布資料をもとに、特に津波被災地と原子力災害の被災地における「復興」のあり方について予習・復習してください。		4 時間	
12	齋藤 雅哉	復興〈災害〉、ショック・ドクトリン	授業では、復興まちづくり（予習で整理すること）について、ショック・ドクトリンといった観点からとらえ直します（復習で整理すること）。		4 時間	
13	齋藤 雅哉	海外の復興まちづくり	授業では、スマトラ沖地震津波などの海外の復興事例を取り上げます。予習では、これまで学んできた「日本の復興まちづくり」のあり方を整理し、復習ではそれを相対化してください。		4 時間	
14	齋藤 雅哉	まとめ・ディスカッション	授業では、小グループをつくり、将来の災害における望ましい復興まちづくりのあり方について議論します。予習・復習ではこれまでの授業内容を整理してください。		4 時間	
教 科 書		特になし。適宜資料を配布します。				
参 考 書		講義のなかで適宜紹介します。参考書の購入は必須ではありませんが、手元に置き繰り返し読むことで、授業内容のより深い理解につながります。				
備 考		特になし。				

科 目 名	専門演習Ⅰ			担 当 者	○齊藤 綾美・山尾 貴則 野崎 瑞樹・豊田 正利 森田慎二郎・岡 恵介 崔 博憲・村田 道彦 小淵 高志・鑑 さやか 森田 清美・犬塚 剛 徳田 律子・大竹 伸治 山川 樹・黒沢 麻美 高濱 壮斗・未定
科目ナンバリング	11204421133				常勤
D P	2,3				教員研究室 3307
学 科（専攻）	現代社会学科（社会福祉学専攻）			配 当 年 次	3 年次・前期
授 業 形 式	演習	授 業 時 間	60 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 各教員が実践的指導を負い来ないます。1 クラス 5-6 名程度の少人数授業です。				【課題等のフィードバック方法】 教員の指示に従います。	
【学習の到達目標】 広い視野を涵養する。高度な専門性を獲得する。社会的実践に必要なスキルを獲得する。				【履修上の注意・予習・復習について】 教員の指示に従います。	
【成績評価方法】 教員がそれぞれ評価します。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 専門演習Ⅰにおける学びを卒業研究につなげていきます。	
				【実務家教員担当科目】	
授 業 計 画					
各指導教員の授業計画に基づきます。					

科 目 名	専門演習Ⅱ			担 当 者	○齊藤 綾美・山尾 貴則 野崎 瑞樹・豊田 正利 森田慎二郎・岡 恵介 崔 博憲・村田 道彦 小淵 高志・鑑 さやか 森田 清美・犬塚 剛 徳田 律子・大竹 伸治 山川 樹・黒沢 麻美 高濱 壮斗・未定
科目ナンバリング	11204421134				常勤
D P	2,3				教員研究室 3307
学科（専攻）	現代社会学科（社会福祉学専攻）			配 当 年 次	3 年次・後期
授 業 形 式	演習	授 業 時 間	60 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 各教員が実践的指導を行います。1 クラス 5-6 名程度の少人数授業です。				【課題等のフィードバック方法】 指導担当教員の指示に基づきます。	
【学習の到達目標】 広い視野を涵養する。 高度な専門性を獲得する。 社会学的実践に必要なスキルを獲得する。				【履修上の注意・予習・復習について】 担当教員の指示に従ってください。	
【成績評価方法】 担当教員がそれぞれ評価します。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 専門演習ⅠおよびⅡにおける学びを、4 年次の卒業研究につなげていきます。	
				【実務家教員担当科目】	
授 業 計 画					
各指導教員の授業計画に基づきます。					

科 目 名	卒業研究			担 当 者	○齊藤 綾美・山尾 貴則 野崎 瑞樹・豊田 正利 森田慎二郎・岡 恵介 崔 博憲・村田 道彦 小渕 高志・鑑 さやか 森田 清美・犬塚 剛 徳田 律子・大竹 伸治 山川 樹・黒沢 麻美 高濱 壮斗・山崎 真帆 未定
科目ナンバリング	11204421135				常勤
D P	2,4			教 員 研 究 室	3307
学 科（専攻）	現代社会学科（社会福祉学専攻）			配 当 年 次	4 年次・通年
授 業 形 式	演 習	授 業 時 間	120 時間	単 位	必修 4 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 調査・実験方法等の指導を受けながら学術研究における洞察力および遂行能力を構築します。				【課題等のフィードバック方法】 各指導担当教員の指示に基づきます。	
【学習の到達目標】 学術研究の遂行に求められる洞察力、問題解決能力等を涵養します。				【履修上の注意・予習・復習について】 担当教員の指示に従ってください。	
【成績評価方法】 研究成果を中心に、卒業研究への取り組み状況の評価等も勘案して、総合的に評価します。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 卒業研究で身につけた洞察力、問題解決能力等は卒業後の社会においても、あらゆる場面で役立てることができます。	
				【実務家教員担当科目】 多種多様な経験値を有する複数の学科教員で担当する。	
授 業 計 画					
各担当教員による個別の授業計画に基づきます。					

東北文化学園大学

TOHOKU BUNKA GAKUEN UNIVERSITY

教務課

981-8551 仙台市青葉区国見6丁目45-1
TEL 022-233-6116 FAX 022-233-6419
教務課 kyomu@office.tbgu.ac.jp